令 和 6 年

波佐見町議会定例会会議録

第3回

開 会：令和　6年　8月30日

閉 会：令和　6年　9月20日

波 佐 見 町 議 会

令和６年第３回（９月）波佐見町議会定例会　会期日程

	月　日	曜	区　分	内　　容
第 1 日	８月３０日	金	**本会議**	開会　諸報告　会議録署名議員の指名 会期の決定　提案要旨の説明 議案審議（質疑・討論・付託）　委員会付託
第 2 日	８月３１日	土	休　会	
第 3 日	９月　１日	日	休　会	
第 4 日	９月　２日	月	**本会議**	一般質問（５人）
第 5 日	９月　３日	火	**本会議**	一般質問（５人）
第 6 日	９月　４日	水	**本会議** 委員会	一般質問（２人）　議案審議　委員会付託 決算特別委員会
第 7 日	９月　５日	木	委員会	決算特別委員会（第一分科会）
第 8 日	９月　６日	金	委員会	決算特別委員会（第二分科会）
第 9 日	９月　７日	土	休　会	
第 10 日	９月　８日	日	休　会	
第 11 日	９月　９日	月	委員会	決算特別委員会（第一分科会）
第 12 日	９月１０日	火	委員会	決算特別委員会（第二分科会）
第 13 日	９月１１日	水	休　会	議事整理
第 14 日	９月１２日	木	休　会	議事整理
第 15 日	９月１３日	金	委員会	決算特別委員会（午後１時３０分～））
第 16 日	９月１４日	土	休　会	
第 17 日	９月１５日	日	休　会	
第 18 日	９月１６日	月	休　会	敬老の日
第 19 日	９月１７日	火	休　会	議事整理
第 20 日	９月１８日	水	委員会	決算特別委員会（全体会）
第 21 日	９月１９日	木	休　会	議事整理
第 22 日	９月２０日	金	**本会議**	議案審議　委員長報告（質疑・討論・採決）
以下余白				

令和６年第３回（９月）波佐見町議会定例会 目次

第１日目（８月 30 日）（金曜日）

○開　会 2
○諸報告　諸般の報告 2
○会議日程
日程第１　会議録署名議員の指名 2
日程第２　会期の決定 2
日程第３　提案要旨の説明 2
議案審議（質疑・討論・採決）
日程第４　議案第 57 号 5
日程第５　議案第 58 号 28
日程第６　議案第 59 号 29
日程第７　議案第 60 号 30
日程第８　議案第 61 号 31
日程第９　議案第 62 号 32
日程第 10　議案第 63 号（産業厚生委員会付託） 34
日程第 11　議案第 76 号 37
日程第 12　議案第 77 号 40
○散　会 47

第４日目（９月２日）（月曜日）

○開　会 48
○会議日程
日程第１　町政に対する一般質問 48
岡村達馬議員。 48
城後 光 議員 62
尾上 和孝 議員 78
福田 勝也 議員 89
田添 有喜 議員 104
○散　会 118

第５日目（９月３日）（火曜日）

○開　会 119
○会議日程
日程第１　町政に対する一般質問 119
澤田 昭則 議員 119
岡村 真由美 議員 133
前田 博司 議員 150
濵本 秋人 議員 165
脇坂 正孝 議員 173
○散　会 188

第６日目（９月４日）（水曜日）
○開　会 190
○会議日程
日程第１　町政に対する一般質問 190
北村 清美 議員 190
百武 辰美 議員 207
議案審議（質疑・討論・採決）
日程第２～８　議案第 69～75 号(決算特別委員会付託) 223
○散　会 230

第 22 日目（９月 20 日）（金曜日）
○開　会 232
○会議日程
議案審議（質疑・討論・採決）
日程第１　発委第４号 232
日程第２　議案第 63 号（産業厚生委員会委員長報告） 233
日程第３　議案第 64 号 235
日程第４　議案第 65 号 238
日程第５　議案第 66 号 238
日程第６　議案第 67 号 243
日程第７　議案第 68 号 245
日程第８～14　議案第 69 号～75 号（決算特別委員会委員長報告） 247
日程第 15　議案第 78 号 253
日程第 16　議案第 79 号 256
日程第 17　議案第 80 号 257
日程第 18　報告第３号 258
日程第 19　報告第４号 259
閉会中の継続調査
日程第 20　閉会中の継続調査申出について 260
（総務文教委員長、産業厚生委員長、議会運営委員長）
○閉　会 261

第１日目（８月 30 日）（金曜日）

諸 報 告

諸般の報告

（１）　委員会報告

（２）　例月現金出納検査結果の報告（５，６，７月分）

議事日程

第 １ 会議録署名議員の指名

第 ２ 会期の決定

第 ３ 提案要旨の説明

第 ４ 議案第 57 号　令和６年度波佐見町一般会計補正予算（第３号）

第 ５ 議案第 58 号　令和６年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）

第 ６ 議案第 59 号　令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）

第 ７ 議案第 60 号　令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第１号）

第 ８ 議案第 61 号　令和６年度波佐見町上水道事業会計補正予算（第１号）

第 ９ 議案第 62 号　令和６年度波佐見町下水道事業会計補正予算（第１号）

第 10 議案第 63 号　波佐見町古民家宿泊施設の設置及び管理に関する条例

（以上１件 産業厚生委員会付託）

第 11 議案第 76 号　波佐見町役場新館等改修工事請負契約の変更について

第 12 議案第 77 号　財産の無償譲渡について

第１日目（８月 30 日）（金曜日）

１．出席議員

１　番	前 田　博 司	２　番	濵 本　秋 人
３　番	澤 田　昭 則	４　番	岡 村　真由美
５　番	田 添　有 喜	６　番	岡 村　達 馬
７　番	福 田　勝 也	８　番	城 後　光
９　番	横 山　聖 代	10　番	欠　員
11　番	北 村　清 美	12　番	脇 坂　正 孝
13　番	尾 上　和 孝	14　番	百 武　辰 美

２．欠席議員

な　し

３．議会事務局職員出席者

議会事務局長	林 田　孝 行	書　記	一 瀬　若 菜

４．説明のために出席した者

町　長	前 川　芳 徳	副 町 長	村 山　弘 司
総 務 課 長	福 田　博 治	企画情報課長	澤 田　健 一
商工観光課長	太 田　誠 也	庁舎建設推進室長	大 橋　秀 一
税務財政課長	古 賀　真 悟	住民福祉課長	井 関　昌 男
農林課長兼 農業委員会事務局長	伊 藤　幸 治	農林課長参事	太 田　克 宏
建 設 課 長	本 山　征一郎	水 道 課 長	中 村　和 彦
長寿支援課長	松 添　博	子ども・健康保険課長	石 橋　万里子
会計管理者 兼会計課長	串 島　佳 織	教 育 長	森 田　法 幸
教育次長兼 給食センター所長	朝 長　哲 也	総務課課長補佐	坂 本　昌 俊
税務財政課課長補佐	鶴 田　秀 幸		

午前１０時　開　会

○議長（百武辰美君）

皆さん御起立をお願いいたします。おはようございます。

ただいまから令和６年第３回波佐見町議会定例会を開会します。これから本日の会議を開きます。本日の議事日程はあらかじめ御手元に配付のとおりです。

諸報告　諸般の報告

○議長（百武辰美君）

諸報告を行います。委員会報告、例月現金出納検査結果の報告については、その写しを配付しておりますので御了承願います。

日程第１　会議録署名議員の指名

○議長（百武辰美君）

日程第１．会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は会議規則第136条の規定により、１番前田博司議員、２番濵本秋人議員を指名します。

日程第２　会期の決定

○議長（百武辰美君）

日程第２．会期の決定の件を議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は本日から９月20日までの22日間としたいと思います。御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

異議なしと認めます。したがって、会期は本日から９月20日までの22日間と決定しました。

日程第３　提案要旨の説明

○議長（百武辰美君）

日程第３．提案要旨の説明を求めます。

前川町長。

○町長（前川芳徳君）

皆様おはようございます。本日ここに令和６年第３回波佐見町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には御健勝にて御出席を賜り、厚く御礼を申し上げます。

まず議会冒頭ではございますが、台風10号の対応状況について御説明をいたします。当初の進路が大きく変化し、島原半島に上陸した台風10号は、現在長崎県から離れつつあり、本町に発令されていた暴風警報は暴風域の消滅に伴い、午前２時38分に解除になりました。

この台風への対応につきましては、警報発表に先立って28日午後５時に災害警戒本部を立ち上げ、警戒レベル３高齢者等避難を発令し、町内３か所の避難所開設を行い、最大で28世帯、48名の町民の方の受入れを行ったところです。警報解除に伴い午前６時30分に警戒本部の解散と順次避難場の閉鎖を行いました。

幸いにして本町では、現時点で大きな被害の報告は受けていませんが、しばらくは強い風雨が想定されますので引き続き気象情報に注意を払いたいと思います。

さて、私が町長に就任して来月で間もなく２年となります。この間、町政全般に対し議員並びに町民皆様の御理解、御協力を賜り基本構想に掲げる様々な施策を実施するとともに、私自身の公約についても、常に心に秘めて町政発展のために努めているところですが、本町を取り巻く環境は刻々と変化しており、様々な課題も寄せられているところです。

特に今回８年ぶりに全地区で実施しました町政報告会については、町民皆様に町政の実情を御説明でき、また御意見、御要望、御提言を頂いたことは大変に有意義でありました。お寄せいたいた御意見等について、その場で回答できるものは回答しましたが、持ち帰り検討する事項もあり現在担当課において内容を精査しております。今回回答したものも含め一覧表形式で自治会に対応を説明予定であり、あわせて議会にも御提示をする予定です。

具体的な対応または予算等への反映については、今後その時期も含め検討することとしていますが、今年度において反映できるものは随時検討を行っております。

その令和６年度事業でありますが、上半期も間もなく終了し下半期に移行するところですが、おおむね事務事業も順調に進捗しています。一方で、国においては政治日程が不透明な状況でありますが、追加の経済対策も含め、その動向を注視したいと考えています。

さて本定例会におきましては、年度中途に発生した諸課題に対応する補正予算のほか、令和５年度各会計の決算認定、波佐見町小民家宿泊施設の設置及び管理に関する条例制定や、その他条例の一部改正、工事請負契約の変更、財産の無償譲渡、教育委員並びに監査委員の任命の人事案件などを提案しております。

それでは本定例会に提出しました議案の要旨について御説明をいたします。

議案第57号　令和６年度波佐見町一般会計補正予算（第３号）は、歳入歳出の予算総額に３億4,000万円を追加し、補正後の予算総額を100億2,800万円とするものです。主なものは、歳出では林道虚空蔵線災害復旧工事費、町道鹿山飛瀬線物件移転補償費などの追加、新庁舎周辺整備工事、新型コロナワクチン接種費、福祉医療費などの増額などで、歳入については、前年度繰越金、災害復旧費、過年度事業精査に伴う国県支出金の増額などに加え、先般御承認いたいた一部基金の統廃合に伴う組替などを計上しています。

議案第58号　令和６年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）は、歳入歳出の予算総額に2,900万円を追加し、補正後の予算総額を16億5,600万円とするものです。主な内容は、歳出では過年度の実績に伴う補助金等返還金及び予備費の増額で、歳入では前年度繰

越金の計上などとなっております。

議案第59号　令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）は、歳入歳出の予算総額に100万円を追加し、補正後の予算総額を２億2,400万円とするものです。主な内容は歳出では、広域連合納付金の増額、歳入では保険料の増額、繰越金の減額などとなっています。

議案第60号　令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第１号）は、歳入歳出の予算総額に3,800万円を追加し、補正後の予算総額を14億700万円とするものです。主な内容は、歳出では過年度の実績に伴う補助金等返還金及び予備費の増額で、歳入では前年度繰越金の計上などとなっております。

議案第61号　令和６年度波佐見町上水道事業会計補正予算（第１号）は、収益的収入の補正では、他会計補助金の減額。益的支出の補正では、人事異動に伴う人件費の増額、起債企業債利息の増額などとなっています。

議案第62号　令和６年度波佐見町下水道事業会計補正予算（第１号）は、収益的収入の補正では、他会計補助金の増額、収益的支出の補正では、人事異動による人件費の増額、減価償却費の減額などとなっています。

議案第63号　波佐見町小民家宿泊施設の設置及び管理に関する条例は、鬼木郷の古民家について整備を進めていたところでありますが、宿泊施設として必要な事項を定めるため条例を制定するものです。

議案第64号　波佐見町使用料及び手数料条例の一部を改正する条例は、陶芸の里伝習館の工房及び宿泊施設の使用料について見直しを図るため、所要の改正をするものです。

議案第65号　波佐見町福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例は、児童福祉法施行令に伴い、所要の改正を行うものです。

議案第66号　波佐見町奨学条例の一部を改正する条例は、貸与対象者の基準及び貸付限度額などの見直しを行うため、所要の改正を行うものです。

議案第67号　波佐見町国民健康保険条例の一部を改正する条例は、本年12月から被保険者証廃止が施行されることなどに伴い、所要の改正を行うものです。

議案第68号　波佐見町介護保険法に基づき地域包括支援センターの設置者が遵守すべき基準に関する条例の一部を改正する条例は、関係基準省令の一部改正に伴い、所要の改正を行うものです。

議案第69号から議案第75号までの７件は、令和５年度の一般会計をはじめ、特別会計及び企業会計の決算について、監査委員の審査結果をつけて議会の認定に付するものです。

また各会計の決算に係る主要な施策の成果説明書を併せて添付しておりますので、御参考に寄与していただきたいと思います。

議案第76号　波佐見町役場新館等改修工事請負契約の変更については、令和６年２月５日に

本契約の議決を受け工事を進めておりますが、工事内容に変更が生じ、契約額を変更したく議会の議決を求めるものです。

議案第77号　財産の無償譲渡については、鴻ノ巣保育所について、建物借受人である社会福祉法人蓮池福祉会へ無償譲渡したく、議会の議決を求めるものです。

議案第78号　教育委員会委員の任命については、現教育委員の馬場清治さんの任期が、９月30日に任期満了となりますので、再任したく議会の同意を求めるものです。

議案第79号　教育委員の任命については、現教育委員の山下祐子さんの任期が９月30日に任期満了となりますので再任したく議会の同意を求めるものです。

議案第80号　監査委員の任命については、現監査委員の山下博輝さんの任期が11月１日で任期満了となりますので、再任したく議会の同意を求めるものです。

報告第３号　専決７号　専決処分の報告については、令和５年９月28日付けで本契約の議決を受けた西ノ原土地区画整理事業区画道路６－７号線道路築造工事の契約変更について、地方自治法及び条例の規定に基づき、８月８日付けで専決処分したので、条例に基づき議会に報告するものです。

報告第４号　令和５年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率の報告については、地方公共団体の財政健全化に関する法律に規定する健全化判断比率及び資本不足比率について、その算定の基礎となる事項を記載した書類並びに監査委員の意見を添えて議会に報告するものです。

提出した議案等は以上であり、詳細については御審議の折に御説明をいたしますので、何とぞ慎重に御審議の上、適正なる決定を賜りますようお願いをいたします。

日程第４　議案第57号

○議長（百武辰美君）

日程第４．議案第57号　令和６年度波佐見町一般会計補正予算（第３号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

議案第57号　令和６年度波佐見町一般会計補正予算（第３号）について説明いたします。歳入歳出予算の補正ですが、歳入歳出それぞれに３億4,000万円を追加し、総額を100億2,800万円とするものです。

繰越明許費については第２表によります。債務負担行為の追加は第３表によります。地方債の変更は第４表によります。

今回の補正は、年度中途における事業計画の変更や追加に伴う補正のほか、新型コロナワクチン接種費補助、令和３年災の林道虚空蔵線災害復旧費、旧十八銀行波佐見支店跡地購入費、要望に対する各種事業費などを加えた所要額を計上しております。

５ページをお願いいたします。第２表繰越明許費ですが、今回の３事業は、諸般の理由により年度内での完成が現時点で未確定であるため、次年度への繰越明許費として措置するものでございます。

次に６ページをお願いします。第３表債務負担行為の補正ですが、土地家屋台帳履歴管理システム構築業務を追加するもので、期間及び限度額については記載のとおりとなっております。

７ページをお願いします。第４表地方債の補正でございます。４つの事業について事業費の変更がありましたので、それに合わせて限度額の変更を行っております。

次に歳入について主なものを説明します。10ページをお願いいたします。12款，分担金及び負担金については、本年７月の豪雨災害により、被災した農地等災害復旧工事に係る負担金を計上しております。

11ページをお願いします。14款，国庫支出金～14ページ15款，県支出金につきましては、各所管課が実施する事業費の増減等に伴う補正となっております。

17ページをお願いします。18款，２項，１目．財政調整基金繰入金は、前年度繰越金の補正に伴い、事業の財源を組替えたことから減額をするものでございます。

次の２目．ふるさとづくり応援基金繰入金は、波佐見焼生産体制緊急支援事業などの財源として1,250万円を増額しております。

次の３目．庁舎建設基金繰入金は、周辺整備工事の財源として890万円増額しております。

次の４目．地域福祉基金繰入金～９目．まちづくり基金繰入金につきましては、基金統廃合による組替えとなっております。

18ページをお願いします。19款，１項，繰越金ですが、令和５年度決算における実質収支相当額が１億1,707万6,000円で固まったことに伴い、純繰越金をその額に合わせるため、8,707万6,000円の増額補正を行っております。

19ページをお願いします。20款，４項，３目．雑入のうち、デジタル基盤改革支援補助金は、本町が行う地方公共団体情報システムの標準化共通化に係る事業に対する補助金となっております。

次のクリーンエネルギー自動車導入促進補助金は、ＥＶ公用車２台の補助金となっております。

20ページをお願いします。21款，町債ですが７ページの第４表でも説明したとおり、起債の対象となる事業費やその財源に連動し、それぞれ増減をしております。

続きまして歳出について説明いたします。歳出は初めに税務財政課分を説明し、引き続き各担当課長から主な事業について説明があります。

25ページをお願いします。２款，２項，２目．賦課徴収費です。12節．委託料を900万円減額しておりますが、土地家屋台帳履歴管理システム導入について再度精査をしたところ、当初計

画に比べ経費及び構築期間等に差異がありましたので、次年度に実施するとしたためでございます。

少し飛びまして、58ページをお願いします。13款，１項，１目．土地建物取得費です。井石郷内にあります旧十八銀行波佐見支店の土地と建物を取得するために、2,099万円を増額しています。なお取得する土地の面積は約1,080平米で、建物は事務所と倉庫各１棟となっております。

以上で税務財政課分の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

それでは総務課所管分について御説明します。歳出23ページをお願いいたします。２款，１項，７目．交通安全対策費14節．工事請負費に、今回交通安全施設設置工事として200万円の増額を行っております。これは６年度になって自治会要望の追加にあったものに対応するものでございます。

少し飛びまして27ページをお願いいたします。２款，４項，３目．町議会議員選挙費でございます。立候補予定者について当初15名分を計上しておりましたが、８月20日の立候補予定者説明会を受けて予定者を18名とし３名増に係る所要額を計上しているものでございます。

大きく飛びまして、49ページをお願いいたします。９款、１項，５目．災害対策費14節．工事請負費、体育センター空調設置工事について5,200万円の減額を行っております。体育センター空調機設置工事については、当初予算は業者の参考見積りをもとに予算計上しておりましたが、先般、実施設計を行ったところ、当初予算を上回る金額となりました。

実施設計の金額については、資材高騰や労務単価の上昇もありますが、参考見積りの精査も結果不十分だったと思われます。この件については８月21日の議運の折にこれらも含め予算計上の在り方について御指摘をいたき、内部でも検討したところ補正額が多額となることから、一旦全額を削除するものでございます。

なお体育センターの空調機の必要性はお認めいたいていると思います。早期完成のため、次期補正で改めて計上させていただきたいと思いますので、御理解をお願い申し上げたいと思います。以上で総務課所管分の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

続きまして企画情報課所管の補正の主なものについて説明いたします。23ページをお願いいたします。２款，１項，13目．電算管理費のうち12節．委託料でシステム改修委託料477万3,000円の増額は、健康管理システム標準化対応等に係るシステム改修など、２件分を計上しております。

次に、同じページで14目．地域情報化管理費のうち、12節．委託料に関しては、町ホームペ

ージリニューアルに記載し、当初予算後に仕様内容を再度検討した結果、さらに内容の充実を図るために増額したものであります。

次に同じページで16目．定住促進事業費のうち、18節．負担金、補助及び交付金に関しては、11月に実施します東京吉祥寺でのコラボイベントに出展する事業者に対し、近年の旅費高騰の影響を勘案し、交通費の一部を助成するために40万円を計上しているものであります。以上で企画情報課関連の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　大橋庁舎建設推進室長。

○庁舎建設推進室長（大橋秀一君）

それでは、新庁舎建設事業の補正予算の説明をさせていただきます。24ページを御覧ください。２款，１項，19目．新庁舎建設事業費14節．工事請負費2,600万円を計上させていただきます。新庁舎周辺整備工事の予算増加分となります。７月の臨時議会にて議決をいたいた分で、新庁舎事業費の14節から流用させていただいた分でございます。

内容は資材、人件費高騰、４週８休働き方改革、増加分、当初設計では想定していなかった側溝整備、階段、擁壁天端の転落防止策の追加、安全対策のための交通誘導員の追加が予算増加原因となります。

次に17節．備品購入費庁舎什器購入費500万円を計上させていただきます。改修等旧委員会室の会議室等の什器、机、椅子、備品庫の棚、作業台の購入費になります。

次に46ページを御覧ください。８款，２項，３目．21節．補償、補填及び賠償費1,500万円を計上させていただきます。町道鹿山飛瀬線の歩道整備工事に伴う波佐見郵便局様の物件移転。車庫、花壇、有竹木補償費になります。国、県の基準に基づき算定させていただいた金額を計上させていただきました。

以上です。よろしくお願いします。

○議長（百武辰美君）　井関住民福祉課長。

○住民福祉課長（井関昌男君）

それでは住民福祉課所管に関して御説明いたします。30ページをお願いいたします。３款，１項，３目．障害者福祉費22節．償還金、利子及び割引料の過年度障害者医療費負担金返還金ですが、435万5,000円を増額しております。これは障害者医療費の令和５年度実績に伴うものでございます。以上で住民福祉課所管の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

子ども・健康保険課所管分について説明いたします。32ページをお願いします。３款，２項，１目．児童福祉総務費に2,513万6,000円を増額しています。主なものとして12節、２段目、放課後児童健全育成事業委託料は、国の補助基準の見直しにより、職員の雇用形態や配置数によって基準額が区分され、要件を満たす場合に金額が増額されました。本町においては２

クラブが該当します。

また33ページ。14節．こども家庭センターネットワーク工事から、12節．ネットワーク整備委託料へ予算の組替えを行っています。

19節．福祉医療費は、令和６年１月から、現物給付の対象とした医療機関分の償還払いを申請する必要がなくなったことから給付が伸びており、７月までの実績で昨年度に比べ５割増しの状態となっていることから、予算を増額をしています。

続いて35ページをお願いします。４款，１項，１目．保健衛生費は総額で３万4,000円の増額ではありますが、うち17節．備品購入費として、電気自動車の購入を計画しています。現在保有している公用車が、15年を経過し不具合が生じております。既に配備されたＥＶ電気充電スタンドを活用することで、ガソリン代の節減を図るとともに、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の削減につなげます。

４款，１項，２目．予防費は、4,686万6,000円の増額ですが、12節．委託料に新規事業として、帯状疱疹ワクチン接種費用助成を計上しています。50歳以上で発症のリスクが高くなる帯状疱疹は、治療に時間を要する感染症です。ワクチン接種により発症や重症化の予防の効果が高いことは確認されていますが、費用負担が大きいことから接種が進んでいません。今回、満50歳以上の方を対象に、接種費用の約半分の１万円を最大２回助成することとし、最終的には医療費の削減につなげてまいりたいと思っております。

19節．扶助費の予防接種事故救済給付費は、コロナワクチン接種による健康被害が認定された方への補償として、医療費と手当を支給するものです。また新型コロナワクチン接種費を大幅に増額しています。

当初、国の説明ではワクチン接種費は7,500円とされていましたが見直され、現在は１万5,300円か、それ以上になる可能性があります。3,500人が接種することを想定した予算の増額となりますが、ワクチンの接種費用が１万5,300円の場合、国の助成8,300円。町の助成4,000円になり個人負担は3,000円になります。

以上で子ども・健康保険課所管の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　伊藤農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

次に農林課所管、農政班関係の主な補正内容について説明いたします。予算書の40ページをお願いします。６款，１項，３目．農業振興費18節．負担金、補助金及び交付金について108万円の増額となっております。

説明欄に記載されております農業資材価格高騰対策緊急支援事業費補助金によるもので、要望時期の関係で当初予算に計上できなかったため、今回計上しております。内容につきましては費用軽減の効果がある、側条施肥田植機４条植えの導入を行うものです。

以上で農林課所管農政班関係の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　太田農林課参事。

○農林課参事（太田克宏君）

引き続き農林課の林務班関係の主なものについて説明いたします。42ページをお願いします。

６款，１項，１目．林業振興費12節．委託料ですが、68万円を委託しております。これにつきましては、森林所有者意向調査等業務委託料に係るもので、県からの資料をもとに委託費の算定を行っておりますけども、本年行われた会計検査において、委託費の算定方法について、他の市町が指摘を受けたことから、内容の見直しが行われた結果、増額となるものです。

次にページが飛びまして、57ページをお願いします。11款，１項，１目．農地農業用施設災害復旧費 12節．委託料ですが、査定測量設計費200万円を増額しております。また、14節の工事請負費についても1,000万円増額をしております。こちらにつきましては本年７月の梅雨前線豪雨により発生した災害に対応するため、それぞれ計上するもので、現在農地３件、農業用施設３件を申請予定としております。

次に２目．林道施設災害復旧費14節．工事請負費の１億7,800万円の増額につきましては、令和３年８月豪雨により林道虚空蔵線において、地滑り性の災害が発生し、その発生後、地滑りの滑り目を確定する必要があったことから観測を続けておりました。令和５年の観測において、微小な変動が確認されたことから、調査結果をもとに、県及び林野庁と復旧範囲や工法について協議を進め、本年７月に災害査定を受け、林道地滑り災害として決定を受けたことから、復旧にかかる費用について計上したものです。

21節．補償、補填及び賠償金の100万円増額につきましても、同工事箇所の電柱移設補償費として計上しているものです。

以上で農林課関係の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

それでは商工観光課関係予算について御説明いたします。23ページをお開きください。

２款，１項，17目．地域づくり事業費12節．委託料でございます。地域おこし協力隊事業委託料を115万6,000円増額するものです。中尾山伝習館及び鬼木公民館の管理運営並びに、インバウンド推進事業の実施業務を地域おこし協力隊を任用して行うこととし、その業務を観光協会へ委託いたします。

現在、新たに２名の内定と今後１名の新規隊員の募集を行うこととしております。

24ページをお開きください。２款，１項，17目．地域づくり事業費13節．使用料及び賃借料でございます。104万円を減額しております。このうち商工観光課所管分で94万6,000円を減額しており、地域おこし協力隊の自動車借上料を観光協会の委託料に組替えを行うため減額をしております。

43ページをお開きください。７款，１項，２目．商工振興費18節．負担金、補助及び交付金でございます。補正総額1,000万円を計上しております。その内容としまして陶器まつり事業費補助金につきましては、当初予算の計上誤りにつき今回182万2,000円を計上しております。

続いて伝統工芸品振興事業費補助金として70万円を計上しています。これは工業組合が実施する波佐見焼の後継者育成事業であり、伝統工芸士を講師として年間約130回もの講義が行われている事業でございます。国の補助を受けて実施をされておりますが、今年度の能登半島地震の対処のため、国の補助金がカットされたことに伴いその費用について支援を行うものです。

続いて廃石膏リサイクル支援事業費補助金として、120万円を計上しております。こちらは廃石膏の処分費が高騰していることから、リサイクルへの安定的な排出を維持するために、処分費にかかる費用１トン当たり3,000円の補助を行うこととしております。

続きまして伝統工芸士会会員展開催事業費補助金で25万円を計上しております。こちらにつきましては、伝統工芸士会が今年３月に開催をしております会員展につきまして、今年度発足45周年ということもございまして、再度会員展を開催したいというようなことで要望がございまして、昨年と同額の費用を計上しているものでございます。

続きまして、波佐見焼生産体制緊急支援事業費補助金として600万円を計上しておりますが、補助金の内訳として、新商品開発支援と工業組合の金利事業への利子補給支援を行います。いずれも工業組合への補助支援となります。新商品の開発支援につきましては、燃料、原材料、人件費の高騰から新商品開発に結びついていない現状があるため、新商品の開発に係る材料費の補助を行うことで窯元のみならず、生地石膏型の事業所にも波及効果が期待できるため、実施を行いたいと思っております。

続いて金融事業の利子補給に対する支援として補助を行います。内容につきましては工業組合員への各種貸付金について、国の政策金利上昇に伴い９月１日から貸付金利が上昇するため、その上昇分について利子補給補助として支援を行います。利子補給を行うことで、窯元の事業経費削減が図られ、生地、石膏型、上絵などの協力会社に対して支払いの円滑化や共販事業の拡大につながることが期待されております。

利子補給の内容につきましては、工業組合の現利息から９月１日時点の金利上昇分の差額割合分について支援を行うこととしております。利子補給予算総額300万円を計上しておりますが、工業組合が取りまとめた年度末の実績に応じ支払うこととしております。新商品開発支援及び金利事業の利子補給に対する支援合わせて600万円を計上させていただいております。

44ページを御覧ください。続きまして７款，１項，３目．観光費12節．委託料でございます。鴻ノ巣公園施設管理運営業務委託料として332万1,000円を計上しております。

当初鴻ノ巣キャンプ場の運営について、地域おこし協力隊を任用して施設の管理運営を行うよう想定しておりましたが、応募に至らなかったことから観光協会へ業務を委託することといたしております。

この業務はキャンプ場の管理運営が主体でございますが、あわせてキャンプ場の閑散期等に鴻ノ巣公園の遊具広場や、キャンプ場までの管理道路等、周辺施設の清掃などを行ってもらうこととしているため、事業名を鴻ノ巣公園施設管理業務委託業務としております。

14節．工事請負費。波佐見キャンプサイトパーク整備工事でございます。198万1,000円を増額しております。波佐見キャンプサイトパーク整備工事は、予約受付のための管理棟の整備を行います。今年度実施した設計業務委託の結果、当初予算値と比べ労務単価、資材高騰、ユニットハウスの仕様変更等行いまして、工事費の増額を行う必要があるため今回増額を行うものです。

以上で商工観光課所管分についての説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　本山建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

それでは次に建設課所管分の主なものについて御説明いたします。48ページをお願いいたします。

８款，土木費５項，２目．住宅建設費12節．委託料について。折敷瀬団地設備改修工事設計業務委託料202万8,000円を増額しています。

当初に見込むことができなかった調査等を追加したことや、人件費、諸経費等の増に伴い今回の増額となりました。以上で建設課所管の説明を終わります。

○議長（百武辰美君）　中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

それでは水道課関係の説明を行います。47ページにお戻りください。８款，４項，４目．下水道費を191万4,000円増額いたします。18節．負担金、補助及び交付金の下水道事業会計補助金で、人事異動等に伴う下水道事業の支出の増額によるものです。

以上が水道課関係の主なものになります。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

それでは教育委員会関係の補正予算の御説明を申し上げます。ページは50ページをお願いいたします。10款，１項，２目．12節．委託料の200万円でございますけども、こちらにつきましては中央小学校と中学校の高圧機器いわゆるキュービクルの交換の時期を迎えておりましたので、その設計費を計上いたしております。これで全ての学校のキュービクル関係の交換は終了するものでございます。

続きまして52ページをお願いいたします。10款，３項，１目．17節．備品購入費の110万円でございますけども、こちらにつきましては中学校の50周年に向けまして、現在経年劣化をしています校旗の更新をしたいということでございましたので、その校旗の費用を計上いたしておるところでございます。

続きまして56ページをお願いいたします。10款，６項，１目．需用費110万円と17節．備品購入費のマイナスの111万7,700円でございますけども、こちらにつきましては当初予算で備品購入ということで、食器洗浄機の入札を終わりまして、その部分の減額分がございました。それを修繕費に組替えをいたしまして、ほかのまな板殺菌庫とか、洗米機とかの不具合があっておりましたので、その修繕費のために組替えを行うものでございます。

以上で議案第57号　令和６年度波佐見町一般会計補正予算（第３号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

６番　岡村達馬議員。

○６番（岡村達馬君）

23ページ２款，１項，16目．定住促進事業費。この中の18節．当初予算に約500万円程度――この事業ばかりではないのですけども、あと2，3項目あったと思うのですけども。この補助金のプラス40万円というのは、私はこういった事業費にもう少しお金を入れてもいいのではないかという考えを持っております。

というのは近頃少しずつ耳にするのですけども、波佐見焼の売上げが減っているよとか、売上げが減ると当然町の知名度も減っていくわけでありますので、この不足の40万円と、今回上げられた40万円の根拠と、それから目の定住促進事業費。私はどちらかといえば17目．地域づくり事業費等に該当するのではなかろうかというように思っておりますけども、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　澤田情報企画課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

23ページの２款，１項，16目．18節．波佐見・吉祥寺プロジェクト出店者補助金についてですけども、まずこの事業が波佐見町と東京都武蔵野市にあります吉祥寺の商店街とコラボをいたしまして、それぞれのサステナブルＳＤＧｓをテーマとしたイベントを開催するということで当初予算に計上させていただいておりました。

そしてその中で波佐見焼のサステナブルな取組でございますので、波佐見焼の出店事業者も８社出展していただくことになりまして、ただ今回が物産とか、そういった波佐見焼をガッツり売っていくようなイベントではありませんので、売上げが見込めないということと、どちらかというと関係人口の構築とか移住促進事業にリンクしたＰＲ事業のほうが大きな目的でございますので、そういったかたちで８社に対して旅費相当額の３分の１。上限５万円を限度として８社分５万円掛け８社分の40万円を計上しているところでございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　６番　岡村達馬議員。

○６番（岡村達馬君）

分かりました。

続きまして49ページ。９款，１項，５目．17節．備品購入費ですけれども、ここにマンホールトイレが書いてあります。このマンホールトイレは緊急時にマンホールの上に直接トイレを設置して行うものだというように理解をしておりますけれども、今回購入される、いわゆる基数ですね。何個かというのと、これは当然テント状のカバーを覆うことになるかと思うのですけども、その費用も入ってるかということをお尋ねしたいと思います。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

49ページ。９款，１項，５目．17節．備品購入費で今回マンホールトイレ購入費を計上させていただいております。これは新庁舎の駐車場にマンホールトイレの設備がございますので、議員がおっしゃったようにその上にテントを張って、便器を置くということになっております。基数は６基となっております。以上です。

○議長（百武辰美君）　６番　岡村達馬議員。

○６番（岡村達馬君）

同じところですけども、ほかの例えば改善センターとか総合文化会館、勤労福祉会館の分は含まれていないと。緊急時にはどうしても避難場になりますので、そこあたりの見解をいたきたいのですけども。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

おっしゃるとおり総務課の中では検討しております。今回新庁舎の駐車場ということで、新しい設備もできましたので、まずはそういった設備を使ってみて、今後それを検証してほかの施設に広げていこうということで考えております。

なお、機械設備自体はほかの施設にも流用可能でございますので、新庁舎に限ったことではございません。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　９番　横山議員。

○９番（横山聖代君）

岡村議員のちょっと関連になるのですがページ数で言ったら23ページ。２款，１項，16目．18節．波佐見・吉祥寺プロジェクト出店者補助金というところなのですが、こちらが当初予算は業務委託として計上されておりました。この説明として売上げが出るようなものではなくて、ＰＲ事業のための交通費の補助金ですということですが、最初は業務委託なのでどこかに、この事業を委託されるのかなと思っていたのですが、もう直営に変わったということでよろしいのでしょうか。

それと一緒に質問します。ページ数で言ったら58ページをお願いします。13款，１項，１

目．土地建物取得費で旧十八銀行を取得されるということですが、この取得後どういった目的で使用されていくというような予定はあるのでしょうか。この２点をお願いします。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

今回のイベントについては、イベントを企画運営する上では出店事業者が、ただ行って、お店を構えてやるだけでイベントは成立しませんので、最初いろいろな企画から運営、そういった設営、そういった費用をまずは別の事業者さんに総合プロデュースを委託している。それが事業の主な中心であります。

それで今回計上しているのは、そのイベントの中に波佐見焼の事業者さんが出店するのに対して助成するというものでございますので、もう一つ大きなイベント自体の費用が委託費としてかかっているということでございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

58ページ。13款，１項，１目．財産取得の件でございますけども、予定ということでございますけども現状では確定はさせておりません。

しかしながら考えられることといたしましては、シルバー人材センター事務所の移転場所であるとか、地域活性化を図る目的で一部を改正しまして商店等が入るスペースにして行ったり、またフリースペースを作りまして小さなイベント等を開催できるようにしたりだとか。いろんな活用方法が立地条件からは考えられるというところでございますので、今後、地元それから関係団体を含めまして、活用策に十分協議をしていきたいと思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　９番　横山議員。

○９番（横山聖代君）

ページの23ページのところなのですが、吉祥寺のところで確かに企画等々はほかの会社さんがされるということですけど、何かそういうの。そして出店されるのが波佐見の業者さんが出店されるということですけど、そういった企画とかそういうのはほかの会社さんですが、そっちに委託されるということですけど。

そういう波佐見町の業者さんが出店されるそういった全てを含めての委託なのではないのかなと思いましたが。また出店される業者さんの交通費はまた別って考えないといけないのでしょうか。以上、それだけお願いします。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

当初企画の段階では、そういった出店事業者の旅費も含めて経費の組立てをやっておりましたけども、そこの部分でどうしても事業として、事業者として収益も上がるということで、そこの部分は全体の予算額から減額を当初したところでありました。しかしながら東京まで５日

間行くとなると相当な費用もかかるということで、過去の売上げ実績も含めると、なかなかその条件では出店者が集まらないという状況もありましたので、僅かながらではありますけども、３分の１分の５万円を上限に旅費の負担支援をするということで、事業者を集めた次第でございます。

そういうことですので当初は全体で考えておりましたけども、そこの部分をまず一旦減額しておりましたが、そうもちょっといかなくなったというところで、今回ちょっと補正で計上させていたいたというような状況でございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　1番　前田議員。

○１番（前田博司君）

20ページ。21款，１項，８目．衛生債。脱酸素化推進事業債のここで衛生債で上がっているのですが、当初予算見ると総務債のほうで予算が計上されています。この違いは何でしょうか。

○議長（百武辰美君）　鶴田税務財政課課長補佐。

○財務財政課課長補佐（鶴田秀幸君）

御質問内容ですけども総務債のほうで計上した分につきましては、総務課のほうが購入する公用車に係る起債の分になります。今回は子ども・健康保険課のほうで購入する公用車に係る起債になりますので、衛生債という格好になります。以上です。

○議長（百武辰美君）

質疑の途中ですがしばらく休憩をします。11時10分から再開します。

午前11時00分　休憩

午前11時10分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

質疑を続けます。質疑はありませんか。

５番　田添議員。

○５番（田添有喜君）

52ページ。10款，３項，１目．17節．備品購入費。校旗購入費ということで110万円あげられております。非常にいいことをされたなあというふうに思っているのですけれども。これまでは同窓会とか、そういうところで校旗等の購入といいますかね、そういうのを行っていたのではないかなと思います。そこで一つ確認ですが今後小学校においても、備品というようなかたちで校旗を購入されるのかというのが一つ。

二つ目は中学校の40周年記念のときの体育館の緞帳については、東中学校、南中学校の同窓生から寄贈していただきました。そういうものも含めて今後備品というようなことで町費で購入されるお考えなのかをお尋ねをしたいと思います。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

校旗につきましては、学校を代表する備品という取扱いで小学校においても必要であれば備品購入ということで考えております。

ただその垂れ幕等々につきましてはその中身について検討をし、備品扱いになるかにつきましては関係各位と協議をしていきたいなということは思っておりますが。基本学校のイメージアップ、あるいはどうしてもその学校の特色を示すものであれば、前向きに検討はしていきたいと考えております。

○議長（百武辰美君）　５番　田添議員。

○５番（田添有喜君）

ぜひそういう方向で進めていただければと思うのですが、以前は多分校旗も含めて同窓会等で、今古い中学校の校旗はポールのところまたは旗の部分というふうに分けて寄附を頂いていたのではないかなと思います。

ぜひ今後も前向きな考えで備品購入という取組をぜひ行っていただきたいと思います。以上です。

○議長（百武辰美君）　12番　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

歳入の20ページ。21款，１項，４目．１節．緊急防災減災事業費。体育センター分の5,200万円。それからこれは5,200万円の減でございます。歳出49ページ。９款，１項，５目．14節．体育センター空調設置工事費。同じく5,200万円の減ということですが、これは先ほど減額になった経緯は参考見積り等が少なくて金額的にちょっと実施設計との間で差があったというように解しております。

実施設計恐らく私の推計ですけども7,900万円だろうと思いますが、それは先ほどの説明で今後必要性はあるということで、次の補正でまた提案するというようなことでございましたけども、今後の補正を提案されるにあたってどうされるのか。例えば企画それから広報。こういったことをどう考えてるのか。どこまでの金額を予定されるのか。このあたりが分かれば教えてください。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

体育センターの空調機の今回の全額取下げの経過については、先ほどの予算説明の折に説明したとおりでございます。今後についてはですね、やはり今般の台風を見ても、やはり高温多湿のときに、体育センターに空調機があれば避難所として使えるという目的がありますので、ぜひ早い時期に予算計上させていただきたいと思います。

その予算計上の在り方についてでございますが、実施設計は既に終わっております。以前、

総務文教委員会の折に御説明した内容に基づき設計は既に終わっておりますので、その内容については変えるつもりはございません。

内容についてはやはり公の工事でございますので、労務単価、資材あるいは特殊機械について見積りをとった結果、実績が大幅に上がったということでございますので、そのあたりを鑑みてまた単価の更新も途中入るかもしれません。そういうところを見て、現設計の内容については変えることなく単価の組替え等で改めて次の補正で計上させていただきたいと思います。

なお金額等については、今後入札に付するものでございますので差し控えますし、入札の在り方についても、今後契約の担当部署のほうで検討されるものというように考えております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　12番　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

当初予算で提案された折にガス方式ということでＬＰＧということで、提案されているわけでございますけども。例えば本町って、そう停電は災害のときでもあっていないかと思うのですよ。あの時点では特に能登半島沖地震というのがありまして、これはもう冬の寒さのときに電気が停電すれば、当然エアコンが仮にあったとしても入らないと。そういうふうな皆さんの考えもありましたし、即やはりガスでないといけないというふうなことが設計にあたってもあったろうと、そのように思っております。

しかし今のようなことで金額がどこまで高騰するかは分かりませんけれども、例えば一応一つの手段として、電気による方式ですね。これも改めて考えてみられたらいかがでしょうか。

そのガスが望ましいということは、停電を考えれば分かるわけですが。今の指定の３施設も全部電気ですよね。そういったことから考えて、電気とガスの差がどのくらい生じるものか。そのあたりも一応積算の必要性があるのではなかろうかと思うのですけど、そのあたりはいかがですか。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

おっしゃるとおり本町は比較的停電が少ない地域というふうに思いますが、やはり災害で「たられば」はなかなか難しいところがございます。今回の台風についても、宮崎県で大規模な停電を行っておりますし、県内でも平戸、南島原でも停電が発生しているという状況でございます。

そういったことを鑑みますと、電気だけではなくガスによる発電ということも電源の輻輳化という観点からは重要だと考えております。そういった視点で、今回ガスによる発電ということを考えておりますので、その方針については堅持をしたいというふうに考えております。

一方で御指摘いたいたように電気との差はどのくらいかということについては、今後設計事務所と基本の協議の上で、どういった方法がとれるかどうか。参考資料として徴することは可

能だとは思いますが、積算も費用がかかりますので、どの程度できるか。相談ができるのか、あるいはアドバイスをしていただけるのか、という力加減は設計事務所と協議させていただければと思います。以上です。

12番　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

次に補正として提案されるときは、そのあたりも参考用の見積りとして、参考の経費として、ぜひ出していただいて、やはり両方比べたいと思いますのでそのあたりはお願いしたいと思いますけどどうでしょうか。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

議会にお示しをするとなると正式な設計ということになると思います。そうなるとやはり費用が発生すると思いますので、あくまでも一部の機械。例えば主となる発電機がガスによるものと電気によるものの差ぐらいは御提示できると思いますが、全体像についてはかなりハードルが高いというように思います。

例えですが、先ほど言った内容で御提示をするということは可能かと思いますが。私どもとすれば、やはり電源の輻輳化という観点で、ガスによる発電を進めていきたいと思いますので、その点については、方針は堅持したいと思いますので、御理解をいたければというふうに考えております。

○議長（百武辰美君）　８番　城後議員。

○８番（城後光君）

22ページと23ページですね。お願いします。２款，総務費１項，総務管理費の中で、14目．地域情報化管理費の中で12節．委託料。町ホームページリニューアル業務委託料なのですけども、先ほど仕様変更で昨日追加という話が説明ありましたけども、具体的にどういうかたちで仕様が変わるのか、機能が追加されるのかを１点お伺いします。

もう１点ですね。同じく23ページで、17目．地域づくり事業費で12節．委託料。地域おこし協力隊事業委託料なのです。こちらの説明で伝習館、鬼木の公民館等の委託を観光協会に行われるという説明がありまして、地域おこし協力隊を追加で募集されるということで、内定が出るということで話ありましたが、具体的にそのあたりの団員の方が決まれば何名体制で、この辺の施設を、いくつの施設を、どういうかたちで見られるか計画を教えてください。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

23ページの14目．町ホームページリニューアルに関してですが、当初予算の段階ではなるべく安価にリニューアルできないものかということで検討した結果、現行事業者のままでのリニューアルを考えておりました。

しかしながら少々作成するにあたって役場内部または、いろいろな町民の皆さんに広く御意見を聞いた中で、現行のみでのリニューアルだけでは解決できない課題もちょっと見えてきましたので、具体的ないろいろな操作性の問題とか、そういったとこもありますけども。見やすさ、見にくさとかもありますけども、そういったところを総合的に考えると仕様書をもう少し充実をして、広く公募する。プロポーザルによる公募をやって、いろいろ選択肢を広げるという意味で、少々拡大的にちょっと充実をさせたということでございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

２款，１項，17目．地域づくり事業費の12節．委託料。地域おこし協力隊事業委託料についてでございます。御質問にありました協力隊の配置、今後の予定というふうなことでございますが、今現在１名任用しております。内定者が２名ということで、１名は10月。これはもうインバウンドの対策事業ということで、町内のいろんな観光事業に関してのインバウンド促進に向けた協力隊として配置をいたします。

もう１名が伝習館の管理というようなことで、これまで焼き物の窯業体験があられる方ということで、赴任していただくというようなことにしておりまして。

もう１名は今度新規で応募いたしますが、基本的な考え方としましては伝習館と古民家を３名体制で運用するというようなことで考えております。以上です。

○議長（百武辰美君）　８番　城後議員。

○８番（城後光君）

ちょっと説明でホームページのリニューアルに関して、プロポーザルで全体的に見直されるということで、補正がかかるというのは理解したのですけども。今検討されている中で、言える範囲で構わないのですけども、具体的にどういう形で大きく見た目が変わっていく想定をされているのか。何かサービス的にこういうのはちょっと目玉として変えていくとかいうのがあれば教えていただければと思います。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

私のほうも今回のホームページリニューアルのプロポーザルの仕様書のつくりに加わっておりますので、私のほうからその一端を御紹介したいと思います。

現在の町のホームページ。今回の台風等であったときに災害のほうの切替えがよくできません。もともとのホームページに支障があるのですね。ですので、例えではございますが、災害が発生したときに災害用のページほう、トップから全部変わるというような仕様がございます。

加えて今回の仕様書の中ではですね、今私どもが運用してますＬアラートという国のシステムがございますが、そこに登録すると――例えばですがヤフー速報とかに反映するようになっ

ているのですが、それが自動的にホームページのほうにも反映するということで、情報の提供の多重化ができるようにしたいというふうになっております。一端を申し上げればそういうふうなことも、ホームページのリニューアルとして考えているというところでございます。

○議長（百武辰美君）　８番　城後議員。

○８番（城後光君）

44ページをお願いします。７款，商工費１項，商工費３目．観光費の中で、12節．委託料で乗合タクシーポスター改編・のぼり製作業務委託料。33万円が上がってますけども、具体的にその乗り合いタクシーの何か具体的なものが変わるのか。それともポスターとかのぼりを変えられるだけなのか。ちょっと内容をお知らせください。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

お尋ねの乗り合いタクシーポスター改編・のぼり制作業務委託料につきましては、予約制乗り合いタクシーではございません。有田波佐見間の乗り合いタクシーののぼり、チラシ等の改編を行うということでございます。

ちょっと今掲載している中身が、現状の運用と若干合わない部分がありましたので、その内容を修正して新たに整備をするというようなことでございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　４番　岡村真由美議員。

○４番（岡村真由美君）

４款，１項，２目．12節．35ページでございます。帯状疱疹ワクチンの接種について詳しい説明があって、ありがたいことだなと。対象者の一人として思っているわけですけれども、この委託料の90万円というのは、委託先に支払われる金額なのですか。先ほど説明は１回１万円。１人２回分。

あと予防接種は個人的には病院で希望してするというように思っているのですけど、そこあたりの詳しいところがよく分からないので、もう一度説明をいたければと思います。

○議長（百武辰美君）　石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

接種は病院でもちろん受けていただくので、病院でお支払いするのは１万円。個人負担が１万円ぐらいと。病院から役場のほうに１万円を請求していただいて、委託料として医療機関に支払うということになっております。

○議長（百武辰美君）　４番　岡村真由美議員。

○４番（岡村真由美君）

90万円というのは、１人２回として45人分というように理解するのでしょうか。その下のところに接種費という項目があるのですけど、この接種費と委託料の違いというのがちょっと分からなかったので質問をいたしました。

○議長（百武辰美君）　石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

こちらは委託料に関しては、委託契約に基づいて決められた医療機関で実施をお願いするものとして計上しております。接種費はもう国の制度として、決まった定期接種というかたちで受けていただくもので、扶助費のほうで計上をしております。

○議長（百武辰美君）　対象者の数は。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

おっしゃるとおりですね１万円を割っていただくと90回分ということになりますので、ただお１人で２回までということなので、最大といいますか、接種期間の間隔が必要ですので１回目を打ったあと半年ほど期間を空ける必要がございますので、その年度内に２回受けられる方もいらっしゃれば、１回ということになります。

ただこれは当初といいますか、途中で計上をしておりまして、何人ぐらい接種をされるかによっては、今後補正予算のほうで対応していきたいというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　４番　岡村真由美議員。

○４番（岡村真由美君）

大変よくわかりました。医療機関というのは委託される医療機関というのは、町内の普通の内科とか外科とか、全ての病院ということを理解してよろしいのでしょうか。いつからそれが始まるのかというのを最後の質問にしたいと思います。

○議長（百武辰美君）　石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

まだ医療機関のほうに調査を行っておりませんので、町内の希望、実施ができる医療機関ということになります。で、いろんな予診票とか、システムの改修とかが整ってからということになりますので、早ければ10月からということで準備を進めております。

○議長（百武辰美君）　７番　福田議員。

○７番（福田勝也君）

ページ数が51ページ。10款，教育費２項，小学校費の１目．東小学校の管理費と７目．南小学校の管理費の中で、お互い12節．委託料なのですが。これは通学車両の運行委託料ということで、多分これスクールバスでなくて多分タクシーの送迎のほうかなと思うのですが、増額となった補正の要因はどのようなことなのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

51ページの10款，２項，１目．ですね。東小学校管理費の中の委託料でございますけども、こちらにつきましして子供たちはそういったタクシーの利用を行いますけども、その際保護者から２割分を事業費としていただいておりました。

その２割分と波佐見町が支払う分８割と２割ということで、タクシー会社に２回支払いが行っていたということでそれを統一してもらえないかということでタクシー会社のほうからありましたので、その２割分の不足分の予算を増額しております。

受入れのほうも歳入のほうで計上いたしておりますので、19ページのほうの20款，４項，３目．雑入のほうで、通学用タクシー保護者負担金ということで計上をいたしております。その２割分を受けまして、波佐見町から一括してタクシー会社のほうに支払うということでこういったかたちでさせていただいております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　13番　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

22ページをお願いいたします。２款，１項，１目．17節．備品購入費でバックパネル購入費とございますが、こちらのちょっとまず説明をお願いいたします。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

２款，１項，１目．17節．備品購入費のバックパネル購入費でございますが、これは既に購入をしておりまして、予算の流用で購入をしたものでございまして、今回その補正分を利用した分を補正に計上させていただいております。

もう既に陶器まつりの折に純烈の岩永さんを迎えたときの後ろのバックパネルというようなものになりますので、そういったちょっともろもろ急ぐものがありましたので、流用して購入したものでございますが、今回流用した分を補正として、計上させていただいているものでございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　13番　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

それで分かりました。また新たにバックパネル買われるのかなと思って質問しました。

それではもう１点です。44ページをお願いいたします。44ページの７款，１項，３節ですかね。それの中に12節．一番上のところです。新泉源機械室室内移動式エアコン設置業務委託料ということで12万1,000円上がっております。

まだ機械室のまず移動式エアコンということで何かピンとこないのですけど、もう一つはエアコンの設置でしたら、購入というような考え方があるかなと思いますけど、ここでエアコン設置の業務委託料ということで上がっておりますが、これはどうしたことでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

44ページ。７款，１項，３目．観光費12節．新泉源機械室室内移動式エアコン設置業務委託料ということで、これは西前寺公園にあります泉源のポンプ室といいますか、機械室になります。

近年まれに見る猛暑ということで、機械室にもともと温度を下げるためのファンを置いていたのですが、それを稼働してもなんかもう全然温度が下がらないというようなことで、その泉源の機器類に非常に影響を及ぼして、もう止まるようなことも想定されるということで、緊急的にそこの移動式のエアコンということで、スポットクーラーにはなるのですけども、危機に対してそこの泉源の機械室の内容に合うものの選定から設置の場所とか機械とのマッチング等を業者のほうに委託して設置をしたというふうな経緯でございます。

ですので、当初備品購入というふうな考え方もあるのですが、そこの機器材の状況等というのはなかなか職員で分かりかねますので、そういったところで業者に委託というようなかたちで発注をしたということでございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　13番　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

では、いつもこのエアコンを作動するということじゃなくて、やはり高温のときにちょっと自分たちではよくわからないのですけど、そういうときにこの委託先が、移動式のエアコンをそこに持っていかれて、行われるための委託料ということでよろしいでしょうか。

これは年間の委託料であって、あそこに何日間かしていてもこの委託料自体は変わらないということでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

この委託料につきましては、やはり高温であるというのが連日続いておりますので、基本的には、ほかの保守点検の業務でもこの業者のほうが点検に来る際に、室内の基本状況を見て、その都度継続して付けたりとかそういったところを併せて、見ていただくというふうな状況でございます。基本的には高温が続くような状況ではもうつけっ放しというような状況になっております。以上です。

○議長（百武辰美君）　３番　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

ページは27ページ。総務費２款，４項，３目．町議会議員選挙に関してのところですけども、12節．委託料。ポスター掲示板設置・管理・撤去委託料で167万6,000円上がっておりますけども、３年前もちょっと私質問させていただいたのですけども、ポスター掲示板ですね。もうこれだけ時代が変わってきておりまして人の集まる場所を流れる場所も変わっております。掲示板の今の場所が本当に今の時代にあって、町民皆さんの目に入られるとこが多いのかなと思いますので、今回の選挙に関して設置場所は以前どおりなのか。また新たな検討される余地があるのか。お尋ねします。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

２款，４項，３目．今回の町議会議員選挙費の12節．ポスター掲示板設置関係でございます。まずポスターの掲示板については、自治会の皆さんとの意見を聞きながら場所の選定をしておりますので、当然ながら今議員がおっしゃったように時代の流れ等でここはちょっと不適当だということであれば、変える余地がそもそもございます。

そこで今回については完全に固まっておりませんが、前回の町議会議員の補欠選挙あるいは町長選と同じ場所を今のところ想定をしております。

そこで冒頭申したとおり、ひどく不具合なところがあれば自治会等を通じても、こちらへお寄せいたければ、検討の余地はあるというように考えております。以上です。

○議長（百武辰美君）　３番澤田議員。

ぜひ検討していただいて、一つの提案ですけども歴史文化交流館などもかなり町民の方も来られますし、波佐見町でこういう選挙があっているのだなという関心を持ってもらって、ぜひいい結果を出したいと思いますのでよろしくお願いします。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

書記のほうと検討いたしたいと思います。ありがとうございます。

○議長（百武辰美君）　11番　北村議員。

○11番（北村清美君）

35ページですね。帯状疱疹の関連質問です。これは本当に早くしていただきたいと思って、高齢者の場合は先ほど課長から説明あっていますけど、これは半年以上の後遺症をやる場合もあります。相当こう痛いです。だから本当ありがたいのですけど、現実には今１回約２万円以上かかります。それを２回するわけですから、現状は４万円以上かかります。１万円助成金を出すということですが、なお結構なのですけど、でも個人負担が一番ですから、やはりもうちょっと増額すべきじゃないかと思います。

課長の説明でもやはり半年間続きますと。相当な医療費がかかります。それを軽減するためにやはりそういうアプローチをかけていただければなと思います。それで検討してください。

それから19節．扶助費の中に予防接種事故救済給付費157万7,000円とあります。これの現状と実際こういう端数が出ますから、そういう対策費用をされたのでしょうけど、その内訳とそれから新型コロナワクチン接種費3,430万円。これは年齢関係なく3,000円の助成金をされるのでしょうか。その確認です。

○議長（百武辰美君）　石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

帯状疱疹ワクチンに関しましては、今、国でも定期接種化といいますか。もう全国統一のですね、ワクチンの助成を今検討はされてるところなのですが、なかなか国が進まない状況で、

全国的には国を待てないというところが、接種の助成を進めておりまして、大体この１万円が相場となっております。今後その国がどういった助成を考えるかによって、このあたりの金額の変更はありうるものと思っております。

続いて予防接種事項の給付費、事故救済給付に関しましては、これは１人分の予算金額になっております。こちらはコロナワクチンを接種された後に体調の変化といいますか、詳細は申し上げにくいのですが入院をされたり、その後も通院を継続されていたりというような状況の中で、そのワクチンを起因とした健康被害が確認されておりますので、そこの部分に限って医療費などが国から補填されるようになっております。

波佐見町では今回そのお１人の分ですけれども、これまでに別にお２人の確認、健康被害の認定を受けられております。

続いて、新型コロナワクチンに関しましては定期接種化をされまして、基本的には65歳以上の方が対象となっておりまして、ただ重症化予防の観点から60歳以上で基礎疾患のある方も、接種は可能というようになります。以上です。

○議長（百武辰美君）　11番　北村議員。

○11番（北村清美君）

それではちょっとページ数分かりませんけど、林道虚空蔵線の工事災害工事に関してちょっと質問したいのですけど。

計上されて、待ちに待った道路が契約されたということで一番ありがたいのですけど。この金額の中で１億7,800万円というふうに工事費用が出ていますけども、このうち町の負担というのは、どのぐらいになるのでしょうか。パーセンテージと大体の金額でいいですからお願いいたします。

○議長（百武辰美君）　太田農林課参事。

○農林課参事（太田克宏君）

支出の部分でいきますと、57ページの11款，１項，２目．林道施設災害復旧費の14節．工事請負費の１億7,800万円というところになるかと思うのですけども、今回の補正の分で上げております収入のほうですけども、補助率が今回は基本補助率のほうで上げておりまして、65％が現在、国の補助となります。

ただ農林業の災害復旧事業につきましては、補助率をかさ上げする申請のほうがございますので、最終的には基本補助率から上がることになってくるかとは思うのですけども、近年の林道災害の補助率を見ますと、令和３年の災害のときに95.9％。その前が平成28年の災害で88％。もう一つ前の27年の災害で81.1％ということで、基本補助率から上がっております。

あとは激甚災害の指定とかというところで補助率も変わってくるのですけども、こういった補助率に近いところの補助率になるのではないかと想定はしております。以上です。

○議長（百武辰美君）　11番　北村議員。

○11番（北村清美君）

なにか幅がありますね。大体予想としては何％ですか。

○議長（百武辰美君）　太田農林課参事。

○農林課参事（太田克宏君）

先ほども申しましたように激甚指定等にかかる、かからない等もございますので、その補助率の幅があるところもあるのですけども、想定でどれくらいかということでございますけど、現時点では明確なパーセントというところはございませんので、先ほどの事例でいきますと、80％～90％程度の補助はあるものと思っております。

○議長（百武辰美君）

今の答弁でよろしいですか。太田参事、今の質問の意図は今の補助は現段階で、町の持ち出しは幾らぐらいですかという質問ですからそれにも答えられないのですか。北村議員ね。

だから今の段階の予定をおっしゃればそれで済むわけで、後で変更する分には別にやぶさかじゃないとは思うのですが。質問者の意図は多分そういうところだと思います。誰か代わって答弁ください。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

57ページをまず御覧いたきたいと思います。11款，１項，２目．財源の内訳を書いております。この中にありますとおり一般財源を現在のところ1,460万円あてておりますので、それ以外につきましてが、国の補助金であったり、地方債であったりというところでございます。ですので一般財源として持ち出す割合は約7.7％でございますので、補助それから起債でそのほか92.3％を頂くというようなことになっております。以上です。

○議長（百武辰美君）

ほかに質疑はありませんか。どうぞ。

２番　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

ページの44ページ。３目．12節．鴻ノ巣公園施設管理運営業務委託料を観光協会に委託されたと聞いています。それとキャンプ場の保守点検の委託料のこの違いと。鴻ノ巣公園の委託業務というのがどこまでされるのかなと思うのですが、あの鴻ノ巣公園に行ってみたのですが、結構結構落ち葉もひどいし遊具に蜘蛛の巣も張ったりしているのですよね。そこあたりの管理などもされるのでしょうか。お尋ねします。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

44ページ。７款，１項，３目．12節．鴻ノ巣公園施設管理運営業務委託料ということで、こちらの管理の範囲といたしましては、基本的にはキャンプ場の管理がメイン主体となるのです

が、それとあわせまして近隣の遊具広場、それからキャンプ場へ至るまでの道。そういったところについての清掃等、そういったところもお願いしたいというように考えております。

それから、その下のキャンプ場保守点検業務委託料につきましては、ドムアップテントそれからツリーフロアにつきまして、ここの保守を行っていただくというようなことで予算を計上しております。これは観光協会ではございません。以上でございます。

○議長（百武辰美君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。

これで討論を終わります。これから議案第57号　令和６年度波佐見町一般会計補正予算（第３号）を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［賛成者起立］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって議案第57号は原案のとおり可決されました。

日程第５　議案第 58 号

○議長（百武辰美君）

日程第５．議案第58号　令和６年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

○議長（百武辰美君）　石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

議案第58号　令和６年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）について説明いたします。歳入歳出予算にそれぞれ2,900万円を追加し、歳入歳出予算の総額を16億5,600万円とするものです。

追加する2,900万円の内訳ですが、２ページをお願いします。歳入についての主なものはマイナ保険証への移行に伴うシステム改修費等で、３款，１項，国庫補助金を93万4,000円。令和５年度決算における実質収支額の確定に伴い、７款，１項，繰越金を2,773万円増額するものです。３ページ。歳出補正の主なものとして１款，１項，総務管理費に119万9,000円の増額。先ほど歳入の国庫補助金の増額で申し上げましたが、マイナ保険証への移行に関連し、加入者情

報等のお知らせを特定記録郵便で通知する必要があったことからあったことから、通信運搬費とシステム改修費になります。

４款，１項．保健事業費に132万8,000円の増額。主なものとしては、短期総合健診助成金ですけれども、コロナ禍以後の物価高騰や診療報酬の改定を踏まえ、令和元年から据え置いていた検診料を見直さなければ、医療機関の経営を圧迫するおそれがあることから、年度中途中ではありますが契約単価を見直すものです。

７款，１項．諸支出金330万円の増額。令和５年度事業の精算として県支出金を返還するものです。８款，１項，予備費2,280万円の増額となりますが、予算の調整で歳入と歳出の差額を計上しています。以上で令和６年度波佐見町国民健康事業健康保険事業特別会計補正予算（第１号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第58号　令和６年度波佐見町国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。起立全員であります。

したがって、議案第58号は原案のとおり可決されました。

日程第６　議案第 59 号

○議長（百武辰美君）

日程第６．議案第59号　令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

議案第59号　令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）について説明いたします。歳入歳出予算をそれぞれ100万円追加し、予算の総額を２億2,400万円とするものです。

２ページをお願いします。歳入の主なものは収入の見込みにより１款，１項，後期高齢者医療保険料149万1,000円の増額。４款，１項，繰越金58万7,000円の減額です。

３ページをお願いします。歳出として２款，１項，後期高齢者医療広域連合納付金は、収入

の増額に応じて131万4,000円増額しています。

以上で令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

６番　岡村達馬議員。

○６番（岡村達馬君）

12ページ。２款，１項，１目．後期高齢者医療保険料が伸びておりますけども、これはまだしばらく伸びていくというように考えていいのでしょうか。というのは、後期高齢者はまだしばらく増加をしていくというふうに捉えていいのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

後期高齢者医療保険料の伸びにつきましては加入者の増加、プラスそれぞれお一人一人の保険料の増額も合わせて、増額が見込まれると思います。

○議長（百武辰美君）

ほかに質疑はありませんか。質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第59号　令和６年度波佐見町後期高齢者医療特別会計補正予算（第１号）を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって議案第59号は原案のとおり可決されました。

休憩にいたします。12時10分より再開をします。

午後０時１分　休憩

午後０時10分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第７　議案第 60 号

○議長（百武辰美君）

日程第７．議案第60号　令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第１号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

松添長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

議案第60号　令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第１号）について御説明申し上げます。歳入歳出予算の補正でございますが、歳入歳出予算の総額にそれぞれ3,800万円を追加し、総額を歳入歳出それぞれ14億700万円とするものです。

２ページをお願いいたします。歳入補正の主なものについては４款，国庫支出金２項，国庫補助金の中で、保険者機能強化推進交付金及び介護保険者努力支援交付金の内示が示されたことなどから、115万2,000円を増額しており、９款，繰越金は前年度繰越金3,642万4,000円を追加しています。

３ページをお願いいたします。歳出補正の主なものについては、５款，諸支出金１項，償還金及び還付加算金について。過年度事業の精算に伴う返還金として、1,904万2,000円を追加しております。８款，予備費は今回計上した歳入から歳出を差し引いた余剰分、1,790万2,000円を計上しております。

以上で令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算（第１号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第60号　令和６年度波佐見町介護保険事業特別会計補正予算第（１号）を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第60号は原案のとおり可決されました。

日程第８　議案第 61 号

○議長（百武辰美君）

日程第８．議案第61号　令和６年度波佐見町上水道事業会計補正予算（第１号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

○議長（百武辰美君）　中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

それでは、議案第61号　令和６年度波佐見町上水道事業会計補正予算（第１号）について説明いたします。今回の補正は人事異動に伴う人件費と、企業債利息の補正が主なものです。

補正予算書１ページをお願いします。収益的収入及び支出の補正で、収入は水道事業収益を48万円減額し、補正後の予定額を２億9,502万2,000円とし、支出は水道事業費用を272万円増額し、補正後の予定額を２億7,707万3,000円とするものです。

収入では第２項，営業外収益を48万円減額します。一般会計負担金の児童手当分になります。支出では第１項，営業費用を251万9,000円増額します。人事異動に伴う総係費の増額になります。

営業外費用は企業債利息を20万1,000円増額します。また議会の議決を得なければ流用することができない経費の補正は、職員給与費を243万2,000円増額し、4,275万1,000円とします。一般会計からこの会計へ補助を受ける金額を75万6,000円に改めます。

以上で、議案第61号　令和６年度波佐見町上水道事業会計補正予算（第１号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第61号　令和６年度波佐見町上水道事業会計補正予算（第１号）を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって議案第61号は原案のとおり可決されました。

日程第９　議案第 62 号

○議長（百武辰美君）

日程第９．議案第62号　令和６年度波佐見町下水道事業会計補正予算（第１号）を議題とします。本案について内容説明を求めます。

中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

それでは議案第62号　令和６年度波佐見町下水道事業会計補正予算（第１号）について説明いたします。今回の補正は人事異動に伴う人件費の補正、令和５年度の固定資産の整理が完了したことに伴う減価償却費及び長期前受金メニューの補正、収支調整のための一般会計補助金の補正となっております。

補正予算書１ページをお願いします。収益的収入及び支出の補正で、収入は下水道事業収益を136万8,000円増額し、補正後の予定額を３億7,416万9,000円とし、支出は下水道事業費用を136万8,000円増額し、補正後の予定額を３億7,260万3,000円とするものです。収入では、第１項，営業収益を１万2,000円減額します。雨水処理に係る一般会計負担金になります。

第２項，営業外収益は、他会計補助金の100万3,000円及び長期前受金導入の37万7,000円の増額となります。

支出では第１項，営業費用を16万1,000円増額します。人事異動に伴う総がかり費の175万3,000円の増額と減価償却費で39万2,000円の減額になります。営業外費用は、企業債利息を7,000円増額します。

次に資本的収入及び支出の補正で、収入は90万8,000円増額し補正後の予定額を１億3,213万3,000円とし、支出は13万9,000円を増額し、補正後の予定額を２億1,942万6,000円とするものです。収入は第３項，一般会計補助金及び雨水処理負担金の増額になります。支出は第１項，建設改良費の増額です。人件費に係る児童手当及び職員共済組合負担金の増額によるものです。

第４条　本文括弧書き中、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額8,806万2,000円を、8,729万3,000円に、当年度分損益勘定留保資金8,806万2,000円を8,729万3,000円に改めます。

２ページをお願いします。議会の議決を得なければ流用することができない経費の補正は、職員給与費を183万2,000円増額し3,497万4,000円とします。また一般会計からこの会計へ補助を受ける金額を２億1,913万6,000円に改めます。

以上で議案第62号　令和６年度波佐見町下水道事業会計補正予算（第１号）の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第62号　令和６年度波佐見町下水道事業会計補正予算（第１号）を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって議案第62号は原案のとおり可決されました。

日程第 10　議案第 63 号

○議長（百武辰美君）

日程第10．議案第63号　波佐見町公民館宿泊施設の設置及び管理に関する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

議案第63号について御説明いたします。波佐見町小民家宿泊施設の設置及び管理に関する条例。波佐見町小民家宿泊施設の設置及び管理に関する条例を別紙のとおり制定いたします。

提案理由でございます。波佐見町鬼木郷に設置する小民家宿泊施設の設置及び管理について必要な事項を定めるため、本条例を制定いたします。それでは条例の内容を御説明する前に、施設の概要などについて御説明いたします。９ページ、波佐見町公民館宿泊施設の設置及び運営概要を御覧ください。

この概要を説明する前に、これまで古民家につきましては民泊拠点として整備を行っておりましたが、内容をいろいろと精査をいたしまして旅行業法の簡易宿所として運営することでスタートしたいというように考えておりますので、まずその理由として御説明をいたします。

簡易宿所による運営のほうが地域観光客の利用など幅広い用途として活用できること。それから今後本町が推進するインバウンド事業の拠点として、中尾山伝習館、交流館、四季舎、鬼木加工センターなどとの連携が可能であること。古民家を活用したイベントの開催が可能であること。鬼木には既に１件の民泊があり、簡易宿所であれば競合されず相乗効果が図れること。民泊を行う人材がいないこと。以上の内容についていろいろ検討した結果、運営方針の見直しを図りたいと考えております。

施設概要について御説明いたします。

施設名　波佐見町古民家宿泊施設

通称　キヨトテラスとします。

キヨトテストしました理由は、当該施設は名誉町民である福田清人氏の生家でもあり、棚田の景色を見渡すことができることや、棚田の英訳もライステラスということからこの通通称といたしました。

住所でございます。波佐見町鬼木郷590番地の２、591番地１及び593番地１。

施設概要　宿泊棟定員は７名でございます。

宿泊形態　一棟貸し（素泊まり）でございます。

運用開始は令和６年11月を予定しております。

施設の配置　別添図面のとおりでございます。

施設のコンセプトとして、田舎暮らし宿泊体験施設といたします。

基本的にはホテルと異なり、田舎での日常を体験してもらうことをコンセプトとして、多少の不自由を享受してもらうこととし、ホテルのようなサービス。食事の提供やアメニティーの設置は行わず、また高級な調度品の設置もせず、古民家の現在の状況で宿泊していただくこととします。

ただし今後、宿泊者のニーズやインバウンドの対策等の状況により随時見直しを行います。ターゲットにつきましては家族連れ、学生などの団体、外国人旅行客を想定しております。

続きまして施設運営について御説明いたします。

施設管理については波佐見町観光協会へ委託し、主に地域おこし協力隊が運営を行います。委託の内容としては予約受付、施設清掃等になります。

使用時間につきましては、到着の日の午後３時から出発の日の午前10時までとなります。

休場日については、季節ごとの事情、施設の利用形態等により設定期間といたします。

使用料につきましては１棟１泊の料金とし、基本料金を設け人数ごとに使用料金を設定し、その上限を条例で規定いたします。

理由としましては、今後想定される指定管理委託を見据えるとともに、宿泊需要に応じた料金設定を柔軟に行うために条例で定める規定は、使用料の上限を規定することとし、金額については年１回程度、ほかの宿泊施設の料金改定状況や施設の稼働状況を確認しながら定めることといたします。

上限　宿泊　基本料金として２万円。

使用料金として１人当たり5,000円ということで、１人の場合は基本料金プラス使用料金の合計として２万5,000円ということで想定しております。

日貸しは、基本料金（１時間）1,500円。追加料金（１時間）1,500円を追加いたします。

料金の想定としましては、基本料金を１万円程度といたしまして、使用料金を１人3,000円というようなことで、想定をしているところです。日貸しは規定のとおりといたします。

キャンセル料につきましては、７日から２日前まで宿泊料の30％。１日前は宿泊料金の80％。当日は宿泊料金の100％。無連絡キャンセルは宿泊料金の100％というように設定をいたします。

貸付備品は冷蔵庫・電子レンジ・キッチン・洗濯機・ベッド・敷布団・食器・タオル・食器用洗剤・シャンプー・リンス・ボディーソープとなっております。

施設の配置について御説明いたします。11ページをお開きください。配置図となります。下が正面、上が裏口となります。赤枠で囲ってる部分が管理スペースとなり、青枠で囲ってる部分が宿泊スペースとなります。それ以外は共用スペースといたします。

続いて12ページをお開きください。施設内の全体図となります。古民家は正面と裏面それぞれに車の出入口を設けています。正面玄関の青枠のスペースでは、野外イベントなどの活用を考えております。赤枠はテラスであり棚田の景色を展望できるスペースとしてベンチを配置しております。以上が施設設置及び運営の概要の説明になります。

続きまして、条例の内容について御説明いたします。７ページをお開きください。波佐見町の古民家宿泊施設の設置及び管理に関する条例条文の構成一覧となっています。条例の構成について御説明いたします。

第１条　趣旨。名称及び施設の設置及び管理について必要な事項を定めることを規定しております。

第２条　名称及び位置。名称は波佐見町公民館宿泊施設といたします。位置は波佐見町鬼木郷590番地の２、591番地１及び593番地１。

第３条　管理でございます。町長が管理し一部業務委託について規定をしております。

第４条　使用の許可でございます。使用における町長の許可、許可不可とする場合を規定しております。

１．法令違反　２．公序良俗違反　３．暴力団関係　４．施設の管理運営に支障がある場合。

第５条でございます。使用許可の取消し及び使用の中止等。第５条の規定に伴い使用許可の取消し、使用中止をすることができることを規定しております。

第６条　使用許可の事項の変更。使用許可を受けた者が許可内容を変更し、または使用中止をする場合は、町長の承認が必要であることを規定しております。

第７条　使用料。使用料については別表の範囲内で定めることを規定しております。併せて町長特認の場合の減額を規定しております。内容につきましては先ほど御説明したとおりです。

第８条　使用料の還付でございます。使用料の還付についてについて規定しております。

第９条　原状回復でございます。原状回復について規定しております。使用を終了したとき又は施設の使用の変更又は中止に係る承認を受けたときに、原状回復をお願いするとしております。

第10条　損害賠償でございます。施設及び附則設備を損傷し又は滅失させたとき、損害賠償について規定しております。

第11条　指定管理者による管理でございます。指定管理者に行うことができる旨を規定しております。

第12条　指定管理者の業務を規定しております。

・施設の利用向上に資する事業の企画及び実施に関する業務。

・施設の使用許可に関する業務。

・施設の維持管理に関する業務。

施設の運営に関して町長が必要と認める業務。

第13条　指定管理者が行う管理の基準でございます。指定管理者は法令、条例、条例に基づく規則。その他町長が定めるところに従い、施設の管理を起こなければならないとしております。

第14条　利用料金でございます。指定管理に管理を行わせる場合の利用料金について規定しております。

第15条　利用料金の還付でございます。指定管理者が行う利用料金の還付について規定しております。

第16条　使用料金の減免でございます。指定管理者が行う利用料金の減免について規定しております。

第17条　委任でございますが、規則へ委任を規定しております。

附則として、この条例は公布の日から施行します。

８ページには、条例施行規則（案）について掲載をしておりますので、御覧いたきたいと思います。

以上で、議案第63号　波佐見町古民家宿泊施設の設置及び管理に関する条例についての説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

お諮りします。ただいま議題となりました議案第63号　波佐見町古民家宿泊施設の設置及び管理に関する条例については、産業厚生委員会に付託したいと思いますが、御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

異議なしと認めます。したがって、議案第63号は産業厚生委員会に付託します。

日程第 11　議案第 76 号

○議長（百武辰美君）

日程第11．議案第76号　波佐見町役場新館等改修工事請負契約の変更についてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

大橋庁舎建設推進室長。

○庁舎建設推進室長（大橋秀一君）

それでは説明させていただきます。

議案第76号　波佐見町役場新館等改修工事請負契約の変更について。

１ページを御覧ください。令和６年２月５日付けで請負契約を締結した波佐見町役場新館等改修工事について、別紙のとおり変更契約を締結するため地方自治法第96条第１項第５号の規定により議会の議決を求めます。

令和６年８月30日提出。

提案理由。本件は、波佐見町役場新館等改修工事について、工事内容に変更が生じたため、変更契約を締結するものであります。

次に２ページ別紙を御覧ください。

１　契約の目的　波佐見町役場新館等改修工事

２　契約金額　変更前の契約金額２億1,245万4,000円　今回の増額4,604万6,000円

変更後の契約金額　２億5,850万円

３　契約の相手方　長崎県佐世保市白木町３番18号

株式会社　上滝　佐世保支店　取締役支店長　山崎洋樹

次に３ページ。説明資料を御覧ください。

１、２は先ほど説明させていただきましたので省略させていただきます。

変更箇所を説明させていただきます。

３．変更箇所平面図　全体イメージパース図

新館を含めた２期工事の全景をつけさせていただきました。

４ページ上段を御覧ください。全体配置図です。右下赤色、①新館改修、左側真ん中青色、②車庫棟改修。左の下、オレンジ色③外構連絡通路新築。中央の緑色④外構園庭となります。

４ページ下段を御覧ください。①新館改修平面図。１階、２階平面図となります。変更箇所としては１階北側職員出入口。１階書庫、２階外階段からの出入口に電気錠を設置させていただき、セキュリティを向上させることで、こども家庭センターの安全性を確保いたします。それに伴い入退室管理システム、電気錠は新庁舎と連動させて運用してまいります。

５ページ上段を御覧ください。②車庫棟改修平面図。③外構連絡通路新築平面図となります。

車庫棟には環境美化作業員さんの詰所、消防本部分団ロッカー室、イノシシ不要部位一時保管冷蔵庫室を設置させていただきます。また雨天時等に新庁舎からこども家庭センターへスムーズに移動ができるように、屋根つき連絡通路を計画させていただきました。一部、既存の倉庫棟屋根部分を利用して経費削減に努めました。

５ページ下段を御覧ください。④外構堰堤平面図となります。こども家庭センター、河川側に屋根つきの遊び場園庭を計画させていただきました。遊び場、園庭の必要性については、子育て支援センター「きしゃぽっぽ」が、現在勤労福祉会館内に併設していますが、こども家庭庁が発足し、国の施策に基づき子供関連の相談や手続、健診などの一元化に伴い、新庁舎別館

に移転するものであります。

移転にあたっては今ある設備は維持できるように、室内、屋外の設備を計画整備させていただいております。

６ページ上段を御覧ください。４．変更概要を説明させていただきます。

①新館改修

１．外壁改修（庇改修、施設名版追加）210万円。

２．建具改修（ドア取替、電気錠仕様ドア取替）200万円。

３．内装改修（ブラインドボックス追加、手摺追加、給湯室改修、陶板サイン追加、２階各室床・壁・天井　撤去改修）900万円。

２階各室の内装改修については、当初改修を予定していませんでしたが、天井の雨漏りの染み、壁、床の経年劣化が激しいことから、このままで使用できないか、躊躇していた部分の改修となります。

４．塗装改修（塗装内容変更）100万円。

５．躯体改修（開口部分躯体整形撤去、屋外鉄骨階段立入禁止措置）150万円。

①の建築工事：新館改修、合計1,560万円を計上させていただきます。

６ページ下段を御覧ください。①新館改修パース図。全体配置１階のスライディングウォール開放締切りの状況です。多目的に使用できるように計画しております。食育支援室の整備も行います。食育指導等に使用されます。

７ページ上段を御覧ください。②車庫棟改修350万円。③外構連絡通路新築600万円計上させていただきます。

７ページ下段を御覧ください。④外構工事：園庭　200万円。人工芝防護柵を追加計上させていただきます。

８ページ上段を御覧ください。⑤電気設備工事

１．電灯コンセント設備（コンセントの追加）40万円

２．照明器具設備（照明器具の追加）35万円

３．非常灯設備（誘導灯追加）70万円

４．監視カメラ設備（監視カメラ追加）こども家庭センター内３か所　90万円

５．自動火災報知設備（火災通報装置追加）40万円

６．太陽光発電設備（蓄電池設備調整追加）85万円

７．入退室管理システム設備（新庁舎から配線、電気錠システム追加）384万6,000円

８．外灯及び電気自動車充電用配線　40万円

電気設備工事合計、784万6,000円を計上させていただきます。

８ページ下段を御覧ください。⑥機械設備工事

１．衛生器具設備（電気温水器追加）40万円

２．給水設備（給水箇所変更・土工事追加）55万円。

３．排水設備（グリーストラップ・配管追加）90万円。

４．空気調和設備（エアコン・配線追加）850万円。

５．換気設備（換気扇追加）15万円。

６．撤去工事（既存エアコン・配管撤去）60万円。

機械設備工事。合計1,110万円を計上させていただきます。以上で説明を終わります。それでは議案第76号　波佐見町役場新館等改修工事請負契約の変更について、御審議のほどよろしくお願いします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第76号　波佐見町役場新館等改修工事請負契約の変更についてを採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって、議案第76号は原案のとおり可決されました。

日程第12　議案第77号

○議長（百武辰美君）

日程第12．議案第77号　財産の無償譲渡についてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

議案第77号　財産の無償譲渡について説明いたします。財産を無償譲渡することについて、地方自治法第96条第１項第６号の規定により議会の議決を求めるものです。

提案の理由としましては、鴻ノ巣保育所の建物を建物借受人である社会福祉法人蓮池福祉会へ無償で譲渡するためでございます。

次のページをお願いいたします。次のページは別紙となっております。まず１の譲渡する財産は建物が３棟ございます。

まず１つ目の（１）鴻ノ巣保育所園舎所在地波佐見町長野郷214番地１。構造は木造５合金メッキ鋼板葺平屋建てとなっております。延床面積は554平米。平成17年度建築となっております。

次に（２）鴻ノ巣保育所倉庫１。所在地は同じでございます。構造は木造亜鉛メッキ鋼板葺平屋建てとなっております。延べ床面積は24.84平米。平成17年度建築でございます。

次に（３）鴻ノ巣保育所倉庫２。所在地は同じでございます。構造はコンクリートブロック造亜鉛メッキ鋼板葺平屋建となっております。延べ床面積は2.55平米で、平成17年度建築となっております。

２．譲渡の相手方でございます。住所は波佐見町宿郷1526番地３の社会福祉法人蓮池福祉会理事長、武宮朋哉さんです。

３．譲渡の条件になりますが、譲渡の相手方は、譲渡物件を児童福祉法第39条に規定する保育を行うことを目的とする施設として使用し、管理運営についても直接行うものとすることとしております。

なお次のページには参考資料として、鴻ノ巣保育所建物の配置図を添付しております。

以上で説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

12番　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

今回提案として、鴻ノ巣保育所の建物部分ですね。これが譲渡されるというようなことになっておりますけども、今まで平成20年からずっと園を運営されてきて、いろんな制約があったというようなことを聞いております。施設上の制約ですね。

それに、そういったことで改修とか改造とか、こういうことができなかったということですが、このあたりの施設に対する改修とか改造とかそういったことの効果。これは譲渡されることによって、園側の効果というのはどのようなことが考えられますか。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

平成20年４月１日から福祉法人のほうへ運営の譲渡お願いをしておりました。そのときの契約がありますけども、その契約上には建物や設備の改修につきましては借り受け側、法人側が行うとしておりましたので、今までちょっとした改修等ありましたけども全て法人のほうでやっていただいております。しかしながら、大きい工事になりますとたくさんお金がかかってまいります。

そして現在は町の持ち物として公用施設でありますので、国県の補助金が使えないという状況でございますので、この譲渡をした場合はこの大規模改修になりますと、国県の補助を使っ

て福祉法人さんが工事をできるということで、かなり福祉法人さんのほうには利益といいますか、有利に働いてくるということになります。

町といたしましても、これをしますと町としてもし改修する場合になりますと、町ももちろん一般財源を使っておりますので、これもまた負担になってくるということになりますので、町として国県の補助金を使っていくほうが園側としても、町側としても有利に働いていくということはございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　12番　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

今、課長答弁にありましたように、そういった制約がかなり省けるというようなことで、町側にとっても園側にとってもプラスが多いということでございますので、ぜひ早急にお願いをしたいというように思います。

やはり今、子供を大切にする時代ということでございますけども、極端に言えばほかの園と比べて、そういった面でなかなかこう許可が必要であり、国県の補助金が受けられないというふうなことで制約があって、園児のほうにも直接影響もしているかとも思いますので、これはもう早急に新たな契約ですね。譲渡のほうの契約、これをお願いしたいと思いますけど、あと一つですね。一体となる土地、敷地ですけども、こちらのほうはどのような運びでしょうか。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

土地につきましては、まだ福祉法人のほうからは正式にはあっていないところでございますし、今ある施設、保育園のところ。それから駐車場の部分を整理、整備するにあたって面積の確定。分筆確定ですね。確定した登記でやっていないところもございますので、敷地がどこまであるかというのを、しっかり確定測量をまずこちらもさせていただきたいというところもございますし、そうなってくれば無償とはなかなかいかないかなと思っておりますので、土地についてはそこあたりで随分園側とも協議を進めてまいりたいと思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　12番　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

鴻ノ巣、福祉会とされても、いろいろ子供たちのために改造それから増築。そういったことも考えておられるようでございますので、そのあたりの準備をまずお願いしまして、恐らく要望されるかと思いますけども、それに当たっても前向きの姿勢でお願いしたいと思いますけど町長、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

以前運営される法人のほうからも一度御相談に見えられまして、十分協議をさせていただいておりますし、今後どういった問題が生じるのか。あるいは近隣の地価等も調査させていただ

きまして、どのような譲渡がいいのか十分内部で検討させていただきまして前向きに進めさせていただきたいというように思っております。

○議長（百武辰美君）　４番　岡村真由美議員。

○４番（岡村真由美君）

無償譲渡に至った経緯というのは、先ほどのやりとりの中で理解をすることができました。小さな施設の無償譲渡だったらまだ分かるのですけれども、これほど大規模な施設のまず建物の譲渡になるわけですけれども、土地はまだ置いといて。

あの建物を17年度に建てて、そしてもう20年度からは蓮池福祉会のほうにもう運営をお願いしたと。もう本当これをお願いして南地区の子供を持っている家庭はすごく助かったと思うのですね。それはすごくそれで高く評価したいと思うのですけれども、掛かった費用というのはどういったものかということを私は知りたいと思います。

また、もう一つ。こういった行為。かなりの町の予算をかけてつくった、建物を無償譲渡した例というのが、町政始まって以来どのくらいあるのかということをお聞きしたいと思います。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

まずは、なぜ無償譲渡するかというのを最初にもう一度ちょっと経緯をもう一度御説明させていただきたいと思います。まず園舎が先ほど言われましたとおり、建築から19年を経過しております。建物、設備はかなり経年劣化をいたしまして、修繕等大きなものが出てきております。

その対応には現契約上、福祉法人のほうがやるということは先ほど言ったとおりでございまして、その費用をもし今の状況で賄えば莫大な費用になってくるというところでもう積算をされております。それを賄えない場合は、もしかしたら福祉法人が撤退という場合もございます。

そうなれば保育施設は持っているけども保育ができていないという状況にもなりますので、町としても困った状況になるとそういうところもあります。一旦町がやるとしましても、その莫大な費用を町単独で賄えば、ほかの事業にも影響をしていくというところもあるかもしれないというところもございますので、そこを考慮した場合には無償で譲渡しても特に町として今まで建てた費用を取り返すとかなんとかいうところは別としまして、町としてマイナスになるところが少ないというところもございますので、今回は建物に限って無償譲渡するというところになってきます。

それと建物にかかった費用はいくらかということでございましたので、当時の金額でございますけども、総事業費でいきますと、建物だけの総事業費でいきますと１億500万円かかっております。そのときの補助金が1,884万円ございますので、約8,500万円程度は町の費用と。これ

は起債を借りてやっておりますけども、町が出した費用になってまいります。

それと町といたしましても福祉法人の支援をまず一番に考えるべきことは、子供さんも園児の安全それから快適な空間を維持していくというのが一番ではないかと思っておりますので、今般の猛暑のようなときに万が一、エアコンが動かなくなったとか言うのであれば、かなり危険な状態に陥るかもしれないということもありますので、早急にこの譲渡をいたしまして園のほうには施設の整備をやっていただくというところも考えておりますし園のほうもそういった意向でございました。

いろいろと園ともお話をいたしまして、どのようなかたちがいいかというところで最終的には町として、無償で譲渡しましょうということに至りましたので、今後も継続して保育をしっかりやっていただけるのではないかというようには思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）

こういうお大規模な譲渡をした前例があるかとの御質問には。

古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

すいません。前例でございますけども、ちょっと私の記憶の中ではこういった前例はないというように思っております。

○議長（百武辰美君）　４番　岡村真由美議員。

○４番（岡村真由美君）

無償譲渡に至った経緯というのは、先ほどから説明を受けてるので全く異議はございません。そのほうが町民の福祉にとってはいいのだろうというふうに考えます。

それは当然そうなのですけれども、ここの使用目的って契約のあれがありますよね。もしも保育事業をしなくなった場合とか、あと直接第三者に運営を委ねた場合とかは、無償譲渡というのはもう破棄しますよ、ということで書いてあると思うのですけれども、もしもそうなった場合はどうされるのですか。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

この議案の議決後になりますけども、相手方と譲渡の契約をいたします。その契約の内容に保育事業を続けていくことと、その後も保育事業を撤退するとかしなくなった場合は、また町に戻していただくというふうなことになります。以上です。

○議長（百武辰美君）　８番　城後議員。

○８番（城後光君）

今回、譲渡を受けられる社会福祉法人さん。社会福祉法人なので税務状況とか一応公開されているのですけども、それを拝見するとかなり厳しい状況で運営をなされています。

ちょっと分かればお伺いしたいのですけど、今回譲与譲渡にあたって税金等の取扱いはどう

いうかたちになるのか、お願いします。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

申し訳ありません。ちょっと福祉法人であるために、非課税だろうというところでしておりますけども、もしかかるとなれば今後固定資産税がかかってきますけども。

その逆に言えば今、公の施設で評価額がありませんので、今後その評価をいたしまして、もしかかるようであれば固定資産税がかかってくるというようになってくるかと思います。

○議長（百武辰美君）　８番　城後議員。

○８番（城後光君）

事業増等に伴う財産等の贈与に関わる税務上の取扱いということで、認定こども園とか保育園の非課税の条件がありますので、それに当たるかどうか分かりませんけれども、できれば今回建物は無償譲渡というかたちであれば、税税金面でも当該法人とよく協議していただいて、なるべく費用負担が少なく抑えられるように国とも協議いたいて。

せっかく建物は無償譲渡されるということで、何かしら対応は必要だとは思うのですけども、なるべくその有利な方向で税制面でも考慮いたくように協議をしていただいて進めていただければと思いますけどいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

すいません。先ほどの答弁で固定資産税を申し上げましたけども、福祉法人でございましたので非課税でございます。ですので、税制面ではですね非課税ということでかかってこないというようなところでございますので、そのほかに何かこう施設の整備とかで早急にしなければならないとか。国県の補助に合わせてこちらもできることというのについてはやっていきたいと思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　11番　北村議員。

○11番（北村清美君）

大体説明分かりましたけども、今まで家賃は例えば建物の家賃とか借地代とか取っていらっしゃいましたか。ということを第１点。

そして、今回建物を譲渡されるということは全然依存はないのですけど、土地の売買はされないということみたいです、今回で。今後の課題ですよ。だからいくらで購入されて、その償還資金がもう償還が終わっていますかということですね。それをちょっとお聞きしたいです。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

今までも現在も、まず建物については家賃はもらっておりません。無償貸借ですね。土地につきましては賃借料を頂いております。

これはなぜかといいますと、建設当時建物については国庫補助を利用してやっておりましたので、その関係上、家賃はちょっといただけないような状況でございました。ただし土地につきましては一般財源のみで購入をしておりますので、そちらについては賃借料を頂いていたというところでございます。

すいません、土地の購入費につきましてはすいません。今日は建物だけと思っておりましたので、ちょっと資料を持ってきておりませんけども、購入した分については起債を利用していたということでございますけども、その償還は全て終わっているというところでございます。

それと土地の売買につきましては、今のところまだ先方からも本格的な話もきておりませんので、今後まずは取得して整備された後に、福祉法人からも何らかのアクションといいますか。向こうのほうから言ってこられるかどうかというところじゃないではないかと思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　11番北村議員。

○11番（北村清美君）

いや平成20年でしょ。蓮池のほうに運営されたということで。その前は町で持っていましたよね。

仮に計算しますと、平成20年今まで町がもし運用した場合ですよ。大体年間多分10人ぐらいだとちょっと聞いておりますけど、人件費だけでも約2,400万円、2,500万円年間かかりますね。そしたら今15年たっているから相当かかりますよね。

そういう意味から見たら、今借地代も多分取って、どのぐらいの金額かは言われなかったけれども、町で持つよりも民間に委託したほうが得じゃないかなと私は考えるのですよね。そういった面では、今後売買を含めてしたほうがいいのではないかと思いますけど、その点いかがですか。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

まず公設民営に至った当時ですね。至ったのはやはり当時の行政改革の中で、民でできるものは民でと。ただしそういう条件整備のためには一定度役場が整備をしてからお任せしようということで、民営化に至った流れがございます。

その中において、やはり当時の行政改革の中で人件費問題が上がってまいりましたので、保育士さんあたりがいなくなる、それだけ人員が削減できるということで、一定等の人件費削減はできたものというようには思っております。

そういった中で、今後園を無償譲渡した場合、建物を無償譲渡した場合にその用地についての取扱いでございますけれども、これは相手方がございますので、相手方が購入したい、あるいは取得したいという要望がございましたら、なるべくその希望に沿いたいというふうに思いますが、その譲渡価格、譲渡面についての条件については、今後十分に検討させていただきま

して、先ほど議員がおっしゃったようにこれまでの公設で持った場合と民営でやってきた場合の差。あるいは単純に営利企業に払い下げる場合と条件が異なるかと思いますので、そのあたりは十分に検討させていたいた上で、その事例に合わせて取扱いをしていきたいというように思っております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第77号　財産の無償譲渡についてを採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって、議案第77号は原案のとおり可決されました。

以上で本日の日程は全部終了しました。本日はこれで散会します。

御起立をお願いします。お疲れさまでした。

午後１時11分　散　会

第４日目（９月２日）（月曜日）

議事日程

第１．町政に対する一般質問

岡村 達馬 議員

地方創生10年間の取り組みと成果について

城後 光 議員

１．持続可能な自治会組織の在り方について

２．地方公共交通計画と地域における足の確保について

尾上 和孝 議員

デジタル化について

福田 勝也 議員

１．住みよいまちづくりについて

２．ふるさとづくり応援寄附金、及び基金の活用について

田添 有喜 議員

教育行政について

（学力向上／不登校対策／アレルギー職への対応）

第４日目（９月２日）（月曜日）

１．出席議員

１　番	前田　博司	２　番	濵本　秋人
３　番	澤田　昭則	４　番	岡村　真由美
５　番	田添　有喜	６　番	岡村　達馬
７　番	福田　勝也	８　番	城後　光
９　番	横山　聖代	10　番	欠　員
11　番	北村　清美	12　番	脇坂　正孝
13　番	尾上　和孝	14　番	百武　辰美

２．欠席議員

な　し

３．議会事務局職員出席者

議会事務局長	林田　孝行	書記	一瀬　若菜

４．説明のために出席した者

町長	前川　芳徳	副町長	村山　弘司
総務課長	福田　博治	企画情報課長	澤田　健一
商工観光課長	太田　誠也	庁舎建設推進室長	大橋　秀一
税務財政課長	古賀　真悟	住民福祉課長	井関　昌男
農林課長兼 農業委員会事務局長	伊藤　幸治	農林課長参事	太田　克宏
建設課長	本山　征一郎	水道課長	中村　和彦
長寿支援課長	松添　博	子ども・健康保険課長	石橋　万里子
会計管理者 兼会計課長	串島　佳織	教育長	森田　法幸
教育次長兼 給食センター所長	朝長　哲也	総務課課長補佐	坂本　昌俊

午前１０時　開　会

○議長（百武辰美君）

皆さん御起立ください。おはようございます。

ただいまから令和６年第２回波佐見町議会定例会第４日の会議を開きます。本日の議事日程はあらかじめ御手元に配付のとおりです。

日程第１　町政に対する一般質問

○議長（百武辰美君）

日程第１．町政に対する一般質問を行います。

これから通告に従い順次発言を許します。

６番　岡村達馬議員。

○６番（岡村達馬君）

おはようございます。一般質問を行います。よろしくお願いします。

地方創生10年間の取組と成果について。

国が「地方創生」の取組を本格化してから今年で10年になる。

平成28年３月策定の「波佐見町まち・ひと・しごと創生」の当初の計画と目的、及び令和５年３月改定の第２期総合戦略と合わせ、この間の実績と成果について、次のことを問う。

（１）国の補助事業で地方創生のマニュアルがあるのか。

また、波佐見町独自の戦略はなんだったのか。

（２）人口問題として本町は消滅可能性自治体としては該当していない。しかし、人口流出を食い止める「社会減対策」が必要と指摘されている。その具体的な対策は何か。

（３）当初の地方創生戦略では国の総合戦略の基本目標に従い、「人を育てる」「産業振興を図り安定した雇用を創出する」「新しい人の流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえ子育て環境の向上を図る」「官民一体となって暮らしやすいまちをつくる」の５本の柱が策定されている。具体的な行動とその成果は何か。

（４）基本目標１の「人を育てる」では、「これから町を担う人材育成」「幼小中高生に対する新たな特別事業の実施」「感性を高めるための教育とイベントの開催」「語学力をつける施策の展開」「女性の活躍社会の創出」があげられているが、具体的な取組と成果は何か。

（５）このような事業には、計画（plan）・実行（do）・評価（check）・改善（action）が十分に行われる必要がある。どのように行われてきたのか。また、内容は公開されているか。

以上、詳細につきましては発言席より質問をいたします。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

皆様おはようございます。それでは、６番　岡村達馬議員の御質問についてお答えをいたし

ます。

１．地方創生10年間の取組と成果について、とのお尋ねで（１）国の補助事業で地方創生のマニュアルがあるのか。また、波佐見町独自の戦略はなんだったのか、とのお尋ねですが、国においては、急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、地方の人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度な集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある社会を維持していくために、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生」法を公布施行したところです。それを受けて都道府県や市町村は、それぞれまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定が努力義務とされ、策定にあたっては、国のまち・ひと・しごと創生総合戦略を勘案することとされていました。

あわせて地方人口ビジョンの策定に関する留意事項も示され、円滑に計画が策定できるようにとの助言のもとに、本町においても、課長クラスで組織する「波佐見町まち・ひと・しごと創生」本部を設置し、本部会議等を複数回開催し、波佐見町総合戦略の策定に結びつけていきました。

策定にあたっては多くの自治体では多額な費用でコンサルタントに委託しておりましたが、本町においては国の指針に基づき、手作りの計画を策定したところです。内容としては総合戦略に記載のとおり、人口ビジョンと５つの基本目標、第１期では18の具体的な取組、それに伴う評価指標ＫＰＩから構成し、基幹産業である窯業や農業振興をはじめ、観光、移住定住、結婚出産子育て、人材育成など本町独自の戦略も盛り込みながら計画を策定しております。

（２）人口問題として本町は消滅可能性自治体としては該当していないが、人口流出を食い止めるため「社会減対策」が必要と指摘されている。その具体的な対策は、とのお尋ねですが、波佐見町の総人口は平成２年の１万5,677人をピークに、若者の流出や少子化、晩婚化の影響により、緩やかながら人口減少が進んでいます。

本町の人口ビジョンは、このまま推移すると令和22年、2040年には国立社会保障人口問題研究所いわゆる社人権の推計で約１万2,000人に。波佐見町の独自集計で約１万2,800人と予測しており、令和42年、2060年には１万人を割り込むことを予測しております。

人口減少は波佐見町に限った問題ではありませんが、避けては通れないことで、今後この減少幅をいかに緩やかにしていくかが重要だと考えております。具体的な対策はとのことですが、この10数年間においては、地場産業の振興、企業誘致の実現、観光交流人口の拡大を最重点施策とし、新たな雇用の創出を図ることで、人口流出のダム機能を図り、移住定住策の実施や関係人口拡大に向けた取組により、町の魅力向上に努めてきました。

近年では子育て世代への支援の充実を図っており、住みやすい整備、環境整備に努めているところです。

（３）当初の地方創生戦略では「人を育てる」などの５本の柱が策定されていると。具体的な行動とその成果は何か、とのお尋ねですが、本町の総合戦略での基本目標は、議員がお示し

のとおり５本の柱で構成されており、平成28年策定の第１期ビジョンと令和２年策定の第２期ビジョンともに変更はございません。

この基本目標に紐付くかたちで、第２期ビジョンでは17の具体的な取組を掲げており、それを実現するために重要業績評価指標ＫＰＩを設置しています。

具体的な行動と成果はとのことですが、このＫＰＩを達成するために、それぞれに多くの事業を立ち上げ、地方創生推進交付金やいろいろな有利な補助金等を活用、予算化し、必要に応じて単独費を投じて事業を円滑に実施しているところです。

この場で全部をお示しすることはできませんが、例えば波佐見焼の振興や観光の振興の中の中にＫＰＩとして、産業廃棄物リサイクルの構築や新土産品開発などがありますが、この２つの課題に対して、ふるさと財団の地域再生マネジャー事業を活用し、専門家を招聘し、石膏リサイクルの構築と地域内循環商品として陶箱クッキーの開発を同時に行って、大きな成果を上げたという事例もあります。

平成27年に人口ビジョンを策定した当時、10年後の令和７年の予想人口は社人研の推計では、１万3,899人。町の独自推計では１万4,224人でありましたが、実際の数値では令和６年６月末で１万4,124人となっており、人口減少にも一定の歯止めがかかっていることから、対策や施策の成果も出ているのではないかと感じております。

（４）基本目標１の「人を育てる」では「これから町を担う人材育成」それから「女性の活躍社会の創出」が掲げているが、具体的な取組と成果はとのお尋ねですが、まちづくりの基本は人であり、人材育成は重要な要素だと考えています。

総合戦略における基本目標１の「人を育てる」の項目は、本町が設定した独自項目であり、若い世代を中心とした次の波佐見町を担う人や組織を育て、波佐見町に活力をもたらすことは非常に重要な要素だと言えます。議員がお示しのとおり、基本目標１に５つの具体的な取組を掲げ、それぞれにＫＰＩを設定しているところです。

町長部局で実施している項目である「女性の活躍社会の創出」の取組についてお答えをいたします。令和４年度、５年度ともに長崎県男女共同参画推進委員及びアドバイザーを中心に、県央ブロック内で検討を重ね、風水害時の避難場運営と題して、避難場で起こる様々な出来事について、女性の視点でどのように対応していくか。模擬体験する研修会等を実施しました。

身近に起こりうる想定される事例に対し学習することで、今後の対策に生かしていきたいと考えております。

（５）このような事業には計画の「plan」、実行の「do」、評価の「check」、改善の「action」が十分に行われる必要がある。どのように行われてきたのか、また内容は公開されているのかとのお尋ねですが、「波佐見町まち・ひと・しごと創生」総合戦略では、産学官均、に報道機関も加えたメンバーで推進協議会を組織し、毎年効果・検証を実施しています。協議会では総合戦略案に提示する議論や事業実施状況などをＫＰＩに対する評価、意見などを

聴取し、よりよい事業展開に向けて効果・検証していただいています。

単年度ごとのＰＤＣＡはもちろん、平成28年度から開始された総合戦略に対して、これまでの第１期、第２期、次年度からの第３期に向けて長期スパンでのＰＤＣＡサイクルも考えながら、新たな施策の立案等を計画していきたいと考えています。

このように行政の中だけでの検証ではなく、広く外部有識者が参画する協議会で効果・検証を実施することで、妥当性、客観性を担保すると同時に、検証を踏まえた事業の見直しの効果を高めていきたいと思います。

なお（４）について、先ほど答弁をいたしました女性の活躍社会の創出以外の質問については、教育委員会から答弁がございます。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

（４）基本目標１の人を育てるでは、これからの町を担う人材育成、幼小中高生に対する新たな特別事業の実施、感性を高めるための教育とイベントの開催、語学力をつける施策の展開が挙げられるが、具体的な取組とその成果は何かということでございますが、項目ごとの需要・評価・指標の状況についてお答えをします。

まず、これからの町を担う人材育成につきましては、コミュニティースクールの全校設置をあげておりますが、令和２年度までに４校とも学校運営協議会を協議体とするコミュニティースクールを設置しております。地域総がかり、総ぐるみで教育支援、学校支援が一層充実することを期待するものです。

次に幼小中高生に対する新たな特別事業の実施の一つであります。２．大学との連携につきましては、長崎県立大学と長崎国際大学との連携を図り、外国活動の授業支援、歴史文化交流館授業共済など、積極的に行っております。もう一つの特別授業の開催につきましては、カリキュラムに位置づけた活動は現在行っておりません。

ただ、波佐見高校美術工芸科との交流につきましては、作品の校内展示や授業交流などを行っており、今後は波佐見高校で計画されております、（仮称）「波佐見学」における交流、連携を積極的に図っていきたいと考えております。

次に感性を高めるための教育とイベントの開催につきましては、既存の文化芸術活動の充実とともに総合文化会館、波佐見町講堂、歴史文化交流館、さらには学校等を会場として生の芸術やすぐれた文化活動の鑑賞、講演会等を積極的に開催しております。

今後はスポーツ面においても、その機会を確保するように計画をしております。

最後に語学力をつける施策の展開につきましては、大学教授を講師として外国語授業や研修会の実施、中学生を対象にしたイングリッシュキャンプの実施。さらに子供から大人までを対象にした英会話教室を行っております。

またＡＬＴを３名雇用し、小学校、中学校での外国語活動。外国語科の授業において、毎時

間ＴＴ体制をとり、ネーティブな英語に触れることも効果が大きいと考えております。以上壇上からの答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

今回も地域からたくさんの要望。例えばあれをやってくれとか、あれを改善してくれと、そういった要望をたくさん頂いておりますけども。今期はいわゆる私たち任期最後の一般質問になりますので、波佐見町のいわゆる地域創生における質問をして、第１期分も含めて、本年度までの取組をお伺いして新たな波佐見町の総合線戦略を進んでくれ、取り組んでいたきたいという希望を持ちまして、この質問しました。

実は昨日、大変残念なことがありまして、詳細なことをお聞きしようかなというように思っていたのですけども、昨日この長崎新聞で地方創生は約７割の自治体でもうできてきておりません。不十分なんです、と１面に載っておりました。そのできなかった分が、いわゆる自治体単独での対策には限界があった。それから人口問題についてはどちらかといえば不十分。不十分とあわせて、約70％の自治体がこの人口減少対策について取組がまだできていないというふうに受け取れる記事が１面に載っておりました。

それは今日の答弁で「実はできていないんです」というのを、ある程度期待といいますか、予想してきたのですけども、今の答弁を聞きますとどうも波佐見町はこの７割の中に入ってなくて、残りのできた自治体に入っていたのではないかなというように思っております。

地方創生は平成26年民間団体の日本創生会議が人口減少による自治体運営が立ち行かなくなる、いわゆる消滅可能性都市として全国の896自治体を公表したことについて本格化いたしました。その中で、まち・ひと・しごと創生本部を設置し、まち・ひと・しごと支援の名目はなっておりますけれども、消滅可能性自治体の定義というものは、次のようになっております。

いわゆる25年後までにこの子供を産む中心世代とされる20歳から39歳までの女性が半数以下となるそういった自治体については、消滅可能性自治体であるというように定義をしておりますけども、これには非常に私は、その消滅可能性自治体を女性だけに責任を押しつけられたような感じを持っておりまして、ちょっと違和感を持っております。いわゆる戦時中にも戦争を継続するために、「産めよ増やせよ」というときすら女性に責任を押しつけ、今回も人口消滅に実際になりますよというのを、どうも押しつけているように感じております。

町長はこのような消滅可能性自治体の算出根拠についてどのようにお考えでしょうか。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

議員お尋ねといいますか、考えでしょうかね。女性に責任を押しつけているのではないかというふうなお考えですが、その考えについては、私も一部理解できるところではございますが、ただこの定義づけにつきましては、子供を産める中心年齢が20歳から39歳の女性という定

義づけでございますので、これは物理的にといいますか。生理的っていいますか、どう頑張っても男性が子供を産むということはかないませんので、この社人研がいろいろな統計学といいますか、将来の推計人口を出すための一つの基礎資料としての数値というように理解をしたほうがよろしいのではないかなというふうな思いでございます。

ただし、女性が生きがいを持って、安全で安心に子供を産み育てる社会づくりを目指す環境づくりというのは非常に重要ではないかなというように考えているところでございます。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

平成の28年に策定されました町の総合戦略には、その位置づけとして、国の総合戦略。地方における安定した雇用の創出。地方への新しい人の流れをつくる。若い世代の結婚・出産子育ての希望をかなえ、時代に合った地域をつくり。安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する。この４本の柱を実現すべく、町の課題と問題の把握。そういった経済の好循環と環境づくりの戦略を考えるとされております。

当時の把握として、窯業界として時代とともに進化する波佐見焼きカジュアルリッチなどで若い女性への人気。農業につきましては、担い手として集落営農の組合の組織化や法人化による農業経営への取組等がうたわれております。この時点における町の２大産業である焼き物と農業、産業への取組ができた、あるいは成果ができたというように思っていらっしゃいますでしょうか。お尋ねします。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

これまでの焼き物、窯業に関しての取組についてというふうなことでの成果についての御質問ですが、焼き物に関しましては平成14年に発生した産地偽装問題をきっかけに波佐見焼ブランド化に向けて官民一体となった取組をこれまで行ってきております。これまでの間、消費者のニーズに即した商品開発を行うとともに、東京ドームで開催されておりましたテーブルウェアフェスティバル。こういったところへの出展や、産地のＰＲなどを積極的に行ってきた結果、現在の波佐見焼の知名度向上については格段に増してきたというように考えております。

これに付随して本町を訪れる観光客の増加にも大きく寄与しているものというように考えておりまして、焼き物に関しましては我々行政としましても、これまでの取組において側面から支援を行いまして、業界の発展に寄与しているものというように考えておりますので、一定の成果は出ているものと考えております。以上です。

○議長（百武辰美君）　伊藤農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

農業部門についてですけども、波佐見まち・ひと・しごと総合戦略ですね。平成28年３月に作成しておりますが、その当時は地域農業を推進する上で、法人化を進めている状況でござい

ました。その時点では農業法人として７法人が設立されておりました。

現在は13法人が町内にはあります。地域農業を担う部分では、非常に成果があったと考えております。以上です。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

さらに第２期の総合戦略では、窯業界や農業についてさらに具体的に述べられております。特にブランドの確立や販路拡大等も現状把握の中、詳しく述べられています。しかし戦略課題における町内の商社や消費問屋への対応。それから後継者問題や人材育成の問題。さらには担い手不足、天草陶石の減少も含め、最後に町内で窯業に本気で取り組もうとしている人材が集まらないというようにもされております。これは危機的状況だと思うのですけども、どのように、どのような方向性を考えていらっしゃいますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

議員がおっしゃるように現在窯業界につきましては、様々な課題が浮上してきておりまして、その対応は急務と考えております。中でも、これからの波佐見焼を支える人材の確保は大変重要であると考えておりまして、現在波佐見焼振興会が開催されております、インターンシップによる就業体験事業のオープン波佐見など、課題解決に向けた取組が行われているところです。

お話ありましたように、窯業に本気で取り組もうとしている人材ということでございますが、新たに本町の窯元などに就業された方について、いろいろとお話を聞きますと波佐見が大好きで精力的に勤務されてるというような、そういったお話もお伺いしておりますので、今後このような町外から本町へ就業、就職された方から本町での生活の状況でありましたり、焼き物づくりなどの楽しさなどを発信していただいたり、次につながるような取組。こういったものに対しての支援等が必要ではないかなというふうに考えているところです。以上です。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

先ほども少し触れましたけども、全国1,718市町村に独自戦略の策定をされているものの、ほとんど――全部は読めませんでしたけど、25か所程度読んでですね。波佐見町の戦略の中にＳＤＧｓについてあんまりこう触れていなかったというように思いました。

いわゆるこの件につきましては、国連サミットで採択されておりますし、経済社会環境の諸問題を解決するための重要性が示されております。本町の計画書についてＳＤＧｓが積極的に取り組めていない。そういった何か理由でもあるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

第２期の総合戦略においては町の基本目標という項目のところで、ＳＤＧｓについてはしっかりと記載させていただいているところで、全体のこの戦略の推進そのものが、ＳＤＧｓの達成につながるものと捉えております。

ＳＤＧｓをするために事業をやるのではなくて、この事業をやることでＳＤＧｓが達成できるというような考えでございます。またこの戦略の上位計画であります皆さんももちろん町の６次総合計画においては、全ての項目についてＳＤＧｓに結びつけているということもあります。

これは令和２年に計画をつくっておりますので、そのときはそこまでこの結びつきを強く、この一覧表、戦略の中で行っていないところもありますが、やっている内容は積極的に行っているところもあります。

実際先ほど町長の答弁の中でも商工観光課が実施しております廃石膏のリサイクルによる地域内循環の取組などについては国、総務省、農水省、消費者庁、そういったところから全国の見本になる取組だというような、ＳＤＧｓの観点からも非常に高い評価を受けているところで取り組んでいないということにはならないのではないかということで考えております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

確かにですね令和５年度では少しは増えてはおりました。これからの波佐見町の発展を考えるときに、人口問題はもう避けて通れないというように思います。

令和22年度における波佐見町独自あるいは「国立社会保障・人口問題研究所」の推計において、約１万2,500人前後。しかし令和42年では町独自で１万1,000人ですが、先ほどの社人研の算出では9,500人というような開きが生じてきております。

長崎新聞にも消滅可能性自治体、県内の11市町村が消滅可能性自治体とされておりますけども、本町は幸いにも外れてはおりますけども、人口流出を食い止める自然減対策が必要とされております。

これも令和30年から50年ですので、待ったなしの対策を講じなければなりません。具体的にどのような政策っていいますか、取組を考えていらっしゃいますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

先ほど人口減少を食い止めるための「自然減対策」と言いましたけど、「社会減対策」だというようにちょっと思っておりますけども。これまでも地場産業の振興、企業誘致による雇用の創出、交流人口の拡大の３つの柱ですね。この10年、15年。

前町長も掲げておりましたけども、この３つの柱で人口流出、社会減対策を実施してきたところであります。これからそれに加えまして、さらに移住定住、関係人口の拡大、あと子育て

環境の充実を図りながら若い世代も住みたくなるようなまち、住み続けられるようなまちを目指していかなければならないというように思っております。

そのために具体的な取組ということですけども、この計画において、このＫＰＩを達成するためにそれぞれの各部署において、この計画に沿って毎年施策に紐付けて事業を予算化しているところで、それが毎年予算審議をされているところでありますので、今までやってきた全てがこの人口減少対策の一環。「まち・ひと・しごと」の中のＫＰＩに沿うことが人口対策、人口減少のダム機能になっているような、事業と結びつけられるのではないかというように考えているところであります。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

いわゆる戦略では移住定住、関係人口分野の項目で、現状課題の基本目標１で人を育てる。そういった中で人口確保は、町内外の多くの人たちに興味を持ってもらうというようにされております。

先ほど申し上げましたけれども、やはり窯業関係に町内外において本気で取り組もうとしている人材が集まらないというようにも書かれております。これに対し、私は少し異論を持っていますけども、本当にそのように感じていらっしゃいますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

先ほども申し上げましたように、業界のほうで取組を行われております人材確保事業につきましては、募集の段階から波佐見町、それから波佐見焼の状況を詳しくＰＲするようなものを提示しまして、それを見て波佐見のほうにお越しいたいて、窯元等にインターンシップを行っていただくというふうなそういった仕組みづくりを行っております。

ですので、この事業に関しましては、波佐見町のことを既にいろいろと事前にいろんな情報を頂いた方が、波佐見に就職したいという、できれば就職したいというような考えを持ってお越しいたいいただいている方のほうが多いかと思っておりますので、そういう取組を継続して行うことで、窯業界の今後の後継者として成長していたけるような方を確保していくということに関しましては、非常に前向きな取組ではないかというように考えております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

陶器まつりの際に二、三ちょっと質問したことがあって、波佐見に住みたいですか。とか来てもらうことができますか。という質問の中にどうもその土地よりも波佐見町の環境、交通アクセスに問題があるように思いました。

それとあわせて、北松浦郡の佐々町にもこの前行ったのですけども、何となく波佐見より山を越えなくていいような、佐世保から素直につながっているような、そういったどうも波佐見

町はどこの起点をとっても、峠を一山越えなくちゃいけないというような状況でありますので、そういったものもあるのではなかろうかというように感じてきましたけれども、そういった地理的な問題は考えていらっしゃいませんでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

波佐見町の地理的な要因で波佐見町に就業しづらいとかというふうなことについてということですが、特にですねそういう地理的な要件というよりも、むしろ家賃が高いというようなことでなかなか波佐見町の中では生活がしづらいというような、そういったお声は業界のほうからも頂いております。

これにつきまして今年度、窯業界からの要望につきまして、波佐見町のほうからも家賃補助に関しての支援を行わせていただいているというようなところがありますので、今後ですね、そういうふうな波佐見町で就業する際に、いろんな課題等ございましたら、業界のほうともいろいろ協議を進めた上でですね、いろんな施策のほうを検討してまいりたいというように考えております。以上です。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

現在の28年度の総合創生総合戦略において、３町の基本目標として、５本の柱を策定されております。１項目ずつお尋ねしたいと思いますけども、まず基本目標の１．人を育てる。これから町を担う人材育成のために、窯業農業にかかわらず若者への活動の環境と支援体制の整備が必要というようにされております。当初戦略の２項目から人材確保や土壌づくり、あるいは地域全体で子供たちを育成する、コミュニティースクールなどを目指し、学校運営協議会設置などが追加されておりますけれども、現状の報告をお願いいたします。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

先ほど一般答弁でも述べましたように、令和２年度末をもって４校とも学校運営協議会を協議体とするコミュニティースクールについては設置を完了しております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

その協議された内容についてご報告をいたくことできますか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

基本的には各学校が求めている、校長が求めている、学校経営方針に基づいた様々な施策等々につきまして、地域の御支援をいたきながらよりよいものに求めていくための施策等々を協議するということで理解をしておりますので、内容等につきましては各学校の状況によっ

て。そこまでの十分な把握はしておりませんが、いろいろな協議が行われているということで期待をしておりますし、今後も地域総ぐるみ、総がかりで子供たちを育てるための最も重要な組織体だということを理解しております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

いわゆるその他の語学力をつける施策の展開、あるいは女性の活躍社会の創出の活躍の場の確保は現在図られておりますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

これも先ほど答弁申しましたように語学力ということでいけば、先生方の英語、外国語活動の指導のスキルアップと中学生対象のイングリッシュキャンプ、小学生幼児から大人までの英会話教室等々、生のネーティブな英語に触れる機会、そしてＡＬＴの配置を行って、毎時間ＴＴ体制で活動が行われたことはとてもすばらしいのではないかと思って評価をしております。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

女性の活躍社会のほうでは、令和５年３月に第三次男女共同参画計画を策定しておりまして、女性の参画や安心安全な暮らし、多様な活躍、推進体制の強化の４つの柱で推進しているところであります。

また各種行政委員や審議会あと協議会の委員に、女性を登用することは非常に意識をしながら行っているところでありまして、まだまだ足りない部分もあるかと思いますけども、それぞれそれらの方向で、女性が活躍できるような場を提供していきたいというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

基本目標２についてお尋ねをいたします。

いわゆる産業振興を図り、安定した雇用を創出するという件なのですけども、企業誘致については現在、誘致自体が厳しい状況にあることは理解をしておりますけれども、今後新たに企業の誘致を進めていきますか。

その件と、波佐見焼の振興についてはやはり最も優先すべき事項で、強力に行うべき事項であります。ぜひとも業界と一体になって進めていきたいと要望するところでありますけれども、いま企業誘致の何らかの具体案は出てきていますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

企業誘致についての御質問ですけども、やはり本町の特性としまして現在２つの工業団地、

県営と町営と工業団地は全て完売をしておりまして、それ以外について企業を誘致するための受皿というふうなことになりますと、町内の空き工場等に誘致をするというようなことが現実的ではございます。

ただし町内の空き工場につきましても、焼き物関連の工場跡。こういったところにつきましてはやはりなかなか製造業とかでも同じような業種でない限りはなかなか引き合いが難しいというふうなこともございまして、なかなか企業誘致、が進まないというような状況でございます。

ただし一方で長崎キヤノンさんにおかれましては、今の敷地の３分の１程度がまだ造成余地があるようなところもございますので、今後、長崎キヤノンさんにも、そういった工場の増設とか、そういったことでの要望等引き続きお願いをしてまいりたいなというふうには考えております。以上です。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

産業といいますとどうしても大きな窯業界それから、農業というふうに私たちは見ますけれども。いわゆる陶磁器製品、半製品においていわゆる生地加工等を行う金具の製作をやっていらっしゃる方がもう現在波佐見町で１人です。

その方にお伺いしましたけども、もう後継者もいませんよと。自分も高齢になったので、あともう数年というような話を伺いましたけれども、そういった窯業界を下からサポートされている方への取組とか対策も必要だというように思っておりますけれども、こういった問題はどのように取り組まれていますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

波佐見町の窯業界を支えるいろんな職人の方がいらっしゃいますが、今議員さんがおっしゃられましたように、カンナを製作される職人の方も御高齢になりまして、あと数年ほどで廃業したいというふうな御意向もお持ちだというふうな話は聞いております。そのほかにも、生地製造現場で活用する機械等についてのメンテナンスを行われている方も、これも御高齢でなかなか継続して将来にわたって事業ができないというような、そういった話も聞いております。

業界のほうとも、その後継者等についての必要性というのは、以前からもそういったお話を聞いておりますが、やはりなかなか特殊な職業ということもございまして、その後継者になるような方については人選もしくは育成に関してというところで目星がついてないような状況もございます。

ただし冒頭にも申し上げましたとおり、窯業界にはなくてはならないような、そういった職人さんでございますので、今後業界のほうともその対応、対策について、どのようなことができるかというのは、引き続き検討してまいりたいというように考えております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

農業問題について少し触れますけれども、農業振興地区推進資料。これは令和４年度に作成しているのですけども、産地交付金活用計画として①番から⑱番までの多彩な支援等が用意されております。

実際の活用、いわゆる現在までの申請件数はどのようになっておりますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　伊藤農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

現在申請対象者が法人、個人を含め69名の申請があっている状況で、支出的に言いますと3,100万円の支出をして支援をしている状況でございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

それでは基本目標３番の新しい人の流れをつくるについてお伺いいたします。第１期の分では箇条書に簡単にその方向性だけを掲げておりますけれども、２期版ではさらに突っ込んで戦略が書かれておりまして、非常に分かりやすいというように思っております。

空き家対策として整備から町ホームページの拡張や、移住希望者へのニーズの対応へのＰＲ、その他希望者と所有者のマッチングもされていると思いますけども、現在の空き家活用団体の設置に向けての対策はどのようになっておりますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

利活用空き家対策としては、県との連携はもちろんですけども、町で設置しています空き家バンク、また委託しています空き工房バンクの運用を行うことで、推進を行っているところであります。

また本町の場合、民間の不動産屋さんも非常に頑張られているというとこもありますので、同じベクトルで連携しながら、そのあたりのバランスをしっかり考えながらＰＲ、マッチングができるように推進していきたいというふうに思っているところであります。

○議長（百武辰美君）

指名されてから御発言を願います。岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

今後のもう若い世代のいわゆる人口問題も含めて、子育て等の環境のことにお伺いしますけども、現在多様な働き方や休みの取り方などについて、そういった機会に恵まれない人も多く、近年ではテレビ局の主催や県などの行政も巻き込んで婚活等が実施されております。

波佐見町も婚活等の計画が予定されておりますけども、現状を報告をお願いいたします。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

婚活イベントに関しては、長崎県の婚活サポートセンターと連携をいたしまして、現在東彼３町合同によるマッチングイベントを開催しているところであります。成果については毎年10数名の参加者がありまして、イベントとしての評価は満足感があるものの最終的に結婚まで成立したのかまでは、ちょっと追えていないというのが現状であります。

町単独でも過去には商工会と一緒に婚活のイベントを実施することもありましたけども、今後は、もうちょっとこうハードルを下げるといいますか。気軽に参加できるようなイベントを企画できないかということで考えております。

婚活という言葉が先に来ると、なかなかこう参加者が集まらないとかありますので、例えば異業種交流会という名目で集めて、そこで婚活をするとかですね。そういうのもあるのではないかというように考えております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○６番（岡村達馬君）

先ほどお伺いしましたこの戦略が、総合戦略が佐々町では誰でもいつでも、その検証結果を見ることができます。例えば、こういった波佐見町の決算報告書みたいな状況でこれは全国平均以下ですよとか、不都合なことも書かれております。

これは評価ですね。評価の中では現状維持、見直し、廃止というようにされておりまして、評価もかなり厳しい評価がされておりました。ぜひ見習っていただきたいというように思います。

これは社人研なのですけども、はじめ何の表だろうと思っていましたが、いわゆる西暦3000年には日本の人口が約1,000人になりますというような表だとですね。これはもうもしかしたら遊びかも分かりませんけども、こういった問題まで社人研のほうで出しておりました。

波佐見町には現在流出より流入のほうが多く、実際約200人から300人程度が毎日毎年流出しているような状況ですので、こういったことを踏まえれば今後の人口問題も解決していくのではなかろうかというように思います。

一般質問を終わります。

○議長（百武辰美君）

以上で、６番　岡村達馬議員の質問を終わります。しばらく休憩します。

11時10分より再開します。

午前11時00分　休憩

午前11時10分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、８番　城後光議員。

○８番（城後光君）

皆さんこんにちは。通告に従い一般質問を行います。

１．持続可能な自治会組織の在り方について。

町内では、宅地開発が進み人口が増加する地域と、空き家が増え人口が減少する地域に大きく分かれ、22の自治会における主要課題も大きく異なってきています。

また、人口減少、高齢者の就業率の増加、地域外からの移住者の増加により、自治会の役員を担おうと考える町民の数は減っており、年々組織運営が困難になってきていると伺っております。

各自治会の在り方に加え、自治会長会を中心とした町全体の自治会の在り方を抜本的に見直すタイミングであると考え、以下のことを問います。

（１）町として自治会をどういった組織として捉えているのですか。

（２）年間における自治会への行政事務委託の件数と主な内容を教えてください。

（３）町内各各自治会における自治会費（世帯負担額）はどうなっていますでしょうか。

（４）定住奨励金（同様補助金）に、自治会加入要件を課している他自治体はありますか。

（５）自治会長が町の行事に参加する機会はどの程度あるのでしょうか。

（６）道路・河川清掃活動など、全自治会共同で取り組むために組織を立ち上げる考えはないでしょうか。

２．地域公共交通計画と地域における足の確保について。

現在、地方公共交通計画策定にあたり、各種調査や関係者の協議等が行われています。

また、町内各地においてタクシーやバスなど公共交通機関の運行頻度の減少などにより、飲食店の経営にも大きな影響が出ています。高齢化の進展により移動手段を持たない住民の割合が増えることに加え、交流人口の拡大を目指すためにも、町として主体性を持ち公共交通を整理する姿勢が必要不可欠です。

そこで、地方公共交通に向き合う町の姿勢を大きく変える契機と捉え、次のことを問います。

（１）地方公共交通計画策定に向けて、現在の進捗状況は。

（２）路線バスのダイヤと運賃改定の影響をどう捉えているのですか。

（３）夜間帯のタクシーや代行運転の営業について、飲食宿泊業への影響はどうですか。

（４）多くの町民から要望がある町内巡回乗り合いバスについて、実証実験を行う考えはいかがでしょうか。

（５）公共交通空白地に対する国の考え方が変わっていますが、自治体ライドシェアを進める考えはいかがでしょうか。

（６）町外へのバス通学・通勤者に対して定期券費用補助を行う考えはありますでしょうか。

以上壇上からの質問を終わります。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

８番　城後光議員の御質問についてお答えをいたします。

１．持続可能な自治会組織の在り方について。

抜本的に見直すタイミングであるとの考えから（１）町として自治会をどういった組織と捉えているか、とのお尋ねですが、自治会などの地域運営組織は、地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって組織され、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践し、地域内のコミュニティーの維持と人間関係を構築する自立独立した共同体組織と言われています。本町においては、これらに加え地域づくり、まちづくりを行政とともに、まさに両輪となって波佐見町の発展を支えていただいている対等な組織と捉えており、その両輪の象徴が毎月開催しております自治会長定例会であり、その中で様々な課題について協議を行っていることが元気なまち波佐見の源泉の一つと考えています。

一方で議員が冒頭述べられたとおり、社会情勢の変化に伴い自治会を取り巻く環境は大きく変化しており、その変化に柔軟に対応できるよう本町にふさわしい自治会制度の在り方について研究しているところですが、自治会は自立・独立した組織であり、その自主性を重んじ相互に理解を深めながら今後議論を進めることが重要と認識しております。

（２）年間における自治会への行政事務委託の件数と主な内容はとのお尋ねですが、町が各自治会に委託している事務の内容は、波佐見町事務連絡に関する規則に基づき、現在は各種伝達事項の周知、広報等の印刷物の配付及び掲示、各種調査報告書の配付取りまとめなどがあり、その件数については直近の８月を見ると伝達事項が２件、ポスターの掲示依頼が３件、調査依頼が２件、広報紙・チラシ等の配布が８件、回覧が８件、合計22件ですが、最も多い４月はこれらの件数が計30件となっています。

（３）町内各自治会における自治会費（世帯負担額）はどうかとのお尋ねですが、自治会費について世帯単位月額として最も高い自治会は2,100円。最も低い自治会が750円となっており、平均は約1,200円となっています。

また自治会によっては、これに加え自治会の中でさらに区域分けされた連合班あるいは隣保班などの会費をお願いされているところもあり、その金額は月額500円から1,000円と幅があります。

これらの会費を加えると、最も多い自治会は3,000円程度、低い自治会でも1,500円程度は負担をお願いされています。

（４）定住奨励金、また、同種の補助金に自治会加入要件を課している他の自治体はあるのかとのお尋ねですが、町では、定住の促進と人口増加、地域コミュニティーの強化を図るため居住住宅の新築や、中古住宅等の取得に係る定住奨励金交付制度を設けており、その交付条件

の一つとして自治会への加入を要件としています。町としても自治会加入を推奨しており、本町に定住される際は、地域のコミュニティーを一緒に育んでいたきたいという気持ちもあり、加入への一つのきっかけという位置づけで要件をしているところです。

県内では雲仙市や平戸市、その他全国にも多くの自治体がこの要件を設定されていると認識しています。

（５）自治会長が町の行事に参加する機会はどの程度あるのか、とのお尋ねですが、各年度で変動がありますが、毎月開催しています自治会長定例会を除き、消防出初式、町表彰式、成人式など式典関係で年10回程度。各種団体等の総会関係で年５回程度、その他会議やイベント等で年７回程度、合計22回程度を確認しています。

（６）道路・河川清掃など、全自治会共同で取り組むために、組織を立ち上げる考えは、とのお尋ねですが、道路や河川の清掃、草刈りについては先日開催した町政報告会でも多くの意見、要望を頂きました。波佐見町の環境美化の維持には、全自治会で組織する波佐見町環境衛生士、環境衛生会連合会により、年３回の町内一斉清掃や河川清掃等を行っていただいており、ごみのない緑豊かな美しいふるさとづくりをテーマとして、美しいまちづくりを目指して、多くの皆様の参加のもとに環境維持に御協力いたいているところです。

しかしながら地域の担い手不足や高齢化などにより、特に草刈り作業については異常気象が続く中、大きな負担となり地域での活動が限界に来ている状況だと認識しています。このような状況を受けて現在、管理協議会や関係課で検討チームをつくり対策について協議を進めているところです。

議員御指摘の組織化も含めて、新しい環境美化や草刈りを考えていく中で、新たな体制づくりと作業の機械化、作業面積の縮小などの使用緑化が必要だと考えています。

他県の事例も参考に農業者だけでなく非農業者の参画も推進しながら、波佐見町に合った仕組みづくりをつくっていきたいと考えています。

大きな２番目の地域公共交通計画と地域における足の確保についてということで、地方公共交通に向き合う町の姿勢を大きく変える契機と捉え、次のことを問うということで（１）地域公共交通計画策定に向けて、現在の進捗状況はとのお尋ねですが、地域公共交通計画とは、地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿を明らかにするマスタープランとしての役割を果たすものです。

国が定める地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、地方公共団体が、地域の移動に関する関係者を集めて協議会を開催しつつ、交通事業者や地域の関係者等との協議を重ねることで作成していくものとなっています。本町では今年度、学識経験者、国、県、交通事業者、警察、町内関係団体、近隣自治体を構成員とした波佐見町地域公共交通活性化協議会を組織し、７月に第１回の協議会を開催しており、今年度中に全部で４回開催する予定です。

現在、公共交通利用者アンケートや利用実態調査、各公共交通事業所へのヒアリング等各種

調査を行っており、第２回の協議会では、本町における公共交通の状況や利用者の意見の取りまとめができるものと思っております。今後この調査結果等をもとに、本町の課題を洗い出すとともに、課題解決に向けた施策の検討を行うように考えております。

（２）路線バスのダイヤと運賃改定の影響をどうとらえているか、とのお尋ねですが、路線バスのダイヤについては、現在佐世保嬉野線が平日12便、土日祝日10便、川棚内海線が平日11便、土日祝日10便の運行となっており、令和５年度と便数については変わりありません。また令和６年６月からの運賃の改定がなされており、初乗り運賃が170円から200円に改定され、定期券も通勤定期券や片道通勤定期券、片道通学定期券の割引率が引き下げるなど改定が行われています。

西肥自動車によりますと、今回の運賃改定等による利用者減少や定期券の割引率の引下げについては、現在のところ影響は出ていないとのことでした。ダイヤ改正や運賃改定については、乗務員不足などバス事業者を取り巻く環境も悪化していることから、やむを得ないものと判断しておりますが、今後の利用状況の推移などを注視し、利便性の向上や路線維持について西肥自動車との協議を行ってまいりたいと考えています。

（３）夜間帯のタクシーや代行運転の営業について飲食宿泊業への影響はどうかとのお尋ねですが、現在、夜間帯のタクシー運行については、町内に営業所を有する２業者のうち１事業者が24時間で運行しておりますが、１事業者は18時までの運行となっています。

このことから夜間のタクシー等の輸送については、タクシー１事業者と代行運転事業者２業者により実施されています。現状としては、夜間にタクシーや代行運転がつかまらないということが多く、夜間に飲食店の客足に影響が出ていると聞き及んでいます。

タクシーがないために、町民が夜間に外出しなくなったり、飲食店で食事をしてもタクシーや代行の時間を気にして早く帰ったりするケースが多く、その対応として自ら客の送迎を行っている飲食店事業者も増えてきているとのことです。

一方で宿泊事業者については、現状では特に影響はないと伺っております。夜間帯のタクシー等の運行については、総じて飲食店の集客に影響を及ぼしているものと考えています。

（４）多くの町民から要望がある町内巡回乗合バスについて、実証実験を行う考えは、とのお尋ねですが、町内巡回乗合バス、いわゆるコミュニティーバスは、自治体が車両や運転主を管理し、路線バスと同様に町内各所にバス停を設け、時刻表をもとに決まったルートを運行するものです。東彼杵町や有田町でも運行されていますが、運行状況を確認しましたところ、コミュニティーバスは両自治体ともに、町が民間に委託して運営しており、利用客は減少傾向で運行費用も年間2,000万円程度かかっている状況と聞いております。

本町は地理的に町の中心部から周辺部に向け、放射線上に道路が伸びており、その道路沿いに集落があるなど、コミュニティーバスを運行するには、効率的な運行ルートを検討することが困難な地形となっております。平成24年度に運行を開始した予約制乗り合い交通の導入を検

討した際も、本町でコミュニティーバスの運行ができないか検討を行いましたが、運行ルート、コスト等で導入を断念した経緯がございます。

利用者のニーズや交通事業者との競合など、様々な課題を精査した上で、まずは既存の乗り合い交通を基軸として、本町にある公共交通体系の構築を図ってまいりたいと考えており、今のところコミュニティーバスの実証実験は考えておりません。

（５）公共交通空白地に対する国の考え方が変わったが、自治体ライドシェアを進める考えは、とのお尋ねですが、公共交通空白地域とは一定の距離に駅やバス停などがない地域を指します。国はこれまでタクシー事業者の管理のもとで、自家用車、一般ドライバーを活用した運送サービスの提供を可能とする日本版ライドシェアを創設し、今年７月には住民や観光客の移動の足がない交通空白地で、自治体やＮＰＯ法人などが運営主体となり、個人が自家用車を使って有償で上へ乗客を運ぶライドシェアについて、公共ライドシェアに名称を統一して導入支援を進めると発表しました。

ライドシェアとは、同種移動手段である車とそれを運転するドライバーをシェアリングする新しい移動の形です。スマートフォンアプリなどで配車を依頼し、タクシーのように利用する形式が一般的なライドシェアの仕組みとなっています。つまり現状のタクシー事業では不足している移動の足を地域の自家用車や一般ドライバーを生かしたライドシェアで行う、補うこととするものです。

現在の公共交通はバスやタクシーのように、専門のドライバーが専用の車両を運転するケースがほとんどで、法律で多くの規制が課せられており、事業の許可制や第２種免許と呼ばれる免許制度が代表的な規制です。

このような中で、危機的なドライバー不足を解消するために、このような規制を緩和してライドシェアを解禁し、ドライバーを確保する政策が国で現在検討されています。現在、全国でも自治体ライドシェアの導入について検討し始めた自治体も出始めており、今後この動きは増加していくものと思います。

一方で公共交通事業者の団体からは、この動きに対して民業圧迫につながるのではないかとの懸念も出されているとも聞いております。本町における自治体ライドシェアの検討については、地域公共交通計画の策定を行う際に、先進自治体の状況を踏まえながら、本町の課題を解決する手法となり得るのであれば検討してみたいと考えております。

（６）町外へのバス通学・通勤者に対して定期券費用補助を行う考えはとのお尋ねですが、現在、西肥バスでは、学生、社会人、企業、65歳以上の高齢者に対する定期券が発行されています。バス通学通勤者に定期券の補助は考えられないかとのお尋ねでございますが、バスの利用促進を図るためには、事業者による利用者のニーズに即した路線のダイヤ、運行時間の見直しなどの利便性の向上を図る必要があります。

一方で利用者が路線バスを定期的に利用するような取組もあわせて行うことも必要であると

考えております。現在、路線バスの利用状況や利用者アンケート、西肥自動車とのヒアリングなども行っておりますので、利用者増加を図る取組ができないか。事業者と協議、研究を進めたいと考えています。

以上で壇上からの答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

まずスライドを御覧ください。まず町長、副町長にお伺いしたいのですけども、通常から自治会長会、また今回町政報告会で各自治会を回られて、自治会の方自体、自治会長さん役員さんにかなり今回、町政報告会でいろいろなかたちでお話を聞かれたと思うのですけども、今町長、副町長が考えられている中で自治会における課題、主なものはどういったものがあるかというのをそれぞれお伺いできませんでしょうか。

○議長（百武辰美君）　村山副町長。

○副町長（村山弘司君）

今回６月の末から８月の上旬に向けて、22の各地域を町長、教育長と管理職とともに回らせていただきました。その中で各郷のほうから様々な御意見を頂きました。その中で、自治会に関して特に課題としてあげられたことは、やはり自治会の方々の高齢化に伴って、様々な行事への参加や、あるいは草刈りの問題、地域コミュニティーの維持について非常に以前と比べると自治会の担い手が不足をしていて、また高齢化していて、様々な活動に支障をきたしているというふうなお声を聞いたところであります。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

ただいま副町長が申したとおりでございます。確かにこれまでは自治会もある程度積極的に皆様、地域のために頑張ろうというようになって来られているわけですけれども、高齢化し、大きな自治会あるいは小さな自治会それぞれの抱える課題がかなり違うというような思いでございます。

特に小さな自治会では高齢化に伴い、次の担い手といいますか次の自治会の担い手がいないというような問題もございますし、大きな自治会は逆に転入者っていいますか、地域外から入ってこられた方が自治会に加入をしていただけない、これまでできていたイベント。これは大小かかわらずイベントが継続できない、参加者が少ない。実行する――まず担う人がいないと。そういった大きなたくさんの課題を抱えていらっしゃいますので、そういったものを一気に行政がなかなか解決できる問題ではございませんが、そういったお声を聞きながら、どういったものが今後の地域の自治会組織を支えることができるのかというのをともに考えながら研究すべき課題だというように捉えております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

いろいろ今、町長、副町長おっしゃっていただいたとおり自治会は様々で、町のホームページで７月31日現在の地区別の人口が載っているのですけども、例えば三ノ股郷は47世帯で103人。一方が宿郷は975世帯で2,493人。世帯数で20倍、人口で約25倍ですね。一概に22地区って言っても、もうかなり違うわけですよね。

自治会長の方からも個々にちょっとお伺いしていると、やはり現在の在り方を抜本的にちょっと見直していただかないと、そもそも自治会長さんに成り手がなかなか厳しいですし、役員さんにもちょっとなっていただける人員が固定化されてしまうというのが、いろんな課題というようにお伺いしております。

この中で、私も過去に何度か自治会について質問をさせていただいたのですけども、いろいろ協議をするというお話はあったり、いろんなかたちで自治会長さんにヒアリングをしたり、お話を聞かれている機会は各課であられると思うのですけども、やはりこの在り方を根本的にちょっと見直していかないと、そもそもいろんな町の自治体の取組もやはり自治会があっていただいてこその活動がかなり大きいと思いますので、ちょっと見直しをしていただかないといけないかと思うのですね。

その中で特にやはり思うのが、今お話あったのですけども、行事とか草刈りとかいう作業なのですけど、今お話をしたとおり100名に満たない地区だともう動ける方自体がもう数十人レベルですよね。なおさらそのお仕事されてる方とか、お忙しい方は、なかなか自治会の行事参加できないので、そういう面でも私ちょっと考えているのが、自治会は自治会で22の地区それぞれ独自性がありますので、それをどうこうするつもりはないと思うのですけど、事務とか、行政がお願いする作業というのはもう少し広域的にやっていく仕組みというのも検討していかないといけないのではないかなと思うんですけどいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

先ほど議員がおっしゃったように、それぞれの地区によっていろいろな悩みというのは違ってくる部分もあると思っております。確かに負担軽減のどういう部分がその地区によって、非常にこう負担になっているかというところをもう少し精査しないといけないのかなと思っております。そして例えば草刈りの問題についても、当然ながら新しい組織を立ち上げるのもまた負担になるというとこもあるし、機械化などいろんな要素を考えながら、そこはもちろん事務の負担軽減も含めて、もうちょっと対話といいますか精査がいるのではないかというように考えております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

そこで次の質問で、行政が委託してる事務の件数をお伺いしたのですけど、ちょっとですね

皆さん議員の皆さんも思われたと思うのですが、４月になると40件ですね。いろんなかたちで町から自治会にお願いをされるということで、当然検討しないといけないと思うのですよ、自治会も在り方を。ただやはり今やるべき仕事が多過ぎて、大体自治会長さん２年とかで役員を交代されているので、こなしていたらもうほかの次のことを考える余裕がなくて、終わってしまうと思うのですね、任期が。お仕事を覚えられた段階で。

やはりまずはもうちょっと今の事務自体を何かちょっと減らす仕組みを考えないと、新しいことを考える余裕もないのではないかなと思うのですけどその辺り、いかがお考えでしょうか。町長、副町長どちらかでお願いします。

○議長（百武辰美君）　村山副町長。

○副町長（村山弘司君）

ただいま議員御指摘の自治会長さん方の御負担については、地区の定例会のたびにそれぞれこちらの行政報告の後に自由な意見交換がありますけれども、その中で、かなり自治会の負担も含めて各種の御意見を頂いております。

行政としても自主会長さん方の御負担を減らすべく事務の資料の集約をしたりとか、あるいはアプリの活用であったりとか、負担軽減につながることについてはしっかり議論、検討させていただきたいというふうに思ってございます。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

いろいろＤＸとかの取組とかで自治会に関わる部分も検討されている話も過去からありますので、そのあたりはぜひ検討していただきたいと思います。

あとはやはり紙ですね。配布するという作業はかなりやはり負荷になられてると思いますので、自治会長さんの振り分けも大変ですし、宿郷の町政報告会でおっしゃったのが、敬老行事で配布する――敬老会をやられないところというのはお弁当配布とかそういう形でやられてるところが多いので、そういうものを配布するだけでも相当大変という、名簿を作ってというお話がありました。

そういうやはり配布物を減らすだけでも、自治会役員さんまた班長さんいろんな形で負荷軽減になると思いますので、そこは全課でぜひ協力して取り組んでいたいて、各課で当然案内物を作られてると思うのですけど、できればそのまとめていただいて自前にしていただくとか、それこそもうアプリとか。何かしらのものに代替していただくとか。そのあたりはちょっと早めに対応できるものかなと思いますので、前向きに考えていただきたいと思います。

次に自治会費なのですけど、先ほど答弁の中で多いとこだと3,000円、少ないところだと1,500円程度というお話があったんですけど、現実的には自治会費以外にいろんな負担金を課せられている自治会さんもあるというように伺ってます。特に小さい地区、人口が小さくやられている自治会の消防費に関する負担とか、世帯ごとにかなり負担が大きいわけですね。一方で

宿郷とか折敷瀬郷とか大きいところは、一戸当たりの負担は少なくてもトータルの額が集まるので、一戸あたりの負担が少なくて済むというかたちになってきます。

やはりこういうとこも平準化していかないと、そういうのがやはり見えてくれば移住者がやはり負担が少ないところに行きやすいというのは現実だと思いますので、当然定住奨励金の地区別割とかやられていますけども、ちょっと一旦もらうお金で、ずっと出ていくお金を比べることは到底できないと思うので、そのあたりをちょっと平準化していく取組というのも必要だと思うのですけどいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

まず消防費についてお答えをいたします。今回の質問で、毎年自治会の決算書総会資料を頂いております。その中でいろいろこう分析をするわけでございますが、消防費も自治会、多種多様でございます。平均すると自治会費、月額でございますが200円を徴収されていらっしゃいます。一方で高いところはやはり400円近くということですので、御指摘のとおりかなりの差があるのかなと思います。

この問題については以前から消防運営費の在り方ということで御指摘を頂いておりますし、あわせて消防の報酬が直接支払いになったということで、消防団の運営もどうなってるかということでいたいております。これらも踏まえて消防団の運営費補助金も見直したとこでございますが、こういった自治会の現状を踏まえながら今後やはり、さらに検討を重ねていくべきだということで認識しております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

各自治会の世帯割合の金額が変わるということであれば当たり前ですけど、各自治会自体の会計の規模も変わってくるわけです。大きいところは1,000万円単位、数千万円単位で集まるし、小さいところは数百万円単位になります。

大きいところはある程度その専従でやられる事務の方を雇うというかお願いする余裕があるかと思うのですけども、小さいところは会計上そういう手当を出したりする余裕もなくて、事務長さんなり役員さんがもう自分でやられるケースもあるというように伺ってます。

やはりそういうところも、もう少し負荷軽減の仕組みを町全体でもう一度ちょっとたたき台として上げて、検討していく必要があると思うのですけどいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

まず自治会の会計の規模でございますが、一番多いところは収入でいうと2,300万円程度というところでございます。一方で、小さいところは200万円台というところがございます。おっしゃるとおり、専従で置いていらっしゃるとこもあれば、ほかの役員さんと兼任されているとい

うところがございます。やはりそれなりの負担は大きいものかなと思います。

そこで何ができるかということでございますが、やはり自治会費の徴収の仕方とか、そのあたりはいろいろこうやはり先行自治体の状況も調査しながら、自治会とともにやはり研究すべき事項なのかなというように思います。

あわせていろんな団体、ＰＴＡも含めて現金を扱うところも多ございます。代わるものがないかということもやはり選択肢の一つとして検討すべきというように考えております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

事例ということで総務課長が言われたので、例えばこれはいっぱい事例あるので、別にもうここに限らないのですけど、東京都立川市というところが、自治会等を応援する条例というのをつくられたそうです。

自治会ハンドブックという、現状がどうなっているかというのを作られたり、あとは自治会に入られる方向けに自治会活動のマニュアルという加入促進をどうやってしたらいいかという手引を作られていたり、これは自治会連合会として発行されているということなのですけども、こういうものがあれば個人でお願いをしていくということの負荷も、自治会の役員さんも減ってくると思いますし、こういう事例は非常に参考になると思うんですけどいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

現在転入者の方については、転入のしおりということで自治会の概要等はお知らせをしておりますが、今議員が御紹介していただいたような、資料については現在ございません。自治会の加入についてはやはり自治会の役員さんが今個別に当たられていると思いますが、それも対面が多いというふうに聞いております。

その中でやはりこういったパンフレットがあると、自治会の活動あるいは加入について理解が広がるものと思います。よく聞くのは自治会の加入で、自治会活動したとき保険がききますかとか、あるいはどんな役がありますがイベントがありますかとか、いうこともあります。例えばではございますが、本町がたたき台をつくって、各自治会でカスタマイズしてもらうとかいう手もありますし、今言ったような自治会長会で全体的を網羅するのも選択肢だと思います。

今後、有効な手段だと思いますので、具体的に検討させていただければと考えております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

例えばお隣の佐世保市などでも町内会というのがあって、その上に地区の自治協議会というのをつくられています。27地区で。そこをベースに町内会または、先ほど総務課長もおっしゃ

ったようにＰＴＡとかですね、いろんな地域に根差した団体さんが集まって協議をされるという組織もつくられています。

いろんなかたちで波佐見町組織がたくさんあると思うのですよ。いろんな分野別に、ただそのあたりもお話聞くと、あまりその会議だけで動いてない組織というのもあるというふうに伺っていますので、そのあたりちょっと取捨選択して見直していただいて、全庁で網羅的につくられてる組織を、改めてこういう自治会とか、その地区に関わる部分で再編するとかも考えていただきながらですね、先ほどおっしゃっていただいたように会計の部分とか、共有できる部分とかですね、あとは事務処理の部分とかですねそういう部分は絶対あると思いますので、ぜひその自治会にかかわらず、事務作業を一本化していただいたほうが町としてもいろんな部分で伝達していただく事項が減ると思いますので、見直しをぜひ検討していただきたいと思います。

あとですね、ついでに言うのですけど、これ古いデータなのですけど佐世保市で言うといろんなかたちでアンケート調査されていましたけど、平成25年の町内会費というのが500円から750円というように書かれていました。というのが多分ここからいろんなかたちで負担金が生じるケースはあると思うのですけど、私がちょっと聞いた範囲でいうと、大村市。これは現在なのですけど、ある地区で自治会費は550円だそうです。それはアパートでも戸建ての家でも共通ということでした。

いろんなかたちで自治会のありかたって多分、町長が一番最初に答弁されたとおり、自治体によっても違いますし、要するに緩やかなつながりだけつくっておいて、あとは行事とかまた別の組織がやられるとか。いろんな形であると思うので、一概に多い、少ないというのは語れないのですけど、ただやはり移住者が来られたときに、今までいたところでは1,000円も行かなかったのに、波佐見町に来たらこの金額というのが納得できないという方もたくさん移住されてる方増えていますので、多いと思いますので、そのあたりはある程度納得するためにもやはりさっき言った説明というのはきちんとされないと、何でそういう負担が要るんですか。というのが、特に移住された方は御理解いただけないと思うので、丁寧な説明が必要だと思うので、先ほど言ったように何かしら町全体として網羅する仕組みというのはぜひ検討していただきたいなと思います。

もう一度ちょっと確認なのですけど、今波佐見町での自治会の加入率って何％ぐらいでしょうか。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

すいません。ちょっと正確な数字を持ち合わせておりませんが、80％前後だというふうに認識しております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

今までも自治会に関していろいろ質問したので、その中でも答弁あったのですけどもやはり年々下がってるというように伺っています。移住者も増えてますし、転居されてる方も増えてますので。

なので、やはりそのある程度維持していくためにはそういう形でいろんな努力をしていく必要もあると思いますので、そこは今の自治会長さん、役員さんとか、過去に長く経験された方とかですね、いろんなかたちに聞く場をつくっていただいて、今後の自治会の在り方がどういう形が持続可能なものなのかは、ぜひ部署を横断的に検討していただく機会をつくっていただきたいなと思います。

その中で一つ参考事例なのですけど、これ前の質問の中でも出てきたんですけど、アダプトプログラムですね。特に河川とか道路とかの話で出てきますけど、長崎市ではアダプトプログラムをやられていまして、これは何かというと、道路とか河川とかを公共の空間を、管理団体を設けられて、そこに草刈りとか清掃とかを月に１回やっていただくというプログラムなんですけど、それを長崎市だと200の団体さんが参加されているみたいです。企業が118社。ほとんどが企業で、次に自治会が27地区とかいうかたちで、やはり企業が公共のものに参加していただくということが、特に少子高齢化時代、必要になってくるのではないかなと思うのですけど、波佐見町の場合は企業さんに何かそういう地域にいろんなかたちで貢献していただくという部分は今どういう取組をされていますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

県道とか町道とかに対してですね、そういう取組があってるものと思っておりますけども、今町が独自にそういう制度をつくって行って企業さんにお願いしてるということは今のところはないですね。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

先ほどからあがっているとおり草刈りとか清掃、道路清掃とかいうのはもう本当全庁的な課題で、なかなか自治会に依存できない部分も増えていると思います。当然ですね企業さんも全部が全部できる話ではないと思うのですけど、今もある程度の企業さんとか、御自身の事業所の周りのごみ拾いとかされてるケースもあります。

そういうのを町として、ある意味で応援して、なおかつ清掃の出たごみは回収するとかそういう取組を進めていただきたいなと思うのですけどいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

できるだけ地域の皆さんがそういった活動がしやすいような状況をつくるというのは当然で

ありまして、今特にいろいろ企業にお願いするにしても、住民の皆さんにお願いするにしても、今の状況でこれまで自治会にお願いした部分を、地域の皆さんに別に組織をつくってお願いしたらうまくいくかって言ったら、うまくいかないと思うのですよね。そういうところでやはり機械化や組織化についても、農業者と非農業者がいかに連携をとるかとか、農業者が持ってる大きな機械をいかにこう活用できるかとかですね、そういった小、いろいろなパターンがあると思いますので、そういうところを研究しながら、当然一番やりやすい環境というのを今ちょっと研究しているところであります。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

なぜそういうかたちでお話ししたかというと、佐世保市の町内会の要するにコミュニティーを進めていくに当たって、佐世保市さんでは、例えば新しく入られる市の職員さんに対して自治会はこういうものだという研修をされてるみたいです。

例えば企業さんには、「自治会はこういう形でこういう困ってらっしゃいます」という情報提供もされているみたいです。そういう取組を、例えば自治会というベースだけでも、企業さんなり特に職員さんでもそうですし、若く例えばその各企業に入られてくる、職員さんに研修していただく機会をつくっていただくだけでも、自治会に対する関心度というのも上がってくるかと思うのですよね。というのが、ほかから通われている、町で働いてる職員さんも多数いらっしゃると思うので、自治会のことをあまり分かられていない方もたくさんいらっしゃると思うのでそういうのも大事だと思うのですけどいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

今いろんな自治会の在り方問題が論議されてますが、やはり議員がおっしゃるように、移住定住して来られる方、外から来られる方について、自治会が何をしてるのかというのがまず分からないというのが大きな問題なのかなと思います。

先ほど御提案いたいたパンフレットも、一つはやはり自治会を見える化するという大きなポイントだと思います。その中でいろんなことをやっている事を見えるかにすることによって、この自治会費が例えばこれだけかかるよという明記にもなると思いますし、一方で理解も進むのではないかなというふうに思います。

で、職員等にも御提案をいたきました職員の約４割を超えるところが今町外から来ていますし、町外出身者も増えてまいりました。そういった研修も積み重ねながらですねやはり自治会に対する、理解も職員も含めていくべきだというように考えております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

自治会に関していろいろ問題山積みだと思うのですけども、これまでの在り方というのは、

それはそれで大事ですけど、やはりもう担い手がどんどん少なくなっていく中で、新しいやり方というのも十分に考えて検討していただきたいなと思います。

次に地方公共交通計画に移るのですけども、まずですね私チラシにも書いたのですけど、乗り合いの循環路線バスを走らせてくださいというのが、議会と語ろう会でもそうですし、町政報告会でも多分意見出たと思うのですね。これは前からお話あっています。いろんな方の、町民の方で。なので、別に難しいのは重々分かっているのすよ。ただ、どういうかたちが問題で、どういうところだったら何かメリットがありそうなのかを町民の方に具現化して理解していただかないと、要望だけずっと上がっている段階でできませんよだけ言われても、何かピンとこないと思うので。せっかく交通計画を作っていく過程にあたって何か今までなかった乗り合いの仕組みというのを目で見て、実証できるような機会をつくっていただきたいなと思うのですけどいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

巡回の乗り合いバスの導入について、目に見えるような形でというふうなことでお話をいたいておりますが、当然その町民の方々に要望も確かに多いですし、実際こう運行してみてというふうなところはあるのですが、ただしやはりそれが本町の状況に照らしてですね、本当にそれが有効なものなのかどうかというようなところにつきましては、町長が答弁いたしましたとおり、平成24年度に制度設計する前段階でちょっと検討しておりましたが、なかなか本町にはちょっと向かないような状況があるのではないかなというように考えているところです。

今後、今年度公共交通計画を策定するにあたって、いろんな御意見、御要望を踏まえた上で、どういうような制度設計が適切なのかというようなところがございますので、そこを踏まえてコミュニティーバスというふうな考え方というのは、今のところする予定はございませんけども、その御意見等を踏まえながら本当に波佐見町に、適したような交通システムがあるのであれば、それは今後実証も含めて検討していきたいというように考えております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

今までちょっと私もいろんな形で一般質問してきたのですけども、その中で上がったのが二次交通の確保というのが、町として観光を進めていくに当たって非常に大事だというお話ありました。例えば西九州新幹線が開通して、それを波佐見町に使えるルートというのが、嬉野医療センターから佐世保に行くバスを使うというのがあるかと思うのですけど、調べてみたのですよね。嬉野バスセンターのバス停の時刻表に佐世保方面行きって１日１便しかないのですよ。ないようなものですよね、現実問題ですね。12時58分でしたかね。要するに昼に１本あるだけ、路線が存在してるというだけに１本走ってるというところです。使えないわけですよね。

であると、やはりもちろん路線バスが重要なことは重々承知してますけども、やはりその今本当に観光客でもそうですし、医療に使われる方を踏まえると、なかなか現実問題の交通機関とニーズというのがやっぱずれてしまってると思うのですよね。そこを今新しい地方公共交通計画をつくられているので、今まであったやり方を当然それはそれで大事にしないといけないのですけども、それにずっと縛られていると、もう本当にせっかくの路線バス自体も使われなくなってしまうので、前もってなくなってしまう前にいろんな形で施策を打っていただきたいのですよ。

最後に上げた定期券の購入助成という形も、これは今使われてる方は上げられても当然払わないといけないので、払うと思います。例えば高校に通われてる方、企業に通う方、バスで帰られてるのに上げたからって急にマイカーにされるというのは多分難しいと思うのですけど、来年から４月から通われる予定の例えば高校生が定期代高くなったのでもう学校の学校へ行くのはないとかいうかたちでは十分ありうると思うのですね。

そういう面でも購入助成とかそのあたりは前向きに検討していただきたいのですけどいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

非常にバス路線の二次交通に関してと、通勤通学に関しての支援というふうなことでの御意見ですが、議員がおっしゃるような内容について非常に状況としては理解してるところもございますし、二次交通に関しまして嬉野から本町への誘客というふうなところも非常に大きな、要素の一つだというように考えております。

一方でやはりバス事業者の今の運営状況と、燃料費高騰それから人材確保が非常に困難だというような、そういった状況も踏まえて、現在、公共交通計画の策定に向けていろんな町民も含めていろんな方々からの御意見等あとは調査等も進めておりますが、最終的にはそちらとの整合性をいかに図っていくかというようなところも必要なことではないかなというように思っております。

ですので二次交通に関しましても、その要望等々バス事業者の状況というようなところもそうですし、定期券の問題につきましても定期券に対しての助成をするのはいいのですが、もし仮に検討したとして、それに準じてバス事業者のほうでも使いやすいダイヤの組み方など、そういったところが現実問題として可能かどうか、こういったところを踏まえて協議を進めていきたいというようには考えております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

今回、西肥バスさんが運賃改定とダイヤ改正行われているのはやはり運転士の確保が一番難しいのが要因だと思うのですね。待遇を上げないとバスの運転士さんがいないので、運賃を上

げないとその原資が確保できないから、待遇を上げるために運賃改定しましたということの理由も書かれていました。

おっしゃるとおり、やはり別にタクシーもそうだと思うのですよ。やはり給与が上がれば乗り手いらっしゃると思うのですけども、苛酷な労働の中で、なかなかもうタクシー乗りたくないっておっしゃる方がいらっしゃるので、これまではやってこなかったと思うんですけども、バスとかタクシーへの乗務員への補助ですね。給与の補助とかいうのも、前向きに検討していただきたいと思うのですけどいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

非常にバス、タクシー事業者の人材確保というのは非常に本町だけじゃなくて全国的にも課題になっているようなところがございます。今ヒアリングを各事業所等も行わせていただいておりますので、今後のそういうような本町の将来的な、安定的な交通施策としての確保が必要というようなことで判断いたしましたらそういったとこも含めて検討協議を進めていきたいというようには考えております。

○議長（百武辰美君）　城後議員。

○８番（城後光君）

そして最後に、公共交通空白地に関するということを質問したのですけど、そこが今回その見直しになって、夜間にタクシーとかバスが少ない部分に関しては公共空白地というかたちで認めるという条件付で行う方針に変わりました。なので現実、波佐見町も要するにタクシーも捕まらない状況というのがあってきていますので、実際ライドシェア。いろんなかたちで難しい面もあると思うのですけど、こういう部分を考えるきっかけになるのではじゃないかなと思っています。

例えば福岡県の東峰村では、タクシー会社さんに運行を委託されて、自治体が自家用有償運送の運行主体になって、一般の一種免許のドライバーさんが、タクシーの運行管理のもとでシェアの運転士になられてるというケースも始まってきてます。そちらは東峰村ですね。真ん中に路線バスも走っていますし、もともと日田英彦山線というＪＲがあった部分が廃線になってＢＲＴという公共の乗り物も走ってる場所なので、面積も波佐見町が55キロ平方メートル、東峰村が51キロ平方メートル。似通ってる部分ありますし――人口は全然違いますけど。いろんな部分で勉強になる部分は急速に増えていると思うのですね。

というのがもう本当タクシーとか、乗り物がないという自治体がかなり増えているので、国もかなり規制緩和していますので、こういう動きもですねぜひ地方公共交通計画の策定にあたっていろんな事例を前向きに出していただきたいと思うのですけど最後いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

議員おっしゃるとおり全国でいろんな自治体ライドシェアの事例が今増えていっているような状況です。おっしゃられるように、東峰村のほうでもそういった事例をされてますし、現在ですね、事例の収集について委託してるコンサルともあわせて、今事例収集して、視察等の予定もしておりますので、またそういったところを参考にしながら本町の施策に反映させていきたいというように考えております。

○議長（百武辰美君）

以上で８番　城後光議員の質問を終わります。しばらく休憩をいたします。

13時30分から再開します。

午後０時９分　休憩

午後１時30分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、13番　尾上和孝議員。

○13番（尾上和孝君）

皆さんこんにちは。それでは通告に従い質問いたします。

デジタル化について。

現在、議会だけではなく多方面でデジタル化が進められ、本町においても前川町長の旗振りのもとＤＸやＩＣＴに積極的に取り組まれていると思うが、今後の方向性について次のことを問います。

（１）町から対象者へいろいろな給付が行われているが、マイナンバーを活用し子育て支援などにデジタル給付ができないか。また、この件について調査検討したことがあるのか。

（２）乗合タクシーや高齢者タクシー利用券の利用状況は。また、利用者からの要望などないか。

（３）様々なチケットを、先を見据えデジタルチケットに移行する考えはないか。

（４）今後、ＤＸやＩＣＴに関してどのように取り組まれる考えか。

以上、壇上からの質問を終わります。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

13番　尾上議員の御質問についてお答えをいたします。デジタル化について。

（１）町から対象者へいろいろな給付が行われているが、マイナンバーを活用して子育て支援などにデジタル給付ができないか、また、この件に関して調査検討したことがあるのかとのお尋ねですが、デジタル庁では、国民の皆様が金融機関にお持ちの預貯金口座について、給付金等の受け取りのための口座として、国に任意で登録をしていただく公金受取口座登録制度が

設けられています。

これにより緊急時の給付金のほか、年金、児童手当、所得税の還付金等の支給事務に利用できるとされています。

また、公金受取口座登録法に基づき、法律に基づかない緊急時の給付金の支給事務等であっても、内閣総理大臣が特定交付給付に指定することが指定することで、当該給付金の支給事務にマイナンバーを利用することが可能となっており、本町で実施した令和５年度及び令和６年度物価高騰対策給付金や、令和６年度出産子育て応援給付金も該当しています。

そこで、これらの本町の給付方法ですが、基本的に所管する担当課がそれぞれの判断で決定しており、昨年度実施した物価高騰対策給付金の際には、住民福祉課で紙申請が迅速に町民に給付できると判断し、デジタル給付までは行っておりません。

一方、今年度実施した出産子育て応援給付金においては、県内市町で共同導入している「ｅ－ＴＵＭＯ（イーツモ）」というサービスで電子申請できるように対応しているところであり、対象数や対象年齢層、事務量などを勘案し、それぞれ担当課で適切な方法を選択しているという状況でございます。

（２）乗り合いタクシーや高齢者タクシー利用券の利用状況は。また、利用者からの要望などはないか、とのお尋ねですが、本町における乗り合い交通については、路線バスの廃止に伴う交通空白地の解消や交通弱者対策として、平成24年度から運行を開始しており、現在で12年が経過しております。運行の形態としましては、町内のタクシー事業者２社に委託をし、12の路線を配置するとともに、各路線週３回１日当たり４便の定時、定ルートで運行しており料金は片道200円となっています。

これまで停留所や便数の増設などを行い、利用者数も制度開始当初から少しずつ増加してきており、令和５年度では年間2,957名の方が利用されています。利用者からの要望は、電話予約が面倒であること。バス路線上には停留所が設けられず、バス路線付近の住民は利用が困難であること。停留所が遠い。利用者が望むダイヤの設定が難しいなどがあります。

事業者からの要望は、予約受付や運行管理がアナログであり、事務作業が煩雑であるなどがあります。

また高齢者タクシー利用券助成事業につきましては、令和３年度から実施しており年々その対象者を拡大してきたところです。令和５年度の状況といたしましては、運転免許をお持ちでない70歳以上の高齢者に対し、１万2,000円分。75歳以上の運転免許をお持ちの高齢者には、夜間や雨天時の外出支援のため、6,000円分のタクシー利用券の助成を行っているところでございます。

そのタクシー利用券に対しての利用状況は、令和５年度の実績として合わせて54.8％の利用となっています。また利用者の方からはお礼のお声をいたく一方で、運転免許をお持ちでない方からは、１万2,000円ではすぐになくなってしまい足りない。や、免許を持っている方は必要

ないため、免許を持たない人の分を増額してほしいなどの意見が寄せられています。

また運転免許をお持ちの方からは、免許を持っているから必要ないので、子育て支援等のほかのことに使ってほしいや、タクシー券でなく商品券などにしてほしいといったお声もいたいています。

共通して寄せられる御意見としては、タクシー自体が捕まらず特に夜間に利用することができないとの御指摘もいたいています。

（3）様々なチケットを、先を見据えデジタルチケットに移行する考えはないかとのお尋ねですが、デジタルチケットとは、インターネット上で発券し、スマホ上で表示して使用できるチケットのことでデジタル発行された入場券、乗車券、商品券、回数券などを総称してデジタルチケットと呼びます。デジタルチケットは店舗での購入、発券や持参が必要な紙のチケットと異なり、購入から使用までスマホだけで完結するのが魅力です。

コンサートやエンタメ施設、交通分野など幅広いシーンで活用されており、最近では飲食店や小売業などの店舗運営でも活用が広まっています。

導入のメリットとしましては、会計業務を効率化できる。コストを削減できる。売上げの安定化につながる。新規顧客を獲得できるという点などが挙げられています。

一方で町内の商店などの事業者からは、高齢化で電子化について行けず、導入に不安を抱える事業者も一定数いると聞いております。

本町内においては乗り合い交通や高齢者タクシー利用券をはじめ、町内飲食店や小売店ではデジタル化が進んでいない状況であります。

今後導入のメリットやデメリット、導入コストなどを踏まえ、町で対応できるものがあれば対応を検討するとともに、飲食店や小売店での導入について理解が進むのであれば支援等を検討していきたいと考えています。

（4）今後、ＤＸやＩＣＴに関してどのように取り組む考えかとのお尋ねですが、自治体ＤＸについては、全職員向けにマインドセット研修やサービスデザイン研修を実施しており、現在、各係が提出した課題について、それぞれの担当自身がＤＸ推進アドバイザーと検討を進めているところです。

また窓口ＢＰＲアドバイザー派遣事業を活用して、本業務本来の目的に向かって既存の組織や制度を見直し、プロセスの視点で職務や業務フローの管理、情報などをデザインし直すという意味のビジネスプロセスリエンジニアリング――いわゆるＢＰＲを、現在戸籍班などの窓口部署を対象に実施しております。

またＩＣＴについては都度対応してきており、口座振替のオンライン申込みや文書管理システムの電子決済導入、子育て応援アプリ、勤怠管理システム、諸証明のコンビニ交付、窓口キャッシュレス、デジタルサイネージなどを導入しており、本年度中に施設予約のオンライン化やホームページのリニューアル等も実装してまいります。

今後ＤＸ、ＩＣＴ化とともに、職員自ら能動的な取組に進展していくことを期待しているところであります。以上で壇上からの答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

それではデジタルチケット。これのちょっと説明からしたいと思います。近年スマートフォンの普及に伴い、様々な分野でデジタルが進んでおります。その中の一つが紙のチケットをデジタル化した電子チケット。デジタルチケットでございます。

このデジタルチケットは紙のチケットではなく、スマートフォンやタブレットなどの電子端末にチケット情報を保存して、それを提示することで入場や利用ができるチケットのことでございます。従来の紙のチケットに比べて、紛失や盗難の心配が少なく、携帯性に優れているというメリットがございます。しかしデメリットもあることはあるのですよね。それはスマートフォンのバッテリー切れや、ネットワークの不具合、こういうことがデメリットとして挙げられております。

そこで、まずは乗り合いタクシーの件なのですけど、現在は確かに高齢者の方がお使いです。高齢者タクシーとかですね。しかしちょっと今後を考える上で検討していきたいのが、乗り合いタクシーや高齢者タクシー券の紙のチケットをデジタル化した、デジタルチケットが使えるように一応できないかということでまず質問したいと思います。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

乗り合い交通に関してのデジタル化についての御質問ですが、当然今この利用に関して寄せられているいろんな要望の中にも、やはり予約がしづらいということなど利便性の問題、事業者に関しても同様なのですが、そういったところが課題としてあげられております。

先行して利便性の向上を図られている自治体などの状況も見ますと、やはりこのデジタル化は非常に有効に活用し、デジタル化することによって利用者の方の負担軽減にもつながって非常に好意的に受けられているというようなこともお話を聞いておりますので、　現在公共交通計画の策定とあわせて、そういった先進地の事例等を踏まえて今後検討していきたいというように考えております。

○議長（百武辰美君）　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

ありがとうございます。そこでＮＴＴドコモのモバイル社会研究所というところの発表によりますと、やはり年々スマートフォン――スマホの比率。これが高くなっております。

これは携帯・スマホの所有者のうちのスマートフォンの比率なのですが、2010年にはですねスマートフォンの所有率は４％程度でした。そして2015年に５割を突破し、2017年に７割、2019年には８割、2021年には９割を超え、2023年のこの年にはスマートフォンの比率は96.3％

ということで発表されております。

今、高齢者タクシーとかいろいろお話ししておりますが、その中でも年代別これがちょっと書いてございまして、それでもスマートフォンの比率は70代のシニア層においても、９割を超えております。ということで、シニア層に向けてもこのスマートフォンが結構普及しております。このシニア層の普及は孫たちの写真とか、それを見たいとかいうことで、進んでいるところでも聞き及ぶところでございます。

ですので、の件につきましては、今使っている高齢の方がすぐこれに移行するということを私は考えていないのですけど、しかし今50代、60代の方たちは結構携帯使われます。その方たちがいつでも移行をできるように、今の時点から調査研究する必要があるのではないかということで質問をしておりますが、その件に関してはどうでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

議員がおっしゃるとおりでしてでして、今後の高齢化に合わせてこのスマートフォンの普及率等こういったデジタル化に対応できる方がどんどん増えていくというようなところは想定をしてるようなところでございますので、それを見越したようなかたちで、まずは私どもでいけば乗り合い交通でありましたり、タクシー券でありましたり。そういったところでの利便性の向上が図れるような施策等も考えていければというように考えております。

○議長（百武辰美君）　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

それでは次の質問に移りたいと思います。

次は他町では電子プレミアムつき商品券。これの発行に関しましてスマホやＱＲコードを読み込んで使用するカードを作られてなさっておられます。

これは本当に画期的なことじゃないかなと思いますけど、このプレミアム商品券は毎年出されるというわけではなくて、この前は物価対策とかやっぱコロナ対策とかそういうことで発行されたと思うのですが、今後こういった感じが出るかもしれません。そのときに備えて本町でもカードを作ったりとか、スマートフォンでできたりとか、こういったシステムをすることができないかと思います。いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

プレミアム商品券の発行事業ということで、近隣でいけば東彼杵町さんで令和２年に商品券の発行事業として、こういう電子チケットを活用した取組を行われているところです。議員おっしゃられたとおり、町民の皆さんはスマートフォンもしくは町のほうで発行しているカード、ＱＲコードが書かれたカードを加盟店舗のほうに持ち込むことによって、それで決済等を済ませられるということで非接触型ということもあって、コロナ禍の時期についても、町民の

方々にとっても非常に使いやすいような状況での事業を進められたというようなことを聞き及んでおります。

今後本町でも、こういったことを検討するに当たっては、一つのいい事例かと思いますので、よく東彼杵町さんの取組なども参考にしながら、できるだけ使い勝手のいいもの。あとはその事業者の皆さんも導入しやすいもの。こういったところも、いろいろと検討する材料になってくるかと思いますので、利用者それから導入する事業者にとってもメリットがあるようなところ。そういった仕組みはどういうような交通の仕組みを構築していけばいいかというところも十分考えながら、いろんなことについてちょっと情報収集等も進めていきたいというように考えております。

○議長（百武辰美君）　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

調査のほうをお願いしたいと思います。

それではですね、本町には波佐見町商店振興会があって、７月には要望書も出されております。本町の商店振興会の活性化に向けたデジタル化の支援を町としてはどう支えていくのかをお尋ねいたします。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

先ほど町長の答弁にもございましたとおり、やはり本町の商店街の事業主の皆さんも高齢化が進んでおりまして、それでデジタル化に関して、ちょっと不安に思われてるような事業所も多いというようなことでお話を聞いております。

ですので、今後先ほども言いましたとおり事業所にとって導入に関しての不安を払拭したり、導入に対してのメリットがこういったものがあるのだよというのを双方にいろいろと協議をしたりしながら、本町の実態に応じたようなかたちでのデジタル化の促進につきましては、いろんな支援のメニュー等も今後考えていければなというように考えております。

○議長（百武辰美君）　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

先ほどデジタル化の不安ということでおっしゃいましたので、総務省が実施した調査によりますと、デジタル化が進んでいない理由として最も多く挙げられたのが、情報セキュリティーやプライバシーの漏えい、この不安があるからというのが１番であがっておりました。

２番目に挙げられたのが、利用する人のリテラシーが不足しているから。リテラシーとはある分野に関する知識や能力を活用する力ということでございますが、一応こういうこともありますが、やはりこう進めていくことが必要じゃないかと思っております。

なぜこういう質問をするかといいますと、振興会のデジタル化を図るにはですね町の支援が必要となるからです。そこのところはどうお考えでしょうか。副町長いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　村山副町長。

○副町長（村山弘司君）

商店街振興会からの要望は前回町のほうに頂いておりますけれども、具体的にデジタル化を進めるための取組として、町がどのようなことを支えればいいのかについて具体的なお声というのをしっかり聞く必要があるのかなというふうに思っています。

ただ先ほど答弁にありましたとおり、各事業者の皆さん方のデジタル化に対する思いというものが必ずしも多い町ではないということは、恐らくその事業者の方々にとっての課題だと思いますので、そういった皆さん方の声をしっかり聞きながら、対応を考えていくべきだというように考えてございます。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

それでは次の質問に移りたいと思います。

令和５年度の決算の歳入の繰越金において自治体システム、ＤＸ推進事業、これが１億5,750万ほどありましたが、本町が特に取り組んでいるデジタル化について、しいて言えば何を挙げられますか。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

先ほど議員がおっしゃいました１億5,000何百万円というのに対しては、それが何だったかというのは今回庁舎移転に伴って、庁舎内のネットワークの構築費というのが一番主な、ほぼほぼその金額でございまして、あと令和５年度においてはコンビニ交付のシステムを導入したというところが、一番大きいところだと思っております。

○議長（百武辰美君）　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

次の質問に行きます。ＤＸ関連で地域情報化管理費の中にＤＸ関連でデジタル化支援コンサルティング業務委託料が55万円ほど上がっておりましたが、これはどういったものでしょうか。また成果はどういったものだったのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

この55万円の委託料についてはですね、令和６年３月に実施しましたＤＸマインドセット研修に対する委託料でございます。

全職員を対象に実施したマインドセット研修なのですけれども、自治体ＤＸといいますと、どうしてもデジタルの部分が先行して皆さんというか職員もそうなのですけども、要はデジタル化、ＩＣＴ化することでしょうというような感じがあるんですけども、そうではなくてしっかりとした業務改革、改善。そういった業務の棚卸しも含めてしっかり今の業務を見詰め直し

て住民視点に立ったサービスを提供するという部分が、ＤＸの主な役割でございますので、そこを間違えないようにしましょう。というような研修を行ったところであります。

デジタルに走ることなく、そういったところをやりましょうというところで、成果としては非常に皆さん勉強になったというか、理解度も高かったと思っていますので、今後皆さんの理解が非常に進んで、推進できるのではないかと楽しみにしているところです。

○議長（百武辰美君）　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

私も今聞くうちで、やはりこういった研修は必要だと思うのですよね。やはり同じベクトルで進むことが大切だと思います。

そこでお尋ねいたします。役場内でのＤＸそのものについての考えは同じ力のベクトルで進んでいらっしゃると思われますか、町長。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

先ほど担当課長申しましたとおり、まずは職員の意識改革が大事だというふうに思っております。先ほど担当課長申しましたとおり、ＤＸデジタルトランスフォーメーションを、デジタルのほうに意識がとられがちで、デジタル化することがいいことだ。あるいは業務改革につながるというふうに捉えていますが、研修の中ではしっかりとＤは小さくＸを大きく。要するにトランスフォーメーションということで、デジタル化を使う職員も、あるいはそれを利用される町民の皆さんも、お互いに幸福につながるような取扱いを重点的に考えていきましょうという意識改革は、かなり進んできたのかなというように思っております。

あえてそのデジタル化に取り組んでですね、大きな導入コスト。あるいは運営経費がかかった場合は、これは第２の箱物行政というようなことで言われております。導入するのに何千万円、運営するのに何百万円というふうなことがかかっては、本末転倒だというように思っておりますので、今後はその点もしっかり踏まえながらＤＸを進めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

では次の質問に行きたいと思います。今年度から開業をされる、いわゆる福田清人先生の鬼木郷での宿と、それとキャンプ場。これ観光業界に委託してるということではございますが、予約から流用まではどんな流れになっていますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

２点ですね。キャンプ場と公民館ということで予約のシステムにつきまして御説明いたします。

キャンプ場につきましては、キャンプ場の予約サイトというものが、すいませんちょっと名称は、ちょっと今失念してしまいましたけども、その予約サイトを通じて予約を受け付けるというようなことでしております。

そして古民家につきましては「じゃらん」の予約サイトを活用させていたき、そこからの予約の受け付けを行うようにしているところです。以上です。

○議長（百武辰美君）　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

お金の入金のところはどうなっているでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

予約時の事前決裁というようなことで考えております。

○議長（百武辰美君）　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

私が言いたかったのは、自動決済でそこで入金を済まされます。そのあとの入室の件で、よくあるじゃないですか。玄関で暗証番号をしてちょっとそこに入るとか。そういったデジタル化。こういったこと等がちょっと取り組めないかなと。そしたら非接触でお客様がわざわざ振興会のほうに行くこともなく、車のほうでそのままそこのところまで行けるという、ちょっとメリットがあります。

１回ワンテンポそこでちょっと置くことによって、ちょっとお客様としては、ちょっとそこはスッと入りたいなという方もいらっしゃいますと思いますので、今後そこあたりもこう考えていただけないかなと思って質問しておりますがいかがでしょう。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

そのあたりの手続の進め方につきましては、今後実際にモニターとか、あとは実際泊まっていただく中で、そういった要望があれば考えていきたいというように思っております。

いずれにしても非接触型といいますか、担当する職員と面会せずに宿泊できるというふうなところを希望される方もいらっしゃいますし、実際いろいろと事前にいろんなコミュニケーションを図りながら、そこで宿泊をされるという方。そういったいろんなお声があると思いますので、その辺りは柔軟に対応していきたいというように考えております。

○議長（百武辰美君）　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

次に移ります。現在波佐見町総合文化会館（ウェイブホール）の予約や、使用料の支払いはどうなっていますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

ちょっと教育委員会ではないので詳しくわからないのですけども、今ですね多分電話とかインターネットを通じてだと思います。そういったＩＣＴを活用したということにはなっていませんので、令和６年度において、そういった教育委員会関係だけじゃなくて施設全般のオンライン予約――もちろん決裁まで含めて今公募してるところです。そのあたりを令和６年度中に構築する考えでございます。

○議長（百武辰美君）　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

この質問自体は教育委員会さんではなくて、今デジタル化のことでしたので。

今波佐見町総合文化会館（ウェイブホール）の予約状況とか見れます。しかし予約に関しましては電話予約で一応仮予約をして、そこで紙媒体で一応書いていただいて、そこで入金していただくというような流れになってますけど、これを私が言いたかったのは、全部パソコン上で、それとかスマートフォン上で一応予約決済が一括してできないかという質問でした。

今課長のお話によりますと、今そういったシステムにも構築をしている途中だということで安心いたしました。今縷縷御質問したわけではございますが、新しい行政なりのサービスの提供のためには、やはり一丸となって進めなければならないことであります。

本町の本企画財政課長で、現在アドバイザーをなされている方もいらっしゃいます。そういう方たちの意見とか伺ったらどうかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

令和４年度においては、そういう方もアドバイザーとして委託した時期もありましたけども、現在のうちのＤＸ政策産業の陣内さんという方がいらっしゃいますけど、そのかたと新しくＤＸ数の契約を結んでいるアドバイザーもいらっしゃいますので、そういった方と一緒になって、まず進むべき方向性を職員と一緒になって構築していきたいと考えております。

いろんな意見とかアドバイスは頂きたいと思いますけども、あまりこう先導が多くても駄目かと思いますので、そこは一貫してしっかりとした組織体制をつくりながら推進していきたいというように思っております。

○議長（百武辰美君）　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

２、３日前の新聞にも出ていたのですけど、西海市でもこういった動きがあるということでお聞きください。西海市では広報アドバイザーを一応２名ということで書いてございました。これは自治体ＤＸの件なのですが、役場内では通常のやはり皆さん業務が本当忙しいですよね。それに外部の人材にたまに来てもらう程度では、抜本的な変化はできないのではないかなと私は思っております。そこで神奈川県の鎌倉市が「株式会社Another works」を通じてＤＸア

ドバイザーを採用しております。これは民間副業人材の見地を生かして、ＩＴリテンション向上を目指すとされております。本町でＤＸアドバイザー民間副業の人材を採用する考えはないでしょうか、町長。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

御指摘の件について今以外にもＤＸ数のアドバイザー。先ほど申しましたとおりまず、参与として陣内さんという方をお願いしております。またそういった方の御協力のもとにそれぞれの専門性を持った方にも、それでお願いをしながら進めているところでございます。

御指摘の民間副業については、私もちょっと新聞を拝見しましたので、こういったことがもし波佐見町にとって有益であれば、検討しながら今後導入するかどうかまた別として、検討はしてまいりたいというようには思います。

○議長（百武辰美君）　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

先ほど商店街の一応振興のお話しをましたが、町からですね商店がなくなってしまえば、ますます買物難民が増えます。町民の生活を守るためにも必要と思います。だから町が今商店街振興を手助けして、手を打たないといけないと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

商店振興会の皆様のほうからも要望等も頂いておりまして、議員がおっしゃるように今後波佐見町内の商店経営についても非常に現状としてはちょっと厳しいような状況もございます。ですので、今後いろんな要望を聞きながら、町として何か支援ができるようなことはいろいろと検討して進めてまいりたいと思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　尾上議員。

○13番（尾上和孝君）

今回の様々な質問について、町としてやはり調査研究していただきたいなと思います。今回の質問は今後の方向性を質問させていただきました。町長のＤＸに向けた意気込みを最後に聞かせてください。お願いします。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

これから人口減少に入っていく、既に入っておりますが、世の中、波佐見町にとりまして避けては通れない問題でございます。これは町職員だけじゃなくて町民の方にも理解をいたきながら、単に職務の合理化というだけでなくて、今後波佐見町の人口も１万人を割り、あるいは将来的にはもうかなり減っていくといったときに、現在の職員数で対応できるのかといえば決してそういうような余力はないものと思われます。

そういう状況にあって、当然ＤＸを進めていかなくてはならない課題でございますので、そこあたりのバランスを考えながらですね、しっかりとした方向性を持って取り組んでまいりたいというふうに思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）

以上で13番　尾上和孝議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。14時20分より再開します。

午後２時８分　休憩

午後２時20分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、７番　福田勝也議員。

○７番（福田勝也君）

皆さんこんにちは。それでは通告に従いまして質問していきます。

１．住みよいまちづくりについて

現在居住している街の満足度尋ねた「いい部屋ネット　街の住みここちランキング２０２４」が発表され、本県では昨年まで４年連続首位だった西彼時津町にかわり、北松佐々町が１位になっております。

本町におきましては、10位以下のランク外となっております。

そこで次のことを問う。

（１）この結果をどのように評価しているか。

（２）住み住みここち、住みよいまちづくりのための本町の課題とその対策は。

２．ふるさとづくり応援寄附金、及び基金の活用について。

平成24年度より順調に推移してきていた「ふるさとづくり応援寄附金」であるが、令和３年度をピークに減収の方向になってきております。このままでは事業者の減収や基金の活用にも大きな影響が懸念されております。

そこで、次のことを問う。

（１）過去10年間の寄附金の推移は。

（２）今後の傾向と対策は。

（３）寄附金の目的とする５つの事業のそれぞれの寄附金額と活用金額の累計は。

（４）今後の基金活用の計画は。

以上、壇上より質問を終わります。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

７番　福田勝也議員の御質問についてお答えをいたします。

１．住みよいまちづくりについて。「いい部屋ネット　街の住みここちランキング２０２

４」が発表されて、（１）として、この結果をどのように評価しているのかとのお尋ねですが、御質問は大手不動産業者が、年に２回発表しているランキングの件だと思いますが、今回発表されたトップ３は佐々町、時津町、長与町であり、いずれも長崎市、佐世保市のベッドタウンとなっています。

調査手法を見ると、県内に居住の20歳以上の男女でサンプル数が2020年から通算して、7,518人とのことで、６年間の調査の積算で集計されているようです。

また2023年12月に発表された同事業者の住み続けたい街ランキングでは、波佐見町は４位。町の幸福度では３位。因子別の防災分野では2024年に３位に入るなど、タイミングによっては類似の調査では違った結果も出ている状況です。

このようなランキングは世間に対するインパクトは大きいものの、具体的な指標も明確ではないことから、結果に一喜一憂することなく波佐見町民やこれから移住を考えている人にとって、豊かで住み心地がよく住み続けたいと感じていただけるようなまちづくりを目指してまいります。

（２）住みここち、住みよいまちづくりのための本町の課題とその対策は、とのお尋ねですが、長崎県内はもとより全国には魅力的な町が数多く存在していると思います。ベッドタウンやコンパクトシティ、交通利便性のよい街、伝統産業が地域に根づく街など、様々なその地域にしかないよさは千差万別だと感じています。いろいろな魅力的な支援制度も過度な競争となっているところもあり、本当に住みたい、住み続けたいと思われるような施策が今後は重要になってくると思います。

小さな町において公共施設や交通インフラは十分でなく、課題とも言えますが、自然豊かで伝統産業の窯業と農業が築く魅力的な町において、その特徴的な地域性を発信するとともに、波佐見町を選んで定着していただくための一つの方策として実施している定住奨励金制度なども活用し、シビックプライドの気持ちも育みながら、まちの魅力アップを図っていきたいと考えています。

大きな２。ふるさとづくり応援寄附金、及び基金の活用について

（１）過去10年間の寄附金の推移は、とのお尋ねですが、まずモニターを御覧ください。決算ベースによる過去10年のふるさとづくり応援寄附金の推移表になります。まず10年前の平成26年度は寄附額が約200万円でありました。この年までは業務を職員で行っていたこともあり、今より返礼品の品数も少なくなかなか集まらない状況でした。

平成27年度から、ふるさとづくり応援寄附金の業務を委託へと切替えたことで、寄附額も集まりだし、特に現在の委託事業者である株式会社スチームシップに変更した平成29年度からは急速に寄附額が伸び、契約初年度に約５億円、次年度以降も約９億円、それから約14億円、約17億円と順調に推移し、令和３年度には20億円を超える寄附額となりました。しかし翌年度以降は減少に転じ、令和４年度の寄附額が19億円、令和５年度には18億円となったところであり

ます。

（２）今後の傾向と対策は、とのお尋ねですが、まず今後の寄附額の推移予測としては、現在の情勢からすれば減っていく傾向にあると思われます。その主な要因は、物価高騰の影響からか寄附者から選ばれる返礼品が肉、海産物、米などの食料品や生活用品への傾向が強まっていることや、多くの地方自治体が財源確保のために、寄附金の受入れを増やす政策を進めているほかに、税流出額が多い都市部の自治体においても、返礼品の充実を行い寄附の受入れを始めたことなどが挙げられます。

本町の対策としては、波佐見焼をはじめ農産物、観光体験などの地域資源を最大限に生かした新たな返礼品の開発のほかに、波佐見町の魅力を多くの方々に知っていただく情報発信の取組が必要であると考えています。

なお新たな取組として、新商品開発や企業等に係る経費や資金を、ふるさとづくり応援寄附金を利用したクラウドファンディングにより調達する、通称「ふるさと納税3.0」を整備し進めているところです。

（３）寄附金の目的とする５つの事業のそれぞれの寄附金額と活用金額の累計は、とのお尋ねですが、まず寄附金の目的別での額は、ふるさとを元気にする活動に関する事業に約28億円。未来に伝えたい伝統文化の保存整備に関する事業に約12億円、懐かしい景観、新しい町並みの整備に関する事業に約７億円。次世代を担う子供たちの健全育成に関する事業に約40億円。その他町長が必要となって認める事業に約17億円で、総額約105億円となっています。

また目的別の事業に活用した額については表の右側にありますとおり、それぞれ７億円、6,000万円、約８億円、約12億円、約10億円で合計約38億円を、これまで実施した事業の財源に活用させていただいたところです。

（４）今後の基金活用の計画は、とのお尋ねですが、全国の皆様から御寄附頂く際は、条例に掲げる、先ほどの５つの事業から活用してほしいものを一つ選んでいたいております。

前の質問で示した表にありますとおり、寄附額の割合が、次世代を担う子供たちの健全育成に関する事業が約38.6%、次いで、ふるさとを元気に楽しくする活動に関する事業が27%となっており、寄附者の皆様が未来を担う子供たちのために使ってほしい、元気で楽しさに満ち満ちた町であり続けてほしいというお気持ちであることが感じ取れます。

町としましては、これらのお気持ちにお応えする視点に立って活用を検討しており、令和６年度当初予算においても、子育て支援を初め教育環境整備、安心安全まちづくり地場産業の振興や事業などで活用をしております。

今後も寄附者の気持ちに沿った基金の活用になることと思いますが、ふるさと応援寄附金の特性上、毎年の寄附額が保障されているものではなく、制度自体がいつ変更あるいは廃止になるかも分かりませんので、継続的な経費への活用は極力避けて単年度またはある程度期間を区切った事業に活用することとしています。

以上で壇上からの答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

それでは住みよいまちづくりについての再質問をしていきたいと思います。

これは８月８日長崎新聞の記事でございます。先ほど町長からも答弁でありましたとおり、民間の大東建託の株式会社賃貸未来研究所というところのアンケート調査でございます。

県内第１位が書いてありますとおり佐々町ということで、まず前提としましてはですね、この記事に最後のほうにもありますように、また町長の答弁でありました通り調査はインターネットで実施されて2019年に開始と。住みここちは原則５年分の回答を累積したランキングで今回20年度から24年度分の５年間の回答を累積したランキング結果となっていると。県内7,500人からの集計となっているということですね。

まず回答者の所在地とか年齢層またそのほか、その地区でどのぐらいの回答があったというようなものが分かりませんので、この結果が全てではないとは思うのですが、移住定住を考えていらっしゃる方の要件として、このような評価はですね、参考にされているかと思いますので、今回一般質問したところでございます。

まずほかの市町の方々からはですね、波佐見町は元気な町として評価されているようなのですが、一方では今の住みよい街、住みごこちとしての評価が低いように感じているのですが、県職員としてまた県北振興局長としてですね、長年いろんな自治体見られてこられた村山副町長なのですが、波佐見に住まわれてまだ５か月程度なのですが、副町長から見て本町どのような町だと感じられているでしょうか。

○議長（百武辰美君）　村山副町長。

○副町長（村山弘司君）

波佐見町に４月に赴任しまして、５か月間経過をいたしました。その間いろんな方々とお話をさせていただく機会があって、町政報告会も含めて課題認識をさせていただいたところでございますけれど。

私が県から波佐見町を見ていたときにも、やはり波佐見町は元気な町だなというように思っていましたし、御当地の波佐見町に住んでみても、やはりこう周辺の市町村と比べるとにぎわいもあって、元気な町だなというように思っています。

その背景に一つには答弁にありますとおり、例えば公共施設とか地域内の交通についての課題はあるとは思うのですけども、一方で例えば西九州自動車道であったりだとか、嬉野市まで足を延ばすと九州自動車道ということで、広域交通のアクセスはしっかりしていますし、あるいは波佐見町のにぎわいの、波佐見町が元気なことで観光の方々あるいは交流人口の拡大という意味でも、にぎわいの創出につながっているというように思ってます。

そういった意味では周辺の市町村よりもですね、いわゆるにぎわいがあって、元気な町なん

だろうなというようにしっかり私としても理解をしてるとこでございます。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

私たちは生まれも育ちもですねこの波佐見町で過ごしておりますので、当たり前の生活環境といいますか日頃生活をしております。不便さとか恵まれた環境というのがですね比較することがないもので、４月から赴任されてきた副町長がどのように感じられたのかちょっとお伺いしてみました。

それとやはり本町のやはりこういったところを改善していきたいとか、あるいはこういったところもっと伸ばしてできたらなというところがございましたら、お願いします。

○議長（百武辰美君）　村山副町長。

○副町長（村山弘司君）

先ほども少し触れましたけれども、自治会長定例会や町政報告会で各地域を回る上で、地域の方々あるいは自治会の皆さん方の高齢化、あるいは今まで様々な活動で参加されていた担い手の方々が、少なくなっているという現状があって、そういった中で地域が抱える課題というのも一方で認識をさせていただきました。

午前中の質疑もあったとおり22の地域というのは、過去の歴史があって、それぞれ地域の特性がある。いわゆる脈々と培われた伝統があると思うのですけども、やはりそういった一つの郷の中でも、自治会活動が厳しくなってきてるような状況もあるというふうな中にあっては、もっとこう一つ幅広にですね、横断的ないわゆる協働の取組であったりだとか、もっと広域的な視点で物事を考えていくような、そういった工夫も一つは必要ではないのかなというふうなところで、今後のまちづくりに向けても、しっかりそれは町内部で議論をしていきたいと思いますし、自治会の皆さん方とも、そういったところが共通の認識として課題認識できればいいなというように考えてございます。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

続きまして自治体のトップ第９位の因子別の順位となっております。先ほど町長からも答弁でありましたとおり、上位３位が佐々町、時津町、長与町となっております。１位の佐々町は本町と同規模の自治体ではあるのですが、前年度が２位から１位にランクアップと。その要因としまして、やはり行政サービスとかですね、親しみやすさで１位となっております。

またそのほかにもですね物価、家賃とあと防災のほうで２位ですね。あと生活利便性で３位と。交通利便性４位、にぎわいが６位と。静かな治安で７位と。全ての項目でランクインをされております。

あと真ん中ほどにあります行政サービスのほうにも、ランク付けされておりますけども、

佐々町が１位ですね。２位に大村市、３位長与町、４位に時津町、５位に長崎市、６位が佐世保市、７位に諫早市、８位に隣町の川棚町、９位に島原市となっております。

本町もですね上位評価されてもおかしくないと思うのですが、要因としてはどのようなことが予測されるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

確かに行政サービスで佐々町が１位ということで、波佐見町はランク外ということでありますけども、決して行政サービスが劣っているというふうにはちょっと感じてないところも多々あります。

いろいろ先ほどのＩＣＴの部分でも、引けをとらないようなサービスというのは、やっているつもりではありますけども、この順位に表れていないということは何かが足りないというところもあるのかなと思いますので、そこは下位になったから、こうって言うのではなくて、町民の皆さんにとって一番役場というのが親しみやすく、サービスもいいというふうに思っていただけるように、やらないといけないと思ってます。

一つ御紹介したいのが波佐見町の６次総合計画の策定のときに、序論というところで住民参画のコーナーをちょっと設けておりまして、そのときにアンケートを載せて掲載をしております。そこで波佐見町は住みやすいですかという、町民に対するアンケートに対して、住みやすい、どちらかといえば住みやすいというのが、78.5%かなりのサンプル数があった中での数字でございますので、町民の皆さんは波佐見町住みやすいって思っているのだと思っているし、私自身もそういうように思ってます。

やはりこういう波佐見町が好きだというような思いを、行政側としてもしっかりとそれに応えていかないといけないというふうに考えております。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

それで本町の立地っていいますかですね、先ほど答弁でありましたとおり、佐々町、時津町、長与町というのはやはり佐世保市、長崎市に近いということで立地的にもいいということなのですが、本町におきましては県内で唯一海がない町ですね。国土、鉄道もないため駅もございません。しかし副町長が申されましたとおり、西九州自動車のインターチェンジもあり、本県の中では一番、九州の玄関口である福岡県に一番近い位置に立地しておりますね。

それと九州新幹線も開通してここから15分、20分ほど走れば嬉野駅もございます。先ほどの表でありましたけども、生活の利便性とかですね、交通の利便性をもっとアピールして、西ノ原地区とかあるいは波佐見陶器まつりの開催など。にぎわいのところでもランクインできるように、このような評価を意識して観光事業のほうにも頑張っていただきたいと思うのですが、担当課の商工観光課長いかがお考えでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

観光面で誘客を図るということは当然必要なことでございまして、町外のお客様に対してですね、波佐見町のイメージをどう持っていただくかというのが非常に大事かなというように思っております。

波佐見町はやはり、波佐見焼のイメージ。いわゆるカジュアルリッチというふうなところのイメージを前面に打ち出してこれまでやってきたというようなことで、そこから若い女性などに遡及してですね、若い方が波佐見町にお越しいたく機会が非常に増えてきているというような状況もございますので、そういった方々に波佐見に住んでもらいたい、住みたいと思っていただけるような、そういったところにつながるような施策の方向性はあってしかるべきだなというようには思っております。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

先ほどの表の中で波佐見町がランクインしているのが一番下のところにあります。防災の３位は東彼杵郡波佐見町でしたというようなかたちで防災については県内で３位というようになっております。

本町も行政サービスとかあるいはにぎわいなどについても評価してもらっていいのではないかと思うのですが、今回ですね補正予算でもありましたホームページの見直しですね。こういったものの情報発信などもっと分かりやすい、見やすい、発信できるような内容になろうかと思っております。

このような取組がアンケート結果も上位にランクインしていくものと思っております。ぜひこのアンケートの結果を受け止めて、ほかの市町に対して本町の強み、弱みを研究して、意識して、行政サービスなどに取り組んでいたきたいと思っております。本町の魅力度アップを発信してですね、移住定住者の獲得に努めていただきたいなと思っております。

これでですね１つ目の住みよいまちづくりについての質問を終わりたいと思います。

続きまして２つ目のですね、ふるさとづくり応援寄附金及び基金の活用について、質問に移りたいと思います。

まず、ここ10年間の寄附金の推移なのですけども、先ほどの答弁でもありましたけども、私ですねすいませんけど通告では平成24年度と言っておりましたけども、大きく変わったのが答弁のありました29年度から大きく増収しております。

令和３年度のピーク時には約20億円と寄附金がございますが、その後若干ではありますけど、下降ぎみに推移をしているような状況でございます。今後もこういった減収の推移をたどっていく方向なのか、そういったところはどのようにお考えでしょうか。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

今後の推移という予測というところでございますけども、令和３年が一番ピークになりまして、このときにはコロナもありまして巣籠もり需要の中で御家庭で食事をされる機会が多かったということもあって、そのときに器なり何なりをちょっと代えて、雰囲気を変えていこうという傾向があったと思われますので、そのときにはさすがにやはり波佐見焼のほうがかなり出ておりました。

その後コロナが５類になりまして、外食が一気に盛んになってきたというところになってきますと、やはり家庭でお食事を皆さんで取らとれるととられるときも少しこう、外食が増えてきたりすれば、やはり焼き物の部分がですねちょっと若干落ちたのじゃないかなと思いますし、何分焼き物は壊れない限りは代えないようなものでございますので、やはり令和３年にかなり買われたのではないかなと思っております。

ふるさと納税の焼き物は工芸品のほうに分類されるわけですけども、その工芸品というのが大体全体の0.5%。50億円程度ということでございますので、その中で波佐見焼のほうがやはり15億円か17億円分を占めているということであれば、やはりその部分のシェアでいけば30%を超えるようなところでございますので、知名度はしっかりアピールできているということもございますので、そう急激には落ちては行かないというところもございます。

しかし現状がやはり物価高で、どうしても食料品や日用品のほうに行く傾向があるというところを加味すれば、若干下がっていくのではないかとは思うのですけども、これも景気の回復次第では、また戻っていくのではないかというところもございますので、ちょっと、ここ数年は減少気味に行くのではないかという分析はしております。以上です。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

そのまた新しい対策としてですね、やはり答弁でございました「ふるさと納税の3.0」がありましたけども、これまで事業者さんの説明会とか、今回広報はさみでも紹介されておりましたけども、「ふるさと納税3.0」の仕組みとか内容について簡単に説明をお願いしていいですか。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

「ふるさと納税3.0」でございますけども、町長答弁にもありましたとおり、新商品の開発などの新たなものをつくっていくということで、起業をされる方を支援するところですけども、この支援の仕方が現在で言えば補助金ですね。総合チャレンジ事業などの補助金でやっているところを、全国ふるさと納税を活用してクラウドファンディングのほうでやってはどうかというところでしております。

その商品の魅力なり、開発する商品の魅力の利用ですね。前面にアピールしまして、皆さんのほうからふるさと納税として寄附をいたいて、そのうちの約半額ですね。50%の目標額とい

うのを設定しますので、目標額に到達した段階でお渡しして事業を開始していただく。あるいは商品を作り始めていただくというような、簡単に言えばそういうシステムでございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

説明会等されたと聞いておりますが、事業者さんの反応はいかがだったのか。あとどれくらいの事業者さんの反応、問合せがあっているのか。また、窯業界以外の業者さんも、そういったお考えをされていらっしゃるのか。そういったとこちょっとをお尋ねします。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

企業さんを集めまして説明会をやっていたのですけども、ちょっと前までに聞いておりますところは、問合せとして４事業者さんが、お見えというか問合せがあっておりまして、いくつかは実現可能じゃないかなというところまで今きております。

窯業以外というところは今のところちょっとまだいないというところでございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

ぜひですねこのふるさとづくり応援寄附金のですね、減収とならないようにですね、増収せめて現状維持をですね、できるように努めていただきたいなと思ってます。よろしくお願いします。

それでは次に寄附金の目的とする、５つの事業の寄附金額と活用金額についてお尋ねしていきます。

これはですね、これまでの寄附金額と活用額の累計でございます。内容を見てみますと、ふるさとを元気に楽しくする活動に関する事業ということで、28億円で割合的には27％ですね。それに対して活用額が７億円で割合的に18.5％と。未来に伝えたい伝統文化の保存整備に関する事業につきましては、11億7,000万円の11.2％に対して1.6％の活用額ですね、約6,000万円。懐かしい景観新しい町並み整備に関する事業につきましては、寄附額が６億7,000万円、6.4％に対して活用額が８億2,000万円なのですね。活用額の割合にしても21.4％。次世代を担う子供たちの健全育成に関する事業におきましては、40億3,000万円で38.6％寄附を頂いておると、活用額が12億円と。あとその他町長が認める事業として17億4,000万円、全体の16.7％で活用額が10億円と。これが27.1％となっております。

内容を見てみましてもやはり今、町長からも答弁ありましたとおり、寄附者の意向に従って活用を進めていくというようなことは、これまでも何回も答弁をいたいているところなのですが、やはり見ても分かりますとおり、やはり大きなふるさとを元気に楽しく活動する事業に約

27％ですね。一番多いのが次世代を担う子供たちの健全育成に38.6％をつぎまして、ふるさとを元気に楽しく活動する事業で27％ですね。それとあと未来に伝えたい伝統文化の保存整備についてもですね11.2％。この３つを足せば約76.8％。４分の３がこういったところに使ってほしいというところなのですが、あと新しい町並み整備に関する事業と、その他町長が必要と認める事業。これ6.4と16.7ですので23.1％。それに対して活用額が先ほどのふるさとと未来と次世代を足せばですね。これが活用の額の割合が51.5％で、あとの懐かしい景観新しい町並み整備に関する事業とその他町長が必要と認める事業。これも48.5％とほぼ半々の割合になっているのですが、やはり寄附額の割合と、やはり活用額の割合というのがある程度こう、同等であればですね寄附者の意向に従って活用しているというところは見受けられるのですが、この結果この内容を見てどのように感じられるかちょっとお伺いします。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

先ほどの表は、あくまでも今まで活用した額の割合でございますので、寄附額からすればまだ基金に残っているというところでございますので、申し上げるとすればこの目的に該当するような事業をまだ模索中といいますか、考えておりまして、なかなか実行に行けないというところではないかなと思っております。今後におきましても各課、各事業を担当する所管課のほうからも、すばらしい案が出てくるのじゃないかということも期待しておりますので、この割合は現状ではこうですけども、今後また変わってくるという可能性も含んでいるというところで御理解をいたきたいと思います。以上です。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

この質問はちょうど１年前もこの基金について一般質問をしているわけなのですが、主な活用事業を見てみましても、この懐かしい景観、新しいまちなみ整備に関する事業として中身を見れば町道の改良舗装、維持補修、桜づつみの路面改修の活用ということになっているのですよね。それとその他町長が認める事業。この大半もですねほとんどこの事業に組み込まれている、ところなのですよね。

６年度の当初予算の内容を見ましても、まち町並み整備事業、２億5,220万円の予算組まれていますけど、この懐かしい景観新しい町並み整備に関する事業で１億3,220万円と、その他町長が認める事業として１億2,000万円。やはりほぼほぼですね、この２つのまちなみ整備について約半分。さきの48.85％。ほぼそういったものがですね、町の整備事業。あるいはその他の町長も認める事業というのは、これだけじゃなくしていろんな自治会の要望とか、そういったものも含まれていますので全てがそういった整備じゃないのですが、そういったところで、こういった整備に今の表でも見られたとおり、半分近くが整備に関する事業に使われているような状況でございます。

そのほかの事業についても、国の補助事業に乗っかって町の負担分をこの基金を活用しているような事業が結構あるように見えるのですが、先ほどありました活用額の総額が38億3,950万円あるのですが、これまで町単独でこの基金の活用の目玉となった事業というのはどのようなものがございますか。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

これまでの基金の活用の中では、歴史文化交流館の整備事業にあった金額が一応目玉ではなかったかなというふうに思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

先ほどこの基金を活用した目玉の事業としまして、歴史文化交流館の事業ということでございますが、38億円に対してこの基金の活用っていくらになりますか。先ほどの交流館の。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

申し訳ございません。ちょっと過去の数字を持ち合わせておりませんので、できれば後ほどお答えさせていただければと思います。以上です。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

それでは次に行きますね。先ほど答弁で新たな取組として「ふるさと納税3.0」の説明がございましたけども、内容的にはやはり寄附者がですね、応援したい事業者さんの返礼品の開発にクラウドファンディングをするというようなかたちなのですが、８月13日の新聞の記事なのですが。これですね。　ほかの自治体で「返礼なくても寄附１億円超」とした見出しでですね、これ長野県の取組が紹介されておりますけども、ちょっと見づらいですけども。

例として酒づくりに携わる若手育成と、絶滅危惧地のライチョウの保護とか。あと返済不要の給付型奨励金として、ふるさと納税の紹介が載っているようなのですが、こういった返礼品がないクラウドファンディングの取組については、本町のはどのようにお考えなのかちょっとお伺いします。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

こちら長野県の取組で多分ライチョウは特別天然記念物かなにかで絶滅危惧種なのですよね。こういったものを守っていくということは、返礼品はもちろんないということですけども、国、自然を守るということであれば、そういった返礼品はないというのが普通でございますので。そういった自然をずっと継続していただくとか、いうような目的であれば、こういった返礼品なしの部分もあるのではないかなと思っております。

あと酒づくりとか地場産業でしょうかね。そういったところの人づくりをするためのというところですが、これは多分市とか自治体レベルになってくれば、なかなか難しいのかなと思いますけども、これは県をあげてやっていらっしゃいますので、こういったかたちをとられたのではないかなと思っておりますけども、本町の場合で言いますと返礼品なしでいいますと災害等の寄附などはやっておりますけども、今のところこういった礼品なしでの寄附を集めるというのであればちょっと難しいのではないかなというようには思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

本町においても町民からの結構要望があっております図書館とか、あと総合運動公園とまではいかなくても、野球場を中心としたですねスポーツパークなどの建設整備に関する事業をうたって、ふるさと納税の仕組みづくりに取り組んではいかがかなと思っております。

図書館においても本町の学力低下の要因として読解力の不足があげられております。本に親しむとかやはり勉強する環境づくりと、そういったものを整備すれば学力向上にもつながると思うのですが、また野球場を中心としたスポーツパークの建設においても、これまでも何回も申してきましたけれども、もう随分前から町民の声も多く、先輩議員の方々も訴えてこられて来ましたけども、財政的な問題でこれまで至っておりません。

野球に関してはこれまでなんら実績がなかったらここまでは言ってはこないのですが、やはり毎年、毎年、学童野球、中学校野球と県内で優秀な成績を収めております。九州大会、全国大会にほぼ毎年出場して頑張っております。また波佐見高校の野球部もしかりですけども、みんな野球関係者みんな頑張っております。

このようにですね図書館とかですね、そういったスポーツパークの建設、整備に関する事業として、特定したふるさと納税の仕組みづくりを担当課の教育委員会としてはどのようにお考えですか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

これまでにもおっしゃったように、スポーツ施設あるいは図書館の建設につきまして多くの要望を頂いているのは、事実でございますし、恐らく大きな効果があるのだろうと思っております。ハード面の充実というだけではなく、私たちとすれば子育て支援、あるいは教育支援に関わるようなソフト面の充実も含めまして、教育委員会としての願い、思い、計画等々につきましても、それを整理し担当課と協議をしながら、よりよい活用につなげていきたいという思いを強く持っておりますが、ここでできる、できないということはなかなか申しづらいところですが、今そういう状況で担当課とよりよい活用について協議を重ねているところでございます。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

そうですね。まずは検討、研究を重ねられてですね、やれる方向を見いだしてやはり町長部局にも提案のほうをしていただきたいなと思っております。

それと、この目的とする先ほどの５つの事業もですね、今年度も当初予算の概要を見てみますと、今年もう約８億円ですね、７億9,600万円の事業活動を計画されております。

１つ目のですねやはりふるさとを元気に楽しくする活動に関する事業、この中にも５つぐらいあるのですよね。衣食住の促進事業、波佐見ファン拡大事業、ＳＤＧｓの推進事業、窯業振興事業それと畜産業の振興事業。また中小企業小規模事業者の支援事業というような。

先ほどの衣食住の促進事業についても中身を見ますと、定住奨励金ですね。リフォーム支援３世代同居近隣促進によるといったように、またこの中にも10個ぐらいの事業があるのですけど、全部で細かな事業名が18個あり、その中にもいろんな事業があるというようなかたちで、本当多様にわたっての基金の活用になっているのですが、こういった事業、全部でどのぐらいの事業にこの基金を活用されているのか。ちょっと分かりますか。数多くてちょっと。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

このまず５つの事業の目的を大分類としますと、その下の中分類の事業としては、大体当初予算で18事業あります。18事業が中分類となると、その下の内容等小さな事業といいますか、それを構成する事業といたしましては81事業ございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

そうですね、81事業に対してふるさと基金のほうを活用されているというようなことですね。その活用事業の内容についても、やはり毎年とか３年あるいは５年程度で、見直すと答弁いたしておりますけども、やはり中には継続事業とか、あるいは本来自主財源でも賄っていいものもあろうかと思うのですが、その内容の精査はどのようにされているのかですね。またいろんな事業を小出しするという活動じゃなくして、もっと事業を絞って特化した大胆な事業として活用していただきたいと思うのですがいかがですか。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

事業をするに当たっては毎年振興実施計画で事業の見直しをやります。それから予算を組むときの予算査定をやりますので、そういったときに事業の見直し、事業の検証、それから効果などを見ています。

それはふるさと納税を使った事業は基本的に継続的な事業には使っておりませんので、期限が来ればもうここでというところなのですけども、そこでちょっとまだ成果があらわれてないとか、もう少しちょっと伸ばしたいというところであれば、そこは予算査定なりでちょっと検

討を加えているところでございますので、先ほど言いました81事業についてもですね、毎年見直しを行っております。

令和６年度は81事業でございましたけども、前年度につきましては、もうちょっと少ないとか。来年度事業がどれぐらいになるかというところもありますし、増減がちょっとしますので、そういったところで見直しはきちんとやっているというようなところでございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

そもそも基金の性質として、ある目的の事業に対して基金を設立してですね。積立てて活用すると。そういったものと考えてはいるのですが、例えば庁舎建設も一緒ですよね。やはり庁舎をつくろうという目的の中で、基金を設立して積立てて活用するというような感覚でいるのですが、そのほかの基金についても大体一緒と思うのですが、その考えからいくとやはりはっきりとした活用目的があってもいいのかなというように思っております。

先ほども言いましたけども、今の81事業におきましても、中には財政調整基金でも活用もできるのではないかなとは思いますし、やはりこのふるさと応援基金の活用内容を見ましても、財政調整基金の特別版みたいな感じの活用になっているのではないかなと思うのですよね。

これまで余剰金については庁舎建設の基金に組み込まれておりましたけども、庁舎建設も落ち着きましたので、余剰金は去年の答弁では町債の返済に充てていこうというふうな答弁もいたいておりますが、やはりそういうふうなところもありますが、財政調整基金にも繰入れて今このふるさと基金で活用されている事業についても、そちらのほうで活用するとか、そういうような考えはないでしょうか。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

今のところは減債基金のほうに積立てを行って、少しでも借金のほうを返していこうかというところで今やっているような状況でございます。

あと財政調整基金につきましては継続事業を継続的なものにつきましてはですね、一旦それを充てておりますし、そういったものに使っていくべきというところもございますし、あとは災害とかがあった場合には一気にそれを使うというようなところもございますので、ある程度は保有しておく必要もあるというところをまずは御理解いたきたいというところでございます。目的に沿って積み立てるべきじゃないかということであれば、基金を統廃合いたしましたので。公共施設等整備基金ですかね。というのがございますので、なにか公共施設等をするのであれば、そちらのほうに積立てていくというようなことになろうかと思います。以上です。

○議長（百武辰美君）　福田議員。

○７番（福田勝也君）

寄附者の意向なのですが、ふるさとを元気に楽しくする活動に関する事業と、次世代を担う子供たちの健全育成に関する事業。これが大半ですね。やはり27％と38.6％ですね。これを合わせますと65.6％、約７割弱がこういったものに活用していただきたいというような寄付者の方の意向でございます。

それで現状のこの５つの事業をですね、ちょっと私なりにちょっと考えたのですが、基金の特別な活用として、例えば１つ目としてですね、町道の整備や自治会活動の要望に対する事業。２つ目が基幹産業である窯業、農業、商業の発展に関する事業。

３つ目として人口交流による観光事業に関する事業。４つ目としましては、次世代を担う子供たちの健全育成に関する事業のその１として、子育て支援人材育成や教育文化に関する事業。その２として図書館やスポーツパークなどの建設整備に関する事業、５つ目として高齢者に対する福祉向上に関する事業。６つ目としてその他町長が必要と認める事業と。こういったような具体的にまた投資的な活動に、事業としてこの寄附金の目的とする事業の内容を見直す考えはないでしょうか。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

ちょっと答弁する前にですね、ちょっと若干訂正がございまして申し訳御座いません。先ほど基金の部分でですけども、公共施設整備基金はちょっとできておりませんので、まだ今のところございませんでした。すいません。

それからちょっと目玉としては歴史文化交流館といいましたけれども、ふるさと創生基金のほうでそれをやっておりましたので、目玉となるのは道路改良をやったというところが一番大きいかなと。あとはＤＸ関係のほうに使ったというところでございます。

今の質問でございますけども、目的をさらに細分化するというようなところでございますけども、今でも中分類としてこの中でやっておりますので、特に条例等の改正等までしてそれを細分化する必要があるのかというのは、ちょっと疑問も残ると。疑問がちょっと残ります。

あまり細分化し過ぎても、これは寄附者の方がどれを選ぶというようなところで、あまり選ぶ項目が多過ぎても、何やろうというとこちょっと嫌がられるようなところもございますので、やはり選んでいたく部分については５分類ぐらいがちょうどいいのではないかなというようなところもございます。

ですので、言われることにつきましては縷々検討いたしまして、必要であれば中分類の中に入れていくというようなところで検討させていただきたいと思います。以上です。

○議長（百武辰美君）

以上で、７番　福田勝也議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。15時30分より再開します。

午後３時20分　休憩

午後３時30分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、５番　田添有喜議員。

○５番（田添有喜君）

皆さんこんにちは。本日最後になりました。通告に従い質問を行います。

教育行政について。

学校における働き方改革の目的は、教師のこれまでの働き方を見直し、教師自身の授業力を磨くとともに、教師自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになることである。

しかしながら、働き方改革が進む中、部活動の地域移行をはじめ、学力向上への取組や不登校対策など教育界が抱える課題は山積をしております。

そこで、次のことを問います。

１．学力向上について。

（１）今年度の県学力調査及び全国学習状況調査の結果は、どうだったのでしょうか。

（２）本町の課題は何でしょうか。

（３）昨年度の反省をどのように活かし、改善を図られたのでしょうか。

２．不登校対策について。

（１）今年度の不登校の児童生徒数はどの程度なのでしょうか。

（２）町として、どのような取組を行い、改善を図っておられるのでしょうか。

（３）町として、不登校ゼロを目指す取組をどのように考えておられるのでしょうか。

３．アレルギー食への対応について。

（１）本町の食物アレルギーの児童生徒数は、どのくらい存在しますか。

（２）食物アレルギーで悩んでおられる保護者（児童生徒）の声に、どのようなものがあるのでしょうか。

（３）町として、食物アレルギーへの対応を今後どのように考えておられるのでしょうか。

以上、壇上からの質問を終わります。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

５番　田添有喜議員の御質問にお答えいたします。

教育行政について。学校における働き方改革の目的は。

教師のこれまでの働き方を見直し、教師自身の授業力を磨くとともに、教師自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになることである。しかしながら働き方改革が進む中、部活動の地域移行をはじめ学力向上への取組や不登校

対策など、教育界が抱える課題は山積している。そこで次のことを問う。

１．学力向上について

（１）今年度の県学力調査及び全国学習状況調査の結果は、どうだったのか。というとのお尋ねでございますが、県学力調査、全国学習状況調査ともに毎年受験をする児童生徒が変わり、出題内容も変わりますので、前年までと単純に比較することはなじみませんが、今年度は平均正答率において、昨年度以上に厳しい結果となりました。

まずは県学力調査についてですが、小学校は国語、算数ともに県平均より８ポイント以上低い平均正答率でした。なお中学校は国語、数学ともに県平均を上回りました。

次に全国学習状況調査結果ですが、小学校は全国平均より国語、算数ともに６ポイント近く低く、中学校も今回は国語、数学とも５ポイント近く低く残念な結果となりました。

（２）本町の課題は何か、とのお尋ねございますが、この結果を受けて各学校でも教育委員会としても分析を行っております。知識理解の観点から言えば、漢字力や語彙力、思考判断表現の観点は読解力と書く力。さらに学びに向かう力の観点では最後まで諦めない。課題に意欲的に取り組むことに課題があることが分かりました。

そのことにより、学力正答率分布の２コブ化が見られ、低位の部に属する児童生徒の割合が正答率上位の市町より高くなっています。低位、中位にいる児童生徒の学力の底上げが最大の課題であると考えております。

（３）昨年度の反省をどのように生かし、改善を図ったかのお尋ねでございますが、昨年度、さらには今年度の結果を受けて、学びの基本は学級づくりからの原点に立ち返り、安心安全な学びや生活を保障する学級経営力を高める。読解力、書く力の育成定着を図る授業改善、基礎基本の定着の３点を重点課題として各学校で取り組むことを確認をしております。

昨年度より取り組んでいます年２回の標準学力調査により、子供一人一人の理解状況や課題、さらに変容等が把握できますので、この調査結果等を有効に活用し学力向上、学力保障につなげたいと考えております。

２．不登校対策について

（１）今年度の不登校の児童生徒数はどうか、とのお尋ねでございますが、６月議会でもお答えしたように令和５年度末に県へ報告した本町の不登校人数は小学校で12名、中学校で19名でした。前年度より13名増となっています。

今年度の人数は現在指導中の事案でもあり、詳細については答弁を差し控えさせていただきたいと思います。

ただ進学、進級を機に大幅な改善状況が見られますので、引き続き個に応じた丁寧な支援、関わりを続けるよう学校と確認をしております。

（２）町としてどのような取り組みを行い、改善を図っているのか、とのお尋ねございますが、不登校対策としては、まずは不登校を生まない環境づくりや、早期の初期対応の徹底を基

本にしています。その中で、不登校傾向や不登校事案が発生した場合は、各学校で担任を中心に管理職、養護教諭、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどとチームを組み、さらに役場や医療相談機関とも連携をし、該当児童生徒の実態状況、保護者の願いや思いなどを基本に据えた対応係を行うことが、本町としての基本スタンスです。校内や校外における教育支援センター的機能を有する、教室や施設を開設していますが、面談や家庭訪問などを行い、関わりやつながりを絶たないことを最も大事にしております。

（３）町として不登校ゼロを目指す取組をどのように考えているかとのお尋ねございますが、不登校ゼロや学校復帰は、求め続けたい思いではありますが、現状では難しさも感じています。

不登校が始まった理由、続いている理由、常態、関わり方、今後への思いや願いなどが一人一人違いまし、何より「学校に無理していかなくてよい。」登校刺激よりも本人の意思尊重といった不登校に対する考え方、捉え方も大きく変わっています。

もちろん社会的自立につながる支援を大事にしながらも、私どもは該当児童生徒の学校復帰や進学、進路保障についても関わり続け、学校を中心に専門機関や関係機関との連携協働を図りながら丁寧に対処していきたいと考えております。

３番．アレルギー食への対応について

（１）本町の食物アレルギーの児童生徒数はどのくらい存在するのとのことでございますが、アレルギー有症者として、令和６年７月１日現在で確認、報告している人数は小学校で47人。中学校で35人となっております。

（２）食物アレルギーで悩んでおられる保護者の声にどのようなものがあるのかとのお尋ねございますが、町政報告会や学校での面談などにおいて、健康被害、命に関わることなので最大限の配慮、対策を行ってほしい。代替食持参や除去により、本人が給食嫌い、学校嫌いにならないようさらには、それを起因とするいじめ等の発生が起きないこと。代替食を給食センターで調理、提供してほしいなどの意見・要望を頂いております。

（３）町として食物アレルギーへの対応を今後どのように考えているのか、とのことでございますが、命、健康被害に係る重大事案ですので、誤飲、誤植が決して起きないよう過程――本人を含みます。給食センター、学校の３者による事前チェックの徹底。代替食、除去食についての保護者の理解と協力。有症生徒の共有の徹底。配膳や会食時の複数指導体制の徹底、危機管理対応マニュアルの徹底について、学校全体で共通化し、今後も事案が発生しないよう対応してまいりたいと思います。

なお、代替食持参の御家庭の負担軽減のために、食材費の一部補助制度を設け、御利用いたくよう案内をしております。

給食センターによる代替食の提供については、施設や職員体制等の課題もあり、現段階では考えておりません。以上壇上から答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

まず１つ目の学力向上について、質問をしたいと思いますが、教育長の答弁にもありましたように、これまで何度となくこの問題については、私を含め同僚議員も質問を起こしているところです。

今回は、少し具体的に今後の波佐見の子供たちのためにどう進めればいいのか、そういうようなことも含めて質問させていただきたいなと思います。

教育長が話された結果とちょっと違うのですかね。私もいろいろ調べたのですけれども、６年度の小学５年と中学２年生。それから英語については３年生。矢印の下向きは県平均より下、上向きの矢印は県平均より上というようなことです。多分間違っていないと思いますが、いいものもあれば課題を残している教科もあるようです。

次にこれは今年度の全国学習状況調査の結果です。残念ながら波佐見町はプラスの項目はありません。３年続けて全国平均を上回っていないのですね。教育長はそのことについてもお話をされたのではないかなと思いますが。

ただ私が気になったのは、対象学年が違うと教育長が言われたのですが、全国学力状況調査は、中学３年生がやっていますね。県の学力は中学校で言うと２年生がやっています。

この今回の中学校の国語、３年生の国語。これは昨年度の県学力調査では県の平均を上回っていたのです。なのに、全国になったときにプラスがもう消えてしまっている。という、そういうところをやはり十分考えて、これから波佐見町の子供たち。非常に可能性を秘めた子供たちだと思うのですけれども、取り組んでいかなければいけないと思うのですが。このような結果について、教育長はどのように受け止めておられるでしょうか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

まず、もちろん県学と全学の問題内容が違いますのでそこの比較はできないと思っておりますが、議員お説のとおり県学の中に段階では県の平均よりも上回っていた子供たちが、中３になって全学では低下をしていることについては、私ども分析をしながらこれは大変重たい現実ではありますので、なぜという部分を今学校を中心に私ども、そして学力向上推進委員会の中で研究・検討を行っております。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

なぜ他町のデータを出しているかというと、他町はやはり２年生の県学力調査をした結果はですね、全国学力調査に出ているのです。だから先ほど言ったように、中学２年生のときの国語は県学力では平均を上回っていたのに、なぜ本町にはこの全国学力では、平均を上回らなかったのかということを言っているわけですので。やはりそこのところは、しっかり受け止めな

いと、波佐見町の学力向上に向けての取組、いろいろなさっていると思います。それで成果は出ていると思うのですが、そこのところを変えない限り、ずっと同じような結果。学校教育に対する支援はもう本当他町と比べたら、相当の支援をしています。もう誇れるところですね。

だから、あとはどうやって結果を出していくのか。やはりそこのところを、今回のこの質問で少し教育長と課題を共有しながら、今後の方向性について提言ができればなと思っています。

全国学力学習状況調査。これは国ですね。２台弱点ということで教育長も本町の子供たちの実情について御説明されました。１つ目が説明力の弱さ。２つ目が批判的思考力の弱さです。

このような課題について、答弁もなさったかもしれませんけれども、今後さらに波佐見町の子供たちの学力を上げるために、この２大弱点。こういうものに対して、教育長自身急な質問で申し訳ないのですが、どのような具体的な取組が効果的だとお考えですか。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育長（森田法幸君）

まずもって先ほど本町における学校教育活動に対する支援の充実について、県内でももう間違いないと思っております。ありがたいことに、様々な施策を打っていただいて、子供達にとっての教育環境は県内に誇れるものだと思っておりますので、改めてこの数値がなかなか併用しないことに対して、疑問と自分に対する責任なり、学校としての課題を今共有しているところであります。

特に思考力、説明力等の不足につきましては、毎年の本町の課題であろうと捉えております。そういう分析をしております。各学校その改善のためにＲＳＴ――読解力のテストを意識した授業改善や、書く力を育成されるような作文力等々の構成につながるような取組なども行われていると思っていますので、まずは授業改善が一番だと思っておりますし、基礎基本の徹底も申しました。あるいは家庭学習の充実等々、様々なところの連携を図りながらやっていかなくてはいけないと思っておりますので、とにかく、この２つのなかなか定着が見られない説明する力と、自分の思いを書いたり、まとめたり、批判をしたり、そういう力がなかなかついていない現状がありますので、まずは授業改善。そして補習的な色合いの朝のスキルタイム。家庭学習との連携なども図っていかなくてはいけないと思っておりますし、ＡＩドリルを上手に活用するということも方法としては多分あるのだろうと思っております。各学校の改善の分析と、その具体的な手だてに大いに期待をしておりますし、協力するところは積極的に協力をしてまいりたいと思っております。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

国は学力を育てる鍵として、課題解決型の事業と対話型の事業。先ほど教育長の答弁の中に事業改善というような回答がありましたけれども。本町では、この課題解決型事業または対話

型事業、事業展開にどのような具体的な取組をなさっているかお尋ねをしたいと思います。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

資料を作成するために、各学校の校長にそれぞれの学校の様子の確認をしました。中学校のほうからの回答として、学んだことを生かしてまとめたり整理したりする力に課題がある。話したり、書いたりすることによるアウトプットが課題である。

その前提条件として問われていること。相手が伝えようとしていることを聞きとったり、読み取ったりすることが正確にできていない可能性があるということが、恐らくでもこれは各小学校も同じような分析が行われておりますので、中学校ではこういう課題を克服する、学び合いの活動を各教科で行われておりますし、小学校においても授業の展開の中で、１人で考える時間、お友達と意見を交換する時間、全体で共有する時間、そして自分の考えを最後にまとめる時間というように、説明や書く力を育成する授業改善を毎時間行ってはいるところです。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

全国学習状況調査の実施目的、あえて言う必要もないかもしれませんが、確認の意味で話をしますが、実施目的に教師の指導改善が示されています。教師の指導改善。ちょっと厳しいようですけれどもこの点が本町では十分なされていないのではないかなと思うのですけど、教育長はどうですか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

答弁の中にも、本町の具体的な施策として最も大事なのはやはり、教師一人一人の指導力だと感じております。そのためにも答弁しましたように学級経営力。やはり子供との関係づくりであったり、自分の教科ごとの指導力の向上であったり、本来の担任として、教員としての資質向上、研さんが何より絶対であるということは私ども改めて感じをし、学校のほうにもその旨頑張っていきましょうということで話をしているところです。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

水は上からしか流れませんので、そういう意味では本町の課題解決にあたり、教育長の発信力というのは非常に大きいのかなと思います。

モニター５をお願いします。

この間５月のいきいき大学ですかね、ある小学校の校長先生も話をされましたが、教育長は教育のまち波佐見。教育で選ばれる波佐見。というようなことで私ども小学校頑張っておりますというようなお話でしたが、教育長具体的にどのような教育のまちを目指しておられるのでしょうか、お尋ねをします。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

答弁の前に先ほど議員が水は上から云々という、教育長云々ということをおっしゃったのですが、私は基本的には学校の思い、学校の積極的な自走を支援をするという学校が一番やりたいことをやってもらう。そしてそのために力を発揮してもらう。成果を上げてもらうために、教育委員会としては支援を充実していきたいというのが私自身の考えではあります。

教育のまち波佐見につきましては、これはもうこの場でもそうですし、校長会、教頭会、学力向上委員会等で具体的な姿としては申しておりませんが、波佐見に住めば賢くなる、優しくなる、たくましくなる。この３つの力が育成できるまちとして選ばれるまちづくり。教育のまち波佐見というのを、それぞれの学校で具現化を図りながら、そして町としても精いっぱいサポートをしながら発信をしていきたいということを思っております。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

熱くなる必要も何もないのですけど、やはり水を上から僕は流れると思いますので、やはり各学校の特徴、校長先生の経営。それを尊重するのは当たり前だと思うのですが、私が言いたいのは、それでやってこられたから今なかなか学力に結果が出ていないと。厳しく言わせていただければ。僕はそう思っています。そこを変えないといけないのではないかな。

９月から部活動も休日は地域で行っていただきますということを、前にお話をされました。部活動の地域移行も教職員の働き方改革の目的の一つ。学校教育の質の向上というのがうたわれています。

今こそ年度の途中ではありますけれども、地域にお願いするこのけじめのときに学校側としては、初心に返りながら、研究はされていると思いますが、学力向上について取り組む時間ができたのではないかなと思っています。

そういう意味で、今後教育委員会及び各学校において、先進校あたりを積極的に視察をしていただきながら、本町の課題解決について調査研究をすべきではないかなと思いますが、もう既に先進校の視察等があれば、その旨をお伝えしていただければと思います。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

とにかく成果を上げていないことは事実でありますので、大変責任を感じておりますし、改めて学校４校とチームを組んで、改善につなげていきたいということを強く思っております。

先進校の視察につきまして、町教委が主導する形の部分については今のところ計画をしておりませんが、各学校でそれぞれの課題に応じた、先進校種選ばれて視察に行くという計画は伺っております。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

それでは１つ目の質問は終わりまして、２つ目の不登校対策についてです。モニター６をお願いします。

もうこれも報道されておりますので、今回この質問したのは不登校をなくすための取組、何かできないかなということを、ちょっとお時間をいたいて今日議論を深められたらなと思っております。

教育長の答弁の中にもありましたが、無理やり登校させるとか学力のことばっかり心配していても、よい結果にはつながらないというようなことはいろんな書物にも書いてありますが、全国の不登校数約30万人。昨年の10月21日現在の統計ではありますが、少子化と言っておりながら不登校の子供たちは増え続けています。

もう教育長も目にされたかと思いますが、昨年３月に文部科学大臣メッセージということで、

１．不登校の児童生徒、全ての学びの場を確保し、学びたいと思ったときに学べる環境を整えます。

２．心の小さなＳＯＳを見逃さずに、チーム学校で支援します。

３．学校の風土の見える化を通して、学校をみんなが安心して学べる場所にします。という文部科学大臣の発信があります。

また今年度になりテレビ、新聞等で2025年度より中学校に不登校いじめに対応する教員を1,380人配置すると。これが長崎県にどのくらい流れてくるか分かりません。でももし長崎県、また波佐見町に配置されなかった場合には、国がその動きがあるので町が積極的に国の支援を受けるまでは、何らかの取組をすべきではないかなと思っています。

そこで非常にデリケートだというようなことなのですけれども、教育長にお尋ねをしたいのは不登校ゼロ。非常に難しい部分もあるかもしれませんが、どのようなかたち取組をすればこの不登校の子供たちが減少していくとお考えでしょうか。お尋ねをします。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

国が発表したものの前に、本町では今年度から中学校には学習室専任の加配の教員を県のほうにお願いをしていただいております。大変教員不足で厳しい中にあっても、本町の依頼、お願いを受けていただいて、専任の教員を配置しておりますし、支援員をそこにもつけておりますし、特別時間割を組みながら各学校ともそういう対策は行っているところです。

不登校ゼロも大変厳しいと思います。以前の私たちが教員の頃とはもう圧倒的にやはり違う時代になっていますし、不登校ゼロを求めて続けたい数値ではありますけれど、今の子供たちや家庭の現状等を見たときに、不登校ゼロというのはなかなか難しい。先ほど答弁しましたように、始まった理由もはっきりしない部分も多々あります。

そしてそのあと、始まった理由を改善したとしても続いてる理由がそれとまた違ったものが出てくることもありますし、不登校に対する考え方、捉え方、あるいは協力の仕方等々にも様々なパターンがありますので、これをやれば不登校がなくなるということは一切ありませんので、少なくとも子供の今の実態や、願い、保護者の思い等々とこの子の場合はどういうようなケア、対応、配慮をすれば、よりよいものにつながっていくかということを本当に個別個別で研究、協議をしながら、学校を中心に関係機関と連携をして対応しているのが現状であります。

なかなか難しいのが私たちも肌をもって感じておりますし、学校の担任も苦慮しているところであります。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

親として不登校になった子供を育てられたそういう立場、または私ごとですが私は、初任者で、その当時は珍しい登校拒否という言葉を使っておりましたが、その担任をしました。もう毎日、何をしていいか分からず。児童相談所に行って校長、私、父親、母親、心理テストをされて誰に原因があるのだろうかというような、そこまでさせられました。そこから逆に今では不登校という言葉が流行っていますけれども、それに関心を持ちました。

先般こういう本に出会いました。「不登校の９割は親が解決できる３週間で再登校に導く５つのルール（小川涼太郎著　PHP研究所）」平均18日間で再登校率90％というようなことで、非常に関心がありまして読ませていただきました。教育長が答弁されたように、本当にゼロにするのは難しいでしょう。しかし、それを言っていても先に進まないので私はゼロを目指しましょう。ということで今回質問をさせていただいてます。

これはこの本に書かれていたところです。私も教員上がりで、責任を親のせいにしたらもう負けだよ。学校で何かできることを考えないといけないということをよく先輩から指導されました。だからあまり親、家庭のことは話をしたくないのですが、この本の中には家庭の環境が変わる、学校の環境が変われば結果として学校に行ける。２段目は家庭の環境が変われば、学校の環境が変わらなくても子供は学校に行ける。３段目は家庭の環境が変わらなくても、学校の環境が変われば行ける。４段目はどちらも変わらなければ、子供は再登校できませんよ。というようなことを書かれておりました。

教育長この表を見て、どのようにお考えですか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

今初めてこの表を見ましたので、あくまでも一つの教育資料としての提供だと思っております。それと、今の波佐見中あるいは波佐見町内３小学校の子供たちの実態が、イコールになるかについてはなかなか難しいところもあると思っております。

不登校ゼロ目指さないと言ったつもりはありません。目指したいです。目指したいのですが、なかなか厳しいということと、やはり私たちは教育関係者ですので、学校のかけがえのなさというのは人生においてとても大きい時間だということを思っておりますので、何とか登校、学校復帰を目指しています。

ただ究極的に社会的自立が求められるのであれば、実際に中学校時代に不登校を経験している子が、今卒業後に働いている姿を見たときに、これでよかったのだろうなということは思います。ただ、その子に何も関わらなかったということは絶対ありません。私たちはこれもずっと関わりを続けて、最終的に学校には来れなかったけれど、この子は仕事ができるようになった。社会的自立を果たしてるのであれば私たちはそれを認めたいし、頑張ったねって評価をしていきたいと思います。

目の前に苦しんでいる子供や保護者がいらっしゃるわけですから、その子の思いを一番大事にしながら、何が一番ベターな選択肢だろう、対応だろうということを日々研究しながら、関わり続けているのが現状ではないかなということを思っております。

不登校を目指したいのですが、あまりにもその目指すことによって、かえって児童生徒に負担、あるいは保護者への負担、学校への負担等々がないことも求めないといけないと思っておりますので、目指すべき目標、方向性としてはありながらも実態を、そして思いや願いを最優先した対応を今後も続けたいと思っております。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

押さえなければいけない５つの条件というなことでこう書かれていましたので、参考までにお伝えをしたいと思います。もうこれはいつも言われてるところなのですけど、ただ１日10回以上褒めている。なかなか難しい。でもこのことからスタートしていくのかな。

あとはいろいろ書いてありますけれども、まずはやはり褒める教育、認めてあげる。やはりそこが学校現場に課せられた大きな課題だと思います。

その部分をどのように変わっていくのか。学校が変わった、学校が変わることによって仲間が変わった。ああ学校が楽しいところだというようなことを実現していくことが、不登校ゼロへの近道とは言いませんけれども、一つの解決策ではないかなと思います。

そこで実際は教育長近場で、不登校ゼロにした学校があるのですよ。ＮＨＫのニュースや、いろんなところで今話題になってます。佐賀市立東与賀中学校です。不登校がゼロになった。何を行ったか、文科省が対話型の課題解決型の事業をしましょう。ヒントは「学び合い」なのです。主役を子供たちにして、先生は最初と最後しかしゃべらないんです。

こういう取組をぜひ本当に不登校、または学力が一つの課題と考えるならばすぐ近場にあります。でも全国から来ていますので、なかなか予約はとれないかもしれません。もう行かれていたら失礼です。不登校ゼロにしたということで、私は夕方のＮＨＫのニュースで見たのです

けども、もう全国的に注目されています。私の経験もこの「学び合い」です。

教師主導型で昔、私たちは先生が教壇にいて一斉に指導を受けてました。やはりそれはもう古いやり方で、子供たち例えば４人の班の中で、４人の中で分からないという子をつくったら駄目よ、分からない人は聞いて、分かる人は教えて。というそういうやりとり。これで大阪にしろ、品川にしろ、いろんなところで学力向上を成し遂げた。いじめゼロ・またはゼロに近い実績を上げた学校はたくさんあります。

私の手持ちとしては、この東与賀中学校の取組をぜひ教育委員会、校長先生方または研究室等々で訪問されて、何かうちで使えるものはないかなというふうに調査・研究していただきたいと思いますがいかがですか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

先ほどから議員がお説の環境整備といいますかね、やはりそれが一番大事だろうということを思っております。

先日、町内の学力向上支援員、特別教員支援員を集めた研修会、専門会を招いて研修をしたのですが。その中で彼女が言った言葉も、プラスの声かけとスペシャルタイムという。これはもう触れ合いという家族も、学校もそうですが、プラスの声掛けとスペシャルタイムをたくさん与えなさいという環境整備。これが一番の不登校や不適応を示す子供たちへの対策ですよということはおっしゃいました。

そして彼女が言う一番最後に、ペアレントトレーニング――お父様、お母様、保護者のトレーニングももちろん大事なのだけれど、そういう意味ではティーチャーズトレーニング。先生方のこういう視点を持った事業経営、学級経営力の育成はとても大事だということをおっしゃいましたので、４校長に必ず今年度中に、あるいは来年度の早々にこの方を招いて校内研修を図るようにということの指示はしております。

東与賀中につきましては申し訳ありません、存じておりませんでしたので、今頂きましたので、この後校長会あるいは来週開きます学力向上推進委員会の中で、研究主任等も含めて先進校視察ということで、他校の学校がもう計画しているかもしれませんので、状況を見ながら一つの先進校視察の対象として、

注目をしたいと思っております。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

波佐見の町は不登校ゼロに取り組めるまちだと私は思います。ぜひ、最後の教育長が言われた言葉を私も大事にしたいと思います。

次に３つ目の食物アレルギーへの対応について質問させていただきます。これも私ごとで申し訳ございません。私も校長しているときに中学３年生の子供を亡くしました。学校のグラウ

ンドで。心臓に１年生のときにちょっと異常があるというようなことで、中３のときにレントゲンを撮らないとだよ、心電図を撮らないとだよって言われた子供です。10月８日に亡くなったのですが、いや受験のプレッシャーだろうということで予定していた心電図の検査をキャンセルしました。しかし給食を食べて昼休みにグラウンドで遊んでいた13時35分「校長先生、誰々が」そのときにふと思った、もしかすると給食の中にアレルギーの食材が入っていて不整脈によって命を落としたのではないかなと。

そういうことで、今回このことについて質問をさせていただきますが、全国公立小中高に約52万7,000人の子供たち。本町の実情については小学生が47名、中学校が34名というようなことで答弁をいたきました。長崎県には約4,000人。東彼杵郡の小中学校の子供たちの倍以上です。いかに食物アレルギーの子供たちが今増えているのか、今後ますます増えるということです。

まずそこで考えないといけないのは、そこに法律を書いていますが、憲法や教育基本法。やはりその中に教育の機会均等。誰でも平等に教育を受ける。その機会を与えなければいけないという、そこのところを一つ押さえてお尋ねをしたいと思いますが。答弁の中にもちょっとありましたけれども、保護者の対応として今どのようなものをなさっているかお尋ねをしたいと思います。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

議員お説の中学生につきましては、その子は私が小学校時代校長でしたので、私自身も今でも鮮明に覚えております。

保護者の協力につきましては前月に献立表を配りますので、自分のお子様のアレルギー反応を示す食材があるかないかのチェックをまず行っていただいていることが、一番であります。

もちろんそのアレルギー有症者についての面談等につきましても、医師の診断書をもとに給食センター担当学校等々が協議の場を持ちまして改めて確認をした後、まずは前月の献立表によるチェックをし、その中でどうしても代替食の持参等々があれば協力をお願いしますし、本人または保護者の方ほうから強く、状況について間違いがないように指導、支援、声かけというのがあるのだろうと思います。

あわせて先ほど答弁申しましたように、担任プラスαの部分で必ず有症者がいるクラスにつきましては複数体制での配膳、そして給食というのは徹底して行っております。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

教育長の答弁の中に一部補助金ですかね。をしているということですが、金額はいくらなのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　朝長学校給食センター所長。

○学校給食センター所長（朝長哲也君）

今年度から始めた事業でございますけども小学生が月1,000円、中学生で月1,200円を助成しております。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

重複するかもしれませんが私も保護者の声をいくつか聞いております。その中に除去食の対応もないので、メニューの中に一つでもアレルギーの食材があるだけで、そのメニューが食べられなくなる。アレルギーが多い子はほぼ毎日何らかしら持たせる必要がある。毎日お弁当を作る保護者の負担、精神的時間的金銭的など、お弁当を持ってくる行く子供の荷物が増え大変。アレルギーのある子と通常の給食に内容の差が出てくる。全て同じメニューを似せてつくるのはかなり負担。内容に違いが出ることで、好き嫌いではないのかなどいじめや中身外れなどの心配がある。栄養のバランスに不安がある。大事な成長期に十分な栄養がとれているのか心配だ。

今年度から補助金1,000円を一律もらっている小学校の保護者なのですけど、弁当をつくった回数で金額を変えていただけないでしょうか。ここの補助金の一律小学校1,000円、中学校1,200円と先ほどお話がありましたけれども、今保護者の声の中にもありましたが回数が当然メニューによって変わってくると思いますが、そのあたりの補助金の見直し。今年度始まったばっかりですけれども、保護者の声からするとちょっと1,000円では厳しい。もう給食は無償化ということで、県内でも早く無償化の取組をしているわけですね。でもアレルギーの子供に対しては、やはり自己負担をしなければいけないという現実があるのですが、そのあたりの見直しは、今後考えていただけるでしょうか。

○議長（百武辰美君）　朝長学校給食センター所長。

○学校給食センター所長（朝長哲也君）

これは年度から始めた事業でございますけども、そういったアレルギーの方の給食をつくるのが大変だというお声をお聞きしておりましたので、せめてそういった給食費相当部分の助成ができないかということで、始めさせていただいております。

基本的には、栄養教諭が大体児童生徒の状況を把握しておりますので、これにつきまして代替食を毎週１回以上または月３回以上を持参している児童、生徒の方に対して月小学校で1,000円。中学校で1,200円という補助制度を設けて今年度から実施をさせていただいております。

また状況、そういったお声等々ですねあるかどうか聞きながら、今後また検証させていただければというように思っております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

次長が最後に申しましたように今議員のほうからお聞きした保護者の声につきましても、私

どもがまだそこについて詳細を把握しておりませんでしたので、保護者の方の思いを学校あるいは給食センター等と共有をしながら、どのような願い、思いがあるのかということの把握をまず一歩、行いたいと思います。

○議長（百武辰美君）　田添議員。

○５番（田添有喜君）

本当に波佐見の子供たちといいますか、恵まれた環境の中で、私たち大人も含めて、そういう町だから私は波佐見が大好きなのですけど。給食の完全無償化、県内でも注目を浴びるほどの早い着手でした。

であるならば食物アレルギー、食べ物についてアレルギーを持っている子供が小学校で47人、中学校で34人。今後も増えるであろう。ということが想定される中で町として、やはり専用の調理室をつくるべきだと思います。

その経費は必要かもしれません。しかし今、保護者や子供たちの中には、ちゃんと専用の調理室がある市町に変更しようという、そういう動きも本当に悩まれている家庭ではそういう決断をされているところもあります。

やはり選ばれるまち波佐見。教育で選んでもらえる波佐見の町にする一つの施策の一つとして、この専用の調理室を整備すべきだと私は思います。現在長崎市、諫早市、佐世保市、時津町、壱岐市、もうそういうところでどんどんこのアレルギー食についての町としての取組が進んでおります。

一応、質問者の相手に町長も挙げさせていただいておりました。この専用の調理室調理室の建設を、設置をしていただきたいのですけれども、町長の今後の取組についてお考えをお聞きし、私の質問を終わりたいと思います。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

今お示しいただいた、実際かなり人口も大きいですし、それぞれの対応が可能な市町なのかなという思いがいたしました。これが果たして波佐見町ですぐ対応できるのかというのは、若干疑問なところございますが、現状等教育委員会とよく協議をいたしまして、今後どのような対策がいいのか。先ほど80人ほどの何かアレルギーをお持ちの子供さんがいるというのは、80人千差万別だと思うのですね。そうした場合に、この子には適応であって、この子にはアレルギーがない。そういったものがありますので、果たしてそれが波佐見町レベルで対応可能なのかというようなことも十分検討が必要かと思いますので、そのあたりはよく教育委員会と協議をしていたきたいというふうに思います以上です。

○議長（百武辰美君）

以上で、５番　田添有喜議員の質問を終わります。

本日の会議はこれで終了します。明日も一般質問を続けます。

本日はこれで散会をいたします。御起立をお願いいたします。お疲れさまでした。

午後４時28分　散　会

第５日目（９月３日）（火曜日）

議事日程

第１．町政に対する一般質問

澤田 昭則議員

１．災害用備蓄品の購入補助について

２．熱中症特別警戒アラームについて

３．老人クラブ育成と敬老事業について

岡村 真由美 議員

１．波佐見町の水事情について

２．鶴の川橋下流の堰の維持管理について

３．学校プールの地域開放について

前田 博司 議員

１．地域公共交通について

２．教育行政について

濵本 秋人 議員

第６次波佐見町総合計画の基本目標について

脇坂 正孝 議員

１．町政報告会の実施について

２．河川清掃について

３．国民文化祭の本町開催について

第５日目（９月３日）（火曜日）

１．出席議員

１　番	前田　博司	２　番	濵本　秋人
３　番	澤田　昭則	４　番	岡村　真由美
５　番	田添　有喜	６　番	岡村　達馬
７　番	福田　勝也	８　番	城後　光
９　番	横山　聖代	10　番	欠　員
11　番	北村　清美	12　番	脇坂　正孝
13　番	尾上　和孝	14　番	百武　辰美

２．欠席議員

な　し

３．議会事務局職員出席者

議会事務局長	林田　孝行	書記	一瀬　若菜

４．説明のために出席した者

町長	前川　芳徳	副町長	村山　弘司
総務課長	福田　博治	企画情報課長	澤田　健一
商工観光課長	太田　誠也	庁舎建設推進室長	大橋　秀一
税務財政課長	古賀　真悟	住民福祉課長	井関　昌男
農林課長兼 農業委員会事務局長	伊藤　幸治	農林課長参事	太田　克宏
建設課長	本山　征一郎	水道課長	中村　和彦
長寿支援課長	松添　博	子ども・健康保険課長	石橋　万里子
会計管理者 兼会計課長	串島　佳織	教育長	森田　法幸
教育次長兼 給食センター所長	朝長　哲也	総務課課長補佐	坂本　昌俊
税務財政課課長補佐	鶴田　秀幸		

午前10時　開　会

○議長（百武辰美君）

皆さん御起立をお願いいたします。おはようございます。

ただいまから令和６年第３回波佐見町議会定例会第５日の会議を開きます。本日の議事日程はあらかじめ御手元に配付のとおりです。

日程第１　町政に対する一般質問

○議長（百武辰美君）

昨日に引き続き一般質問を続けます。順次発言を許します。
３番　澤田昭則議員。

○３番（澤田昭則君）

皆さんおはようございます。それでは通告に従いまして一般質問を行います。

１．災害用備蓄品の購入補助について。

日向灘を震源とする地震で、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表された。今後、政府や自治体からの情報に応じた防災対応（備蓄等）が必要とされている。

そこで、次のことを問う。

町民が災害用の備蓄品を購入する場合、経済的負担の軽減措置として商品券の発行など、消費生活を補助する考えはないか。

２．熱中症特別警戒アラートについて。

環境省では、令和６年４月24日から「熱中症特別警戒アラート」」の運用が開始され、過去の例にない広域的な危険な暑さを想定された。

情報発表地域では、重大な健康被害が生じるおそれがあるため、自発的な熱中症予防活動を積極的に行い、また、家族や周囲の方にも見守りや声かけ等の行動を促している。

そこで、次のことを問う。

（１）本町において令和３年から現在までの各年における熱中症の救急搬送の状況や推移は。

（２）町民や観光客等が一時的に暑さをしのぐ場として、指定遮熱避難施設（クーリングシェルター）となる利用可能な公共施設や民間施設等を利用する考えはないか。

（３）熱中症警戒における小・中学校の対策と対応は。

３.老人クラブ育成と敬老事業について。

地区の老人クラブごとに定例会や研修会、健康推進等を目的に様々な活動が行われている。また、社会貢献された高齢者の長寿を祝い、各自治会で敬老行事が計画されている。

そこで、次のことを問う。

（１）老人クラブや連合会への運営補助等の状況は。

（２）町の敬老事業の内容と成果は。また、今後の事業計画は。

以上、壇上からの質問を終わります。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

皆様おはようございます。３番　澤田昭則議員の御質問についてお答えをいたします。

１．災害用備蓄品の購入補助についてということで、町民が災害用の備蓄品を購入する場合に、商品券の発行などで、消費生活を補助する考えはないかとのお尋ねですが、近年の災害への対応は、大雨や台風が局地化、激甚化している上、いつ何時発生するか分からない地震にも備える必要があり、行政の組織的な対応に加え自助・共助・公助の考えで地域と一体となった備えが必要と言われております。

本町においては令和５年３月に波佐見町防災マップを作成し、自宅周辺の危険度把握、災害への備え、初期対応等について町民の皆さんへ周知を行っているところであり、その中で災害備蓄品についても明示を行い準備もお願いしているところです。

そこで災害備蓄品の準備を促すため、商品券発行を検討できないかとのお尋ねですが、自宅等でお願いしている備蓄品の多くは、日頃使用されている日用品であり、災害時に限らず使用することもできます。このため趣旨は理解できるものの、災害備蓄品の購入促進の効果は限定的だと判断しています。

また、災害備蓄品のうち長期保存の飲料水や保存食は、一定の価格になるものが多く、個人で購入するよりは、行政が一定のまとまりを持って購入したほうが安価の上、集中的に管理もできるものと思われます。これらの災害備蓄品については、避難場開設の折に住民の皆さんへ提供することも可能であり、また自治会公民館に一定数を備蓄することも今後検討したいと思います。これらを踏まえて、災害備蓄品については、これまでどおり自助の部分として町民皆様へのそれぞれの備えをお願いしつつ、町においても一定数の購入を進め、地域とともに共助・公助として充実を図ってまいります。

２．熱中症経過熱中症特別警戒アラートについて。

（１）本町において令和３年から現在まで、年ごとの熱中症による救急搬送の状況や推移はとのお尋ねですが、佐世保市消防局東署波佐見出張所に確認したところ、波佐見出張所における熱中症の搬送実績は令和３年が４件、令和４年は２件、令和５年は８件、令和６年は７月末時点で２件となっています。

（２）町民や観光客等が一時的に暑さをしのぐ場として、クーリングシェルターとなる利用可能な公共施設や民間施設等を利用する考えはないかとのお尋ねですが、国が示した諸熱避難施設、いわゆるクーリングシェルターの基準は、まず適当な冷房設備が備わっていること。次に熱中症特別警戒情報が発表されたとき、クーリングシェルターを必要としている方々に開放できること。そして、利用者にとって適切な空間を確保するために管理できること。この３点

となっており、クーリングシェルターは町民に限らず、誰でも休息できる施設であります。

本町では現時点で役場を指定しておりますが、幸いにもこれまでに特別警戒情報の発表はございませんので、クーリングシェルターの開設には至っておりません。今後活用状況を見ながら、他の公共施設を対象施設として増やしてまいりたいと考えています。

また施設の開放に協力できる民間事業者も募集しておりますので、今後応募がありましたら、民間のクーリングリングシェルターとして指定をしてまいります。

３．老人クラブ育成と敬老事業について。

（１）老人クラブや連合会への運営補助等の状況はとのお尋ねですが、地区ごとの老人クラブにつきましては、令和５年度に22クラブ2,087人が在籍されており、補助額は175万8,800円となっています。令和６年度につきましては、21クラブ1,957人が在籍されており、166万4,800円の補助金を交付しています。

また老人クラブ連合会につきましては、令和４年度までは56万円を交付しておりましたが、令和５年度から30万円を増額し、86万円を交付しているところです。

なお、東彼杵郡老人クラブ連合会に対しましても、毎年度７万円を交付しているところです。

（２）町の敬老事業の内容と成果は。また今後の事業計画はとのお尋ねですが、敬老祝い金については100歳のお誕生日に花束とお祝い金10万円を贈呈しており、令和５年度の実績は５人、令和６年度の見込みは９人、また88歳の米寿の方には敬老の日に合わせてお祝い金３万円を贈呈しており、令和５年度は93人、令和６年度の見込みは111人となっています。

各自治会に委託している敬老行事については、75歳以上の高齢者１人当たり2,000円を交付しており、令和５年度は2,383人、施設入所や自治会未加入など、町としてお祝いしている方は1,500円分の商品券をお渡ししており241人となっています。

なお令和６年度については現在集計中でございます。

敬老行事は、地域社会における高齢者の尊重と感謝の気持ちを表す重要な機会であり、敬老行事自体が住民の交流を深め、孤立感を抱える高齢者にとってよい機会となっており、地域全体で支え合う意識が醸成されています。

今後も敬老行事を支援し、地域の活性化と高齢者福祉の向上に努め、高齢者が安心して地域で暮らせるよう取り組んでまいります。

なお２の（３）熱中症警戒における小・中学校の対策と対応については、教育委員会から答弁がございます。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

２．熱中症特別警戒アラートについて。

（３）熱中症警戒における小・中学校の対策と対応は、とのお尋ねでございますが、近年、

熱中症対策は学校における重大課題の一つとなっており、５月から10月にかけての教育活動には、十分な配慮と制限を設けて行っています。

具体的には熱中症警戒情報や、熱中症計の数値を基準、目安としながら、適切な空調管理、水分等の補給、屋外活動への注意喚起や制限、屋内活動の中止や工夫、危機管理マニュアルの徹底などを行い、児童生徒や教職員の健康、安全を第一に全教職員で対応対策を行っております。以上壇上から答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

それでは最初に、災害用備蓄品の購入補助についてですけども、一般質問の通告に書いてあります南海トラフ地震が発生したのは、８月８日４時43分に発生しておりまして、もう忘れもしませんけど、携帯が鳴り響いて一斉に各報道マスコミが報道され、史上初の南海トラフ地震臨時情報が発表されました。そのときにまず、町ではどのような対応をとられたのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○７番（福田勝也君）

同じように携帯が鳴動しましたので、すぐテレビをつけました。一方で本町Ｊ－ＡＬＥＲＴと接続しておりますので、Ｊ－ＡＬＥＲＴの通知が町の防災無線を通じて、町民皆様のほうに「地震です」ということで告知ができたものと思っております。

テレビの情報を受けて、実際、町内の震度計等を確認して。震度計振れませんでしたので、引き続き監視をしていたというような状況でございます。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

ありがとうございます。まさに東日本大震災も経験しておりますので、こういう史上初の情報が流れたときにどういう今後、その生活環境が変わるのかなということで、一般の町民の方でも、どういうことから始めたらいいのかということで、賢い方というか、すごい方はもうすぐ買物に行かれておりました。やはり物流の影響をすぐ感じたのか分かりませんけども、常に心の中にそういう備蓄とか防災に対応するという心があるのでしょうね。

そういうことで、私も今回一般質問にしておりますけども、とにかく先ほども町長の答弁にありました自助・共助・公助。確かに自分で守ること。あとは地域で守ること。あとはもう公的な助けを求めること。

で先日も長崎新聞に書いておりまして、備える長崎ということでやはり長崎県の新聞社でも公助のほうに何かこう特集を組まれておりましたけども、公助だけではやはり家庭守れないときもありますので、ぜひ自分の家庭は守りたいということで、まずは食料品の確保ということで今回も提案しておりますけども、とにかく備蓄品と言いましたら、かなりのふだん生活に使

うものが必要でもありますので、取りあえずは水とかありあます。

今回、商品券って言っておりますけどもふだんから、これ買って沢山家に置いておきたいのだけどな。でもちょっとこう経済的にちょっと今日はまだ買えないなとか思われていますので、何かそういうときにちょっと行政の力で何かこう補助をしていただければ家庭でも常にちょっと水を20本でも用意しておこうかとかいう気持ちになると思います。

いろんなこう支援のかたちはあると思うのですけども、地元の商店とか事業所を助けるためにも商品券事業をやっていただきたいと思うのですけど、もう一度町長何か支援をする地域をつなげる形で何か御支援の考えはないでしょうか。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

町長に御指名いたきましたが、私のほうから御回答させていただきます。議員がおっしゃったように、やはりこういった災害等があれば皆さんの気持ち、マインドがそういった備蓄に向くというのは当然のことだと思います。

災害はいつ襲ってくるか分かりません。特にやはり地震のときはいきなり大きな被害が出るということもありますので、議員がおっしゃったように日頃から備蓄を進めることは町としても考えております。

一方でやはり家庭で備蓄をしていただくものについては、短期間、消費も含めて短期間のものが多ございます。長期的に備えるとなると、そこはやはり行政でしっかり担わせていただきたいと思いますので、町長答弁したとおり自助の部分は、そこは各御家庭で備蓄を進めていただきたいというのが私どもの考えでございます。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

今回のこの備蓄ということで、ちょっと町の資料を調べておりましたら波佐見町地域防災計画ですか、６月にも発表されておりますけども。第２部の災害予防計画、第５章備蓄物資、緊急物資の確保計画ということで、災害対策基本法でも住民等の責務第７条においても、家庭での備蓄を促すというか啓発するということになっておりますが、啓発を促すために今までどういう取組をされてきたのかをちょっと参考まで教えてください。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

町長の答弁でも触れましたが、令和５年３月に波佐見町防災マップの作成をさせていたきました。これは波佐見町の町民の皆さんが防災に備える一元的なマップということで、マップと名前はついておりますが様々な情報を掲載しております。

その中で、非常時備蓄品の準備アンドチェックという項目も設けさせていただいて、その中に具体的な備品の内容、あるいはどういった非常時持ち出しをやるかということも明示をして

おります。

ぜひ町民の皆さん方もこれを契機にもう一度見ていただいて、日頃からどういったものを準備すればいいか、あるいは非常時にどんなものを持ち出してもらうかということは御家族でよくお話をしていただければと思います。そういったことも一旦として、町としては進めております。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

今日は９月３日ですか。９月１日が防災の日ということで日本中、地区ごとの本当防災に関しての記事とかも載っておりました。その何日か前に新聞折り込みのスーパーのチラシに載っていたのですけども、やはりその商品販売活動でもあるのですけども、とにかく「おうち備蓄」ということで、私が今から言いますけどもローリングストックということで、ふだん食べている食料品を賞味期限の長いものをなるべく買って、順次に回しながら食生活をしていく。災害のときにはそれをすぐ災害対策のほうに回せるというかたちで、とにかくスーパーもそういうコーナーをつくったり、ホームセンターは特に食料品以外のコーナーをつくったりしております。

とにかくもう民間の会社でも、とにかく南海トラフじゃないですけども、すごい経済損失も起こるような地震が起きたときに、そのあとどういう対応ができるのだろうかということでかなり警戒を持って、でも商売をしながらですので地域のためを思っていろんなことをされていらっしゃいます。

町内、私も事業所ですけども、それなりのやはり準備活動はしないといけないなと思っておりますけど、まだそこまで至っておりません。ぜひそういう気持ちを高めるためにも行政の力で、ちょっとそういう啓発的な機運づくりになるよう何でも結構ですので、蓄えに対してのちょっとこう支援といいますか、機運が高まるような計画というか取組で、何かいい御知恵ないでしょうか。お願いします。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

各事業者様がどのような取組をされているかというまではちょっと十分に承知はしておりませんが、私どもとすれば町内の例えば飲食店の大きなスーパーの方と協定を結びまして、災害時に商品を拠出してもらうという協定も複数結んでおります。

そういった中で企業様のほうも従業員、あるいは地域のために備蓄をしていただくという議員の御提案についての趣旨としては、全く同感をいたします。至らぬところはそこがまだ進んでおりませんので、今後地域防災計画の中でも位置づけをやりながら、そして協定の広がりをしながら複層的に災害の備蓄品の支援を進めてまいりたいと考えております。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

お家備蓄、家庭的な備蓄の話ばっかりしましたけども、ある自治体によってはもう企業がそういう備蓄をされているところには補助をしたり、支援をしたりされてる行政もあるみたいなので、とにかく地域がつながってですね。商品券ばっかり言ってもキリはないのですけども、ぜひ地域がまとまって支える気持ちをずっとみんなが持ってつながるような地域をぜひつくっていただきたいと思います。

それでは次の熱中症特別警戒粗アラートに入ります。救急搬送の数を教えていただきました。町内でもやはり熱中症になって救急車に搬送された方がいるということが分かりましたけども、長崎県内でもかなり年間に多くて令和５年度は925件とちょっと調べたら書いてありました。６年前の平成30年では1,193件とか、熱中症だけでもそういう数が出ております。

今年度は特にこの暑さでした。大変厳しい暑さだったのですけども、私が書いておりましたクーリングシェルターが役場に設置してあるということで拝見しました。波佐見町の６月号広報紙に載っていたのですけども、普通に町役場に入ったときに、なかなか気づきにくいところにちょっとステッカーが貼ってあったのですけども、役場以外には検討はされなかったのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

役場を設定するときに、町内の公共施設を管理する担当課長を集めまして協議を行いました。まず暑さ指数35度以上になるという特別通警戒情報ですね。こちらはどのように発令されるのか。あるいは発令されてどのぐらいこう避難をされるのかというところがまず見えない状況でしたので、まずはその役場を指定してみて、どういう運用をしていくかというのを諮った上で広げていこうということで話をしております。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

分かりました。今回ですねこの質問をしようと思ったのが、ある知り合いの事業者の方が「澤田さん」って。ちょっとこう、店の前に立ってたらフラフラしている中学生がいて、大丈夫ねって。もう俯きかかっていたので、声をかけたらちょっと具合が悪いということで、すぐ中学校に電話して対応しておられたと聞いたりしております。そういうのを２件ほど今回は聞きました。

だから普通通行されてる方というのは、もうかなり暑かったので今年は少なかったのですけども。そういう方もいらっしゃいますし、うちの近所では歴史文化交流館というのがありまして、観光のやはり拠点にもなっておりますので結構観光客の方が多いです。

もう日差しをよけるようなところは全くないし、まだ交流館自体を公共施設と感じていらっしゃる方もいらっしゃいません。だからああいうのにクーリングシェルター的なものがあった

ら例えば５分、10分でもいたら一時的に健康被害がないような感じになると思うのですけど、歴史文化交流館とかは使うような発想はないのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

まだ指定は行っておりませんけども、資料館のほうは土曜、日曜も開いておりますので、そういったもしお困りの方がいらっしゃれば利用してもらっても、もう全然構わないと思っております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

指定する場所の限りはないのですけど、僕が提案したいのはやきもの公園にしても、一般的なそういう西ノ原にしても事業所もありますので、そういう民間にも頼むなどされたら。

うちでもそうですけど、お客さんがちょっと一瞬涼ませてとか言って来られます。だからやはり四、五分でも、こちらも商いのチャンスにもなりますので、入ってもらえればいろんな話をしながら商売にもつながります。とにかく、公共施設だけじゃなくて民間的な事業所の方とかですね。

何か以前の考えでちょっとおかしいのですけど、クーラーイコール贅沢品みたいに思われていました。だから一般の家庭でもつけていない方、たくさん高齢者の方いらっしゃいます。いや電気代がかかるから息子に迷惑かけたくないからとか。全然クーラーを入れなくて過ごされる方もいますので、ちょっとそういう近所でもクーラーに当たれるような場所があれば、ぜひまだ気持ちよく過ごせると思いますので、ぜひ考えていただきたいと思います。

あとクーリングシェルターに関しては、まだまだ今日の新聞にも書いてありましたけど９月、ひょっとしたら10月の頭まで続くかも分からないということが何か新聞報道でも出ておりますので、まだ僕は間に合うと思いますので、クーリングシェルターの増設といいますか、新しい施設ができれば私たち事業者も協力したいと思いますので、ぜひ検討していただきたいと思いますけど、どうでしょうか。

○議長（百武辰美君）　石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

民間の方からそういった御意見といいますか、御提案をいたくのは大変ありがたいことでして、町のほうでもその協力施設というところを、ホームページのほうで募集をしております。よかったら申込みをしていただければと思っております。

今のところ１件の問合せがあっておりましたがまだ、応募には至っておりません。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

ぜひ協力します。

あとですね、また言いますけどやきもの公園。やはりかなり来場者の方夏休みだったのでしょうか、多かったです。やはり日差しのあるところしかないです。あの公園がですね。ちょっと僕は緊急的なテントでもいいですから、２梁でも１梁でも張って、トイレの横でももうガンガン日の当たるところにたくさんの方が立っていらっしゃいます。

ちょっとこう観光と言葉は言っているけど、対応がまだできてないような感じなのですけど、どうお考えでしょうか。

○議長（百武辰美君）　本山建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

やきもの公園に日差しの対策ということでありますけれども、実際に全くないわけではありません。世界の窯広場の下とかはそういうふうな場にもなっておりますので、まずはそういったところを活用していただければと思います。以上です。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

分かりました。とにかく観光客の気持ちになっていろんな、お迎えする対応をしていただきたいと思います。

それでは（３）の小中学校、学校における熱中対策です。先ほど私も言いました、その学生がちょっと具合悪いとか言って、やはり近所の方が気づかれて本人からは言わないのですよ。もうかなり我慢して、多分限界まで来て近所の方が気づいたと思います。

私も朝立っておりまして、小学校の１年生でも小樽郷の子供でも、あれだけの距離を歩いて来ています。大人でも大変な距離ですけども、暑い中に歩いてきて本当に体がどういう状況になってるかは本人しか知らないと思いますけども、先ほど教育長が言われたように、もう重要な課題として取り組まれてるということです。

一つちょっと、こうよく町民の方も聞くのですけども、結構水分をとれとよく指導というかありますけども、学校には冷水器とかあるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

小学生につきまして基本の水筒の持参というのを原則にしておりますし、ウオーターサーバー等については各学校４校とも設置をしております。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

子供たちは自らも言えない子供もいますので、安全管理をお願いします。

それとですね僕も以前ＰＴＡの役をしてたので、学校のほうにはいろんな形で支援をしたのですけども、「こども１１０番」というグリーンの旗があって、あのデザインは僕が下手くそなのですけどデザインをして、子ども家の中に１１０とか書いたのですけども。

現在町内で１１０番の旗があまり見られないような気がします。あれは青少年健全育成協議会からスタートしたのか、私は東小学校からスタートしたのか、ちょっともう十七、八年前の話ですから。現在１１０番の旗は見ないのですけども、あれもこの熱中症対策に有効に使える一つの抑制だと思いますので、子供たちが頼りにできる旗印の家に行けるということなのですけど、現在１１０番の旗に関してはどういう管理をされていますか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

１１０番の家につきましては、そういう緊急避難的な色合いも大変強いと思いますので、改めて各学校のほうに確認をし、現状恐らく年度初めに確認をし、募集あるいは補充等も行っていると思いますが、改めて今の件を含めまして学校のほうに調査をかけ、不足してるのがあれば、うちが預かるものかそこあたりを担当課ともう１回確認したいと思いますが、うちでなければ担当課と確認をし合って学校のほうに指導したいと思います。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

まだまだ本当に暑い中ですので安全管理。特に今からもお話ししますけども、スポーツに関しても熱心に本当されております。以前でしたら気温が35度以上になったら中学校のスポーツでもやったらいけないとか、その年度年度その地域ごととか、その雰囲気でそういう規制がもうあってないようなものになっていると思うのですけども、現在何かそういうスポーツクラブ等で暑さ指数とかも現在ありますけども、何かしっかりした基準があって、こういうのは駄目だというのがあるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

答弁にも申しましたように警戒アラートあるいは指数学校に設置をしておりますし、ポータブルの部分もありますので、その指数を見ながら担当のほうで判断をし、中止あるいは制限等を行っていると思います。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

そういうのというのは朝10時とか12時とか時間帯にもよるのですけども、どういう時間帯ではっきり最終的に決めたりされるのですか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

時間的なものの制限の統一はしておりません。各学校で教頭を中心に判断をし、状況によって随時行っていると思いますし、適時指導していると思っております。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

体育祭ってか運動会等は終わっております。中学校だけがあるのですかね。ぜひ子供たちの安全には健康安全にはしっかりしていただきたいと思います。

それでは次に老人クラブ育成、敬老事業についての質問に入りたいと思います。これも今回この質問に取上げたのは、子供たちは宝であるということで、かなり今もう国をあげての支援があっておりますけども、さて反対で高齢者の方にはどういう支援があってるのかと思ってちょっとお尋ねしました。今日も説明がありました。かなりいろんな形で支援をしていただいております。早い地区によってはもう65歳から老人クラブに入れる資格があるということで、名簿的には入る方もいらっしゃいます。

今回老人クラブの支援でいろんな金額を聞きましたけども、ある一つの参考で私湯無田地区におりますけど、昨年でしたかね、三味線のちょっと有名な方を連れて来られました。経費がかかるということで、老人会の経費プラス自治会の経費も補助をもらってそういうイベントをされました。そういうだからイベントしたいのだけど、ちょっと経費が出すところがないとかお金がちょっと高額だから出せないという地区も出てくるのではないかと思いまして質問したのですけども。そういう補助の中で、今から増額的な考えはお持ちでないのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　松添長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

補助金の増額はということですが、先ほど町長の答弁からもございましたとおり、令和５年度からちょっと県の交付要綱が変わりまして、老人クラブ連合会のほうに30万円増額をしております。

そして地区老人クラブから、老人クラブ連合会への会費の負担を下げております。それによって実質的には地区の老人クラブに残る補助金の額が増えてるということはあっております。

老人クラブのほうもここ３年間、コロナの影響でなかなか活動がされていないところもございまして、繰越金が結構残っている地区もございます。毎月老人クラブ連合会で会長さん方とお話しする機会ございますので、会長さんたちのお話を聞きながら補助金増額の必要があれば、協議をしていきたいと思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

いろんな活動をどんどん、どんどんされていくと思いますので、それに伴ってお金もかかるということと思います。

ちょっと話前後しますけど、休部されている老人クラブがあると聞いておりますけど、どこの地区が休部をされているのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　松添長寿支援課長。

○建設課長（本山征一郎君）

平野郷が平成23年度から休会をされております。三股郷が平成24年度から。今回ですね志折地区が令和６年からということで休会をされております。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

とても何か僕にとっては寂しいことと思うのですけども、うちの隣の武雄市の神六という地区があるのですけども、そこでも老人会長さんが決まらないということで、老人クラブが解散になりました。残った会員の方は行き場所がない。武雄市でいろんな催物されても、自分の地区の神六庭木の地区のスペースもないようになっている。

だからクラブがなくなるということは、そこの地区の老人クラブの方がもう行き場所がなくなって何か生きがい的な楽しみがないということになるのですけども、先ほど言われた３地区の老人クラブの会員の方は現在どのような活動をされてるというのが分かれば教えていただきたいです。

○議長（百武辰美君）　松添長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

ちょっと三股郷と平野郷は存じ上げておりませんが、昨年度、今年度から休会をされた志折地区の方は、やはり代表者が決まらないということで休会をされております。

活動としましては地区の高齢者の方にお集まりになって、グラウンドゴルフ等をされているということはお聞きしております。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

先ほど言いましたその隣町の武雄のクラブは、ある方がいやこれじゃ駄目だということで、自分が老人会長にもう１回なってやるからって言って復活されました。だからそういうかたちで何かきっかけや、ひょっとしたら行政の支援もあったのかなと僕は思っております。

だからそういう地区に役場職員の方もたくさんいらっしゃいますし、そこに住んでいる役場の職員の方がもしいらっしゃれば、いや私たちが何とかしてあげますよ。ということで何かテコ入れというかですね、何かきっかけづくりでもしていただけたらと思いますけど、そのあたりお考えはどうでしょうか。

○議長（百武辰美君）　松添長寿支援課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

ありがとうございます。一応担当は社会福祉協議会が老人クラブをしておりますので、社会福祉協議会と一緒になって、以前もこの三股郷と平野郷につきましてはちょっとお声かけをさせていただいた経緯もございます。ちょっと復活には至らなかったということでございますが、引き続きそういうお声掛けをさせていただきたいと思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

ぜひ休部しないような形になるようにお願いしたいと思います。自分もいずれ老人クラブに入ると思うのですけども、そのときはもう全力で向き合いたいと思っておりますし、名称が老人クラブだから入りたくないという方もいらっしゃいますので、最近名称等でもかなり相談されてる地区もあるようです。今後はまた楽しい人生になるように、クラブの補助をお願いします。

それと敬老祝い事業ですけども、私も１５日の日曜日に湯無田郷の敬老会に呼ばれまして、行くようにしております。湯無田地区は300人ちょっとの会員の中で案内を出されて、対面式の食事会には70人から80人。あとは商品券だということを聞いております。お買物券ですか。私たちもちょっと商店振興会で事業をやっておりますけども、かなり商品券の注文が多くていろんな地区から注文が来ております。

そこでちょっと気づいたのが折敷瀬地区は2,500円の商品券を392名の方に渡されます。金額は98万円ほどになります。村木地区は3,000円の買物券を136人にあげられます。40万8,000円。田ノ頭郷も3,000円。で3,000円、2,500円、2,000円、500円。いろんな地区があります。内容は地区によっていろんな検討されていると思うのですけども、町からの補助は2,000円。だから3,000円渡されるとこは1,000円自治会が負担して、プラスしてお祝いを渡されているような気がします。

町内の買物していただいてるところの、ちょっと商店街の事務局で表をつくってもらったのですけど、以前は3,000円のところが多かったのですけど、どんどん減っております。2,000円だったり2,500円だったり。あと差があります。僕はこの差がないようにしていただきたいんですけども、そういう補助はしっかりやっていると言われましたけど、自治会のほうの負担が経済的に大きいと、どうも補助はできないと思うのですけど、そのあたりの考えはどうでしょうか。

○議長（百武辰美君）　松添長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

長寿支援課としては2,000円。今ですね物価高騰だとかインフルエンザとかで、ちょっと2,500円では行事ができないよというお話になれば、やはり上げるとなれば全体的に上げるということを考えております。

その一部だけちょっとこう、負担が大きくなるからとか少なくなるからということで、その地区だけを補助するという考え方は持っておりません。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

分かりました。

それではちょっとお尋ねですけども、一般の敬老の対象者の方は2,000円で、施設に入っていらっしゃる方は1,500円となっておりますけど、その理由というのはもう一度確認のために教えてください。

○議長（百武辰美君）　松添長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

地区のほうは敬老行事お食事を出されたり、お飲物が出されたり、記念品を出されたりということがありますので2,000円委託料として出しております。

片や施設等に入られてる方につきましてはですね、商品券の1,500円を配布しているということでございます。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

私の商売柄その施設と取引をしておりまして注文が敬老の日の後によく来ます。「澤田さん、バスタオルを30枚持ってきて」って。「何ですか」って。「いや町から1,500円頂いたから1,500円に合うような商品を持ってきてくれ」と言われるのですけど、商品がどんどんどんどん値段が上がっておりまして、もう1,500円に合うような商品がもし出てこなければなかなかもう難しい。施設に入ってる方に商品券をやっても、多分買い物ができない、難しいということになりますので、もしその施設の方をちょっと上げれば、一般の方も上げるようなことになれば、またそこあたりは分かるのですけども。

そのあたりの施設の方に関しての増減も考えていらっしゃらないのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　松田長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

はい先ほど言われるように物が買えないということになるとちょっと検討はしないといけないと思うのですけど。

以前は1,500円程度で、こちらのほうでちょっとギフトショップ等にお願いをいたしまして、もうこちらで決めてタオル等をお配りしておりました。

それよりも御自分たちが使われるものを御家族とかが購入はされると思うのですけど、そういうほうがいいだろうということで、ちょうコロナの時期でもございましたので、そこから1,500円分の商品券に変えたという事情でございます。

○議長（百武辰美君）　澤田議員。

○３番（澤田昭則君）

でも、おかげで商品券を敬老事業に使っていただきますので、大変私たち事業としてはありがたく思っておりまして、特に事業者の方もやはり全然違うよということで、もらったものが使えるということとか、もらったものを家族が代表して何か買ってきて、おばあちゃんおじいちゃんにプレゼントではないですけど、町からもらったお金でこれを買ってきたよという贈呈

的な活動をされて家族の中でも、いい時間が取れているような気がします。

またこれはコマーシャルじゃないんですけども、今度の日曜日に私たちも生活応援セールという事業所でやっておりまして、今度コミュニティーセンターで９月８日の朝８時から、商品券と交換するイベントをやります。それにもかなり高齢者の方がもう来られて、こういうのがイベントとしてあるから楽しいとか言われて、やはりそのお金を持っていらっしゃってもそういう何かこうイベントづくり、お祝い的な事業。そういうのを楽しみにされていますので、今後とも私たちもやっていこうと思います。

ぜひ町内としても敬老者の方にも子供たちの支援とともに、行っていただきたいと思いますけど、町長、高齢者の方に対しての支援の今後何か思いをお願いします。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

高齢者支援に対する澤田議員の熱い思いを承りました。一方、予算的な面を申しますと現在本町の今年度の一般会計に占めます高齢者福祉費が約３億円。それから後期高齢者医療に持ち出す一般会計からの負担というのが約３億円ございますのでトータルで６億円を一般会計の中で高齢者福祉に投じているわけでございます。

そういった中で多分野にわたる町の負担というのは非常に増えておりますし、議員がおっしゃるように1,000円より2,000円の商品券が、2,000円より3,000円の商品が喜ばれることはよく理解しておりますが、全体的なバランスを見ながら調整は司ってまいりたいと思います。しかししっかりしたそういった、これまで波佐見町発展のために尽くしてこられた高齢者支援については、しっかりとした考えを持って臨んでまいりたいというように思います。ありがとうございます。

○議長（百武辰美君）

以上で、３番　澤田昭則議員の質問を終わります。

しばらく休憩します。11時から再開します。

午前10時43分　休憩

午前11時00分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、４番　岡村真由美議員。

○４番（岡村真由美君）

皆さん、おはようございます。たくさんのギャラリーを前に緊張しながら、通告に従い一般質問を行います。

１．波佐見町の水事情について。

この夏も記録的な厳しい暑さに見舞われています。幸いにも本町は、これまで大きな給水制限を経験していない。しかし新築の家やアパートが増え、下水道の普及も進んでいる。将来的

に安全な水の確保は、十分にできているのだろうか。

そこで、次のことを問う。

（１）本町にある水道水の水源の数と場所は。

（２）各水源に設置されている浄水施設は、何年前に使用が開始されたか。

（３）浄水場ごとの給水地区と、世帯数及び年間の給水量は。

（４）給水量の近年の推移と将来的な見通しは。

（５）水質検査の実施状況と実施結果の公表は。

２．鶴の川橋の下流に設置されている堰の維持と管理について。

この堰は、農業用水だけでなく生活用水の水源としても大変重要である。

そこで、次のことを問う。

（１）この堰は何年に完成し、直近の改修は何年前にどんな工事が行われたか。

（２）大きく破損した場合、考えられる影響は。

（３）監視・管理の体制は万全か。

（４）鶴の川付近の管理道路――つまり河川敷の道路のことですが。の舗装はできないのか。

３．学校プールの地域開放について。

子供たちにとって夏休みは水に親しむことができる絶好の季節である。そこで、次のことを問う。

（１）授業におけるプールの活用状況は。また、水泳指導の在り方は。

（２）プールの地域開放の状況は。また、地域開放の課題についてどう考えているか。以上です。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

４番　岡村真由美議員の御質問についてお答えをいたします。

１．波佐見町の水事業についてということで（１）本町にある、水道水の水源の数と場所は、とのお尋ねですが、本町の水道水は４つの水系からなり、そのうち河川の表流水５河川、地下水が４基、ため池の貯留水２面の11の水源になります。

湯無田浄水場の湯無田水系は、川棚川の表流水１河川、地下水が金山、坊辺田、湯無田の３基。大堤ため池の貯留水１面の合計５水源になります。

川内浄水場の川内水系は、大平水源と二度川内川の２河川。地下水が中の川内の１基の３水源となります。

鬼木浄水場の鬼木水系は、開田側と中の川内川の表流水２河川で、皿山浄水場の皿山水系は深川地ため池の貯留水１面となります。

（２）各水源に設置されている浄水施設は何年前に使用が開始されたのかとのお尋ねです

が、湯無田浄水場は昭和57年供用開始で42年前、川内浄水場は昭和43年供給開始で56年前、鬼木浄水場は昭和50年で所供用開始49年前になります。

皿山浄水場は35年供用供給開始で64年前になりますが、平成16年に施設の全面更新を行っており、現在の施設は20年前になります。

（３）上水場ごとの給水地区と世帯数及び年間の給水量はとのお尋ねですが、質問では世帯数とのことですが、給水人口で答弁になることを御了承願います。

令和５年度の実績で申しますと、まず川内浄水場は川内郷、岳辺田郷及び乙長野郷の一部が対象となります。給水人口は1,324人、年間12万1,121立方メートルになります。

鬼木浄水場は鬼木郷のみが対象で給水人口は218人。年間１万7,804立方メートルになります。

皿山浄水場は皿山郷の一部が対象で、給水人口は113人。年間１万391立方メートルになります。

これ以外の地区を湯無田浄水場から供給しております。給水人口は１万2,438人。年間113万9,891立方メートルになります。

（４）給水量の近年の推移と将来的の将来的な見通しは、とのお尋ねですが、まずモニターを御覧ください。年間総給水量は、令和元年度が128万8,971立方メートル。令和２年度が130万2,831立方メートル。令和３年度が130万3,215立方メートル。令和４年度が128万5,823立方メートル。令和５年度が128万9,207立方メートルと増減を繰り返しながら推移をしております。

給水人口と１人当たりの数値は令和５年度が１万4,560人の88.53立方メートル。令和２年度が１万4,490人の89.91立方メートル。令和３年度が１万4,334人の90.92立方メートル。令和４年度が１万4,182人。90.67立方メートル、令和５年度が１万4,093人の91.48立方メートルとなっており、給水人口は減少しておりますが１人当たりの給水量は増加しているところです。

これはライフスタイルの変化や観光客数の増加等による交流人口も起因しているものと思われます。これらを加味しても、現在の人口動態を考えると、今後の給水量は、当面は年間130万立方メートル前後で推移しながらも、減少傾向になると見込んでおります。

（５）水質検査の実施状況と実施結果の公表は、とのお尋ねですが、水道水は水道法により水質基準に適合したものを提供しなければならず、各水道事業者には検査が義務づけられております。毎年、波佐見町水道水質検査計画を策定し、水道水質基準項目及び水道管理上留意すべき事項として示されている水質管理目標を設定項目のうち、必要な項目を国が指定した検査機関に委託して実施しております。

またＰＦＡＳ（ピーパス、有機フッ素化合物）であるＰＦＯＳ（ピーフォス、ペルフルオロオクタンスルホン酸）あるいはＰＦＯＡ（ピーフォア、ペルフルオロオクタン酸）についても、今年度から検査対象として実施しています。

なお、安心して水道水を利用していただくため、水質検査結果については年度終了後速やか

に町のホームページに掲載し公表しています。

２．鶴の川橋の下流に設置されている堰の維持と管理についてということで

（１）この堰の完成年と直近の改修状況についてのお尋ねですが、お尋ねの鶴の川可動堰については、県営事業として川棚川中小河川改修工事により現在の可動堰へと改修され、昭和56年３月に竣工しています。

改修等の履歴としましては、平成11年に等幅装置の不具合のために、県営農業用河川工作物応急対策事業で油圧シリンダーの交換を実施し、その後は平成30年に町単独補助の小規模農林事業により操作室内の発動機の交換を行い、平成31年には同じく町単独補助により稼働分のゴム改修を行っております。

令和４年には土地改良施設維持管理適正化事業により操作室内の油圧ユニットの交換を行っています。なお、本年度には同じ補助事業を活用して、水密ゴムの劣化による水漏れを補修する工事を予定しています。

（２）大きく破損した場合、考えられる影響はとのお尋ねですが、堰が倒れた後に本体が起き上がらない場合は、農業用水としての利用ができなくなるために関係する農地約４ヘクタールの耕作に影響があります。

また水道水源としても、湯無田浄水場で利用されているために取水もできなくなることから、町民の生活への影響も懸念されます。

また、可動堰については河川水位の上昇により自動で転倒し、河川断面を確保するようになっており、故障等により堰が倒れない場合は、大雨時などに河川の水位上昇により、河川堤防を越水する恐れもあり、浸水被害につながる可能性もあります。

（３）監視・管理の体制は万全か、とのお尋ねですが、日常の施設管理については、農業水利として利用されている地元の水利組合が行っております。水道水源として利用している水道課においても、通常の管理の中での見回りや、大雨時等の堰の管理や点検などは、水道課職員が職員や水利組合を含め対応を行っており、施設の不調の際などは連携して行っているところです。

（４）鶴の川付近の管理道路の舗装はできないのか、とのお尋ねですが、鶴の川付近の管理道路を含む川棚川は２級河川となるため県の管轄となり、本来農業用としての利用を想定していないため、県営での舗装は難しいとのことでありました。

なお町単独の補助事業である小規模農林事業では、管理者である県の許可が必要となりますが、農業用としての道路を利用している場合、関係者による舗装工事に対して補助を行うことは可能と考えております。

なお、３．学校プールの地域開放については教育委員会から答弁がございます。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

３．学校プールの地域開放について。

子供たちにとって夏休みは水に親しむことができる絶好の季節である。

（１）授業におけるプールの活用状況は。また、水泳指導の在り方は、とのお尋ねでございますが、カリキュラムや学年ごとの指導内容に基づき、６月下旬から７月または９月にかけて、10時間から12時間程度の水遊び、浮く、泳ぐ運動、水泳が行われています。

小学校においては、担任を中心に学年合同や支援員とのＴＴなど複数体制で指導を行っています。

中学校につきましては、体育科教員が指導を行っております。

（２）プールの地域開放の状況は。また、地域開放の課題についてどう考えているのか、とのお尋ねでございますが、小学校においては、ＰＴＡからの施設利用申請に基づき開放をしています。機械操作や投薬などの管理はシルバー人材センターに依頼し、利用に伴う安全面の監視を保護者が行うかたちで行われています。

開放期間につきましては、学校間で差がありますが、１週間から２週間程度になっています。水泳教室の開催や、保育園の利用が保育園の利用が行われている学校もあります。　監視を受け持つ保護者からは、その負担や事故等の発生に伴う対処の不安、さらには熱中症の心配の声もあることを学校からは聞いております。その対策として、民間業者に監視の一部を依頼されたＰＴＡもあります。

子供たちにとっての楽しい活動が確保されるよう、特に監視に伴う内容や方法について、意見、協議を深めていただきたいと願うところです。以上壇上から答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

それでは質問事項１について再質問を行ってまいります。初めに、今回も新聞用の折り込みチラシをつくっていただきましたが、その中で私は今回の質問に関して「蛇口をひねると流れてくる水。いつも当然のように使っている水道水がどこの浄水場から流れてきているのか、問題視することなく生活してきた。長年の水道行政に感謝しつつ本町の水道施設の現状と課題、安全性と持続性についても質問をしたい。」というふうに触れております。

改めて先ほどの町長の答弁を聞いて、私の任期最後の一般質問になるわけですけれども、この質問をしてよかったなと思いました。

それでは、11水源があって水系もたくさんというのをちょっと私メモしきれませんでしたけれども、浄水場の施設に限って水道課の職員の方につくってもらった表を、調査してもらったものをまとめたものでございます。これは先ほど町長の答弁にあったとおりです。ただ給水人数じゃなくて人口です。給水人口及び年間――私は給水量と書いてしまいましたけども、この量は「排水量」。つまり流している水と排水量の中で家庭が給水してもらっている量というの

はおのずとそれから少なくなるわけですけども、これは排水量の間違いだったようです。訂正をします。

42年、56年、64年、49年。皿山浄水場は更新もされておりますけれども、もう大分時間がたって、このようにかなり老朽化している施設及び配管等もかなり老朽化しているのかなと思うので、大事に管理をしていってもらいたいなと思っているところでございます。

給水人口の欄を見てください。数が全くというか大きな隔たりがありますね。この給水人口のこの配分というのはいつからこのようになったのでしょうか。御存じだったらいつ頃からでいいですよ、何年ぐらいこの体制で行ってるのでしょうか。

○４番（岡村真由美君）　中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

まず各浄水場の処理能力――給水、水をつくる能力があります。それで湯無田浄水場は波佐見町のメインの浄水場でありますけども、水道を供給開始した時期がそれぞれ人口規模で違いますけども、5,000人未満を給水する場合は簡易水道というかたちでしておりました。それでちょっと長くなりますけども、昭和57年に湯無田浄水場をつくったときに、統廃合をしております。

それで最終的に皿山浄水場を統廃合したわけですけども、その当時の浄水場の給水する規模に応じての処理能力ですので、給水人口もその当時から給水できる人口は変わりません。

ただ各地区間での人口の変動はございますけども、処理する規模、水をつくる能力については変化がありません。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

湯無田浄水場が比率ですると給水人口全体の88.25%。９割近くを町民はこの下湯無田郷の湯浄水場から、頂いているのだということを私今回初めて知ったのですね。こんなに高い割合。一般町民として私は認識が甘かったなというか、失礼な認識をしていたのだなということを改めて思いました。

しかし、何で私はこんな勘違いをしていたのだろうと思ったのは、結局湯無田浄水場の水をこんなに広く使い始めたのは、湯無田浄水場の取水能力が高くなったからこんなように給水人口が増えたのだと思うのですけれども、昔はこの簡易水道5,000人以下というのを昔の波佐見町役場の職員さんに聞いたら、10か所以上あったというふうに聞きました。

私が生まれ育ったところは川内郷の隣でありまして、水道が自宅に引かれるようになったときには、川内郷から水をもらってると認識して。それで現在に至るまで私は川内の水を頂いて飲んでいるだというふうに認識をしてたのですね。

それが、志折郷に住んでますけど遠く離れた湯無田郷から水を送ってもらって、使っているのだということがよく分かって、改めて近辺の皆さんに感謝をしなくちゃいけないのだな、水

道課の皆さんに感謝をしなくちゃいけないのだな、ということを感じました。

この簡易水道というような表が先ほどの中にありましたけど、簡易水道の配水管というのは独立してるのでしょうか。それとも全部つながっているのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

現在浄水場４か所ございますけども、鬼木浄水場だけが鬼木郷だけに供給しています。ほかとの連結ができておりませんので、そういう状況でございます。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

鬼木は清流が特別に、鬼木郷の人だけに。すごくいい環境だなって改めて思いました。

この４つ。統廃合がされて湯無田浄水場の給水人口が増えたとおっしゃいましたけれども、今後、例えば10年、20年、30年、水道ビジョンというのをつくられていますけれども、さらに統廃合の予定はあるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

現在町内の浄水場を統廃合するというところの計画というところまでは行っておりません。これはやはり今後の給水人口の動向を見据えながらしていかないといけない。

それとあと地域が閑散しておりますので、できれば１か所という、あるいは２か所というほうがいいのですけども、もう一つあるのは水源の確保もございまして、良質な水源があるところにやはり施設が必要と思いますので１か所だけでとなると、なかなか難しいところもあるのかなと思っております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

それでは次に画像、左側のほうに湯無田浄水場がフェンス横に広くあります。

次に鶴の川堰のところの３枚画像を用意しております。これは上流です、これが下流。田別当から流れてくる川ですね。そしてこの鶴の川堰にそれがずっと流れている。この３枚が湯無田浄水場の原水というのですか、ここから取水をする箇所だと。ここに溜められてるということで。

ここは下湯無田郷にあるわけですけれども、いろんなところから流れてきている水をここでためて、そして浄水場に上げて、排水施設に持っていって、配水管で送ってるというような流れになるのかなと思うのですが、この上部には人家がたくさんありますよね。生活排水もどんどん流れてきてると私思うのですが、この地域のいわゆる汚水処理の現状というのは他地区よりも進んでいるのでしょうか。大まかな印象で結構ですけれども。

○議長（百武辰美君）　中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

汚水処理の状況につきましては、町全体で一応把握をしております。地区ごとというのがなかなか難しいところがございますので。ただ全体的には、波佐見町の汚水処理の普及率は79％になっております。そのくらいあるのかなとは思っております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

地区毎は把握できていない、当然だろうと思うのですけれども、改めて町は下水道のもう面的なあれは全部終わりましたけれども、今後は合併浄化槽とかの設置をお願いしていく、まだやってくださってないところとかをしていくと思います。

本当によその自治体に勝る補助をしていただいてますので大いに、特に水源の上流にお住みの方で浄化槽の設置がまだであったら、よろしくお願いしたいと思うわけでございます。

次に川内郷ですね。これには「川内配水地」って書いてありますね。昭和58年と書いてありますけど、これは川内浄水場ではないのですね。ここは配水地なのですね。

浄水場というのが何かどこかに別にあるのかなと。私はここしか通ったことないのでよく分からないのですけども。

○議長（百武辰美君）　中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

配水池すぐ近くに浄水処理浄水場がございます。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

私どもが行けないところに、多分アクセスできないところにあるのかなと思います。

それから次に、これは皿山郷。ここも県道からちょっと上がったところに立派なこれは浄水場ですか。排水地ですか。

○議長（百武辰美君）　中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

浄水場であり、ここから水を送っております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

これは県道から１キロもなかったと思うのですけれども、谷間のずっと林の中を登って、登って、登って、まだかまだかというところにあったのが、この先ほど町長の答弁にありました貯留水ですね。ここを水源とされていると思うのですけども、ここにも町や水道課の人は検査とか監視に行かれているのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

はい、一応職員は毎日管理に行っております。

ここまで登られるということ大変だったろうと思っております。参考まで感想として申します。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

結構何分もかかりましたよね、いい散歩道ではありましたけれども。ここから皿山郷の水は来ているのだなというのを認識いたしました。

次に、鬼木浄水場。初めて行きました。いつも棚田を見に行くときよりもさらに登っていって、登っていったところに、これがございました。これも先ほどの皿山と同じようなものなのですね。いろんな水系の水をこの下のあたりに溜めてここから配水をしてるということなのでしょうか。お願いします。

○議長（百武辰美君）　中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

河川からのちょっと両サイドに河川があるのですけども、そこの上のほうにちょっと水源がありますけども、そこからパイプで持ってきております。そこで浄水したものを配水しているというかたちになります。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

車で行けるのがここまでだったので、その上に鬼木郷の清流が流れてくる源があるのだなということが今分かりました。歩いていけたら行ってみたいなと思います。

次に教育長にちょっと御質問なのですけれども、学校では、この波佐見町の水道について学習する時間というのはあるのでしょうか。それとプラス子供たちがよく社会見学で出かけていますけれども、この浄水場の見学で私たちはここの水を頂いているのですよという認識ができるような機会というのはあるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

３年生、４年生の社会科の学習の中で学んでおりますし、浄水場。特に湯無田浄水場がほとんどだと思いますが、湯無田浄水場見学も社会学習の中に一環として取り入れています。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

それでは私のような間違った認識で生活をする町民というのは徐々に減っていくのだろうなと思います。南地区の南小学校の子供たちも多分そこに社会見学に行ったら、ここから頂いてるということをきちんと感謝しながら認識するのではないかなと思って安心しました。

それでは水質検査についてなのですけれども、水質検査は水道法によって定められていて、きちんと行われている。それはホームページ上に報告をされているということで、私もホームページにあった分を全部プリントアウトして、どのくらいのどんな物質の検査がされているのかということの確認をしました。

ただ多いときは51項目の検査がなされていますけれども、毎月ではなくて７月が特にきちんとされていますね、たくさん。一定の期間、月に一、二回はきちんとされて報告もなされているということで安心をしました。

ピーファス（ＰＦＯＳ）に関してのことなのですけどもピーファスというのは、御承知の方も多いと思いますが、発がん性物質が含まれているということが大きな社会問題になって、新聞等でも報道されています。今まではこの検査項目にはなかった、そして基準値というのがナノ単位でございますので、簡単にはやはり検査できない物質なのかなと思います。しかし、やはり田舎といえどもですね、いろんな環境によってはピーファスの含有が基準値をはるかに上回る水道水があるというふうに報道されてます。

もう一度ですけども、波佐見町は今年度からって町長答弁にありましたけれども、５月ぐらいから水道省か、環境省かは検査を呼びかけたって言われたのですけど、いつ検査をされたのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

検査につきましては７月に取水をしました。それで検査をかけております。その結果としては国が定めている暫定目標値、ナノ単位ですのでちょっと省略しますけども、その数値は下回るというかたちの結果は出ております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

いつ検査していつ発表ですか。何月でいいです。

○議長（百武辰美君）　中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

７月に取水をしております。検査のためのですね。結果については正確なあれは分かっておりませんけども、こちらに検査機関から来ております。

公表につきましてはホームページには年度明けにというかたちにしております。ただ今ちょっと問題等もありまして、一部の住民の方からもちょっと問合せ等もございました。公表として異常がありませんというだけになるかも分かりませんけども、機会を見てしたいとは考えております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

問合せもあったということで、やはり町民の関心はかなり高いと思うのですね。田舎だからといって油断はできない物質だということを、再認識、共有しながら確認をしていきたいなと思います。

この項目のまとめですけれども、昨日同僚議員の質問の中にもあったのですけども住みやすい町の中に波佐見町は入っていなかったと。まだ上位に入ってなかったということだったのですけども、安心できる水、おいしい水。そして豊富な水が供給できる自治体というのは本当に、移住定住の大きなＰＲになると思うのですね、今後ともしっかりセールスポイントになると思います。町長の水に対する見解というのですか。それをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

いわゆる水は命に直接関わるものでございますので、それに対する安全・安心に対する町民の関心は非常に高いものと理解しております。今後も先ほど水道課で担当しておりますが精密な検査を行いながら、安全・安心な水の供給に努めてまいりたいというように思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

よろしくお願いしたいと思います。

それでは質問事項の２に移りたいと思います。

もう一度鶴ノ川堰。問題の上流には波佐見町の大きな水瓶があるということなのですが、先ほどいろんな直近の工事に関して、今までどんな工事がなされたかということとか、ここがこんな大きな堰ができたのがいつだったのかというか。そういう経緯を話していただきましたけれども、改めてこの鶴ノ川堰というのは町民にとってとても大事な堰なのだなと思います。

これを私はある町民の方から議員は知ってるのかと言われて、視察に行かせていただきました。何回も歩いて確認することができたのですけれども、こちらを見てください。ブルーシートみたいなのがあるのですね。あのブルーシートは何なのでしょうかね。右の端っこのほうです。

○議長（百武辰美君）　中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

ちょっと堰の管理につきましては水利組合になりますけども、このブルーシートのことですので水道課として答弁させてもらいますが、町長の答弁の中で、今後の改修の予定として本年度の補助事業で、水密ゴムの劣化による水漏れの補修の工事を予定しているということで答弁しましたけども、既に劣化がありまして裂けております。それで堰としての能力が低下している関係で、せっかく止めても水が漏れてるという状況でございますので、水道課のほうで応急

措置として、ビニールシートだけじゃなくてその中もちゃんとゴムをはめたりして簡易的に修理をしていて、ビニールシートがちょっと見える状況になっているということです。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

やはりもう工事をしても、しても劣化が進んでいて、また工事だということなのですけども。

私が漏れ聞くところによるとやはりこの堰が大きくなった。そして施設自体もほかの河川の堰よりも大型なものを使っているので工事費がすごく高いと。それを地元の水利組合に対しても１割だったかな、負担をされていると。負担はしてきたけれども、もう人口が減っていって、農業する人口が減っていって、その負担も結構きついんだと。

やはり今後もそうやって水利組合とか農耕者――稲作農家の方にやはりそういった修理のたびにその修理費の一部を負担してもらうということでいかれるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田農林課参事。

○農林課参事（太田克宏君）

農業用施設の地元負担についてのお尋ねなのですけども、やはり農業用施設、ため池ですとか水路、農道とかございますけども、やはりある程度使用される方が限られてきてるというところもありまして、そういったところでどうしても地元の負担というところは発生してきております。以上です。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

すぐにはそうではないと思うのですけれども、もうそこまでして農業はしない、お米はつくらない。もういいです、壊れたら壊れっ放しで結構ですよ。みたいな感じになったら、町がここは水源だからということで国、県、町で完全負担して、ここの堰の管理をするということになるのでしょうか。

私が聞くところによると、この川幅を広げたことによって、つまり貯水量を増やすことによって、この堰が大々的な堰というか施設になったというように聞いているのですけれども、やはり農家の方たちの負担は結構きつかったと聞いてますけどいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

河川改修につきましては貯水量を確保するために大きくしたのではなくて、一定の災害に見合うための通水断面というのが計算上算定されています。その通水断面に応じた、堰というふうになればやはり大規模になってくるのは至極当然のことでございますので、必ずしもその貯水量を確保するために河川を多くしたのではなく、水害氾濫を防ぐあるいは治水上の河川の維持を図るための通水断面が確保されたことに伴う施設の大型化だというふうに理解をしており

ます。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

分かりました。貯水量を増やすために広げたわけじゃなくて、災害等に備えて広くしたということで、その結果溜める水の量も増えたと。しかしその結果町民はそこの水を送っていただいて、生活ができてるということなのですね。できる限り農業の後継者の負担を減らすためにもここの工事については格段の配慮をしていただきたいと思います。

関連して次のです。こちらも堰の一つなのですけれども、大きな堰の次のちょっと小さめな堰ですね。なのでずっと行った先にかかっている橋は江良山橋ですかね。この江良山橋のところまでは農道がバーンと来ていて舗装されています。西山さんからきているのかな。あそこからこっちに来る道というのがこういう状態です。

ここを過ぎたらまたちょっと舗装されて、一番低いのがあるのですけど。ここの方がおっしゃるには、ここを毎回毎回来ているけれども凸凹がひどいと。そして私も軽トラで通りましたけれども、ちょっとこう傾くぐらい橋の近くは凸凹がひどくなっておりました。ここの舗装というのができない理由を、もう一度できれば副町長にお願いをしたいのですけれども。

ここは県が管理している河川敷であって、舗装はなかなかかなわないんだと。県からは説明を受けてきたと。本当に舗装はできないのかというふうに問われました。お願いします。

○議長（百武辰美君）　村山副町長。

○副町長（村山弘司君）

議員御指摘のとおり、河川は県管理の河川ということで県北振興局のほうが整備をしたということだというふうに思っています。この河川敷の道路については、恐らく県の河川改修工事の際に、管理用道路として整備をしたものだというふうに思っております。

しかし県の管理者としては、この管理用道路というのをコンクリート舗装する必要が生じてないということで、このような整備になっているものと理解をしてございます。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

先ほど聞いた方の説明どおりで、そういうかたちで何度町にも県のほうにも、県議さんを通して要望してもここは舗装がされないのだよと。河川敷の道路は舗装できないんだってね、みたいな話を聞いたのですね。やはり河川敷の道路というのはそんなようにはならないんだというように私も認識しておりましたところ、次です。

これは何だと私は気づいたのですね。これ乙長野郷、長野先生の窯をちょっと過ぎたところですね。奥に見えるのが片渕ですね。あっちに桜づつみがあって、こっちは何もない。これ本当河川敷の道路なのですけれども、ここからきれいに舗装ができてます。農耕車に注意という

黄色い文字があります。そして、この今向こうもそれなのです。延長何メートルついているのでしょうかね。ずっと川沿いの河川敷の道が舗装されています。ここのこの道は、いわゆる町道から農道としてつながっています。

ここら辺の農家の人は本当に、大きな堰もないのにこんな道路ができていいなと。最近だったと思うのですね。こうやって、ここは舗装できているのに、なぜ鶴の川の堰のあたりだけを舗装ができないなと私はものすごく不思議に思いました。

そしてもうひとつ。これは稗木場の山角橋のところです。これは最近始まった工事でまだ完成をしておりません。ここも完成したら農耕車どんどん通っていて作業しやすくなるのですね。管理がしやすくなります。

次にこちらは、要するに崩れるのを防ぐために法面までコンクリ補装がされてます。すごいなと思って。これができるのに、どうして鶴の川堰の下の江良山橋までの区間の舗装はできないのかというのをもう一度、副町長にお聞きしたいなと思います。

○議長（百武辰美君）

県営事業ですが、答弁できますか。本山建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

先ほどですね、映りました写真の部分ですね。南地区のほうにあります今熊とか、そういったところがさっき舗装をされてたというふうにおっしゃいましたけども、ここにつきましては先ほど写真で工事名も写っていたのですけど、これは堤防補強としての役割を持ってされた処理なので、道路の舗装ではないのですよね。そこをちょっと誤解がないようにお願いしたいと思います。以上です。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

堤防補強。実際山角の分も堤防補強なのですよね。崩れるのを保守。では鶴の川の道路というのは堤防補強という名目でやってもらうことはできないのかというのが私の素朴な質問なのですね。

なぜかと言ったら、どこにでもあるような河川じゃない、河川敷じゃない。もう本当に町民がお世話になっている大きな水がめに通じる、そしてそこをいつも監視されてる方々が通られる道だから、ちょっとこうやってもらえないのかなというような思いで。

令和３年の３月の議会で同僚議員が質問をしています。あのときは工事のことだけだったのですけれども、本当にあの頃もずっと要望をして、それも地元からの要望でというように答弁されているのですけれども。地元の要望というよりも、町民の要望としてあのあたりの環境をよくして、農業の後継者がいなくなっても管理とか監視とかに行きやすい環境をつくっていただきたいなと。町から県に強く要望することはできませんか。お願いします。

○議長（百武辰美君）　本山建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

まず先ほどと繰り返しになりますけれども、あくまでも堤防補強ということでの事業でありますので、この鶴の川の部分がそれに当たるかどうか。こういったところがまず争点になるかと思います。

それを踏まえて現地を見てもらう部分はまずは構わないと思うので、その辺はまず県と一緒に立会いをして、そのうち判断をしていただきたいと思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

こういうやりとりがずっと続いて多分今なっていないのだと思います。やれないのだろうなと思うのですけど、やれる道を探っていただきたい。

あと私にこの現状を見に来いと言われて、私が行ったその方はこうおっしゃいました。役場の職員、水道課の職員はねって、時間をかけてもガソリン代をかけても、舗装された道を遠回りしてでも来て検査をしてるよと。でも俺たちは毎日のことというかいつものことだから、なるべく近道でいきたいし、だから近い道を通ったらこの凸凹の道を行かないといけない。雨のときはひっくり返りそうになるぐらい凸凹が進んでいるとおっしゃいました。

こういう現状今かなり高齢の方で今入院されてると聞いてますけれども、高齢の方たちが、頑張って維持管理をされてきたのですね。ものすごくそこあたりに寄り添って、舗装への手だてを執行部方には考えていただきたいんですけど、もう一度町長答弁いたけますか。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

御指摘のですね、たまたま今回は鶴の川堰が水道の主水源ということでのお尋ねになっておりますが、実は町内にはこういった可動堰というのが大変多うございます。おっしゃってる川棚川に限らず、井石川やほかの河川にも平成２年の水害のときの復旧工事に伴いまして、当時はやりました風船堰といいますかね、大きく膨らました可動堰がたくさんございます。

かつ農業者はですね、先ほどから申しましたとおり、かなり減ってきておりまして、少数の人間で維持管理をしているというのが現実でございますし、日々の見回りにつきましても農業者が行われておりますので、その点について非常に感謝にたえないところでございます。

今後はそういったかほかの問題でもございますが、河川の草刈り等の問題等も発生しておりますので、今後どのような支援が町としてできるのか。あるいは県管理でございます県河川については強く県のほうにも要望してまいりますが、それ以外の町が管理しております普通河川等につきましても、今後大きな問題になってくることが十分考えられますので、その点についても十分検討を進めさせていただきまして、それぞれの住民の方の負担が軽減できるような対策を講じてまいりたいというふうに思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

では、そういった答弁があったということを申し伝えたいと思います。

それでは最後の質問に行きます。３番目の項目ですね。学校プールの活用状況についてでございます。

先ほど教育長のほうから10から12時間の子供たちは水泳の授業を受けたということでお話がありました。子供たちの水泳の授業に対する反応、いやいややっているのでしょうか。それともやったプールだとか水泳だって喜んでやっているのでしょうか。どうなのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

その子の能力等にもよるのだろうと思いますが、おおよそ子供たちは暑い中でもありますので、プールの活動については喜んでいると思っております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

私どもが小さい頃は川で泳ぐしかない、汚い川でしか泳ぐことしかできなかったのですけどそれでも夏休みになったら川で水遊びができるというのはすごく楽しみでしたし、当時は貸切りバスを仕立てて地区のＰＴＡで、近場の海水浴場に行く。これが夏休みの数少ない楽しみでもございました。

学校に本当に大きな予算を投じて立派なプールをつくっていただいているのですけれども、利用状況を私夏休みの期間にちょっと赴きまして、調査をしてみました。南小にうちの地区が下に書いています協和郷と志折郷と岳辺田郷が一緒に利用するということで、３回ですかね、３回お願いしますって地区の人たちが話し合われて、夏休み期間中３回行くということで計画をされたみたいです。その３回に私は全部行きました。７月25、31日、８月６日だったのですけれども、その利用の数というのが岳辺田郷は３人、３人、３人なのです。３人が来ているだけなのですよ。保護者は１人でしたね。それぞれ１人が監視に来られていました。この岳辺田郷は志折郷よりもはるかに子供の数、児童の数は多いと思うのですけれども、この少ない原因は何だと思われますか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

先ほど答弁申しましたように、夏休みのプール開放については教育委員会、学校はほとんど関わることができないＰＴＡの方々が、子供たちのために開放してほしいということの申請に基づくものですから。岳辺田郷が何回とか、そういうところまで私たちじゃあ増やしなさいとか、そういうことを言えるところではありませんし、多分これは岳辺田地区の現状として、こういうふうな子供たちが来たのだろうということで推測しております。

○議長（百武辰美君）　岡村議員。

○４番（岡村真由美君）

東小学校にも１回だけ８月１日にちょっと行かせてもらったのですけど、ここでは子供たちが29人。監視のお母さんが６人。お父さんもおられましたかね。来ておりました。これは回数６回できるのですね。これは何かというと登録制でしている。登録制39人登録しているとおっしゃいましたかね。このうち29人がこの日は来ておりました。

何で登録制になったのかというのは先ほど教育長も言われたように、地域開放は全てＰＴＡに任せているから、そのＰＴＡの事情で開設の仕方が違う。多分中央小学校もまた違うのだろうと。

何でこんなに参加者が少ないのかということを私が推測するに、やはり監視に行けない保護者が多い。だからお願いするわけにはいかない。だから子供は家で過ごす。あとはほかの団体に行く、部活をする。この本当にこの熱いこの夏休みを、子供たちはどうやって水遊びもせずに過ごしたのかなと私はちょっとかわいそうだなという気持ちになりました。

次に南小学校のプールの大きいほうですね。奥に２人見えるのがジェネックス有田ですかね。スイミングの中にあるところの指導員さんが２人見えて監視をしてくださっていました。監視の人も南小ＰＴＡが独自に雇って来ていただくような形になったのだそうです。今年から。

これはすごく心強いなって私は思いました。有田の状況を聞いたのですけど、有田はプールが老朽化して、もう小学校とかのプールで何かをするのではなくて、有田スイミングというのですか。あそこに学校から来ているという感じで言われました。波佐見はすごいですね、プールがきれいですねというように言っていただきました。

あとこれは東小学校のプールです。まだ子供たちたくさんいるのですけども、入る前の施設を見ました。大きいプールと小プール。もう立派ですね。さすが南小よりも後にできた敷地も広いプールってもう感動しました。

こんなプールを今39人が登録して29人、６日間使うと。この夏休みの利用はどうにかならないのかなと思います。地域開放について何かお考えはありませんか。最後の質問にしたいと思います。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

町内３小学校のプールは今議員お説のとおり、多分県内でも高いレベルにあるのは間違いないだろうと思っておりますので、夏休みの子供たちの最高の思い出の場所として、ぜひＰＴＡの方々保護者の方々にも、どういうやり方が一番自分たちの負担もできるだけ減らしながらも、ただ子供たちの見守りに関わることもＰＴＡ活動の大事なお仕事だと思っておりますので、そういうバランス等も踏まえながら、よりよい開放ができればなということを願っております。

その分、学校やＰＴＡとの意見協議の場に私たちもどういう内容があったのかということなどの意見聴取等はやっていきたいと思っております。

○議長（百武辰美君）

以上で、４番　岡村真由美議員の質問を終わります。

しばらく休憩をいたします。13時30分から再開します。

午後０時00分　休憩

午後１時30分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、１番　前田博司議員。

○１番（前田博司君）

それでは通告に従い一般質問を行います。

１．地域公共交通について。

波佐見町における町民の交通手段は、タクシーや路線バス及び自家用車員となるが、自家用車の運転ができなくなると公共交通を利用することになる。

しかし、本町の乗り合いタクシーにおいては、改善を繰り返しているとはいえ、まだ十分とは言えない状況にあると思われる。また、路線バスにおいても便数の減少や乗車運賃の割高感などもあり、不便を感じているとよく耳にします。

そこで、次のことを問います。

（１）乗合タクシー事業と高齢者タクシー利用券助成事業の所管は違いますが、連携はとれているのでしょうか。

（２）路線バスの利用促進対策の実施状況と今後の方針はどうか。

（３）以前、新幹線の開通に伴い嬉野温泉駅からの交通体系を協議するとありましたが、その後どうなったか。

（４）新たな交通システムについての検討はどうか。

（５）地域公共交通会議とはどのような位置づけなのか。

２．教育行政について。

（１）全国学力調査の最新の結果についてどう考察するか。

（２）タブレット端末の導入は、学力向上に影響を与えたのか。

（３）児童・生徒の家庭学習の習慣化について学校でできる対策はどうか。

以上壇上からの質問終わります。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

１番　前田議員の御質問についてお答えをいたします。

１．地域公共交通についてと。本町の乗り合いタクシーは改善を繰り返しているとはいえ、

まだ十分とは言えない状況にあるとの御指摘のもと（１）乗合タクシー事業と高齢者タクシー利用券の所管が違うが、連携はとれているのかとのお尋ねですが、本町では、平成24年度に予約制乗合交通の運行を開始し、その後、令和３年度から高齢者タクシー券助成事業を実施しております。予約制乗合交通は、町内12路線が各路線につき週３回１日４便運行をしており、商工観光課が所管しています。

高齢者タクシー券助成事業は、運転免許をお持ちでない70歳以上の高齢者に対し、１万2,000円分。75歳以上の運転免許をお持ちの高齢者には6,000円分のタクシー利用券の助成を行っており、長寿支援課が所管しています。予約制乗合交通の利用者も高齢者が多いことから、高齢者タクシー助成券を乗合交通乗車時に利用される方も一定数いらっしゃいます。

お尋ねの部署間の連携については、予約制乗り合い交通の予約方法に関する高齢者への説明会の実施や、公共交通先進自治体へ共同で視察を行うなど、連携をとりながら、それぞれの施策の課題や対応策について随時意見交換を行っております。

（２）路線バスの利用促進対策の実施状況と今後の方針は、とのお尋ねですが、現状では、路線バスの利用促進に向けた取組は行っておりませんが、現在、地域公共交通計画の策定について進めており、バス路線の利用状況の把握、バス利用者やバス運行事業者の意見を聞くためのヒアリング及びアンケート調査を実施しております。このことから、路線バスの利用者から見た課題やその対応策について西肥自動車とも協議し、今後路線バスの利用促進について検討を行いたいと考えています。

（３）新幹線の開通に伴い嬉野温泉駅から交通体系を協議するとあったが、その後どうなったのかとのお尋ねですが、現在、嬉野温泉駅には路線バスの停留所はなく、駅に隣接する嬉野医療センターからの発着となっています。嬉野市観光協会やレンタカー事業者、嬉野駅関係事業者に話を伺ったところ、嬉野温泉駅からの本町への移動についてはレンタカーないしタクシー利用が多く、その理由としては嬉野温泉の宿から本町や有田町、東彼杵町など短時間で回られる移動手段が求められているのではないか。という話も伺っています。

今後、西肥自動車とのバスの利便性などの協議はもちろんのこと、現在の嬉野温泉駅利用者の動向について情報収集を行いながら、本町への誘客を図るための施策を検討していきたいと考えています。

（４）新たな交通システムについても検討はどうかとのお尋ねですが、今年度、本町では地域公共交通計画の策定に向けて、公共交通利用者へのアンケート調査、公共交通事業者へのヒアリング調査及び利用状況調査を行っております。地域公共交通計画とは、地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿を明らかにするマスタープランとしての役割を果たすものです。国が定める地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、地方公共団体が、地域の移動に関する関係者を集めて協議会を開催しつつ、交通事業者や地域の関係者等との協議を重ねることで作成していくものとなっています。

新たな交通システムについての検討はとのお尋ねですが、地域公共交通計画の策定とあわせて先進地の自治体の導入事例などを研究し、本町の実情に照らして参考になるものについて検討をしたいと考えています。

（５）地域公共交通会議とはどのような位置づけか、とのお尋ねですが、地域公共交通会議は、地域のニーズに応じた多様な形態の運送サービスの普及を促進し、旅客の利便を向上させるため、地域の実情に応じたバス運行の対応及び運賃、料金、事業計画等について、地方公共団体が主催者となり、地域の関係者による合意形成を図る場として、平成18年10月の改正道路運送法に位置づけられました。

また法令に規定される市町村が主体となる地域公共交通に関する協議組織は、道路運送法に基づく地域公共交通会議と、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づく法定協議会があり、本町では例年開催している地域公共交通会議とあわせ、今年度地域公共交通計画策定のための法定協議会を組織しています。地域公共交通会議では国、県、警察、交通事業者、町内関係団体から委員に御就任いたき、主に予約制乗り合い交通の運行状況について協議を行い、意見をいたいているところです。なお大きな２の教育行政については教育委員会から答弁がございます。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

２．教育行政について

（１）全国学力調査の最新の結果についてどう考察するか。のお尋ねでございますが、同僚議員の質問にもお答えしましたように、近年の厳しい結果を受けて、強い危機感を持っております。繰り返しになりますが知識理解の観点から言えば、漢字力や語彙力、思考判断表現の観点で言えば読解力と書く力。さらに学びに向かう力の観点では最後まで諦めない、課題に意欲的に取り組むことに課題があります。そのことにより、学力正答率分布の２こぶ化が見られ、低位の分に属する児童生徒の割合が正答率上位の市町よりも高くなっています。

これらの分析から低位、中位にいる児童生徒の学力の底上げが最大の課題であると考えております。

（２）タブレット端末の導入は、学力向上に影響を与えたのか、とのお尋ねでございますが、学力の知識技能の観点、俗に言われる読み書き計算の育成定着には、なじまない学習ツールであると捉えています。

現況では、学習に主体的に自主的に積極的に取り組もうとする学びに向かう力の育成にその有効性を発揮していますが、これからは思考・判断・表現力の育成の観点からも積極的かつ適切に活用することが求められると考えています。

（３）児童生徒の家庭学習の習慣化について。学校でできる対策は、とのお尋ねでございますが、家庭学習の習慣化については、これまでも現在も、学力向上定着に係る重要な位置づけ

として取り組んでいます。

課題の提示、課題の指示や提供と、それに対する添削等の評価を基本的なセットとして取組、その持続性、創造性、自主性を高めるよう様々な手だてを行っています。今後は家庭学習の有効なツールとして、タブレット端末の活用も積極的に取り入れる必要があると考えます。

なお家庭学習の習慣化については、学校のみの取組ではなく、家庭、保護者の御理解、御協力が不可欠ですので、一層の連携を図っていかなければなりません。

以上、壇上から答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

それでは最初の公共交通についてですが、まず（１）についてですが、これは連携といいますか、それなりに改善はされていると思います。ですが不満もあるみたいですね。どれだけやっても不満は出てくるのでしょうけどもその一つとして、やはり例えばタクシー利用券が１万2,000円で足りないとか、そういった声もあるみたいですが、組合せて有効な使い方ができてすぐになくならないような。途中までタクシーを使って、バス使ってとか乗り合い交通と組合せてとか。そういったことができるのではないかと思うのですが、そういうよりよい使い方。こういうものを広報するというかお知らせする。こうやったら長く使えますよとか。

一番いいのは玄関まで来てというのが一番いいのでしょうけど、そう言っていられないですよね。高齢者のフレイル対策なんかも考えたら、多少は元気な人には歩いてもらって、そこからバスに乗ってとかタクシー乗ってとか、そういう例えば乗り合いタクシーもそうですけど、バス停まで歩くとか、そういうことも必要になってくると思うので、そういう広報をもうちょっと、やったらどうかと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

今のチケット等に関しての部署間の連携というふうなことでも、まず意見交換をする際に、やはりうまく統一したチケットなどが設けられないかというふうなそういったことでの話は出ております。ですので、今後そういう利便性の向上を図るために、そういう電子チケットの導入などそういったとこも含めて今後検討していきたいというふうには考えております。

もう一つ、広報で少しそういったバス停までの距離とあとはその活用の仕方、方法等についての周知をというようなことでの御意見をいたきましたけども、当初のこの乗り合い交通を導入するにあたりまして、やはり停留所を設けてそこからの離発着をというようなことを行いましたのは、当然タクシー事業者の状況等も考えてあるのですが、やはり利用される方々がやはり高齢者の方が多いというふうなことも想定をしております。

議員がおっしゃられるようなタクシーの停留所まではいくらかやはりこう歩いて、それでタクシーに乗ってもらうというような。当初はそういったところを念頭に置いて制度化したとい

うような経過もございます。

今お話がありましたように、そういったところを少し町民の皆様にも御理解をいたけるような方法での周知等も、今後あわせて制度自体はちょっと見直しも今後検討しているのですが、その状況に応じた形での周知などもあわせて検討していきたいというように考えております。以上です。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

すいません。前後します。最初に聞けばよかったのですが、高齢者タクシー利用券の中で、乗り合いタクシーを利用されている割合というのはどのぐらいあるかを御存じでしょうか。

○議長（百武辰美君）　松添長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

ちょっとこれ昨年の令和４年度の状況になりますが、利用状況といたしまして一般で使われているタクシー、通常のタクシーですね。使われている金額が997万6,000円に対しまして、乗り合い交通で利用された金額が10万200円という実績になっております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

かなり少ないので、タクシー券でタクシーに乗れるのだからわざわざ乗合タクシーに乗らなくてもと使う方は思うのかもしれませんけど、先ほども言いましたように、最初に言いましたようにやはり、タクシー券をもっともっと出していただければいいのでしょうけどもそういうわけにもいかないでしょうから。有効に使うように周知をしていただきたいと思います。

それから先ほど出てきたデジタル化についてなのですが、電子チケット。いわゆる以前は交通系のＩＣカードが導入できないかという質問もさせていただきましたが、やはり導入コストがかなりかかるので、町内の例えばタクシー事業者においても、なかなか難しいのではないかという答弁をいたきましたけども、今、鉄道関係でもこのＩＣカードにかわるＱＲコードを使ったシステムというか、そういうので導入コストを抑えようという動きもあるみたいです。

本来はこの導入に関する部分については、国が面倒見てくれれば、都会よりもこういうシステムを必要としているのはやはり地方だと思うのですよね。地方のほうが必要なのでですが、前にもありましたように導入コストがかかり過ぎるのでできないと。ランニングコストもかかるのでしょうけど、それを全部負担するのはなかなか難しいと思いますが、先ほど言いましたようにＱＲコードを使ったシステム等もあると思いますが、そういうのに向けての研究はできますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

実際ですね、昨年度もそのようなシステムでＱＲコードを使って運用されているような自治

体について視察を行っております。やはりＱＲコードを活用していらっしゃるということで、非常に利用者の声としても使いやすいというようなことで、そういった声が上がってるというふうなことでお話もお伺いしておりますが、やはりその本元のシステム導入費とかもかなりのコストがかかっているというふうなことも一方で聞いておりますので、ＱＲコードなど利便性向上を図る政策というのも一部で必要なのですが、そのあたりをどういうように費用対効果等を考えながら導入に向けて検討する必要があろうかというように考えております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

デジタル化とはちょっと逆行するようなことを言いますけども、昔はバスも、回数券というのがありましてですね、50円とか100円とかの券ですね。今は多分ないのかな。そういうのがあればタクシーチケット等も相互利用はできないのですが、バスにも乗れるというようなチケットにできないかなと思うのですけど、それはデジタル化に向けてやっているのでなかなか難しいかなと思います。で、次に行きます。

路線バスの利用促進。路線バスでも川棚に行くバスについては補填をしていると聞いてますけども、補填だけでは利用者が伸びなければ、どんどん補填の額が増えていくだけだということですね。あと利用者を増やさないといけない。利用者を増やすためにはどうしたらいいか。

これまではあまりやってこられてなかったということなのですが、利用者を増やすための町がこれは民間の事業者ですけども、地域公共交通の手段としては入っておりますので、積極的に町が関与して利用促進をするということについてはどうお考えでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

議員さんがおっしゃることはもう非常にそのとおりだと思っております。なかなかこれまではやはり、赤字の欠損保証ということで、それでずっと対応しておりまして、なかなか路線をどう維持していくかというふうなところで、そういったところをクローズアップして、利用促進というような観点からバス事業者との協議等なかなか行われていなかったというところも正直あろうかと思います。

今回、公共交通計画を策定するに当たりまして、そのバスの利用者の利用状況。それと町外へバスを利用される際の目的地等いろんなところ、それから課題等も把握するように努めております。

一方で事業者のほうとも、利用促進に向けた提案等がお互いに意見を出し合って、何かできないかというようなところでの意見交換なども今現在進めておるところですので、利用促進につながるようなところでの観点からですね、現状としては非常にバス運行に関しましては厳しい状況が続きますけども、そこで町民の皆様が安心して使いやすいバスの運行になるようなところでは、引き続き継続して事業者とも協議を行いながら、こちらのほうで提案できることが

あれば、提案を進めていければというように考えております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

それで以前も質問させていただきました、昨日の同僚議員からもありました。定期券の補助。これに関しては例えば川棚方面へ向かう学生にしても、よく保護者の皆様から聞く話としては、例えば専業主婦で家にいる場合は、私が送ったほうが早い、安いと。だからバスには乗らないと言われるのですね。

そもそもバスに乗って通学できるような可能性がある生徒というか、そういう利用者を逃していると。ますます乗る人が少なくなって、補填が増えるというのであれば、補填するのと利用者へ補助するのと。お金の使い方として、利用者は町民でありますから、そちらのほうが有効ではないかというふうに考えるわけです。

これは川棚線だけじゃなくて、佐世保方面もそうです。学生に限らずですね。これは前にも言ったと思うのですけども、定住関係の話にしても、町内で仕事を求めてもそう簡単には増えませんので、町内から通える範囲で仕事を求めれば波佐見町に住む機会ができると思うのですね。

そこで一番ネックになってるのは、マイカー通勤する人多いですけども、バス利用でこういう補助があるのですよとなると、いくらかは増えるのではないかな。そもそもバスになくなってもらったら困るわけですよね。いいと思っているわけじゃないですから。何とかして利用者を増やしていただきたいという観点から、先ほどの補助に関してはどう考えられますか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

先日の一般質問でも答弁をさせていただいておりますが、定期券に関しての補助の検討につきましても今後、今バス事業者とその利用者に関してのヒアリングなど、各高校の高校生に向けてのバス利用の実態調査なども今進めさせていただいております。

ですので、その辺りについて定期券の補助を行うことがどの程度の効果があるのか。それからバス事業者として、もう少し例えば通勤通学の時間帯にある程度その、バスの遅れとかがなく、安心して到着するようにできるとかですね。あとは例えば、佐世保方面でいけば学校の近く。最寄りのところまで運べるような状況がつくれるかどうかと。そのあたりもあわせて、いろいろと事業者等のほうとも協議を行いながら、この制度がもし可能であれば、検討を進めていきたいなというように思います。

ただし一方で我々、行政だけで支援をするという状況と、またやはりそのバス事業者の今の状況がある程度やはり改善を見込めないと、協力してやらないといけないというところの認識がございますので、そのあたりはしっかり調整を図っていきたいなというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

すいません。先ほど言った川棚の路線に関しては補填しているのが分かりますが、佐世保嬉野線については、現状では補填するような状況にはないということですかね。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

現状ではですね、損失についての補填は要請されておりません。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

そうですね。バスの状況を見るとそんなに人は乗っていないように思うのですけども、恐らく佐世保嬉野線なので、波佐見町で乗っていない分は佐世保市内で稼いでるのかなというようには感じます。想像ですけどね。

そうなると佐世保嬉野線が三河内でとまってしまうということも考えられなくもないですよね。ただでさえこの路線は長くて運転主が大変だと言われているみたいですので、途中で切られる可能性はないとは言えないと思います。ぜひともそういうこともありますので、利用客を増やすような施策をとっていただきたいと思います。

次に嬉野駅からの協議ということですけど、先ほど答弁にあったように利用者は少ないと、レンタカーなどを使ってるということでありますが、そうなると先ほどの佐世保嬉野線のバスも関連してきますけど、これはもうバスに関しては改善の余地がないというように考えるのですか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

嬉野行きのバスにつきましては、１日１便ですね。お昼に11時台、お昼に１便今あるというような状況でございます。ですので、実際に西肥自動車さんともいろいろと話をさせていただいております。利用状況について先ほどおっしゃいましたように、嬉野波佐見間での利用状況というのが、やはり当初からちょっと少ないのではないかというような。そういったお話で、増便等もなかなか状況としては今の段階で検討段階にないというような話を聞いております。

ですので、今後の新幹線の利用客をどう波佐見町へ誘客するかというふうなところにもつながってくるとは思うのですが、当然そのバスでの利便性。その乗車ができるような体制の構築というのも当然必要ではありますが、現状を考えるとバスも含めて、バス以外のレンタカーとか、タクシーによる誘客等もあわせて検討しなければいけないというふうに考えております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

次の（４）に行きます。新たな交通システムの検討ですが、何度となく質問させていただき

ますが、検討していますという答えがずっと続いてます。なかなか、思い切ったことに踏み込めないなあと思っているのですけど、例えば検討してきた中で、どういうことが一番波佐見町にあっているんだ。ていうところまではまだ行き着いてないのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

いろんな先行自治体の事例等を踏まえて、こういったことが合っているのではないかなというところで、そういったイメージはできているのですが、本町における公共交通の状況というのが、やはり近年大分変わってきているというようなところもございまして、それに合わせるような形で。

一方で国の制度のライドシェアに見られるようないろんな制度構築等もございますので、その中で本町に本当に合致するもの。そういったものを見極めて判断するためには、やはり先ほども申しましたとおり、この地域公共交通計画の策定において、いろんな課題の洗い出しとか、利用状況をまず把握をした上で、今ある程度イメージをしてるようなものがあるのですが、それをもう少ししっかりと根拠付けて具現化していくことが必要ではないかなというように考えているところです。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

そうですね。交通計画の策定をやってるというのは存じておりますが、検討すると言って久しいものですから、できればもうちょっとスピード感を持ってやっていただきたいと思います。

そして何が一番合うか。なかなか難しいところですが、私は失敗してもいいと思うのです。実証実験は早くやるべきだと思います。無駄に終わることはないと思います。そこでいいこと、悪いこと。合っていること、合っていないことが見えてくると思うのですよ。

できる限り早くそういうのを見定めて、実証実験をやって、やらないと何も分からないです。いくら机上で議論しても分からない点はあると思います。実証実験を早めにやっていただきたいと思うのですが、そういうお考えはないですか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

できるだけ今回公共交通計画を策定するということはイコール、そういう新たなというか今の既存の交通体制の見直しというようなところになりますので、この計画の策定の方向性を見定めた上で、できるだけ早く実証実験につながるように行っていければというふうに考えております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

次の（５）に行きます。地域公共交通会議とあります。もう一つたしか、地域公共交通活性化推進協議会というのがありましたが、多分この２つだけですかね。この活性化推進協議会というのがいわゆる法定会議と言われるものなのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

議員おっしゃるとおり活性化推進協議会を設置しておりまして、これが法定協議会にあたります。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

それでは町長の答弁にあったのですが、もう一度ちょっと聞きますけど、地域公共交通会議と、この活性化推進協議会。それから地域公共交通計画の策定。これの関連性をもう少し詳しくお願いします。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

まず地域公共交通会議につきましては、道路運送法に基づく会議でございまして、その内容につきましてはいわゆる道路運送法で許可したものについての、そこの運行でありましたりとか、料金体系でありましたりとか。そういったところについての協議を行う場合になります。

ですので、本町でいきますと予約制の乗合交通ということで、それが協議の対象になってくるところでございます。これは例年平成24年にこの制度を発足して以来ですね、毎年開催をしているものです。

それからはそれとはまた別に、今年度設置をいたしました地域公共交通活性化推進協議会というものにつきましては、これが地域公共交通の活性化及び再生に関する法律というのを根拠といたしまして設置をしております。

こちらにつきましては、この法律に基づきまして地域公共交通計画の策定をするための協議会というふうなことになります。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

それではですね、その中で自家用有償運送というのがありますがこれを議論する、また法人ではＮＰＯとかでこういうのをやりたいのですよって言った場合に、これはどちらで議論することになるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

まず自家用有償旅客運送について御説明をいたしますが、自家用有償旅客運送というものは

基本的にバス、タクシー事業が成り立たない場合であって、地域における輸送手段の確保が必要な場合に必要な安全上の措置を取った上で、自治体やＮＰＯ法人等が自家用車を用いて提供する運送サービスというようになっております。

この場合、お客さんから収受する対価は実費の範囲内というふうなことになります。こういったことで、運行を一部国で認めるような制度になっておりまして、地域公共交通会議において、この自家用有償旅客運送に関しましては協議を行いまして、それで地域の関係。当然そのバス、タクシー事業者と、地域の住民等で組織をする会議でございますので、そこでの合意形成を踏まえた上で、国が認可するというような、そういった流れになります。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

その中で交通空白地域というのがあります。今バス、タクシーという話が出ましたが、波佐見町においてはそうすると、タクシーがないわけではないので交通空白地域というのは存在しないということでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

交通空白地についてまず御説明をさせていただきますが、国のガイドラインにおきますと、半径１キロメートル以内にバスの停留所、それから鉄道の駅が存在しない地域、もしくは恒常的に30分以内にタクシーなどが配車されないところ。そういったところが交通空白地というふうなことでの定義としてのガイドラインというようなことが定められております。

ただしここ数年の国のほうの、ここの交通空白地における定義をいろいろと見直しをされておりまして、今は時間帯に当然その日本版ライドシェアにかかるようなところで、夜間にタクシーがいない時間帯とか、そういったところを交通空白地に含めるとかそういったところにもなってきている状況でございます。

本町におきましては、現段階ではバス、タクシー、それから予約制乗合交通の停留所など。この国の基準に照らし照らしましたら全体的に一応カバーはできているのではないかなというふうな認識でおりまして、交通空白地は今のところはないというふうな判断をしております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

路線バスについては幹線道路で限られています。タクシーに至っては今乗務員不足で時間、日にち等制限がかかっていて、夜間もなかなかつかまないということであります。

国の基準等はあるのでしょうけど、協議会で協議ができるのであれば、そういうところもちょっともう少し加味していただいて、参入できる方がいれば――当然参入したいという意思があればの話でしょうけど。そういうものを協議していただきたいと思います。

それともう一つ、空白地帯とは別に、福祉有償運送というのもあるのですが、これも申請と

いうか申出があれば協議はできるのですか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

今後ですね、地域公共交通活性化推進協議会で町全体の現状について整理を行います。その中で、やはりこの自家用有償旅客運送に関しましては、事業者の皆さんとの合意形成というのが非常に重要になってまいります。事業者の運行や収益の状況等に影響を及ぼさないかというふうなところも必要になってきますので、ここは協議会にも公共交通事業者の皆さんも入っていらっしゃいますので、町の方針として今後、夜間帯のタクシーとかが不在になっているような時間帯をどうするかとか、そういった課題を整理した上で必要であれば、この自家用有償旅客運送というような考え方を検討は行われるものというように考えております。

ただし冒頭でもお話ししましたとおり、この今の制度上はやはりこの自家用有償旅客運送につきましては、自治体もしくはＮＰＯ法人などの非営利団体というところが事業を実施するということが前提となっております。そのあたりにつきましては、そういった協議が整った後に、そういう団体等で実際に行いたいというようなところがあれば、協議を進めていくというふうなことになると思います。

あとは福祉有償運送につきましても、これは通常の福祉タクシーと違いまして自家用車を活用して、交通空白地に対応して有償で運送するというようなことでの制度になっておりますので、考え方としては自家用有償旅客運送の手続のもとに、そのような参画する団体が申込みをして、国が認可をするというようなそういった流れになろうかと思います。以上です。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

今の答弁の中でちょっと、引っかかったというか。協議会で協議をした後に認める。申請を受け付ける。申請、そういう相談があったときに協議するというのではなく、何か順番が違ったような感じがするのですが。

それともう一つ。福祉有償運送に関しては、これも空白地帯でないとできないという認識でよろしいのですか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

まずこのプロセスとしましては、町内の交通空白地の考え方というところについて、ある程度の合意形成がないと、波佐見町行政でここは交通空白地がありますよ、ないですよ、というところの判断にはならないかと思います。

ですので、幸いなことにといいますか。今年度この計画を策定する際に、本町の実情について各委員さんに協議をしていただくというようなところもありますので、そういったところで、交通空白地についての御意見もいたきながら、そこでもし交通空白地が認められるという

ような話になれば、やはり公共交通会議でその自家用有償旅客運送の手続についての導入について、検討せざるを得ないような状況になってくるのかなというように考えております。

福祉タクシーも交通空白地という定義が前提となってまいります。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

分かりました。

それでは最後に、この地域公共交通は地域の人々の足を支えるために必要なものであり、行政や事業者、住民などが一緒になって維持、改善に取り組むことが必要であると思います。よくバスのところで赤字補てんだって私も何回も言いましたけど、この地域公共交通に関しては、赤字ではなくて、地域を支えるための支出なのだというように捉えるべきだと何かで見た気がします。そのとおりだなと思います。お金がかかるからやらないのではなくて、地域の足を支えなければならないので、もっともっとよりよいものになるように、やっていただきたいと思います。

それでは次に２番の教育行政について質問いたします。

まず１番の（１）についてですが、先ほども対策についてはいろいろと述べていただきました。その中でちょっと県の資料とかも見ていたのですが、実際にこの学力調査。試験テストを受けるのは、その種類によって違うのですけど、６年生と中学３年生とかということになります。

毎回のようにどなたかが質問して、私もここで質問しているのですけど、昨年との比較って、全体的なことを見ると比較は必要なのでしょうけど、実際には要は小学生であれば、６年生が受験する、受けるとなると今年の６年生と去年の６年生を比べてるわけですよね。これはそれぞれの学年によって特性も違ってくると思います。

それで以前、県のホームページで調べたのですが、数年前までは中学３年生の結果のところに、３年前の小学６年生の結果もあわせて載せてありました。どうなったのか。よくなっているのか、悪くなっているのかというのがですね。

なぜか二、三年前からそれがもう表示されなくなっていたので、町に関する結果については、そういうデータといいますか、結果について考える場合に、３年前の同じ子供が受けた試験での結果についての差というか。そういうものを調査研究するようなデータはあるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

今議員お説のとおりですね、受験をしている子供が違いますし、問題が違いますので、前年度、前々と比べてもほとんどそれは意味がないところがありますので、おっしゃったように、Ａ君の伸び、変容というのを調べるためにこれが一番大事だと思っておりますので。その経年

的な結果等についてはですね各学校公表データを持っておりますので、それを調べていくことはできますし、それを強くやらなくてはいけないなということで確認をし合っております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

とはいえですね、全体的なデータもこれはデータとしてあるわけで、それはそれに対する対策もしていかなければならないのは確かなことだと思います。それで、次に２番に行くのですが、タブレットの導入。これ今タブレットは家庭に持ち帰って使っていらっしゃるのですよね。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

家庭学習や長期休業中において、学年によって毎日ということはないと思いますが、学校、学年によって、あるいは内容によって持ち帰って活用することは進めております。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

はい。それで先ほど教育長のほうからタブレット導入に関する、いい面、悪い面をおっしゃっていただきましたけども、これは家庭に限らず学校でもそうなのでしょうが、例えば禁止されているといいますか、ところにアクセスするだとか、ゲームサイトを開いてゲームをするだとか、全国でもこういうのがあるのだよというのは聞いております。

学力調査で低いとよく言われていますけど、こういうことに関してははるかに先生方の上を行っています。すごいです突破する力というのは。もっとほかのとこに使えばなとも思うのですけども、そういうところを見逃しているとこれはよく聞くのですけどね、タブレットで情報交換が生徒同士でできるようになってると。そうすると、１点突破した子がいると、みんなに広まってみんなやってると。先生たちは知らなかったと状況が出てくると。と言うのをちょっとインターネットで見たこともあるのですけども。

本町では、各子供たちが使ってる状況、いわゆる履歴ですね。こういうのは把握されているのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

確認ができることはできますが、それを毎時間、毎時間、毎日、毎日やってるかというと、多分その余力はないと思います。

○議長（百武辰美君）　前田議員。

○１番（前田博司君）

そうですね。常に監視するのはなかなか難しいと思いますが、私は定期的にやったほうがよいのではないかなと思います。

それとですね、タブレットも含めてなのですが、家庭学習の習慣化ですが、なかなかですね、学校で教えたことだけで成績が上がればいいのですけども、これ先ほど言いましたように各学年において特性があると。これもネットで調べた結果なのですが、全国的に見ると各都道府県でも特性があると。地域でも特性があると。なかなかやっているのだけど上がらないという地域もあると。なぜか。

やはり学校だけでは及ばない、家庭学習というところにあるのではないかということで、すごい大事なとこなのだなと思います。

先ほど答弁いたきましたけど、もう少しその家庭学習についてどうしたら習慣化できるかというところをもう少し詳しくお願いします。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

議員お説のとおり、学力向上には家庭学習は欠かせない重要なところだと思っております。復習を中心とするあるいは予習的なものを中心とする。さらにはタブレット端末等々を使った発展的な学習をする多分この３つに、これからの家庭学習と求められていくものが出てくるのだろうと思っておりますので、それぞれ特に復習的なものであれば、今日習ったことを確実に、おうちでまたおさらいをするという重要な部分もあるでしょうし、反転的に明日習うことをあらかじめ――予習的に学んでいって、授業でまたその確認をするというやり方もあるでしょうし。

授業を受けてさらに学びたいことを、ＡＩドリル等を使ってさらに調べていったり、自分の落ち込んでるところを復習したり、そういう様々な家庭学習ということでやっていくのだろうと思っておりますし、学校側がこれまで提示をしていたものをこなすだけではなくて、これからは今言いましたようにＡＩドリルを上手に使いながら、自分の課題を復習したり、さらに調べたいものを積極的にやっていく。家庭学習として取り組んでいくというような子供たちの姿も出てくるだろうと思っています。

呼びかけだけではなくて、例えばカードを使うとか、協調週間を設けるとか。ノーテレビデーとかいうことも取り組んでおりますし、議員お説のとおり何より家庭の協力がないとなかなかこれは習慣化がつかないと思っています。

習慣化をつける、読書にしても、家庭学習にして習慣化をつけるというのはとても学力向上に結びつく。とても大事なことではありますが、なかなかそう簡単にはいかないという厳しさも私たちも現場でも感じておりますので、根気強く、根気強く続けているところが現状であります。

○議長（百武辰美君）

以上で、１番　前田博司議員の質問を終わります。

しばらく休憩をいたします。14時40分から再開します。

午後２時27分　休憩

午後２時40分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、２番　濵本秋人議員。

○２番（濵本秋人君）

皆さんこんにちは。通告に従い質問いたします。

第６次波佐見町総合計画の基本目標について。

（１）「居心地よい安心をまちづくり」の結婚支援として、結婚新生活支援事業費補助金がある。所得制限はどうなっているのか。

（２）「温もりがある福祉のまちづくり」の子育て負担の軽減策として、第二子以降の保育料は無償となっているが、第一子からの無償化はできないか。

（３）「生きる力と郷土愛を育むまちづくり」の学力向上対策事業として学力向上支援員の配置や、英検・漢検に関わる検定料を補助するとあるが、支援員の人数と検定における成果はどうか。また今後の課題は。

以上の質問は先日行われました町政報告会のチラシ、第６次波佐見町総合計画基本計画の中から３点ほど抜粋して質問いたします。

以上、壇上からの質問を終わります。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

２番　濵本秋人議員の御質問についてお答えをいたします。

１．第６次波佐見町総合計画の基本目標についてということで

（１）「居心地よい安心を生むまちづくり」の結婚支援として、結婚新生活支援事業費補助金がある。所得制限はどうなっているのかとのお尋ねですが、第６次波佐見町総合計画の前期基本計画の中で、魅力あるまちづくりを目指す方策の一つとして、婚活支援を掲げており、結婚後における新生活スタートアップの支援を行うために、結婚新生活支援事業費補助金をメニュー化しています。

この支援は、結婚に踏み出せない低所得者層を対象に、結婚に伴う新生活を経済的に支援するため、結婚新生活を始めるにあたって、かかる費用に対して一定の条件のもとに補助金を交付するものです。

対象者は夫婦の合計所得が500万円以下で、夫婦ともに結婚日において39歳以下が条件となっています。対象経費は結婚に伴う引っ越し費用、住宅の賃貸費用、住宅の取得費用で補助金額は、夫婦のいずれか高い年齢が29歳以下の場合は上限60万円。同じく39歳以下であれば上限30万円です。

この支援事業は、国が行う地域少子化対策重点推進交付金の都道府県主導型市町村連携コー

スのメニューの中で行っており、これらは全国一律の最低条件となっており、市町村で独自に条件を緩和することはできませんが、条件を追加することは可能となっています。

（２）「温もりがある福祉のまちづくり」の子育て負担の軽減策として、第二子以降の保育料は無償となっているが、第一子からの無償化はできないのかとのお尋ねですが、第二子の保育料無償化は、波佐見町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン第２期総合戦略に掲げた目標です。人口減少の克服と地域活力の向上に向け、将来的な移住者の増加につながることが期待されるものとして、子育て環境の充実と負担軽減による産みやすく育てやすい子育て環境をつくることを目的としたものです。本町では令和６年４月から第二子以降の保育料無償化を実現しましたが、近隣の市町と比較しますと少し遅い対応となっています。

これは本町におきましては、令和３年度の早い段階から待機児童の発生が続いており、まずは待機児童を解消することを優先したためであります。その後、保育士確保対策を充実させたことで、待機児童解消に一定の効果があり、また財源の見通しが立ったことから、第二子の保育料無償化に踏み切ったものです。

また同時に、小中学生の学校給食費の無償化で保護者負担の軽減を図っております。第一子を含めた保育料無償化で毎年約5,000万円の財源を確保しなければなりませんので、現段階で第一子の保育料無償化を実施することは厳しい状況です。

全国的に財政力のある自治体において、子育て支援が手厚くなる傾向があり、自治体間での格差が生じている状況です。充実した子育て環境が魅力となり、移住者の増加につながっている事例もありますが、本来、教育保育は全国一律の制度で実施されるべきものであると考えます。将来的には国の少子化対策として実施されるよう、引き続き国に強く要望してまいります。

なお（３）については教育委員会から答弁がございます。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

（３）「生きる力と郷土愛を育むまちづくり」の学力向上対策事業として、学力向上支援員の配置や、英検・漢検に係る検定料補助とあるが支援員の人数と検定における成果はどうか。また今後の課題はというお尋ねでございますが、現在、学力向上支援員は中央小学校に３名、南小学校に２名、中学校に３名配置をしております。１名欠員の状態でしたが、９月からの任用にめどがつきましたので町内９名の配置が完了します。なお、特別支援教育支援員は10名を配置しています。きめ細やかな指導、支援を行う上で、両支援員の存在は大変大きいと学校からも高い評価をいたいています。

学力向上支援員は、教員免許有資格が条件でありますので、人数維持確保に苦慮しているのが現状です。また、他自治体との勤務条件にも差がありますが、波佐見町の子供たちに関わりたいと、やりがいを持って勤務いたいていることに厚く感謝をしているところです。

次に英検・漢検受験補助の成果と課題についてですが、英検補助につきましては、中学校で行っています。中学校３年生までに英検３級取得レベルの英語力をというのが県教育委員会の指標でもありますが、本町でもその指標目標に近づく手だての一つとして、英検受験の紹介、推奨、そして希望者への受験補助を行っています。

漢検受験補助は中央小学校の希望者を対象に行っています。学校全体さらにカリキュラムに位置づけての実施は、実施日時や指導体制など難しい面もありますので、現状では、希望者を対象にした実施を基本にしながら、学校の意見状況等を勘案して取り組んでいきたいと考えます。

学力向上に向け、英検や漢検等に自主的、積極的に参加する児童生徒の育成とその支援については、今後も行っていきたいと考えております。

以上壇上からの答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

波佐見町には、いろいろな補助金が出る政策があります。関連の質問ですけども、ＩＪＵターン奨励金。定住奨励金、移住支援補助金、最後の結婚新生活支援補助金。それぞれもう少し詳しく説明いただけないでしょうか。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

今言われましたＩＪＵターンについては、町外から転入して、町内の事業所に勤務をされた場合に、賃貸住宅に入居された場合に定額で６万円の助成金がございます。それと、定住奨励金については町内に家を新築されたり、中古物件を購入されたり、そういった方に対して最高で金額はちょっと今はっきり分かりませんけども、70万円とか70数万円とかですね最高額ですね。そういった助成金がございます。

そして結婚新生活支援の助成金についてはですね、先ほど町長から答弁したとおりであります。29歳以下が60万円、39歳以下が30万円。当然一定の条件のもとでということになっております。

あと一つが移住支援金については東京23区に５年間、住んでいらっしゃるお住まいの方。または東京23区に５年以上勤務をされてた方が転入して来られた場合に、またその町内の事業所に就業した場合に単身の場合が60万円、夫婦で来られた場合に100万円、そして子供さんが１人いらっしゃればプラス100万円。２人の場合は200万円といったような助成金がございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

今回私がお尋ねしたいのは、波佐見町で新婚生活をスタートされる皆様への、新生活支援事

業費補助金の件です。年齢制限とか所得制限があるのですけど、令和６年１月１日より７年の３月31日までとありましたが、現在何組ぐらいが補助金の対象になられているのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

今年度の申請をされての決定となりますので、正確な数字は今ちょっと持ち合わせておりませんけども、例年数件来られるというような状況でございます。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

助成を受けられる方には、夫婦の所得が２人で500万円以上の方は支給対象外ってなっているのですけど、所得が500万円以上の方にも波佐見町に住みたいと言ってこられる方には、助成はと思いますけど。どうでしょうか。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

先ほどの町長の答弁にもありましたように、この制度は国の制度を活用して行っておりますので、町独自で所得制限を撤廃するとか、年齢制限を撤廃するということはできないような制度設計となっておりますので、この制度を活用するという意味ではですね、できないということになります。以上です。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

所得の多い方が来られたら、税収も増えて人口も増えるのでいいのではないだろうかと思うのですけど。ちなみに川棚町は波佐見町と一緒でしたが東彼杵町は無制限でした。

何か、先ほど課長さんは何か変更するところがあれば変えられるとおっしゃいましたが、違いましたかね。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

恐らく東彼杵町も同じ国の制度を活用しておりますので、制限はあるものだと思っております。これそもそも国が何でこの制度を実施してるかというのは、先ほど町長も言いましたように、若年層においてなかなか所得が低い方がお金のために結婚に踏み切れないというのを少しでも支援しょうというところで、この制度が設けられております。

もちろん所得が大きい人が町に来ていただくことは非常にうれしいことでありますけども、もうそもそもの制度の趣旨が違うということで御理解いたければと思っております。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

そしたらその収入以外でも、年齢制限でも同じことなのでしょうかね。

○企画情報課長（澤田健一君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

年齢制限についても同じことでありますけども、先ほど東彼杵町がですね制限がないという話でしたけども、もしかしたら東彼杵町独自の単独事業でこのような制度を設計されているのかもしれません、

この国の制度を活用して、全ての市町村がこの国の制度を活用してるわけじゃなく、全く取り組まれていない県内の市町村もございますので、そこは各それぞれの市町村の考え方によって、事業の設計がされているものと思っております。

先ほどこの令和５年度の実績というのが７件。令和６年度が今のところまだいらっしゃらないということになっております。

これは家賃の補助的な部分もありますので、結婚されてなるべく実績において支給することになってますので、年度のこの期間の後半に申請していただくほうがより有利な、ちょっと助成の仕組みとなってますので、令和６年度については今のところは、ない。これから来るのではないかなというふうに考えております。以上です。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

それでは私が東彼杵町と聞いたのが、そうしたら東彼杵町は独自のことをされているって思いますが、波佐見町ではそういうことはしないということですね。で、いいのですかね。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

いろいろな移住支援とかこういった先ほど言ったようなメニューもある中で、できるだけ国の制度を活用できるものは、一般財源なるべく作らず国の制度を活用しながらのそういった趣旨に沿ったようなやり方をしたいということも思っております。

ただそのあたりのニーズとか、要望とかそういったものがあるようであれば、研究はやっていかないといけないんじゃないかなというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

それでは次の質問に移ります。波佐見町では保育料が第二子から無料ということで第一子から無償化できないかということなのですけども、無償にしたときが5,000万円かかるとおっしゃったのですかね町長。その5,000万円の捻出は来年度ぐらいからは無理なのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

まだ今年、給食費の無償化を始めたばかりでございますので、多種多様な子育て支援策があろうかと思います。単年度に5,000万円あるいは6,000万円かかろうかと思いますが、これを一

気に、なかなか。本当はやりたい気持ちはたくさんございますけれども、まだ今般いろいろ質問頂いております中で町がやるべき事業というのもたくさんあろうかと思いますので、そういったものを考えると、まずは今年度始めました給食無償化をある程度一定程度続けさせていただきまして、国の動向等を踏まえまして状況を見ながらの検討課題になろうかというように思います。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

例えば第一子から無償になった場合、新しく結婚された方も第一子から無料になったらそしたら赤ちゃんを産んでみようかという気持ちになられると思いますが。年間波佐見町で１年間に生まれる赤ん坊は100人未満ですよね。今のところは八月末で60人ぐらいです。

各家庭では、平均2.5から2.6人ぐらいですかね。できれば第一子から無料にしてもらうというのは全く不可能でしょうか。

○議長（百武辰美君）　石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

先ほど町長が申し上げましたとおり、やりたい気持ちはあるが財政が伴わないというところでございます。先ほどおっしゃいましたように第二子を今年度から実施をいたしました。それはお１人産んでいたいてるところにプラスそのもうもう１人、第二子以降ですね。多子を産んでいたきたいというところで、その効果を見たいというところで無償化もつなげているところです。できましたら第一子からできるものであれば無償化は今後ですね検討させていただければというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

東彼杵町は第一子、第二子無料でした。川棚町は何かよく分からないのですけど０歳児のみ無料って聞いたのですけど。この０歳児無料というのは、１歳になったら払わないといけないということでしょうか。ちょっとお尋ねします。

○議長（百武辰美君）　石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

おっしゃるとおり１歳、２歳になったら保育料はかかってくるということでした。東彼杵町も今年度から完全無償化を実施されておりますが、現状としましては年間の出生数ですね。子供さんの生まれてる人数というのが30名前後というところで、すごくこう危機感を持ってらっしゃるというところもございまして、そういう対策をとられているものと思っております。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

第一子からはちょっと無理かもしれないのですけど、無料になれば子供さんたちも増えて、

波佐見町の人口もますます増えていくのではなかろうかと思いますが。いつも何年には何人減る、もう減る一方だって言われるのですけど、そこあたりで増える方向に進められないでしょうか。町長。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

子育て支援策の充実というのは本当に今後の重要な課題だと思っております。他方県内におきましては、我が町ではいち早くその教育費の無償化等に取り組んだわけでございますが、一方で県内の自治体を見てみますと、佐々町あたりが無償化もしておりませんし、保育料の第二子以降の無償化、ここあたり取組されているか存じ上げておりませんが、昨年あたりは年間130人か、140人ですかね。実は人口がうちとほとんど変わらないんですけれども、出生数においてはかなりたくさん生まれたという報告を受けております。

であれば、必ずしも教育費、あるいは保育料の無償化が直接的な動機づけになろうかと思いますが、それが直接その子供がたくさん産まれるとか、産まれないとか、そういうことはあんまり直接的な関係性もないとは言いませんけども、難しいところもございますので、取りあえずは今年度始めたこういった支援策を見ながら動向を考えたいと思います。

国は異次元と。何度も申しますが国は次元の子育て支援策を実施するというように公言しておりますので、そこに大きな期待をかけておりますし、今後も町村会等を通じながら国に積極的なそのあたりの働きかけを行いたいというように思っております。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

それでは子育ての件はこれで終わります。

あとですね漢検・英検に関する検定料の件ですけど、検定料ってどのぐらいかかるのですかね。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

漢検につきましては500円の補助をしております。ですので、実際は多分1,000円ぐらいかかってるのかなという形は思っております。

あと英検につきましては、その級によって違いますけども３級が4,700円、準２級が5,700円、２級が6,400円ということで補助を行っております。こちらの英検につきましては全額行っております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

先ほど漢字検定ですかね、希望者っておっしゃったのですけど、この英検はどのくらい受けられるのですか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

英検につきましてはですね、令和４年度がこれは秋と冬というか２回あるのですけども合わせて70名。４年度は５年度が72名で、６年度は今あっている半期分ですけども、今29名が受験を行ってるみたいでございます。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

検定の合格率ってどのぐらいでしょうか。

○議長（百武辰美君）　教育長。

○教育次長（朝長哲也君）

合格率までは申しわけございません、把握をしておりません。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

この検定料の補助を出されたのは何年ぐらい前からになるのですかね。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

４年度から始めております。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

先ほどの支援員が全部で、９名とおっしゃったのですけども、その支援員さんのお仕事というか、どういう教育をされているのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

学力向上支援につきましては、基本的には授業中において、どうしても支援を要する子供たちの個別指導であったり、声かけであったり、励ましであったりそういうことも行っていただいておりますし、休み時間や昼休みでの個別指導、さらには放課後も含めますし、例えば夏休み等の補充教室サマースクール等にも、参加をいたいて御指導いたいているところです。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

先ほどの検定料って個人から直接いたかれるのですかね。英検、漢字検定の検定料は個人から直接徴収される。補助以外の部分は全額補助ですか。英検は全額補助、漢字検定も全額補助ですか。500円、分かりました。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

各学校におられるその支援員さんたちの指導時間というのは普通の先生たちの時間と全然変わらないということでよろしいでしょうか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

勤務時間につきましては８時15分から16時までということになっております。

○議長（百武辰美君）　濵本議員。

○２番（濵本秋人君）

支援員さんたちの今まで子供たちに対してとられたことで、特別課題とか何かはないのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

学期に１回、支援員さんたちとの情報交換、意見交換の場を設けておりますので、その場では今議員お説のように、やはりなかなか自分たちの言うことを聞かないとか、なかなかやはり、手がかかりますとか、いろんな大変なところ。ただ申しましたようにそういう子供たちであっても、とてもかわいいということで、波佐見町でぜひ子供たちに関わり続けて続けていきたいということを、ほぼ全ての支援員さんからおっしゃっていただき、とてもありがたいなと思っているところです。

○議長（百武辰美君）

以上で２番　濵本秋人議員の質問を終わります。しばらく休憩をします。

15時30分より再開します。

午後３時17分　休憩

午後３時30分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。一般質問を続けます。

次は、12番　脇坂正孝議員。

○12番（脇坂正孝君）

皆様こんにちは。私は以下３件について質問をいたします。

１．町政報告会の実施について。

６月末から８月当初にかけて、町内22か所において町政報告会が開催されました。多くの意見・要望等が出されたと思いますが、今後の町政にどう反映されるのか、次のことを問います。

（１）参加者総数は何人だったのか。

（２）意見・要望等の上位５点はどういった内容だったのか。

（３）意見・要望等は今後の町政にどう反映されるのか。

２．河川清掃について。

町内の河川については、県・町管理を問わず草木が繁茂しており、その対策については、これまで何回となく質問がありました。多くの自治会や愛護団体で美化作業にあたっておられますが、構成団体の減少や高齢化等により今後の在り方が懸念されます。

そこで、次のことを問います。

（１）町政報告会でも意見が出されたと聞くが、どのような内容だったのでしょうか。

また、その対策はどうされるのか。

（２）除草（草取り）除草用の新たな機器等の整備はできないか。

（３）町長と公園愛護団体との協定で実施している、河川公園維持管理奨励金は、見直しが必要と思うが改善はできないでしょうか。

（４）大木となったツツジは、剪定・間伐できないでしょうか。

（５）法面等のコンクリート化やセンチピードグラス植栽により、雑草を抑制できないでしょうか。

３．国民文化祭の本町開催について。

「第40回国民文化祭・ながさき２０２５（仮称）」でございますが、令和７年秋に本県で開催予定であります。本町も会場の一つとなっており、国レベルの大会が開かれることは誠に名誉なことであろうかと思います。

そこで、準備状況等について次のことを問います。

（１）本町で開催されます演目、その期日・会場は。

（２）町民へのこれまでの周知はどうでしょうか。また今後の周知方法はどうされるのか。

（３）文化祭に向けての進捗状況はどうでしょうか。

（４）出演団体等への支援対策体制は十分でしょうか。

以上でございます。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

12番　脇坂正孝議員の御質問についてお答えをいたします。

１．町政報告会の実施について。

（１）参加者総数は何人だったのか。

（２）意見・要望等の上位５点はどういう内容だったのか。

（３）意見・要望等は今後の町政にどう反映するのかとのお尋ねですが、町政報告会の実施については令和２年度以来４年ぶり、全22地区を巡回するのは平成28年度以来８年ぶりの開催となりました。

６月24日にスタートし、８月９日までに全22地区を巡回し、参加者総数は616名でありまし

た。頂いた御意見、御要望は町政全般に対して全部で241件あり、内容も幅広いものでした。

中でも一番多くの御意見、御要望を頂いたのが河川や道路の草刈りなど維持管理に対するものでした。次に多い順に、県道町道の整備に関するもの。まちづくりに関するもの。高齢者支援対策、農業振興対策などが多く出されました。

これらの御意見、御要望に対して、その場で回答できるものは直接返答させていただいております。またその他は町政報告会の期間中であっても、緊急を要するものは担当課において現地確認を行い対処できるものにはすぐに対応しております。

今後は頂いた多くの御意見、御要望を整理し、管理協議会において対応を協議しながら、緊急性や優先度が高いものは速やかに対応するとともに、予算が必要なものは補正予算や次年度当初予算などで対応してまいります。

またこれらの協議の結果については、できるだけ早い時期に自治会長を通じて丁寧に説明を行い、対応してまいりたいと考えております。

次に２．河川清掃についてということで。

（１）町政報告会でも意見が出されたと聞くが、どのような内容だったのかとのお尋ねですが、河川の草刈りに関する問題は人口減少社会において、どの自治体においても深刻な問題となっており、大きな課題となっております。このことから本町においては、草刈りの対応策は検討すべく、関連する複数の部署で対策協議を行っているところです。

また調整町政報告会であった意見としては、構成員の高齢化に伴い、作業人員不足が深刻化し、各地区での負担が増加している。イノシシ対策の防護柵が支障となり草刈りができないので撤去してもらえないか。桜づつみの河川堤防の勾配がきつく草刈りがしにくい。そのほか県河川の河床のしゅんせつなどの御意見を頂きました。

（２）除草用の新たな機器の整備はできないか、とのお尋ねですが、草刈り用の新たな機器についての導入については、自治会長会でも御意見を頂いており、自治会の負担軽減につながることから、現在対策協議の中で町が購入し自治会に貸出したり、自治会が機器を購入した場合の補助などができたりしないか、現在検討を進めているところです。

（３）河川公園維持管理奨励金の見直しの必要性についてのお尋ねですが、現在15団体の河川公園愛護団体と管理協定を結び、年３回の除草活動と清掃等の維持管理に努めていただいておりますが、こちらも高齢化や作業人員の減少により、愛護団体としての脱退や新たな担い手不足が懸念されるところです。

お尋ねの奨励金につきましては、平成16年度に策定の行財政改革推進に伴う集中改革プランに基づき補助金や交付金などの一律削減の実施により、現在まで至っているところでありますが、当時と比べると状況も変化していることから、今後対策協議の中で見直しに向けて検討をしてまいります。

（４）大木となったツツジは剪定や間伐ができないかとのお尋ねですが、お尋ねの桜づつみ

の大木となったツツジについては町政報告会でも繰り返し意見が出されており、今後剪定・間伐あるいは除伐も含め、実験的に伐採を行うなど、関係者の御意見にも十分配慮しながら、計画的に管理しやすい状況を検討してまいります。

（５）法面等のコンクリート化やセンチピードグラス植栽により、雑草を抑制できないかとのお尋ねですが、コンクリート化やセンチピードグラス植栽については町政報告会でも同様の御意見を頂いたところです。

これらに対する考えといたしましては、まずコンクリート化については景観に配慮しつつ対応しなければならないと考えており、全てをコンクリート化した場合、本町の特色、特徴でもある自然豊かな親しみある河川の印象が薄れるのではないかと思っております。一方で県の河川においては、一部コンクリートによる堤防補強が行われておりますが、これは防災という面で対応されており、その河川の状況に応じた対応が行われております。

また費用の面において、近年のコンクリート価格はかなり高騰してきておりますので、そのあたりも精査しつつ、様々な手法を含め総合的に判断していきたいと思います。センチピードグラスの植栽については、現在水田の法面等において取り組んでいる実績もあることから、今回の御提案となったものと思いますが、河川においては周囲の環境も異なることから様々な諸条件等も勘案し、今１度研究する必要があるのではないかと思っております。

特に県河川は、施設管理者である県との協議も必要となりますので、まずは情報交換を行いながら、センチピードグラスの活用が可能かどうか見極めたいと思います。

いずれにしましても、雑草の対策については引き続き対応していかなければならない問題であり、御提案のコンクリート化やセンチピードグラスの植栽も含め、河川の環境や周囲の状況に応じて最適な手段を模索していきたいと思っております。

〇議長（百武辰美君）

３の国民文化祭関係については教育委員会から答弁がございます。

〇議長（百武辰美君）　森田教育長。

〇教育長（森田法幸君）

３．国民文化祭の本町開催について。

準備状況等について次のことを問う。

（１）本町で開催される演目、その期日・会場は、とのお尋ねでございますが、来年の長崎県で開催される国民文化祭ですが、正式名称は第40回国民文化祭、第25回全国障害者芸術・文化祭、同一名称が「ながさきピース文化祭２０２５」となっております。

波佐見町でもこの国民文化祭に向けて、昨年度より文化協会を初めとする町内各種団体代表者で組織する実行委員会を立ち上げており、本町で開催するイベントについて御協議いたいております。

本町で開催するものについては、全国人形芝居フェスティバル、波佐見講堂音楽フェスティ

バル、講堂の文化的価値を高めるシンポジウム、焼き物の地域資源を生かしたイベントの４つを計画しております。

まず全国人形芝居フェスティバルについては、皿山人形浄瑠璃のほかに九州から７団体、東京、大阪、淡路から１団体ずつの計10の人形浄瑠璃団体に参加いたき、10月18日、19日の２日間、総合文化会館にて開催するよう計画をしております。

続いて波佐見講堂音楽フェスティバルですが、９月28日にジャズのビッグバンド、11月２日に九州管楽合奏団をお呼びして、プロの演奏のすばらしさを体験してもらいたいと考えております。

続いて講堂の文化的活動価値を高めるためのシンポジウムですが、東京大学名誉教授の富士森先生をお呼びして、講堂の建築学的な価値や、まちづくりにおける位置づけ等についてシンポジウムを開催したいと思っております。なお開催時期は未定です。

最後に、焼き物の地域資源を生かしたイベントにつきましては、国指定の登り窯を使った本町ならではのイベントを開催したいと計画をしております。

一つは畑ノ原登り窯を使っての焼き物体験。もう一つは中尾上登窯跡を利用してのキャンプイベントを開催したいと考えております。以上４つのイベントを本町では現段階では計画をしております。

（２）町民へのこれまでの周知はどうか。また今後の周知方法はとのお尋ねございますが、来年度本県で国民文化祭芸文祭が開催されるということ。また本町で予定されているイベントについては、自治会長会、文化協会役員会等では説明を行っておりますが、町全体への周知は不十分な状況です。本町で予定しているイベントの開催時期等詳細がまだ決まっていないことがありますが、国民文化祭芸文祭が行われることの周知は今後も図ってまいりたいと思っております。

今後は町内で開催するそれぞれのイベントの日程等を詰め、詳細を協議しながら、随時ホームページや広報紙等を活用して、町内外への周知につなげてまいりたいと考えております。

（３）文化祭に向けての進捗状況はどうかということでございますが、立ち上げております波佐見町実行委員会が中心となり、県担当課からの指導、指示そして連携を図りながら進めている段階であります。

（４）出演団体等への支援体制は十分かということでございますが、出演依頼者や団体と打合せを行う中で予算面、施設や運営面について今後詰めていきたいと考えております。

以上壇上から答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

総数で616名。平均しますと30名近い参加者があったかと思いますけども、この参加者数を総数616名というのは町民の皆さんの関心が高いと思われるか。それとも低いと思われるか。その

辺は町長いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

８年前のちょっと記憶をたどりますと、大きな自治会人口比に対して集まりが少し悪いのかなと。特に小さい自治会に関しては半分以上の方が集まれるような状況もございました。

総じて申しますと、お越しいたいた町民の皆様方の数はあまり変わっていないのではないかなということを思いますので、来ていただいた以上は貴重な場を開けたというように思っております。脇坂議員。

○議長（百武辰美君）

意見要望等の多かった上位５点について内容を説明してもらいましたけども、すみません。３つ目が何だったかということと、それからこのような結果を町長、副町長、教育長はどう捉えておられるのか。そこのところもお願いします。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

まず５点ですねまずは河川や道路の草刈りなどの維持管理がまず１点目。次に、県道町道の整備に関するもの、次にまちづくりに関するもの――広義で広い意味でのまちづくりに関するものですね。それから高齢者支援対策、続いて農業支援振興策などが出されているようでございます。

これらについて判断は先ほども答弁しましたが、その場で答えられるものは答えておりますが、貴重な御意見でございますので、すぐに対応できるもの。あるいは十分今後の検討が必要なものがございますので、それぞれの担当課に現在指示をしておりますし、それぞれの課で調整を図るべきものもございます。

そういったものを踏まえまして、十分に町政に反映をさせていきたいというような考えでございます。

○議長（百武辰美君）　村山副町長。

○副町長（村山弘司君）

今回６月から８月までの町政報告会。22地域のうち私は21の地域、志折郷はですね私が行政報告会の折に出張が重なったので、出席できなかったのですが、それぞれ各地域の皆さん方から御意見、御要望を頂きました。

私にとっては４月以降ですね、各地域に入らせていただいたのは初めての経験でございまして、その中から直接住民の方々の声で、地域の現状あるいは課題をしっかり聞かせていただいたというのは、私にとって大きな波佐見町の今後の町政を考える上で、いい機会だなと思ったところでございます。

特に心苦しかったのは、先ほども出ましたけれども県の河川であったりとか、県の道路であ

ったりだとかの維持整備。あるいは草刈りの問題については、なかなか県としてしっかり頑張ってるつもりなのですけれども、地域の方々の声に対応して来れていないという部分を地域の方々から直接聞いたということについては、県にしっかり対応を求めていきたいと思いますし、県として改めて認識をさせていただいた次第でございます。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

教育に関する頂いた御意見、御要望がいかに具現化、具体化するかということ。頑張らないといけないなということを強く思ったところです。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

多くの意見が、このようにして５番目までお尋ねしましたけども、こういった項目というのは本町の課題であり、また町民が困っておられることかと思っておりますけども、例えばもうすぐ12月の補正とか、そういったことがくるわけですけども、

補正でまず上げなければならないような、そういった緊急度の高いような、御意見それから御要望そういったものはいかがだったでしょうか。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

今ですね、各課にまず速報的なまとめを配って、それで詳細な議事録もちょっと今できたぐらいで、すぐ各課に共有するのですけども。それからのちょっと検討になりますので。補正の場合、予算化の場合は現場を見たりとか事業精査というその期間中に出ていってる部分もありますけども、そういうとこは順次スピード感を持ってやらないといけないですけども、ちゃんとした精査をしっかりやりながら予算化もしていくということで御理解いたければと思っております。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

総務課関係では今回交通安全の関係で要望頂きました。例えばガードレールや道路の表示をしてくれということで、今回補正３号で200万円追加させていただきましたが、そのうち町政報告会で要望があった部分も反映させたものも少なくはございません。以上です。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

今度の９月補正に出されたということは非常にスピード感があったのではなかろうかと思っておりますけども、教育問題についてですよ、この５項目に入っておりませんけども、教育関係で多かったのはどういったことですか。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

やはり、総合文化会館の運営、図書館のことについては、たくさんということではありませんでしたけれど頂いた意見としてはありました。これについては、これまでも多くの御意見、御要望頂いておりますので、できるだけ早急に対応していかなくてはいけないなということは思っております。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

１か月以上22回以上に及びます報告会での要望や意見、これは大切にすべきかと思いますけども、このあたりは議会のほうにも示していただけますでしょうか。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

先ほどの答弁の中で申したかちょっとあれですけども、基本的には各自治会にも御返答しながら、それから取りまとめたものを議会のほうにも報告をさせていただく予定でございます。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

５番目に農業の振興というのがあるんですけども、農業の振興について小さなこととしては、小さく分ければどのようなことが多かったでしょうか。

○議長（百武辰美君）　伊藤農林課長。

○農林課長（伊藤幸治君）

やはり後継者問題とか、やはり草刈りを含めた労力の問題ですね。その辺については今後、省力化等の研究。いろいろ新しい機械等が出ているのでそういったものを見に行くなど考えているところでございます。

やはりこう人材確保ですね。後継者確保に関しては、幅広い年代層を視野に入れて今後も取り組んでいきたいと考えております。以上です。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

今示して頂きました５つの問題。そのほかにもいろいろあろうかと思いますけれども、さっきも申しましたとおり、多くの町民の方の願いでございますので、早期に実現されるという方向で。あとの作業をお願いしたいと思いますけども、そのあたりの決意を町長お願いします。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

頂きました要望の中には、果たして行政がすべきことなのかということも含まれております。かなり個人的な要望というものもありましたので、そういったものはその場でお答えをしておりますが、行政として取り組むべき要望については真摯に受け受け取りまして、対応策は

十分に対応してまいりたいというように思っております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

次の河川清掃でございますけども、先ほどから話題になってます通り、町政報告会でも多くの意見が出されたというふうなことで、やはりどの地区においても、それから道路、河川、それから農地。こういったものを問わず、やはり相当大きな問題になってるかと思っております。

○議長（百武辰美君）

この中で、真夏の除草作業というのがやはり一番重労働で、仮に草刈り機を使ったとしましても、特にもう10時以降とか、真っ昼間はもう全く作業ができないというような、こういうような気象条件にもなっておりますので、そういった意味でも作業の軽減それから安全確保。こういったものが必要でございます。除草用の機器ということで検討されているということでございますけども、まず先ほどの中で、自治会長会でも多くの要望があったと。そして町が購入して、貸出しも考えているということですが、いろいろなカタログを見ますと、相当今斜面もかなり45度ぐらいまで作業できるとか、それからリモコンでできるとか、そういった相当進んだ機器が今出ております。そういったことでぜひもう何らかの方向で整備してもらいたいと思うのですけども。

先ほども話がありましたとおり、整備に当たっては町で一括管理の方法と、地区や団体なりに貸出しする方法。あるいは所有は地区とか団体ということで補助金を出していただくとそういった方法があろうかと思いますけども、できるだけ有効なシステムを考えてほしいと思いますが、今進めておられる機器の整備の方針。こういったようなものはどういう状況でしょうか。

○議長（百武辰美君）　井関住民福祉課長。

○住民福祉課長（井関昌男君）

町政報告会や自治会長会の折り多くの御意見、御要望を頂いてる河川等の草刈りでございますけど、本当多くの作業員の地域の方々には、この場をお借りして感謝申し上げます。

この真夏の中の作業というのが、当然今後も作業が続きますけども、この負担軽減に向けての機械化ですね。今町長の答弁にもありましたとおりですね、今の関係部長で対策協議を行っている状況でございます。

９月に入りまして、そのあたりの機械化に向けての検討も含めて今後進めていく状況でございますけども、負担軽減といいますと今協議の中で出ている状況が自走式の剰余の草刈り機、それと先ほど言われました法面等のリモコンの草刈り機ですね。それとちょっと最近検索して出てきたのがロボット草刈り機ということで、掃除機のロボットがありますよね。あれの草刈り機バージョン。自動で来て、自分で充電してまた自分でという、基本的に人が少なく作業も

少なく、そのあたりの負担軽減につながっていく状況の機械化というのが本当こう最新型が出ております。その辺も先ほど町長が言いましたとおり、内部協議で検討して、有意義な機器を選択しその辺の状況を図っていきたいというように思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

それでは次に、この写真は樋渡橋ですか。八島から田ノ頭に抜ける道路の橋から100メートルばかり下流のところでございます。左側がウォーキングロードですね。そして左のほうは田原ということでございますけど、これは５月の20日頃に１回目を刈りまして、そして７月の20日ぐらいですから約２か月間。もう２か月間のうちにこのように伸びているのですよ。柵の右側は傾斜になっております。土羽ですね。

こういったことからですね、相当ウォーキングロードのほうにも葛のカズラがはみ出すというふうなことですけども、こういうのがなかなか作業しづらいのですね。特に７月、８月の作業というのが、もう１メートルを超える２メートル近くなるぐらいの草の高さになりますし、それからこのカズラ。これが草刈り機に巻きついてもう非常に重荷になっております。

そういったことからさっきの新しい機器のお話がありましたとおり、自走式の乗用――というのは例えばここで言えば、ちょうど桜がありますけども、そこあたりはかなり広くて、そして平面でございますので、その辺は自走式でやりやすいと思っております。

それから傾斜が強いところ。ここはもうどうしても機械が必要。と、いうのがやはり相当こう踏ん張りながら切らないと、足がかなりくたびれるというようなことで、そうそう高齢者にはきつい作業でございます。

こういったことからこういうのをいろいろ勘案してもらって、ぜひ来年度予算には措置をお願いしたいのですけども、そこのところを含めて、今後の予定はどうでしょうか。

○議長（百武辰美君）　井関住民福祉課長。

○住民福祉課長（井関昌男君）

議員がおっしゃるとおり今後の予算、予定はというところでございますけども、先ほどから答弁していますとおり、関係部署で内部協議を行っている段階でございます。その中である程度の機器等々を選定し、その中で今後に向けての予算の計上等も含めまして、まずは関係部署で協議をした中で最終的に決定する状況で進めていきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　澤田企画情報課長。

○企画情報課長（澤田健一君）

先ほど議員の中で写真の部分も見せていただきましたけども、むやみやたらに機械を入れるというより、しっかりこの場所にはこういう機械が適応している。例えば先ほどの法面の川に落ちるところにリモコン式の機械を入れても川に落ちるだけですので、そういうことはできな

いわけですね。そういうところを専門家にしっかり来ていただいて、聴取するように今計画をしております。

そして波佐見町のいろんな支援について、ここの場所には自走式のものがいい、ここは先ほどのガードレールまたぎのトラクターにつけて刈るような機械もあります。じゃあそれを誰が運転するか。機械化もするけど機械化はどういう機械がいいのか。そして機械化をするには安全対策をしないといけない。そしてあとそれだけじゃなかなか難しいので面積も縮小しないといけない。またそれを誰が運転する、誰がしていくのかという組織化も必要ということで、そういうところを今対策チームのほうで、総合的に議論をしながら専門家の意見も聞きながら、次の予算に向けて今精査をしているところでございますのでそこをつけ加えさせていただきます。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

いろいろ機器によって、条件等があろうかと思いますので、その辺は十分に煮詰めていただきまして、実現に向けて進めていただければと思います。

次に河川公園の維持管理費でございますけども、これは自治会のほうに依頼されています分は450万円を550万円にされたと、今年度からですね。ということですけども、こちらのほうは愛護団体が行ってる分でございます。先ほど現在15団体に委託されているというようなことで、委託というかこれは報償費で組んでありましたのでちょっと探すのに苦労しましたけども、あくまでも奨励金ということでそういうことかと思いますが、お話にありましたとおり、草刈りを年３回、そしてまたごみ拾い等を年２回、計５回。最低で実施をしております。

それで金額的、これはまた奨励金と言いながら金額のことで申し訳ないのですが、やはり平成16年から３割程度下がったというふうなことを聞いておりますので、ここは最低でもそのときのもう物価等は考えればもっとそれ以上でしょうけど、ここのところの見直しはぜひお願いしたいと思いますけど、どうでしょうか。

○議長（百武辰美君）　井関住民福祉課長。

○住民福祉課長（井関昌男君）

今おっしゃった御意見も町政報告会、自治会長会の折にも御意見を頂いている状況でございます。奨励金でございますけども、平成16年度からで削減をいたしてるのですけども、合計で言いますと平成15年度が212万円。平成16年度が159万8,000円ということで、52万2,000円減額している状況でございます。159万8,000円というのがまだ現在、奨励金を支給している合計でございまして約25％の減になっております。

そのあたりの見直し等につきましても、先ほどから言っております関係部署の内部協議の中でも意見が出されておりますので、そのあたりについても今後検討し、必要に応じて来年度の予算に向けて今後も協議していきたいというように思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

平成15、6年頃の時代としますと、燃料も相当上がっておりますし、それから機材、草刈り機でありますけども、やはりボランティアと言いながら刃とかとかそういったものは消耗するわけですから、そこのところも考慮に入れていただきまして、やはり今後継続してこういうふうな作業ができるような。そういったことでぜひこのことも改善をお願いしたいと思います。

大木となったツツジでございますけども、これも相当大きくなりまして。万年橋のところのすぐ川内方面に入ったところですが、もうここの下にツツジがあるのですけども、完全に葛に負けてしまっております。それでここは恐らく草刈りもままならない状態だというように思います。

こういったことを含めてこういうふうな場所。それからもう一つよく散歩をする人から言われているのですが、これはベンチがありますね、椅子ですね。そういったところから休みながら川のほうを望みたいと、見たいというなときにツツジが前面に出ると、川のほうが望めないと。そういうような景観上のことも農家の方からは言われておりますので、そのあたりを含めて、ずっとこう部分的にでも全面的でも結構ですけども、間伐、除伐こういった方法を考えてもらえばと思いますけど。実行してもらえればと思いますけど、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

先ほどの御意見はですね町政報告会の中でも出てまいりました。その中で私はこの河川公園の植栽については、町花のツツジであることから当時の事業として、植栽をさせていただいたという経緯がございますという話の中で、この転落防止用の擬木冊もあって、さらにその下にツツジがあって、逆に先ほどおっしゃったように河川も見えにくいというようなお声も聞いているという御意見も頂きました。

そこで部分的にまずは伐採をしたり、あるいははっきりもう取ってしまったりですね、除伐までしてしまうような実証的なものを今年度、あるいは近いうちにいたしましょうというふうな報告、検討させていただいておりますので、今年度中あるいは来年度中には実証的に部分的にでもやっていきたいというように思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

次に路面等のコンクリート化。それからセンチピードグラス数の植栽でございます。これは先ほど同僚議員からのお話がありました乙長野郷の今熊方面から、川内片渕方面を望んだところです。

こういうふうにしてコンクリート化をされまして、防災上の必要性ということでございますけど、草刈り上は非常に楽になりました。もちろん防災上もそういったことでしょうけども。

それで次のこれは波佐見川と川棚川と村木川の合流地点ですけども、ここは土羽まで築いたということで、非常にこういった面では助かっております。

それでいろいろ制約があることは重々承知しているのですけども、やはりコンクリート化とそれからセンチピードグラス。先ほど町長の答弁にもありましたとおり、紅葉とそれ景観。これを使い分けてもらって必要なところはしてもらえばと思っております。

センチピードグラスはこれが恐らく初めて成功すれば、ほかの市町村の河川管理の良きモデルケースになるのではなかろうかと思いますので、この辺もぜひ始めてももらえばと思いますが、副町長はそのあたり詳しいかと思いますので、ひとつ答弁お願いします。

○議長（百武辰美君）　村山副町長。

○副町長（村山弘司君）

県河川管理ということでの御答弁でございますけれども、町長の答弁にありましたとおり、県のほうの所管のほうに1センチピードグラスの工法についてはお話を上げております。

県としても、全くそのノウハウがないということもあって、しかも川棚川についてはこの河川の飲料水としての活用もあるということで、除草剤を散布したときの影響も考慮しないといけないということもあって、県の判断を待っているとこでございますので、そういったことも含めて可能性をしっかり検討していきたいというように思ってございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

続きまして国民文化祭のほうに移ります。先ほど講堂を利用してということで答弁がありましたけども、改良の一つとなっております、国の有形文化財ですか。その講堂でございます。

町民へのこれまでの周知ということで、先ほど答弁いただきましたけども、私が直接25人の方に伺ったのですよ。もうこれはもう任意で。その中でまずよく知っている。それから何となく知っている、それから全く知らない。この３つに分けて簡単にお尋ねしました。そしたらよく知ってるという方はゼロです。それから知ってるという方は４人。全く知らないという方が22人。

そしてちょっと私も広報等をおっしゃってましたけども、これも全く触れてなかったようですので、ここのところ。やはりあと今日のホームページ、県のホームページ見ましたら、あと376日と出ております。１年ちょっとですね。９月14日が県のオープンということでございますけども、とにかくもう開催されるということは決まっているのではなかろうかと思いますので、何らかの方法で詳細は別として、広報それからホームページ、それから懸垂幕ですね、役場の懸垂幕。こういったものを通じて町民の皆様に知らせる、周知すべきと思いますけど、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

〇教育次長（朝長哲也君）

今の町民向けの周知がまだまだできてないという御指摘だと思いますけども、早急にそういった対応を図ってまいりたいと思っております。

県からもいろいろポスター等々、多分できていると思いますので、そういったものを頂いて自治会配布などそういったものにつなげてまいりたいと思います。以上でございます。

〇議長（百武辰美君）　脇坂議員。

〇12番（脇坂正孝君）

とにかく開催まであと１年。ぜひ本町としても成功して、本町の名声を全国に紹介するよきチャンスであろうかと思いますので、そのあたりは早急に進めていただきたいと思います。

それから出演団体等への支援でございますけども、出演団体の中に私も最初は、町内に４つあります浮立このことを聞いていたのですが、浮立はもうないのでしょうか。

〇議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

〇教育次長（朝長哲也君）

浮立に関しては町で開催するイベントの中には含まれておりませんけども、これは県の担当課としてもこういったイベントを考えられておりまして、その中に多分そういった地域の伝統芸能という項目がございましたので、その際に波佐見町からということで相談があれば浮立のほうをお願いしたいと思っております。以上でございます。

〇議長（百武辰美君）　脇坂議員。

〇12番（脇坂正孝君）

これは県無形分民俗文化財であります皿山の人形浄瑠璃ですね。この練習風景です。会員が相当増えられたそうで、14名ということで毎週火曜日と金曜日だったですか。仕事が終わってから練習に励んでおられます。

新しい演台に取り組もうと、練習に余念がないわけでございますけども、新しい演目というのが「五条橋の段」ということで、牛若丸と弁慶ですか。そういったのをされるようですが、その人形がないということで福岡県のそういうふうな団体の方から借りて練習をされて、そして恐らく８月21日に大神宮の祭りでそれを披露されてると思いますけども、そういうのも自前の人形はお持ちでないのですよ。借りたままでされていると思います。

そういったことで、こういった機会を通じ、そしてまた今後継続していくと。ずっと続けていくということで張り切っておられますので、そういうことも踏まえて。恐らく人形の購入費は要望があっているかと思いますけども、そこのところの支援というのはどうでしょうか。

〇議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

〇教育次長（朝長哲也君）

皿山のほうからですねそういった要望が参っております。今年度の振興実施計画というのが、今後の補助事業関係の計画があるのですけども、そちらのほうに載せまして、財政部局と

協議させていただいてですね、来年度に向けて予算化ということで進めさせていただければというふうに思っております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

ぜひお願いしたいと思いますけども、昨日ちょうどふるさと納税のことで同僚議員の質問がございましたが、ふるさと納税の５つの区分で未来に伝えたい伝統文化の保存・整備というのがあるわけですが、これは寄附額が11億7,273万円。これだけあって全体の割合的には11.2％なのですが、活用額が5,952万円。率で言えば1.6％ということで、これは恐らく寄附者の声に答えられていないというように思っております。

ぜひ、こういうふうな財源もありますので、皿山の人形浄瑠璃と言わず、例えば浮立あたりが県の大会のほうにも出られるということであれば、要望があればそのあたりは汲んで頂きたいと思いますけど、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

今後のそういった出演依頼等々を検討させていただいて、そういった対応ができるところは対応させていただければというふうに思っております。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

次に国の登録有形文化財であります講堂ですね。ここは音楽関係とかシンポジウムが予定されているかと思いますけども、ちょっとここの管理者の方とお尋ねしましたら、ここの西側の土羽ですね。ここがまだこう草とそれから土の状態ということですので、ここの整備はぜひお願いをしたいというような声を聞いております。

ここは当然大会があるしろ、無いにしろ、犬走りとか土羽。ここは今後の建物を守るためにもぜひ整備しなければならないと思いますけど、そこも含めてどうでしょうか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

先ほどの写真でございますけども、土羽をそういったコンクリート化という話ですが私は聞いておりません。申し訳ございませんけども。

あそこにありました階段の方が枕木を使っておりまして、あれがちょっと腐れているのでどうにかしてほしいという要望は頂いておりましたので、そちらについては何とか対応しなければいけないなということで思っておりますけども、そこの全面コンクリート化という要望があるかどうかというのはちょっと申し訳ございませんけども、把握をいたしておりません。

○議長（百武辰美君）　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

私は８月の初旬だったですか、ちょっとお尋ねしたときにそんなことを言われました。

国民文化祭は、全国からお客様を迎えまして、波佐見町ＰＲのよきチャンスかと思いますので、そこの土羽のコンクリート化の整備も含めてもう一度教育長の答弁をお願いします。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

講堂の文化的な価値につきましては十分に把握をしておりますので、あそこを文化的文化芸術の伝統として町内外に広くアピールしていきたいということは思っております。

ただ今コンクリート化につきましては、意見要望まだ伺っておりませんので、本当にそれがふさわしいのか、あの価値を高めるためにコンクリートってのがどうなのかなと逆に思うところもありますので、整備につきましては丁寧にやっていきたいと思いますが、コンクリート化につきましてはまた改めて協議をしたいと思います。

○議長（百武辰美君）

以上で12番、脇坂正孝議員の質問を終わります。

本日の会議はこれで終了します。明日も一般質問を続けます。

本日はこれで散会をいたします。御起立をお願いいたします。お疲れさまでした。

午後４時28分　散　会

第６日目（９月４日）（水曜日）

議事日程

第１．町政に対する一般質問

北村 清美 議員

まちづくりについて

百武 辰美 議員

１．公共施設等の管理計画について

２．今後のまちづくりについて

第２ 議案第 69 号 令和５年度波佐見町一般会計歳入歳出決算認定について

第３ 議案第 70 号 令和５年度波佐見町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について

第４ 議案第 71 号 令和５年度波佐見町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について

第５ 議案第 72 号 令和５年度波佐見町介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について

第６ 議案第 73 号 令和５年度波佐見町上水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について

第７ 議案第 74 号 令和５年度波佐見町下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について

第８ 議案第 75 号 令和５年度波佐見町工業用水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について

（以上７件 決算特別委員会付託）

第６日目（９月４日）（水曜日）

１．出席議員

１　番	前田　博司	２　番	濵本　秋人
３　番	澤田　昭則	４　番	岡村　真由美
５　番	田添　有喜	６　番	岡村　達馬
７　番	福田　勝也	８　番	城後　光
９　番	横山　聖代	10　番	欠　員
11　番	北村　清美	12　番	脇坂　正孝
13　番	尾上　和孝	14　番	百武　辰美

２．欠席議員

な　し

３．議会事務局職員出席者

議会事務局長	林田　孝行	書記	一瀬　若菜

４．説明のために出席した者

町長	前川　芳徳	副町長	村山　弘司
総務課長	福田　博治	企画情報課長	澤田　健一
商工観光課長	太田　誠也	庁舎建設推進室長	大橋　秀一
税務財政課長	古賀　真悟	住民福祉課長	井関　昌男
農林課長兼 農業委員会事務局長	伊藤　幸治	農林課長参事	太田　克宏
建設課長	本山　征一郎	水道課長	中村　和彦
長寿支援課長	松添　博	子ども・健康保険課長	石橋　万里子
会計管理者 兼会計課長	串島　佳織	教育長	森田　法幸
教育次長兼 給食センター所長	朝長　哲也	総務課課長補佐	坂本　昌俊
税務財政課課長補佐	鶴田　秀幸	代表監査委員	山下　博輝

午前１０時　開　会

○議長（百武辰美君）

皆さん御起立お願いいたします。おはようございます。

ただいまから令和６年第３回波佐見町議会定例会第６日の会議を開きます。本日の議事日程はあらかじめ御手元に配付のとおりです。

まず昨日の一般質問における、執行部の答弁の訂正の申出が出ておりますのでこれを許可します。

太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

昨日行われました前田議員の一般質問の答弁に誤りがございましたので、この場をお借りして答弁の訂正をさせていただきます。

前田議員から福祉郵送運送の運行について、交通空白地でなければならないかとの御質問がございました。私のほうの答弁として、交通空白地が前提となるというふうなことで答弁をいたしておりましたが、福祉輸送運送につきましては、正しくは必ずしも交通空白地が前提となっておらず、地域の合意形成があれば可能というふうなことでございます。　また福祉郵送運送を福祉タクシーと誤った答弁をしておりましたので訂正をいたします。申し訳ございませんでした。

なお福祉輸送運送は自家用有償旅客運送に定義されておりまして、地市町村やＮＰＯ法人が営利と認められない範囲の対価で自家用自動車を使用して、単独で公共交通機関を利用できない身体障害者を対象に、原則ドアツードアで個別ソースサービスを提供するものです。

国の制度では地域公共交通は通常国が認可するバス、タクシーのほか、緑ナンバーの福祉輸送する輸送事業や予約制乗り合い交通がありますが、それでも住民の移送が充足できない地域があると認められる場合や、福祉輸送の必要性がある場合に限って自治体や非営利団体などが行う。自家用有償旅客運送として、自家用車を活用する交通空白地、郵送運送及び福祉輸送運送を関係団体の合意のもとに検討することができるというようになっております。

以上で答弁の訂正を終わります。

日程第１　町政に対する一般質問

○議長（百武辰美君）

日程第１．昨日に引き続き一般質問を続けます。順次発言を許します。

11番　北村清美議員。

○11番（北村清美君）

おはようございます。壇上から通行に従いまして、質問いたします。

まちづくりについて。

戦後における日本の近代化は、人口増加で農村から都市への社会移動が進み、地方都市や大都市圏の居住域を広げる拡大の歴史でありました。

しかしこれからは、過疎地で始まった経済社会の縮小が日本全体に広がり、日本も世界の出生率の急激な低下で人口が大きく縮むこととなります。拡大一辺倒だった経済社会のありようが大きく変わり、今や少子化は目が地球規模のメガトレンドでございます。

人口減少の中で国民の生活水準を維持・向上させ、公共サービスを効率化していくことが必要であり、また、人口減少が悪いと考えるのは間違いで大事なのは、１人当たりの幸福度が高まるかどうかであります。だからこそ、「スマートシュリンク（賢い縮小）」を目指すべきであり、日本は人口減少のフロントランナーとして、少子化対策と同時にスマートシュリンクを実現できれば世界の範となるものと考えます。

そこで次のことを問います。

（１）窯業界の現状と将来の分析は。また、これからの振興策や支援策をどう考えていらっしゃいますか。

（２）本町教育の未来像と伝統文化の存続と維持をどのように考えていらっしゃいますか。

（３）本町の成長戦略はどのように考えていらっしゃいますか。

また、町民が「ＩＫＩＧＡＩ」を理解し、互いのことを尊重し、集団として節に育むことできる社会として、今日より明日がよくなる事を実感できるための意識改革と対策はどのように考えていらっしゃいますか。

以上で壇上からの質問を終わります。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

皆様おはようございます。それでは11番　北村清美議員の御質問についてお答えをいたします。

まずまちづくりについてということで、人口減少の中で町民の生活水準を維持、向上させ、公共サービスを効率化していくことが必要であり、１人当たりの幸福度が高まるかどうかを考えて「スマートシュリンク（賢い縮小）」を目指すべきであるとのお考えのもとに、

（１）窯業界の現状と将来の分析は。また、これからの振興策や支援策をどのように考えているのかとのお尋ねですが、波佐見焼産地を取り巻く状況は、コロナ禍以降国内消費動向や流通システムがさらに大きく変化していく中で、従前からの課題である従事者の担い手や生地業後継者の不足に加え、燃料や資材、人件費等の高騰、借入金の償還など多くの問題を抱えております。

このまま原材料費等の製品への価格転嫁や経営改善が進まなければ、関連事業所の収益悪化は避けられず、事業所の規模縮小や廃業が進むことも懸念され、産地として危機的な状況にあると考えています。

このような状況下にあって、産地としての取組として短期的には従来どおり新商品の開発や情報発信、テーブルウェアフェスティバルなどへの展示会への出展などによる販路拡大、産地ＰＲを促進するとともに、窯業人材、後継者の確保などを行う必要があります。中長期的には観光産業としてインバウンド消費につながる体制の構築や、廃石膏のリサイクルを促進し、ＳＤＧｓやサステナブルを産地の特色として、他産地との差別化を図り、産地の魅力を向上させる取組が重要だと考えています。このような展望をもとに、業界各団体とも協議を行いながら、必要な支援を行ってまいりたいと考えています。

飛びまして（３）本町の成長戦略はどのように考えているかとのお尋ねですが、町民が生きがいを理解し、互いのことを尊重し集団として大切に育むことができる社会として、今日よりあしたがよくなることを実感できるための意識改革と対策をどのように考えているのかとのお尋ねですが、我が国の成長は融資以来、人口増加に裏づけられたものであり、特に戦後のベビーブームを経ての高度成長期は、荒廃した終戦から国民が豊かな社会の実現という目標に向かって、文字どおり一致団結して先進国まで上り詰め、その後バブル経済を頂点とする経済大国の歩みが強烈かつ鮮明に国民全体ひいては、それぞれの記憶に成功体験として刻まれています。

しかし経済構造の変化、厳しい国際競争による長い経済低迷を経て、21世紀に入ると、少子高齢化、人口減少社会の到来など、我が国がこれまで経験したことがない社会構造の変化を迎え、加えて価値観の多様化、情報社会の急速な発展に伴い、常に変化への対応を求められ、成功体験が通用しない、答えがない社会が到来したとも言われています。

特に地域社会では、少子高齢化、人口減少の影響が大きく、高度成長期に確立した様々な社会的な仕組みが通用しなくなっており本町においても様々な課題が顕在化していしているのは御承知のとおりです。

その中で、本町の成長戦略はどのように考えているかとのことですが、第一義的には地場産業の振興、企業雇用の創出、観光振興社会資本の整備、教育文化の振興などを考えています。これに加え、選ばれるまちとなるため、子育て環境、福祉の充実、長寿支援対策など、住みたい、住んでよかったと思える施策を考えております。

一方で人口減少社会を踏まえ、役場の職員数は現状維持がむしろ減少に転じる中、行財政改革、自治体ＤＸを進め行政の効率化を高める必要があると思います。

転じて地域社会に目を向けると、様々な提起があっています自治会の今後の在り方など、社会構造が一定の縮小に向かう中、これまでの成功体験、社会的な仕組みでの対応が限界になっていることを踏まえ、新たな発想と柔軟な対応が求められており、これまでの成長の概念であった全体の目標達成から、より個人の生き方の満足度も重視されるようになると思われます。

そこで議員御提案の生きがいも住民皆さんが住みなれた地で、地域に誇りを持って、個々人が尊重され、尊厳を持って暮らしていく大きな要素と思います。生きがいは個人の内面に宿る

ものであり、それぞれの生い立ち、教育経験に裏づけられた価値観など、個人の考え方は尊重されるべきで、多様化する社会の中でも強制もできません。

ただし、それぞれの人生の歩みの成長として、それぞれの生きがいが尊重され、それを共有できる地域社会を目指すことは大いに共感するところです。

その中で今日より明日がよくなる。を実感できるためとの御意見ですが、行政としてできることは町の様々な施策を総動員して、町民の皆様に町の将来の展望をしっかりと提示することだと考えています。

今回実施した町政報告会を通じて、自治会活動の担い手不足や窯業振興、農業振興、高齢者の支え合い、地域交通の課題など様々な御意見を頂きました。多くは高齢化と人材不足に起因する共通の課題であり、その解決は決して容易ではありませんが、既に突入した人口減少社会においても、町民の皆様が生きがいを感じ、豊かに暮らし続けられるような地域社会の実現を目指してまいります。

（２）の御質問については、教育委員会から答弁がございます。

○議長（百武辰美君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

（２）本町教育の未来像と伝統文化の存続と維持をどのように考えているかとのお尋ねでございますが、国家100年の計と例えられる教育の振興充実は、まちづくりの根幹です。さらにこれからの予測困難、正解がないと言われる文化の時代やデジタル社会をたくましく生き抜く力を子供たちに育成することにも教育は重要です。

不易と流行という言葉があります。現代において教育の不易とは、自立。つまり自分で考え、自分で判断し、自分で行動することのできる主体性を持つ子供の育成であり、流行とはデジタル社会への対応する力と考えております。

加えて人口減少対策や持続可能な社会の実現を担う子供には、地域参画を踏まえたふるさとキャリア教育の推進も欠かせません。これらの教育信念を土台に据え、教育のまち波佐見として選ばれるよう、様々な施策を積極的かつ計画的、丁寧に展開していきたいと考えております。

人口減少や少子高齢化、さらにライフスタイルの変化に価値の多様化等が相まって、社会教育、生涯学習は衰退し、地域活動の縮小、消滅も余儀なくされております。そのような中にあって波佐見町では、浮立や人形浄瑠璃、太鼓などの伝統文化が脈々と引き継がれ、今なお文化芸術の振興や地区の活性化に大きく寄与をしています。加えて、指定文化財のみならず画地地区に伝わる風習や催しなども守られています。

とはいえ本町においても伝統文化の存続と維持は厳しさを増し、成り手不足、後継者不足が表面化しています。参加、参画する子供をどう育成するか。そのためには伝統文化の活動や、地域の活動をまず知らせる、見据える。触れさせる、体験させる機会と場の提供が必要となり

ます。各地区で、学校で地域の施設で積極的に活動を展開し、その楽しさや意義、そして現状や課題を実感させることが重要となってきます。

同時に従来のしきたりや慣わし、固定概念等を見直し現状や課題を解決するための柔軟な発想、対策が必要であると考えております。

以上壇上からの答弁を終わります。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

今から質問に入りますけど、始める前にタブレットの中に定例会９月の定例会ですね。その関連資料の中に、産業厚生委員会の報告書があります。２月21日。これが商工観光課で窯業関係の報告書を書いた書類です。それを見ながら、一応改めてそういう内容ですのでぜひ読んでください。

では、入っていきます。まず第一に、本町の窯業関係の予算状況はどうですか。令和５年、令和６年。これをお聞きしたいですね。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

本町における、窯業界関連の予算といたしまして、令和５年度が3,393万1,000円。令和６年度が4,735万1,000円となっております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

それでは今もう本当に状況が必ずしもいい状況じゃないということは皆さんも御存じかと思います。それで一応バロメーターとなる、２つの前年に対する売上高は。どうでしょうか。工業組合と「くらわん館（陶芸の館）」の販売額が公表されていますので、そのパーセンテージを前年対比はどのぐらいかということをちょっと教えてください。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

工業組合の共販事業の売上げになりますが、令和５年度の前年対比でいけば100.36％になります。令和６年度の４月から７月までの売上げについての前年対比につきましては、92.43％というようになっております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

くらわん館もお願いしますね。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

くらわん館は売上げですか来場者数ですか。策定でいけば、ちょっと売上げに関しての資料

をちょっと手持ちに持っていないのですが、申し訳ございません。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

私が振興会の会議に毎月参加させていただきますけれど、非常に６月、７月というのが悪いです。という報告を受けてます。

だから国内市場もこういうふうに悪いし、波佐見に来ていただいた売上げがずっと上がってたいのですけど、ここにきて下がり出したという事実があります。

業界としては非常に大きな問題であるかと思いますその問題点はどういうふうに考えて捉えていますか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

現在の業界の売上げ等が下がっている等の理由についてなのですが、今窯業界を取り巻く環境としましては町長の答弁もございましたように、燃費の高騰であったりとか、資材や人件費の高騰であったりということで、それからコロナ禍が終わりまして借入金額の償還なども始まっているというふうな資金需要もございます。

そういったところで非常に業界を取り巻く環境が悪化してきているというような状況もございます。一方で他産地との差別化がなかなか無駄難しくなってきたというようなことで、そこでの差別化の問題。それから人材不足というふうなところで、生地屋さんとかの人材後継者不足等にも関わってくるのですが、そういったところでの生産の安定供給。こういったところも要因になっているのではないかというふうに考えております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

先月でしたっけ。窯業技術センターで、県の稗木場郷にあるセンターで、そのときに商社と窯元の意見交換会をされたと思いますけど、そのときに出た商社の問題点課題ですね。それから窯元の課題。そういう何点かあげていただけますか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

窯業技術センターと各商業、工業の各組合との意見交換がなされておりまして、そのときに出された課題としましては、やはり生地の安定供給というところ。それから海外の技術先進事例の波佐見町の陶磁、焼き物産業へのフィードバック。こういったところを、お願いしたいというふうなことで、要望があったというふうなことで聞いております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

これは商社、窯元混合種が答弁されていますか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

申し訳ございません。生地屋さんの安定供給に関しましては、商社、窯元いずれにしても問題として提供されております。

それから海外の先進事例のフィードバックにつきましては、商社さんのほうから、漁業技術センターのほうに申入れあったというように聞いております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

それで、業界の方たちはどのような対策をとるような、やらなきゃいかんというようなことの結論は出ていますか。結論ではないですけど、こういう方向じゃないかという。アバウトでいいですけど、お分かりだったら答弁してください。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

お話をいろいろと聞きますと、今のところ具体的な対策として各組合で、こういったことに取り組んでみようというふうな、そういったお話は今のところはまだ聞いておりません。ただし、それぞれの各組合でいろんな対応しないといけないというふうなお気持ちをお持ちというふうにお伺いしておりますので、今後町としましてもヒアリングをしながらそのあたりの方向性について再度確認をさせていただきたいというように考えております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

私は＝焼き物屋＝にいたので大体のことは分かるのですけど、この状態はちょっと危惧をしておりました。七、八年前から。ということは要するにその物販、過去をお話しますと最初に終戦後は消費の卸売屋さんから、専門店、茶わん屋さん、漆器屋さん、荒物屋さんに卸した状態が流通していたわけ。そのあとブライダルとスーパーが出てきた。これで量が出たわけですよね。

例えば結婚式なんかは皆さんされたでしょうが100人以上、波佐見の場合は150人が平均だったのですけど、だから150セット出ていたわけですよ。では今はどうかというと100人の席で３セット売れるでしょうかね。そういう状態になっていますよね。

量販店、例えばイトーヨーカドーとか西友が全盛期の頃は非常に波佐見焼が人気ありまして、相当な量をこなしました。そういう反動が起きたのかどうか分かりませんけど、その形態に基づいて今のデザイン、カラー色にして約20年になります。20年するとどうなるか、私が10年前に危惧したのは答弁の中にもありましたけど、各産地の差別化がないわけですね。

前はあったのですよ、最高峰として京都の清水焼。次に有田焼。技術格差がありましたから。その消耗してって、安いやつは美濃焼ですね。一番市場の多いのは。これと喧嘩していた

わけですけど。

でも今その商品が売れるかといえば、全く売れないはずです。だから差別化できていないなと例えば美濃に行っても、各民芸陶器に行っても同じ色の食器。何も技術がないからですよ。ただあるとすれば色の開発、窯の焼き方、窯の位置とかですね、そういう部類になります。職人の腕を借りるようなことは全くありません。簡単にできるわけです。

だからそこはみんな皆さん気づいてるんですけど。そういった意味ではやはり非常に、ちょっとこれから低迷するだろうなと考えられます。

ただ波佐見町の場合はファンがおりますから、そして400年伝統あります。必ずこれは、また這い上がるではないですけど、もっとトップをとっていくのではないかと、それを期待してるわけです。

そのためにはやはり量を売るか、産地として生き残るか。あとは民芸陶器と言いますか、波佐見町来の販売に特化するかとか。以前はモノ消費があったわけですね。今はコト消費というあれです。体験型消費ですよね。

次は何が来るかとエモ消費って言われますよね。片仮名のエモ。これはストーリー性がある商品の消費になるだろうと。Ｚ世代ですよ、今の20歳前後。だからこういう時代になって、この時代に合わせていかないといけないわけ。

ただこれで量が売れるかということですね。量が売れないと産地として機能を果たさないわけです。だから生地屋さんも飯は食えないから。これはもう皆さん存じ。

今後の問題として、販路を国内市場に打ち込んでいくのかと。ところが、どんどん購買所が減っていく。そしてどこに活路を持てるかということは、これからの問題と。１企業の会社の資金力じゃとてもじゃないけどこの苦境は乗り越えることはできないんじゃないかと。そこに行政の出るとこがあると思います。これは最後のほうに専門家の産業振興におられた副町長に答弁をしてもらいますけど、一番最後ですからね。

ということで、次に行きたいと思います。次に伝統文化芸能の関係でやっていきたいと思います。今伝統文化芸能というのは、ちょっと説明して頂けますか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

今波佐見町にあります伝統文化の関係でございますけども、皿山の人形浄瑠璃が昭和20年だったですかね。長崎県の無形文化財として登録をされております。そのほかに鬼木、野々川、山中、協和の浮立。こちらにつきまして町の無形文化財ということで指定を受けているところでございます。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

維持継続ということで、必ず町から助成金が行っております。現状の助成金はどんな状態で

しょうか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

皿山につきましては、年間30万円を補助しております。あと４浮立がございますけども、年間そういった展示、維持、公開をしていただくということで３万円。４団体に３万円ずつ交付をしております。

それとこの浮立につきましては１団体にプラス７万円の助成を行っておりまして、その７万円は４年に１度回ってくるということで、１団体は年間10万円でほかの３団体が３万円ということで助成を行っております。

この７万円の考え方としては、いろんなその機械とかですね、衣装とかそういったものの更新をしていただくというようなことで７万円ということで４年に１度回ってくる助成ということで、補助をしている状況でございます。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

助成金って年間浮立は３万円ですか。月ですか、年間。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

年間でございます。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

年間３万円多いと思いますか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

過去においては５万5,000円という時代もございましたけども、波佐見町が平成の十五、六年ちょっと厳しい時代がございましたが、その時代に３万円に減額されているような状況でございます。多いかどうかというところでいけば、厳しいのかなというように思っております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

いやこれはちょっと問題があるかと思いますよ。やはり波佐見町の伝統文化芸能ですから。でしょう皆さん御承知のとおり、月に何回練習していると思いますか。週に多分２回か、３回子供を連れて、子供を教育していると思うのですよ。

そういう間において涙ぐましい、地区の方はやっているわけです。それで今こうやって子供がいなくなった、他部落からほかの連合班から借りてくるとかね。いうようなことも実際起きています。本当にこれを継続していってほしいのかどうかですよね。そこあたりはどうです

か。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

教育長も答弁したとおり、そういった地域で子供を育てるというか地域でやはり子供たちが活躍する場というのは必ず必要だというように思っております。

ですので、この伝統文化は守り続けていかなければいけないというふうには思っております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

子供を交えてするということですから、世代間のつながりがずっとできていくわけですよ。延々と江戸時代から多分続いていると思うのですよね。それがずっと今きているわけです。ここで絶やしちゃいかないわけですよ。

だからあまりにも助成金が少ない。これはもう来年には検討しておくということです。ではこの件はこれで終わります。

あともう一つ歴史文化交流館に関して、ちょっと質問したいと思います。今スタッフの状況はどうなのですか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

今、歴史文化交流館の開館をするスタッフがメンバー的に３名いて、２人は常駐しているというような状況で組んでおります。それと文化財班が今４名スタッフがいますけども、２人が正規職員ということで、２名が会計年度任用職員ということで今運用しているところでの状況でございます。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

それでは令和３年から歴史文化交流館がいろいろすったもんだして、やっと出来あがったわけですけど、どうですか。結果としてはどういう来館数がどのぐらいの人が来られたのでしょうか。分かったら教えてください。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

詳しい数字は持ち合わせておりませんけども、年間２万人ほどの来館者がいるということでございます。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

年間２万人といえばかなり大きな人たちですね。いやそれはそういうふうに思います。だか

ら効果がある、そして余計、頑張っていると思うのですよ。ただね、今、大きな企画を去年あたりがされていましたよね。現在は恐竜展ですか、やっていらっしゃると思うのですけど。この今の状況はどうなのですか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

今ですね、長崎市の恐竜博物館と連携しまして、恐竜展ということで７月の23日から９月の23日まで行っておりますけども、土日の多いときは200人ほどやはり親子連れというか、お孫さんを連れた方がこられているという状況でございまして、本当に大盛況と言ったらおかしいですけども、ありがたいなというようには思っております。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

なるほど。ということは盛況だということですね。そしたら課題は何でしょうか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

先ほどもちょっと申しましたけどもちょっとスタッフのほうが、令和３年度の大雨の災害がございましてちょっと１名減の状態になっておりまして、そのスタッフのちょっと充実が求められているかなというようには思っております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

実は昨年北のほうへ福岡、大分とかちょっと視察に行ったのですけど、そのときに学芸員というのが完全に独立しているのですね。例えば今は中野学芸員。この人は考古学ですね。盛山学芸員は文系史学をされていますよね。だから、北の場合は分かれているわけです部署が。これに３人ぐらい居るのです。

学芸員の今状態はどうかというと、今人が足りない、いないと。正職員が２人だということでしょ。学芸員が２人。特に一般事務をするわけですよね。当然しなきゃいけない。居ないから、会計年度。では本来の仕事ができているのかどうか。その反応はどうですか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

本来の仕事も頑張って行っておりますけども、どうしても２名ということで、そういったほかの事務に追われて本来行うべき学芸員の仕事ができてないという状況もですね、歴分のそういった運営委員会の中でも御指摘を頂いてるような状況でございます。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

これは波佐見町のマイナスになるのですよ。分かりますか。教育長分かるでしょ。

学芸員は学芸員でやはり、まず発掘してもらわないといけない。いろんな企画をしてもらわないといけない。そういう事務の軽減を図ることを来年、今からでも遅くはないので図るべきだと思います。それをぜひやっていただきたいと思います。

○議長（百武辰美君）

それと、次に行きたいと思います。

次に３番目の、あれに入っていくのですが、その前に本町の当初予算の中で、比較になる１人当たりの予算金額ですね。平成10年からちょっと主だった年数でちょっと言っていただけますか。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

それではですね平成10年の当初予算が51億3,430万円ありましたので、人口で割戻しますと１人当たり32万4,053円。それで10年後の平成25年になりますけども、当初予算が54億9,500万円ありますので人口で割戻したところ36万44円でございます。

それから令和５年になりますと100億3,000万円の当初予算でございますので。人口１人当たりにしますと72万2,553円。それから令和６年ですね、本年度当初予算95億2,000万円ございますので、人口で戻しまして１人当たり大体67万3,982円ということになっております。以上です。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

そしたら本町は分かりました。ちょっと他町村でちょっと類似団体ありますね川棚町、佐々町これが分かったら教えてください。

○議長（百武辰美君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

まず類似団体の川棚町さんでございますけども、平成６年度の当初予算が68億2,000万円ございますので、人口で割戻したところ１人当たりが53万6,037円なっております。それから佐々町さんでございますけども当初予算が87億1,700万円でございます。こちら１人当たりに換算しますと、63万4,379円となっております。以上です。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

本当に平成10年、平成25年から見ると36万円から倍以上伸びているわけですね。これは私もちょっと思いあるのですよ。やはり20年前からちょっとこう、役場のほうに来て、ずっと要望書なんか出していたのですけど。全く動かなかったですね。建設関係なんか特に。行けども、行けども予算がありません、予算がありません。という状態が続いたのがこの状態です。

令和になって平成28か30年か。ふるさと納税でいうちょっとお金があまり出してから、そう

いうふうに出てきたわけです。

だからほかの川棚町に比べたら10万円以上多いですよ。15万円多い。佐々町の人より圧倒的に波佐見が多いわけですよ。非常に喜ばしいことだと思うのですよね。だからこれを認識して、我々も関わっていかないといけないですけども。だから今後、これを生かして、まちづくりをどうするかということになりますよね。その考え方ですよ。

先ほどの答弁書の中にもいろいろあるわけですけど、やはり地域資源を掘り起こしていくと。そして町の誇りをつくって、空気を変えていく。同時に弱い立場の人たちの優しいまちづくりを目指さないといけないと。そういうことが「ＩＫＩＧＡＩ」に入るわけですね。

この「ＩＫＩＧＡＩ」というのは、一番関係、僕らのイメージとしては住民福祉課の管轄の「ＩＫＩＧＡＩ」なのですよね。やさしいまちづくり、弱い立場の人たちに優しいまちづくり。この「ＩＫＩＧＡＩ」をどう考えますか住民福祉課長。

○議長（百武辰美君）　井関住民福祉課長。

○住民福祉課長（井関昌男君）

確かに弱い人たちの生きがいということでございますけども、福祉のほうの観点から申しますと、相談来られる方というのは直近で言えば生活費が苦しいという状況の中で、生活保護の申請というのが増えてきている状況でございます。他町と比べて波佐見町はそのあたりの相談件数が増えてきていると。そういう窓口に対しまして、そういう困った人を助けていくというのが、住民福祉課の在り方というように思っております。

いろんなかたちの相談事がございますけども、まずは相談に来ていただく。来られない方は電話等でも対応できるような体制をつくっておりますので、まずは地域の民生委員さん、児童委員さんもいらっしゃいますので、そういう方たちに相談。役場に対しての相談というかたちで広げていきたいと思っております。それによってよりよい生活ができる、状況が個人個人で相談内容も違うと思いますので、そのあたりの受皿というところで対応していきたいと。それで生きがいにつなげていただければといように思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

大体済んでその方法論ですものね。あなたがどういうふうにして生きがいを感じて、管理をして皆さんに、町民の皆さんにやりますか。したい、生きがいを与えるか。それを考えたことはありますか。

○議長（百武辰美君）　井関住民福祉課長。

○住民福祉課長（井関昌男君）

私もふだんから思っていることなのですけども、今このコロナ禍になって人と人との交わるというのが少なくなっている現状がございます。今までは本当行事があったら、そのあとに打ち上げとか懇親会等で、敬老会等も寄ってから集まる、会話をする。それでにぎわうという状

況のものがあったのですけども。

昨日もちょっと敬老会の方ともちょっとお話をしたのですけども、「なかなかコロナ禍で敬老会に前はもっと出よった。もう最近少なくなってさ」ということで、本当にその方は参加される方なのですけども、「楽しみにしとっとばってん、みんな参加せんちゃんね」というところでですね。

そのあたりでやはり人との交わりというところで今はちょっと孤立化というか、なかなか家から出てくるというところが難しい状況で生きがい、楽しみというのが薄れてきている状況があるのかなと。

私が思うには、やはり人との会話。今は携帯とかもございますので、そういう対話まじりで友達と話す。それで喜び、楽しみというところを毎日やはり、わくわくじゃないですけども楽しみを持ちながら、生きがいにつなげていっていただくというのは、ふだんから思っている状況でございます。以上です。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

人口減少というのはもう皆さん誰でも分かるのですけど、実はこの考え方というもう一つちょっと考え方を変えれば、人口密度から考えたらいいのではないかと思うのですよ。日本の人口は世界では12番目なのですよ、人口。密度は41位なのですよ。そして、例えば同じ面積のあるドイツが大体ですね、日本と日本は密度が約41位ですよ。ドイツは65位なのですよね。

だから、人口減少は減少したというけど密度は比較的高いのですよ。日本は、人口密度ですよ。この発想をね、一つの現象ばかり考えて暗くなるから、密度はこんなに世界においては標準以上なわけですから。その考え方に基づいていけば、少しでもちょっと明るい材料出てくるわけですよ。詳細は分かっていますので、もうちょっと時間がないからずっと行きますけど。とにかく人口密度では、日本は真ん中より上ということだけ頭に置いておいてください。

それと今の答弁の中にもいろいろありますけど、本当に1960年からやはり高度成長が答弁の中にもありまして始まり、そして地方から大都市にみんな動いて人口流動が起きました。それから逆に地方に人が戻らないようになりました。この実態が人口減少の状態なのですけど。

ただこの中に一つ、日本にはすばらしい習慣が昔はあったのですね、昔はっておかしいですね40、50年前まで。皆さん知ってますか。「結」の精神という、御存じですか。結ぶという漢字を書いて「結」の精神。これどういうことかって言いますと、例えば農業をやっている方になると、昔は機械がなかったからですね。トラクターとか、稲刈り機もなかったし、みんな１人でするのは大変ですよね。田植をするとか皆さん親戚、縁者、知人によって集まってきたのは、集団で行動するというのが、今までの日本の農業、これが集団的なコミュニティーの始まりなのですよね。だからこの精神をぜひ続けないといけないと思うのです。

そして子供が参加して、地域づくりを進めていって、参加機会を高める工夫を図って、生ま

れた地域の要する６月にしました「シビックプライド」というのと愛着がわいてくると思うのですよ。これを基本ベースにして目的を高め合う。

だから、こういう共同作業、協同共生社会というのかな。こういうものをつくって、それをヒントにして、コミュニティー環境をつくっていかなどうしようもないのではないかと思います。

ただ人口密度は先ほど申したように、中より上ということですから、あんまり悲観することないのです。それだけ頭に置いておいてください。人口減少ばかりだともうどうにもならなくなりますから。

それでアメリカの教授の話として日本の分析をしたちょっと、文章ありましたからちょっと読み上げますね。「日本の労働ファースト規範になる「縛られるもの」は、一家の稼ぎ手は男性が前提で、女性は子育てと仕事の両立を突きつけられている。この昭和の固定的な役割分担は、若い世代にはなじまないということです。」ということを指摘されています。これまさしくそのとおりですね。

そういうことはちょっと頭に、参考のために言いました。それと今からは執行部の副町長、教育長、町長に今後どういうふうに方針を持っていかれるか。聞きたいと思います。まず副町長。窯業関係の振興策はどのように考えますか。

○議長（百武辰美君）　村山副町長。

○副町長（村山弘司君）

北村議員の今後の窯業振興の在り方ということで、御質問頂きました。御紹介あったとおり私県のほうの産業労働部のほうに職員産業産地振興室というところに所属しておりました折に、29年度になりますけれども、波佐見町も含めた県下の産地の所管をいたしておりました。

その中で産地の振興を考えたときに、質問のほうにもありましたけれども、産地としてしっかり産地を形成して残していくというのが非常に大切だというように思います。既に産地化から工芸品として縮小してしまったいわゆる産品もあります。

県下にはですね。そういった意味で本来であれば産業として残ったほうがふさわしいのですけれども、なかなか産業として大きく発展することが難しい中で、地域にとって地場産業として産地として残っていくということが非常に大切なのだろうなというように思っております。

その中で波佐見町の波佐見焼に触れたときに、私自身は陶器にさほど興味も関心も持たなかった中で所属として関わりましたけれども、平成29年度の東京ドームのテーブルウェアフェスティバルに行った際には、東京ドームの中であの広いドームの中で、波佐見焼が一番中心部に場所をとっていて多くの波佐見焼のファンの方々が訪れるという瞬間を目にしました。

それから翌年には地域づくりの推進課のほうで仕事をしましたけれども、そのときにも波佐見町の振興で頑張っておられる方々とつながりを持たせていただきました。この波佐見町というのはやはり波佐見焼を中心として、その地域の方々がそれぞれ汗をかかれて、地域の魅力を

発信されておられる。そこに方々から波佐見焼を好まれる観光客の方々がお越しになって、その中で波佐見焼を中心とする産業がしっかり根づいて、観光につながって波佐見焼、波佐見町のにぎわいづくりにつながっているものというふうに認識をいたしております。そういったことが一つとして波佐見焼の元気の要因なんだろうなというふうにも思っております。

一方で、波佐見町というのは、窯業と農業の歴史の中でこの窯業というのはしっかりした波佐見町の基幹産業であります。こういった中で、これまでも波佐見町としては窯業界の方々の御意見を聞きながら、新商品の開発であったりだとか、人材の育成、支援であったりだとか様々な支援をしてきているわけでございます。

本年度も移住者の方々を窯業界の人材不足に充てるために、住宅地の一部支援というような制度もつくりながら、しっかり窯業界の皆さん方を支える行政支援を行っているわけでございます。

今後におきましても、この波佐見焼をしっかり産地として残すということは非常に大切でございますので、波佐見焼に関わる各種の団体の方々の御意見をしっかり行政としても聞きながら、引き続き新商品の開発、人材育成、確保の支援を行いますとともに、これからは海外に向けたいわゆる商品の展開というのもしっかり考えていく必要があると思っておりますので、これはインバウンドに向けた観光振興も含めて、波佐見焼に多くの方々がお越しになって、波佐見町の魅力をしっかり享受していただきながら、波佐見焼のファンの底上げを目指していきますよう、引き続き各団体の皆さん方の御意見を聞きながら、しっかり行政としても御支援を申し上げたいというふうに思っているところでございます。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

次に教育長。３月から私はあなたに質問していますけど、少しは前向きな回答できますか、答弁できますか。

○議長（百武辰美君）森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

前向きにいけるかどうか分かりませんが。私はこれまでもずっと答弁してまいりましたように、教育のまち波佐見として選ばれたいというのがもう大目標ではあります。学校教育だけではなく社会教育も、生涯学習も含めて、波佐見町の教育に対する思い、取組等がすばらしいものがあり、その実現を果たすために精いっぱい頑張っていきたいと思いますし、そのことによって町内外の方から選ばれるまちづくりにつなげていけたらなということを思っております。

自走する自ら走る学校、地域の積極的な支援者でありたいということを基本的なスタンスとしてこれからも頑張っていきたいと思っております。以上です。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

最後に町長、総括で今後どういうふうに波佐見を持っていきたいと思いますか。存念を本当に大きな声で言ってください。自信持ってもう２年で言えると思いますが、よろしくお願いします。

○議長（百武辰美君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

まず御質問の中で、「ＩＫＩＧＡＩ」についてのお尋ねでございました。まず「ＩＫＩＧＡＩ」とは何かと考えたときに、生きる喜びであったり、あるいは人生の意味であったり、あるいは心の張り合いといいますか、そういったものであろうかというふうに思っております。その「ＩＫＩＧＡＩ」とは、人生を持続可能なものにする一つのすべというふうに捉えております。

つくづく自分の幼少期を考えたときに、自分の生きがいを感じるようになったのは何かというのを考えたときに、よくお盆や正月前に障子貼りをさせられたりしておりました。そういったときにうちのおばあさんやあるいは母親が、おまえの貼った障子が一番上手と。決して上手じゃなかったと思うのですよね。曲がったりよれたりして。ただしそういうふうに小さいながらもやったことを認められるといいますか、そういったことによって張り合いができましたし、小さい頃の生きがいになったのではないかなというような思いもございます。

そういったものとか、あるいは肩が凝ったら肩を揉んでくれないかと言われたときですね。揉んだ時におまえの肩もみが一番上手と。決して上手ではなかったでしょう、力もないのにですね。しかしそういうように褒めてもらえる、認めてもらえるというのが生きがいにつながったというように思います。

今後の町政におきましては町政報告会の中で様々な御要望頂きましたし、様々な課題も頂戴いたしました。そういった町民の皆様の様々な小さな課題解決が成就されれば、町民の皆様の生きがいに通じていくものと思いますし、生きがいを感じた町民が増えれば、町そのものの大きな発展、振興につながっていくというように思いますので、今後とも町民の皆様方の御意見を十分に聞きながら、どういった課題解決につなげる方策が、町の施策として有効なのか。そういったものを十分に考えながら、波佐見町発展のために尽力してまいりたいというふうに思っております。

それぞれ生きがいというのは、大金持ちになるとか、事業を成功させるとか、大きなものがありましょうけども、本来は小さな一つ一つのお願いが成就したことによって、生きがいを感じるというように考えておりますので、その点を十分に踏まえながらの町政をつかさどってまいりたいというふうに思います。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　北村議員。

○11番（北村清美君）

見事な答弁ですね。いいか、悪いかの評価は皆さんが感じることですけど。とにかく、やってくださいよ。もう２年たったのだから。あと任期まで２年ですよ。死にもの狂いでやっていただきたいと思います。終わります。

○議長（百武辰美君）

以上で、11番　北村清美議員の質問を終わります。

しばらく休憩をいたします。11時15分より再開します。

午前11時９分　休憩

午前11時15分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

なお、次の一般質問通告順位12番は私ですので、議長を尾上副議長と交代をいたします。

○議長（尾上和孝君）

議長を交代いたしました。休憩前に引き続き一般質問を続けます。

次は、14 番　百武辰美議員。

○14番（百武辰美君）

皆さんこんにちは。最後の一般質問になります。それでは通告に従いまして質問をさせていただきます。

１．公共施設等の管理計画についてであります。

現在、町内には各種多様な公共施設等があり、町民の生活の一端を担う施設として役立っております。しかし老朽化が進み改善や修繕などの課題が山積しております。

町は、中長期的な観点から計画的に維持管理を行うことにより、財政負担の軽減・平準化を図るために、平成29年に「波佐見町公共施設等総合管理計画」を策定し、令和４年には改訂版を作成して今後の公共施設の管理の方向性を示しております。

そこで管理計画について次のことを問います。

（１）平成29年度現時点で、町が保有する建築物の延べ床面積はどうなっていますか。また、インフラ施設の保有状況をお知らせ頂きたいと思います。

（２）建築物の管理形態にはどのようなものがあるのか、また今後の方向性をお聞きいたします。

（３）現在保有している施設で、民間に移譲または売却を考えている施設はあるのかお伺いいたします。

（４）里道また私道を町道に認定する条件をお聞きいたします。

（５）今後、公共施設を維持管理していくために重要なことは何か。

ということを質問いたします。

２．今後のまちづくりについてであります。

本町のまちづくりは、これまで自治会や町民の協力により、元気で活力あるまちづくりを行ってまいりました。

今後、人口減少や少子高齢化が進むにつれ、これまでと同様な考えではうまく解決できない課題も出てきております。

そこで、今後のまちづくりについて次のことを問います。

（１）まちづくり条例（仮称）などを制定し、自治会の位置付けを明確明記してはどうか。

（２）自治会の事務を軽減させる方法はどんなものがあるのか。

（３）自治会費や消防費など負担を減らす施策は考えられないか。

（４）環境美化に費やす作業を減らすような施策は考えられないか。

（５）今後のまちづくりに必要な考え方は。

以上、壇上での質問を終わります。

○議長（尾上和孝君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

14番　百武辰美議員の御質問についてお答えをいたします。

１．公共施設等の管理計画についてということで、（１）平成29年と現時点で町が保有する建築物の延べ床面積はどの程度か。またインフラ施設の保有状況はとのお尋ねですが、令和４年３月作成の波佐見町公共施設等総合管理計画改訂版では、町が保有する建築物系の公共施設の延べ床面積は６万8,270平方メートル。平成29年の６万5,492平方メートルから、2,778平方メートル増加しています。

またインフラ施設については道路や上水道、下水道、工業用施設、工業用水道の施設を保有しており、その状況は道路の道路分が788メートルを伸長し、総延長14万6,423メートルに。橋梁が２橋増え153橋に。上水道の管路が1,193メートル伸長して、総延長17万8,203メートルに。下水道施設の管理が2,807メートル伸長し、総延長６万4,807メートルにそれぞれ増加しています。

（２）建築物の管理形態にはどのようなものがあるのかまた今後の方向性はとのお尋ねですが、公共施設の管理形態は、本町においては建物の維持管理から運営に至る全業務を町が行う直営管理が主流ですが、総合文化会館などでは、その運営や施設管理の一部をＮＰＯ法人に業務委託を行っております。またそれ以外も以外にも専門的な知識、技術等のノウハウある民間事業者等に対し、条例で定める基準により管理運営を行わせる指定管理者制度などがあります。

また今後の方向性としては、地域住民のニーズや施設の特性に応じた管理形態を使い分けることが、効率的、効果的な管理が期待できるほか、コスト削減やサービス向上につながる可能性もありますので、より質の高いサービスを提供できるのではないかと考えています。

ただしそこに至るまでには、事業者等との契約内容や運営方針の整備など、十分な協議と施

設利用者の意見を聞きながら、よりよい公共建築物の運営ができればと考えています。

（３）現在保有している施設で民間に移譲または売却等を考えている施設はあるのかとのお尋ねですが、町が保有する建築物の公共施設は令和４年３月に波佐見町公共施設等総合管理計画改訂版において、学校教育施設をはじめ公営住宅、文化体育施設、行政視察施設など58か所となっています。これら施設のうち現在民間への移譲または売却を考えている施設は、今定例会で議決頂きました鴻ノ巣保育所園舎の無償譲渡のみとなっております。

（４）里道または私道を町道に認定する条件は、とのお尋ねですが、本町では平成14年11月11日に定めた町道認定の基準及び手続に関する内規に基づき、議会へ上程を行っているものです。その内容は町道の認定によって適正な維持を図り産業、経済活動の活性化と民生、住民生活の向上に努めるとともに、交通の安全を確保するためとしており、町道認定の基準及びその手続について次のとおり定めております。

まず認定の基準については幅員が４メートル以上の道路で、法定道路に接続しており、次のいずれかの一つに該当することとして、

１．産業経済の活性化に寄与する公共性の高い道路。

２．住民が生活を営む上で重要な役割を果たし、公共性の高い道路。

３．住宅団地を造成した地域で、おおむね住宅建設が完了している団地内の幹線的な道路。

４．その他公共性が高く町長が特に必要と認める道路。

以上４つのうちのいずれかに該当することとしております。

また手続上の条件として、その土地所有者が寄附再納及び分筆登記を行い、所有権移転登記承諾書を提出してもらうことまでを一つの流れとしております。そしてそれらが整った段階で所有権移転を行い議会に付すことになります。

なおその基準については常任委員会でも議題として、御意見等も頂いたことから現在見直しの検討を行っており、改めて要綱として整備したいと考えております。

（５）今後公共施設を維持管理していくために重要なことは何か、とのお尋ねですが、本町の公共施設は築30年を経過した施設が床面積ベースで54.9％となっており、今後施設の安全性や品質を保つための大規模改修や更新時期を迎えます。しかし現在の社会情勢からすると、生産人口の減少による税収の減少や、高齢化に伴う社会保障費の増加などから、事業に係る費用の財源確保が難しくなっていくことや人口減少や人口構造の変化と住民ニーズの変化に対応した公共施設の配置や運営への転換と対応も考慮しなければなりません。

町としましては、住民ニーズや施設の特性、費用対効果等を踏まえた施設の複合化、集約化、民間移譲などによる施設総量の適正化を図っていく一方で、定期的な点検から劣化状況を的確に把握した上での長寿命化を図るとともに、施設の更新や大規模改修時期の集中回避による予算の平準化、さらには低コスト設備の導入による維持管理費、費用の適正化を図ることが重要だと考えております。

２．今後のまちづくりについて。

（１）まちづくり条例（仮称）を制定し、自治会の位置づけを明記してはどうかとのお尋ねですが、本町の自治会は他市町に類を見ない組織力で、地域コミュニティーの醸成、地域づくりの推進や様々な地域課題の解決に向けて、自主的かつ積極的に活動を行われております。

また行政の施策や行事の連絡を行っていただいている一方で、自治会内部の意見などを取りまとめ、行政側に要望を頂いており、行政と一体となったまちづくりを担っていただいている、なくてはならない団体ということは言うまでもありません。

一方で、本町の自治会はそれぞれ地域に根差した歴史、風土、いわゆる地縁により自発発生的に組織され、まさに住民自治を具現化されている行政から独立した組織団体でもあります。本町においては平成12年度の郷自治会制度に移行後、毎月自治会長定例会を開催し、それぞれ対等な組織として、両輪となって、様々な地域の課題について協議を行っていることが、元気なまち波佐見の源泉の大きな一つだと考えています。

そこで仮称として、まちづくり条例を制定し、自治会の位置づけを明記してはどうかとの御質問ですが、少子高齢化、人口減少社会の到来に加え、価値観の多様化、役員の担い手不足など自治会を取り巻く環境の変化に伴い、全国的には自治会をまちづくりの推進する上の組織として位置づけ、その上で役割の明確化、自治会への支援を明記するなど、条例の制定の動きがあることは認識しております。

一方で本町の自治会はさきに述べたとおり、地縁に基づき自発的に組織され、自主的に運営されており、まちづくりの視点からは行政と対等な組織であります。

今回御提案ありましたまちづくり条例については、自治会を取り巻く諸問題の解決に向け、選択肢の一つだと認識しており、研究を行いたいと思いますが、何よりも自治会の理解とその機運醸成が重要だと思います。

議員御指摘の自治会を取り巻く環境も含め、自治会のこれからの在り方については、これまでの答弁のとおり自治会と情報共有を図りながら、研究検討も行いたいと思いますので、議会のほうも御理解の上御協力を頂きますようお願いをいたします。

（２）自治会の事務を軽減させる方法はとのお尋ねですが、自治会の事務には様々なものがあり、大きく自治会費の徴収やイベント開催、連絡事項の伝達など自治会自らの運営上必要な事務、各種通知物の配布など行政からの依頼されている事務に分けられるのではないかと思われ、昨今の社会情勢の変化に伴い、仕事を続けられる役員の方も増え事務の負担感はあると認識しています。

本町では、このような状況も踏まえ、納税に係る各種通知の自治会経緯を廃止したり、各種お知らせを町広報紙に集約したり、その対応を行っておりますが、不十分な面もあり配布物そのものの縮減調査や補助金手続の簡素化等を検討したいと思います。一方で自治会費の徴収、イベント開催、連絡事項の伝達など、自治会本来の業務については自治会運営に直結する内容

であり、どのような内容が負担になっているかを把握することが重要と考えています。

例えば自治会費の徴収を数か月単位に変更する。連絡をスマホアプリで行うなどもあると思われます。これらの事務負担軽減も今後の自治会の在り方の重要な課題でありますので、さきに述べましたとおり、自治会と情報共有を行いたいと思います。

（３）自治会費や消防費などの負担を減らす施策はないかとのお尋ねですが、自治会費については、自治会の運営上必要な事項に対し、自治会の総会など必要な手続を経て決定されています。城後議員の質問にも答弁しましたとおり、自治会の運営の内容や会員数などで会費に一定の幅があり、小規模な自治会ほど高くなる傾向があるようです。

自治会費そのものは自治会活動に直結したものであり、負担を減らすとなると、支出側では自治会活動の縮減に伴う経費削減、収入側では補助金を初めとする市自治会費以外の収入増で、結果、自治会費の削減が考えられますが、支出側の部分では自治会内部での議論がまずは必要だと思われます。

一方で本町は自治会活動に対し、行政事務委託料、自治振興交付金、地域振興事業費補助金などを通じて運営支援を行っておりますが、その内容については今後の自治会運営の在り方も踏まえて十分検討してまいりたいと思います。

また消防費については、消防団が自治組織としての施設消防組から発展した歴史的な背景を踏まえ、地域住民が一定の負担を行っている経過があります。これまでの地域の消防費の負担軽減については、消防団員の報酬見直しを踏まえ町の消防団運営費補助金を増額した経緯がありますので、自治会経営そのものからの消防団への助成が厳しくなる場合は行政において検討すべき課題と認識をしております。

（４）環境美化に費やす作業を減らすような施策は考えられないか、とのお尋ねですが、今回実施しました町政報告会でも道路、河川の維持管理についての多くの御意見を頂きました。現在、自治会で組織する波佐見町環境衛生振興会連合会では、年３回の町内一切一斉清掃、河川清掃等に取り組んで頂いており、多くの町民の参加のもと環境維持に御協力を頂いているところです。

また河川公園につきましては、15団体の愛護団体に年３回の除草活動と清掃の維持管理に努めていただいております。お尋ねの環境美化に費やす作業を減らすような施策については、現在、複数の部署で対策協議を行っているところであり、例えば草刈り機器を購入し自治会等に貸出しを行うなど、作業の負担軽減につながるよう引き続き検討してまいります。

（５）今後のまちづくりに必要な考え方は、とのお尋ねですが、今後のまちづくりに必要な考え方については、自治会を含めた地域コミュニティーに関する視点で回答いたします。

高齢者人口がピークを迎えて少子高齢化、人口減少が一層深刻化する2040年頃の日本を前提として、人口減少と高齢化により人々の暮らしを支える機能が低下するため、新しい地域コミュニティーの在り方として、町内会、自治会などの地域運営組織が暮らしを支える担い手にな

ることが求められています。自治会などの地域運営組織は、地域の生活や暮らしを守るため、地域で暮らす人々が中心となって形成され、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践し、地域内のコミュニティーの維持と人間関係を構築していく組織だと言われています。

本町の場合これまで多くの皆様方の努力により、自治会組織はしっかりと構築されており、行政との連携も順調ですが、一方で組織率の低下。特に若い世代の自治会離れ。役員の成り手不足。環境整備活動など様々な問題も生じております。このような状況の中、今後の自治会やまちづくりを考える上では、様々な在り方が考えられます。

例えば公的な活動や協力を維持していくための地区担当職員や、地域コーディネーターの配置、小学校単位で組織を構築する小規模多機能自治の設置などのほか、自治基本条例やつまちづくり条例を定め、自治会に公的団体としての位置づけを付与し、これまでどおりまたはそれ以上の活動を期待する考え方や、行政の仕事も地域の行事も無理なく実行できるよう最低限まで権限を削り、自治会に新規在住者の入会を促進し、加入率を維持するという考え方など多種多様であります。

これまでの長い歴史の中で築き上げられた本町の自治会制度があったからこそ、現在の波佐見町が発展し、地域のコミュニティーが活性化し、元気な町を育んできたことは間違いないことであります。

私としましては、これまでどおり自治会に期待する気持ちは大きいものがありますが、一方で今後10年、20年先の波佐見町を考えるときに、このままでのやり方で本当に持続可能な地域社会が維持できるのか不安な１面もございます。

まだ活力がある今の時期に、自治会制度の問題点や負担感を整理し、自治会の負担軽減とコミュニティーの在り方。町民の皆様が波佐見町に誇りを持って住んでいる。地域に愛着を感じ、住民自治に参画するなど、シビックプライドの気持ちを醸成できるまちにするためには、行政側の頭の切替えも重要であり、行政も自治会も変化に対応する柔軟性が求められていると感じております。

人口減少社会の到来により生じている様々な地域課題の解決を図り、持続可能な地域社会を構築するためには、行政と自治会をはじめ、各種団体並びに町民の皆様が心を一つにして対応していくことが何より重要だと考えておりますので、御理解と御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

以上で、壇上からの答弁を終わります。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

それでは関連質問に移らせていただきます。私は４年ぶりで非常に緊張しておりますが、４年間に気になったことが幾つかあったのですが、この２点に絞って質問をさせていただきます。先ほどは予想以上の丁寧な御回答頂いてですね、ありがとうございます。

それでは１番目の公共施設等の管理計画についてでございますが、この質問にあたって参考にした資料は、先ほど言いました波佐見町公共施設管理計画の平成29年３月に策定された分、それから令和４年３月に作成されたその改定分。これも令和４年３月ですが、波佐見町公共施設等個別の管理計画。それから平成26年４月22日総務省から通達がありました。公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針などを資料として参考に質問をさせていただきます。

まずモニターの１番を御覧頂きたいと思います。ちょっと小さいので見にくいのですが、先ほど町長から答弁がありました令和４年３月と平成29年３月の延べ床面積を施設ごとにまとめたのがこの図でございます。

これは各計画に書いてありますからそれぞれ帰られて見ていただければ分かるのですが、ここで第一の質問はこの５年間で増えた建物。要するに2,778平米増えておりますが、この増えた建物に主なものはどんなものがあるか御紹介をお願いします。

○議長（尾上和孝君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

平成29年から令和３年までにまでに増えた建物といたしましては、まず波佐見高校の学生寮がございます。増えた建物としましては、そういったもの。令和４年まで、令和３年度に増えた分は以上となっております。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

増えた建物が一つということでございますが、僕が調べたところでは波佐見町講堂とか、鬼木民泊の拠点施設だとか。中尾郷のトイレとかというところでは理解をしておりますが、そこは増えたものには入っていないのですか。

○議長（尾上和孝君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

令和３年度までということでございましたので、一つだけなのですけども。現在までにということであれば波佐見高校の学生寮のほか役場の新庁舎も当たりますし、その付随する倉庫。それから鬼木郷の民泊拠点施設、それから中尾山、西ノ原、甲辰園グラウンド等の公衆トイレ。それから観光案内所。旧親和銀行社屋等がございます。以上です。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

逆にごめんなさい。令和４年３月までに減った施設にはどういうものがありますか。

○議長（尾上和孝君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

令和３年度までで特別減らしたというものはございませんけども、その後現在までに減らした建物ということであれば、旧中尾保育所を解体しましたので減っております。それから今新

庁舎が建ち、以前ありました給食センターですね。等の解体がありましたので、そういったものが減ったということになっております。以上です。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

私の理解と少し違うところあるのですが、そこは置いときましょう。

では令和４年の３月で６万8,270平米ということでございますが、仮に新庁舎が今建っていますよね。仮に新館が出来上がったとして、この面積がどのぐらいになるというような、試算をされていればお願いをしたいのですが。

○議長（尾上和孝君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

令和３年の改訂版に記載しておりますのが６万8,270平米でございまして。その増減等をいたしまして現在のところでいけば、６万9,429平米になるのではないかと試算しております。以上です。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○議長（百武辰美君）

この施設の中にはいろいろ建物建築物という規定でございますが、例えば建築物に分類されないようなもの付属品があると思うのですが。例えばどういうものがありますか。ここの中の数に数えないで、建物に附属しているものがあると思うのですが、どういうものが考えられますか、ありますか。

○議長（尾上和孝君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

この中で建築物と、まず定義しておりますのが、まず建物は土地に定着する工作物のうち、柱、梁、屋根を有しかつその一部または全部が壁及び建具等により封を防ぎうる内部の高さが２メートルを超える独立した構造物としております。それから建築ではないものとしましては跨線橋であったり、貯蔵槽、小規模な倉庫などが当たりますので、これからしますと本町の施設でこの建築物に分類していないものというと、主なものとしては消防施設のまず防火水槽であったりとか、小中学校のプールも屋外でありますので、そういったものも屋外にあるものですね。屋根がないものとして建築物には含めていないところでございます。以上です。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

それでは次に、これはですね近隣の東彼彼杵と佐々町と我が町をちょっと比較させていただきました。これで一目瞭然分かると思うのですが、黄色の部分が一番パーセントの多い部分です。

これを見ますと、それまでその町がどこに力を入れてきたかというのがすごく分かることに

なっておりまして、波佐見町は皆さん御存じのとおり、学校施設が圧倒的に多いですね、42.8%。それから彼杵町もまあまあ多いところですが、それと対比して川棚町はですね公営住宅が非常に多ございまして、45%。面積も３万7,000平米と波佐見の倍近くありますよね。佐々町も同じでございますが公営住宅が39.6%ということで。非常にここを見れば、その町の力の入れかたが一目で分かるなと非常に私も整理しながら、感心をしたところでございます。

ここで１点気になるのは、このスポーツレクリエーション施設がほかの町と比べて非常に少ないというような感想を受けますが、これを見て率直な感想、誰でも結構ですので、どう思われるかお願いをしたいと思います。

○議長（尾上和孝君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

このスポーツレクリエーション施設でございますけども、多分体育館であろうかと思っております。そして本町の場合は体育センターが一つをまずここにあげております。ほかの川棚町さんも体育センターはたしか一つしかなかったようなところでございますし、佐々町さんもたしか一つ、二つだったかなと思っております。

この施設にただスポーツ施設の中に倉庫とか、そういった部分がたくさんあるのかなというところもあるし、もしかしたらこの学校教育施設が突出して本町が高いものですから、小学校の体育館のほうを波佐見町は学校教育施設として入れている。川棚町さんと佐々町さんあたりはその体育館もスポーツレクリエーション施設として入れているのかなと一部を入れているのかなというところがございますけども。ちょっとそこら辺のところですねちょっと町のほうには聞いておりませんし、ちょっと分析し足りないところですけども、そういったところが要因じゃないかなというふうには思っております。以上です。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

それでは１人当たりの床面積でちょっと比べてみたいと思いますが、波佐見町の人口で割戻した１人当たりの床面積は計算すれば分かるのですが、どの程度になるものか。また類似団体と比べて、そのあたりはどうなのでしょうか。分析されていればお願いをいたします。

○議長（尾上和孝君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

まず本町で言いますと１人当たりの床面積でございますけども６万8,270平米を、令和２年の国勢調査人口１万4,291人で割りますと１人当たりの面積が4.78平方メートルということになります。

また類似団体の川棚町さんが6.22平方メートル。それから佐々町さんが6.64平方メートルということでございますので、類似団体に比べれば少ないというような面積ではないかなと一応分析をしております。以上です。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

この総合管理計画には建築物とインフラ施設ということで分けてあります。建築物というのは要するに建物ですね。インフラというのは道路とか、それから水道とかでございますが、そのまとめたものが４番でございますが、ここで道路と橋梁ということで分けております。橋梁はそう増減ないのですが、道路の部分で総メートル数が約800メートル増えていますが、ここはどういうところなのでしょうか。

○議長（尾上和孝君）　本山建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

道路の分でございますが、この差は令和３年度に町道認定をいたしました６路線これが影響しておりまして、これにつきましては路線名を言いますと堀切１号線、堀切２号線、堀切３号線、堀切４号線、そして第二深添線、第三深添線、以上の６本でございます。以上です。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

その当時ですね非常に町道認定が多くて、我々も少し驚いたところがあるのですが、先ほど町長答弁にありました里道または私道の認定の条件を見直すということで御答弁がありましたが、どの点を見直す予定なのか。答えられればよろしくお願いします。

○議長（尾上和孝君）　本山建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

この見直しにつきましては、以前から常任委員会のほうでも少しお話を頂いておりまして、その中でうちの認定の部分が条件として非常に少ないというか。そういったことがあって、その委員会の中でもお話を頂いたのはやはり今後維持管理が増えて維持管理がますます増えていく中で、町道認定をもう少し慎重にやったほうがいいのではないかという御意見を頂きました。

そのことから他市町も参考にしながらなのですが、ある程度の構造だとか、そういったものをしっかりしたものを頂くような形にできればと思っておりまして、今その辺の整理を行っているところでございます。以上です。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

それでは次にインフラの中には上水道、下水道あります。それをまとめたものでございますが、令和４年３月と平成29年ですが。下水道はどんどん延長しますから分かるのですが、上水道で非常にこの延長のマイナスだったりプラスだったりありますが。ここの要因は何なのかちょっとお聞かせを頂きたいと思います。

○議長（尾上和孝君）　中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

上下水道及び工業用水道事業における資産の管理は、固定資産台帳で行っております。新設あるいは、更新のための敷設工事等で取得した管路については台帳に登録し、除去した管路は台帳から除却しております。通常であればその増減で数値が変動します。

上水道事業では複雑で膨大な地下埋設物のデータと、地図データをデジタル処理し、施設の管理の高度化と迅速化を進めるため、マッピングシステムを平成29年度から導入しております。固定資産台帳との照合で修正したことも、漏水管延長及び送水管延長の増減に起因しているものでございます。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

考え方がちょっと変わったということで理解をしておきましょう。

それではですね次に移りますが、この総合経営計画の中には公共施設の適正化で、これは令和４年３月の作成分ですが、床面積を圧縮するという考え方で載っておりましたが、令和29年３月の分ではこの圧縮目標の算定が更新費用をもとに積算をされて、40年で22％いう考え方になっておりますが、次のページ10ページをお願いしますが、ところが令和４年３月になれば今度人口をもとにして、面積の削減目標をということで変わっておりますが、この計算の仕方が変わったのはなぜなのですか。

○議長（尾上和孝君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

平成29年版と令和３年版の違いと、算定の根拠の違いということでございますけども、これは公共施設総合管理計画の策定に関する指針というものが、平成30年２月に改定をされております。

ですので、その中で将来人口の見通し等に応じ公共施設等の過剰供給とならないよう整備や維持管理に関する方針を検討することが重要であると多くされておりましたので、そういったことを踏まえて29年度令和３年度において算定の仕方を変えたということでございます。以上です。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

そういうことのようですが、いずれにしてもこの計画書では20％程度圧縮を目標とするということで書いてありますが、そもそも20％削減が本当に必要なのですか。

○議長（尾上和孝君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

削減目標につきましては町民１人当たりの床面積を現状維持することを前提として、将来人口の減少に応じて公共施設の面積を削減する場合として、人口減少に合わせ20％削減するとこ

こで書いております。

その実現に向けては施設の廃止、統廃合など、それから今後の利用状況ですね。そういったものの状況に応じて長期的に対処していくべきだというように思っておりますし、削減について今後の人口減少、それから税収の減少を考慮すれば20%が妥当という数字かどうかというのは、ちょっと今のところではちょっと判断難しいというところでございます。

今後を考えれば削減は必要であるという認識は持っているところでございますので、まず情勢等いろいろと変わってくるかと思いますけども、できるだけ削減をしていくというところで、目標に向かって進んでいければと思っているところでございます。以上です。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

明確ですからそういう答弁来るかと思うのですが、20%を目指していくというふうな方向性で理解していていいのですか。

○議長（尾上和孝君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

現状１人当たりの面積はそれで充足するという考えであれば、20%人口が減れば20%減らしていくということが妥当な考え方ということで我々もそれに向かって削減の方向で動くべきだというようには思っております。以上です。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

20%を目指して基本的に行くということを回答頂きましたので。では具体的にどう減らすんだろうという疑問が出てまいりますよね。そうしたときに、どういった方法が妥当なのかって素人なりに考えれば一番割合の大きいところから手をつけて行くとこが非常に妥当だろうという素直な見方はありますよね。

それで続けて施設管理事に関する基本的な方針の中で、学校教育施設一番多かったです、%ですね。その中の維持管理の基本方針の中にこういうことが書いてあります。二段目ですが、今後30年で児童生徒の減少は進行し小規模校の増加が見込まれることから、国が示す適正規模等を踏まえながらさらなる再編を検討します。とありますが、この意味はどういう意味で書かれたのですか。

○議長（尾上和孝君）　古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

やはり人口減少に伴って学生の数も減ってくるということになれば、その国が示した部分において学校も決して統廃合から除外されるものではないというところで記載をしたというところでございます。以上です。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

僕もそうだろうと理解はしていたのですが、回答を得てごもっともだと思います。

ただ教育委員会の答弁は、今までは学校統合は今のところ考えていないということでございましたので、ここの内容には僕は触れませんが、現実問題としてもうやはりその、どういう状況になるかは想定をして、小学校をどうするかというのはもうそろそろやはり検討をしないといざというときにはもう間に合いませんから。

やはり３校を一つにして、小中連携を考えるとかですね。もうそのような時期に来てると思うのですが、今までの教育長の答弁と若干この相反するところありますが、今の現実の総合管理計画と今までの教育長の考え方を今見ていて、現段階でどういうふうにお考えなのかちょっとお考えをお聞かせください。

○議長（尾上和孝君）　森田教育長。

○教育長（森田法幸君）

これまでは出生数とか児童数の推移のみで、統廃合について答弁をしてまいりましたが、学校施設の長長寿命化改修の計画という観点からも、研究を始める必要があると今認識をしております。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

研究することはやぶさかじゃないですから、ぜひ未来の子供たちのためどうぞよろしくお願いします。これから人口減少ありますから、資源を集中するというのも一つの大きな選択肢だと思います。資源を集中して子供たちの教育の質を上げるというのも一つの子育ての重要な役割だと思いますので、そういう観点からも引き続き研究をお願いしたいと思います。

それからこの管理計画で一つ気になるのがあるのですが。今の仕事のやり方なんで。今の職員のやり方を見ていると非常に僕はこういうこと言いたくないのですが、官製談合があったときの仕事のやり方とほとんど変わっていないような気がします。担当課が建築物に限ってですね。インフラは担当課がやりますので、そう問題ないのですが。建築物に限っては担当課が今どうも設計・積算をやっているようでございますから。そのやり方は官製談合があったときのやり方と全然変わっていないので。この点について副町長。すいません行政側のトップですから、どういうふうにお考えですか。

○議長（尾上和孝君）　村山副町長。

○副町長（村山弘司君）

議員御指摘のとおりですね、現在波佐見町の場合は建築物にかかります業務を事務委員が担当して、機構から設計に至るまで所管をいたしております。土木の職員は専任の職員がおりますけれども、建築に関しての職員がいないということで、そういった組織となっております。

これは波佐見町に限らず、自治体の団体、町においては同じような組織の形態になっている

のではないかなというように思いますけれども、議員御指摘のとおりこれまでの経過を踏まえて、所属のほうからもそういった仕事のやり方については、不安を持っているというようなお話も聞いておりますし、職員の中からもそういった声は聞こえてまいります。

今後に向けては議員御指摘の課題を私自身思っておりますので、これ人振りの話もありますので、なかなか専門職を採用するというのは非常に募集しても、集まらないというふうな状況もあったりもしますので、今後に向けてどのような形でできるのか。人の採用も含めて、ここに職員の方々が働きやすい環境をしっかりつくっていくということは大切なことでございますので、しっかり町内部でも検討してまいりたいというように思ってございます。以上でございます。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

決して、職員の方を僕は能力が高いと思うのですが、仕事のやり方というものはやはり組織だとか、仕事のそのやり方でほとんど決まってくると思うので、だからそのもう同じ過ち繰り返したくないですし、この間の今度の一般補正の取下げでもありましたよね。空調機の予算を一旦取り下げるというようなことも、本来はあってしかるべきじゃないのです。

これは担当者の力量の話じゃなくて、組織の仕事のやり方の問題と僕は理解しておりますので、早急にその専門の来年に向けて専門の室をつくるとか担当課というわけいきませんから、要するに設計から積算の人は、積算・設計は外注に出しても僕は結構だと思うのですが、そこを担当する部署は建築物に限ってはやはり、１か所で統合をすべきというふうに思っておりますんで。先ほど副町長からも答弁ありましたんで、ぜひ前向きな検討をお願いしたいと思います。

それでは時間もなくなりましたので、次にまちづくりのほうにいきたいと思いますが、町長答弁ありましたまちづくりの条例化については、今のところ考えてないということですが、ここでお聞きをしますが、自治会に関する条例はどういうものがありますか、今。覚えているだけで結構です。

○議長（尾上和孝君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

全国見るといろんな条例がございます。自治会そのものの加入を促すような条例、あるいは先ほど町長が答弁したように、まちづくりの観点から自治会を位置づける条例ということで大きくこの２つかなというふうに思います。

近年やはり自治会の在り方等もありますので、行政としても何らかの位置づけをしようと動きが広がっているという流れは、行政側としても、町としても認識しているとこでございます。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

自治会の位置づけを明確にしてくださいというのは、僕はこれ前も言ったと思うのですが、なぜこういうことかというと、やはりその対等な立場とおっしゃいますが、条例上は何の規定もないのですよね、自治会に対してもね。唯一あるのは、ここにありますが皆さん御存じですが、波佐見町事務連絡に関する規則というものの中に「第４条　会議の中に自治会長会」を、ここで定例会１回、臨時会と。この規則の中で事務連絡の規則の中で書いてあるだけなので。ということは私が理解するには、あまりにもやはり条例的には明記はされていないなというふうなことで思うのです。そこでもう時間もないですが、13番をよその事例ですからこれ参考になるかどうか分かりませんが。こういうふうな扱いをされてるところもあります。

ここは奈良県の王寺町というのですか。ここはコミュニティーということで自治会とかほかのところをしておりますが、13条には町民は自治会、住民活動等への参加を通じて、真ん中を飛ばしますが、良好なコミュニティーを形成するに努めるものとする。その３条には議会及び行政は、協働のまちづくりを進めるためにコミュニティー活動を尊重するとともに、必要に応じて支援を行いますと。きちんとやはり、まちづくり条例の中で位置づけをきちんとされております。

やはりここまで自治会の位置づけを上げないと、やはり自治会の人の意識も変わってこないでしょうし、今までやはりお世話になってきた自治会ですから、よりこれからも活動を進めていくためには位置づけをきちんとやはりしてあげるのが、いいかなというように思っております。

それから14ページをお願いしますが、ほかのところも書いておりますが、最後の大井町の自治会等はまちづくりを町民が主体的に行うための中心的役割組織をいい、住民は原則として自治会に加入しなければなりませんというところまで条例でうたっているところがありますので。ぜひ参考にされて、ここは自治会の存在意義を高めるためにもぜひ前向きに早急に検討していただきたいと思いますが、こういう考えはいかがですか。

○議長（尾上和孝君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

そういった流れがあるということは先ほど答弁したとおりでございます。

こちらとすればそういった意見は尊重したいと思いますが、やはり行政側の視点そして自治会からの視点というのが必要かと思います。自治会が果たして現時点で条例を望まれているかどうかということもやはり自治会の合意形成も必要だと僕は思います。今後ですねそういった課題を含めてやはり自治会の皆様と意見交換を重ねるというのが何よりも重要ではないかなというふうに思っております。

一方で、今おっしゃったような条例の加入をしなければならないとかいう条例は若干こう流れとすれば、古い条例というように伺っております。

最近はやはり対等な立場として、まちづくりの中でどう位置づけするか。お隣の佐世保市様もそういった条例作りをされてるというふうにも、伺っております。

そういった視点から自治会の在り方そのものを条例でやはりやっていくかどうかということには丁寧な論議が必要と考えております。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

総務課長の言うことも分かるのですが、医師会が望むということじゃないのですね、僕が言ってるのは。町が自治会をどういうような位置づけで考えるのかということですから、そこはやはり根本的に違いますので。そこはもう時間ないので今後議論をしていきたいと思いますのでよろしくお願いをします。

それでは時間がないのですが一つ気になることがありまして、環境美化作業に関することなので、あんまり時間ないのですが。多分ですね以前、河川公園のところで以前誰かがおっしゃったようなのですが。例えば擬木があるところのツツジは、試験的に切ってみますというようなこと等があったと思うのですが。そういう発言を住民福祉課長か町長かどっちかされたような記憶があるのですが。そういうような記憶はありますか。

○議長（尾上和孝君）　井関住民福祉課長。

○住民福祉課長（井関昌男君）

おっしゃるとおり以前そういう質問に関しまして、今後そういう取組も含めて検討するというお話は、させていただいた状況はあろうかと思います。ただその状況についてまだ作業員さんの作業業務の状況でなかなか実施できてなかったという状況もございますので、昨日町長が答弁申したとおりですね、そういう意見が多く出されておりますので、今年の冬から実証的にそういう、ツツジの剪定なり、思いっ切り切るなりですね。そういう防護柵があるところはそういった形で年次的に実証的に実施していきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（尾上和孝君）　百武議員。

○14番（百武辰美君）

ぜひ環境美化に対しては、言ったことはやはり必ずやってください。それをやらないと前に全然進みませんから、関係課で調整しますということはもう何回も聞きました。でも関係課がどこなのかもよく分かりませんし、どういう方針でやるのか分かりませんが、やはり言ったことは必ず実行されるように期待をしたいと思います。

もう時間がありません最後にですが、今後のまちづくりについて自治会等の関係もありましたが、町長どういうふうに今から進められようと思いますか。簡潔にお願いをいたします。

○議長（尾上和孝君）　前川町長。

○町長（前川芳徳君）

地域の課題というのはやはり自治会がよく御存じかと思います。行政で行き届かない視点、

そういったものをお持ちであろうと思いますので、そういったものをしっかりと行政と手でつないで頂きまして、それが課題解決に向けて行政がしっかりと取り組んでいくと。そういったことに尽きるかというふうに思いますが、

幸いですね、今夜自治会長会の意見交流会がございますので、そこの中でも活発に意見を交わしたいというように思っております。以上です。

○議長（尾上和孝君）

以上で14番　百武辰美議員の質問を終わります。

議長を百武議長と交代いたします。

○議長（百武辰美君）

議長を交代いたしました。

以上で通告がありました一般質問が全部終了いたしました。

しばらく休憩をいたします。13時30分から再開をいたします。

午後０時15分　休憩

午後１時30分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第２～８　議案第 69～75 号

○議長（百武辰美君）

日程第２．議案第69号　令和５年度波佐見町一般会計歳入歳出決算認定についてから、日程第８．議案第75号　令和５年度波佐見町工業用水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についてまでの７件を一括議題とします。

順次、内容説明を求めます。串島会計管理者。

○会計管理者兼会計課長（串島佳織君）

議案第69号　令和５年度波佐見町一般会計歳入歳出決算認定につきまして御説明申し上げます。一般会計歳入歳出決算書と補足説明資料で御説明させていただきます。決算書をお開きください。３ページから５ページまでが歳入となります。

５ページをお願いします。歳入合計は収入済額114億4,892万4,575円。不納欠損額739万9,595円。収入未債額２億5,045万5,664円となっています。

それでは歳入の増減額の主な要因について御説明いたしますので、補足説明資料をお開きください。

１ページ歳入をお願いします。左から順に款，項，４年度収入済額、５年度収入済額、前年度比較として増減額、増減率、なお備考欄には増減の主な要因を記載しています。最後の数字は決算書のページ数となっています。

１款，町税でございますが、個人町民税は、納税義務者や課税所得が増加したこと。法人町

民税はコロナ禍からの回復傾向が見られたことなどにより増額となりました。２款から13款の交付金などにつきましては、成果説明書の６ページから８ページに掲載していますので、後ほど御覧ください。

次に14款，国庫支出金は、新たに交付された物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金による増額もありますが、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金などの影響が大きく全体的に減額となっています。

15款，県支出金につきましては、令和３年８月豪雨に係る災害復旧事業費などが増額となりました。

17款，寄附金は、ふるさとづくり応援寄附金が前年度から9,000万円ほど減少していますが18億円以上の寄附額となっています。18款，繰入金は庁舎建設基金などが増額となりました。

続きまして、歳出でございます。決算書をお開きください。６ページから８ページまでが歳出となります。８ページをお願いします。歳出合計は支出済額109億5,041万9,134円。翌年度繰越額は６億1,400万円となっています。

それでは、歳出の増減額の主な要因について御説明いたしますので、補足説明資料をお開きください。２ページ歳出をお願いします。１款，議会費は新庁舎議場等設備導入事業により増額となりました。２款，総務費は新庁舎建設事業により増額となっています。３款，民生費は特定生活支援給付金により増額となりました。４款，衛生費は１月から３月請求分の水道料減免に係る補填により増額となりました。６款，農林水産業費は４年度に行いました農村環境改善センター改修工事の完了により減額となっています。７款，商工費は４年度にプレミアム商品券事業を行いましたが、事業完了に伴い減額となりました。８款，土木費は鴻ノ巣公園遊具更新工事や都市計画道路ほか整備工事などにより増額となっています。９款，消防費は防災行政無線再整備工事により増額となりました。

10款，教育費は小中学校設備改修工事による増額もありますが、４年度に行いました小・中学校のトイレ改修工事の影響が大きく全体的に減額となっています。11款，災害復旧費は令和３年８月豪雨災害に係る災害復旧事業費が減額となっています。

それでは、決算書をお開きください。149ページをお願いします。実質収支に関する調書でございます。歳入総額から歳出総額を差し引いた歳入歳出差引き額は４億9,850万5,441円。翌年度へ繰り越すべき財源は４億2,703万円。実質収支額7,147万5,441円となっています。

次のページ。150ページから153ページにかけては財産に関する調書を記載しておりますので、後ほど御覧ください。

以上で令和５年度波佐見町一般会計歳入歳出決算認定についての説明を終了いたします。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）　石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

議案第70号　令和５年度波佐見町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について概要を説明いたします。決算書22ページ。実質収支に関する調書をお開きください。

歳入総額は16億7,260万401円で対前年比3.19％減、歳出総額は16億2,453万925円で、対前年度比2.88％減であり歳入歳出差引き額及び実質収支額ともに、4,806万9,746円です。

歳入が減となった主な理由は、４款，県支出金の減少になりますが、歳出の保険給付費に応じて交付される普通交付金の減。特定健診や糖尿病予防の取組などに応じて算定される特別交付金が、交付要件が変更されたことによる減少によるものです。

歳出が減となった主な理由は２款，保険給付費の減少です。国保の世帯数、被保険者数も減少しており、総体的に保険給付費も下がっております。また３款，国民健康保険事業費納付金が減額になったことによるものです。

23ページの財産に関する調書をお開きください。年度中に増減のあるものについて説明いたします。２の基金、国民健康保険事業準備積立基金については、年度中に3,703万4,185円を積立て、年度末現在高２億9,728万9,569円です。以上で、令和５年度波佐見町国民健康保険事業特別会計の歳入歳出決算の認定の説明を終わります。

続いて議案第71号　令和５年度波佐見町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について概要を説明いたします。

決算書11ページ実質収支に関する調書をお開きください。歳入総額は１億9,613万1,964円で、対前年度比1.9％増。歳出総額は１億9,578万6,467円で、対前年度比2.2％増であり、歳入歳出差引き額及び実質収支額ともに34万5,497円です。歳入が増となった主な理由は、被保険者の増加などが影響し、１款，保険料収入が増えるとともに、３款，繰入金のうち財政基盤安定繰入金が増加したものです。歳出が増となった主な理由は、先ほど申し上げた歳入の増に伴い、２款，広域連合納付金が増額になったものです。

以上で令和５年度波佐見町後期高齢者医療特別会計の歳入歳出決算認定の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）　松添長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

議案第72号　令和５年度波佐見町介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について御説明申し上げます。決算書30ページ。実質収支に関する調書をお開きください。歳入総総額は13億7,437万1,795円で、対前年度比0.4％の減。歳出総額は13億3,694万7,564円で、対前年度比2.1％の減であります。

歳入歳出差引き額及び実質収支額はともに、3,742万4,231円でございます。歳入が減となった主な理由は、歳出側、保険給付費に充当する国庫支出金、支払基金交付金の減及び前年度繰越金が減となったものによるものでございます。歳出が減となった主な理由は、総務費、保険

給付費は増となったものの、過年度介護給付費負担金及び基金積立金が減となったことによるものでございます。

31ページ。財産に関する調書をお開きください。

１．基金介護給付費準備基金については5,007万408円を積立て、年度末残高は４億6,304万4,917円となっています。

２．物品につきましては、増減がございません。

以上で、令和５年度波佐見町介護保険事業特別会計の歳入歳出決算認定の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いします。

○議長（百武辰美君）　中村水道課長。

○水道課長（中村和彦君）

それでは議案第73号　令和５年度波佐見町上水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について説明いたします。決算書の13ページをお開きください。上水道事業報告書。１．概要の総括実行になります。

令和５年度における波佐見町上水道の給水状況は、給水区域内の99.8％にあたる１万4093人に対し給水しました。年間配水量は164万4,791立方メートルで、前年度に比べ５万7,602立方メートルの増加になりました。

年間有収水量は128万9,207立方メートルで、前年度に比べ3,374立方メートル増加しました。有収率は前年度に比べ2.63ポイント減の78.38％となりました。給水管の老朽化に伴う漏水が影響したものでございます。

次に経営の状況について御説明します。３ページにお戻りください。収益的収入及び支出についての金額になります。収入の第１款，水道事業収益の決算額は３億300万382円です。

４ページをお開きください。支出の第１款，水道事業費用の決算額は２億5,522万9,184円でございます。

５ページをお願いします。資本的収入及び支出についての金額になります。収入の第１款，資本的収入の決算額は5,197万975円です。

６ページをお願いします。支出の第１款，資本的支出は１億7,385万8,911円でございます。なお資本的収入が資本的支出に対し、不足する額につきましては６ページ表下に記載のとおり、過年度分損益勘定留保資金及び当年度消費税資本的収支調整額で補填しています。

７ページをお願いします。損益計算書になります。営業収益は物価高騰対策として３か月間、基本料金を減額したことによる給水収益の減収と、町営住宅給水管布設工事負担金の皆減などにより、前年度比で4,196万3,594円減の２億3,505万2,500円となりました。営業費用は446万9,585円減の２億2,478万9,631円となります。最下行は営業活動の収益の結果を示す営業利益になります。1,026万2,869円となります。

８ページをお願いします。下から８行目は営業利益に資金調達等に関する損益を加えた営業

利益になります。3,682万175円となります。

３．営業外収益の他会計補助金3,262万9,860円には一般会計からの物価高騰対策繰入れ分3,145万1,860円が含まれております。また、５．特別利益は車両購入に係る下取り分の固定資産売却益と、令和２年度消費税及び地方消費税還付金などの過年度損益収益で164万5,389円が行われるとなります。これにより令和５年度の純利益は3,846万5,564円となります。前年度繰越利益剰余金３億8,429万7,532円に純利益を加えた。４億2,276万3,096円が当年度未処分利益剰余金になります。

10ページをお願いいたします。令和５年度波佐見町上水道事業、剰余金計算書と下段に令和５年度波佐見町上水道事業剰余金処分計算書案を記載していますが、未処分利益剰余金４億2,276万3,096円の処分は行いません。

以上で、議案第73号　令和５年度波佐見町上水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についての説明を終わります。

引き続き、議案第74号　令和５年度波佐見町下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について説明いたします。決算書の13ページをお開きください。下水道事業報告書。１．概要の総括受給事項になります。令和５年度における波佐見町公共下水道の整備状況は、計画面積336ヘクタールのうち処理区域面積が325ヘクタールになりました。年間総有収水量は58万9,851立方メートルで、前年度に比べ３万2,969立方メートル増加しました。整備地区拡大とあわせて、新規接続の増加が要因でございます。

次に、経営の状況について御説明いたします。３ページにお戻りください。収益的収入及び支出について御説明します。収入の第１款，下水道事業収益の決算額は３億5,898万5,519円です。

４ページをお開きください。支出の第１款，下水道事業費用の決算額は３億4,876万311円です。

５ページをお開きください。資本的収入及び支出について収入の第１款，資本的収入の決算額は１億1,694万8,133円です。

６ページをお願いします。支出の第１款，資本的支出は２億1,039万667円です。なお、資本的収入が資本的支出に対し不足する額につきましては、６ページの表下に記載のとおり、引継ぎ金及び当年度損益勘定留保資金で補填しています。

７ページをお願いします。営業収益は9,352万1,924円。営業費用は２億9,927万8,803円です。通常の業務活動の収益の結果を表示する営業利益はマイナス。いわゆる赤字になるため、最下行を営業損失としています。営業損失は２億575万6,879円でございます。

８ページをお願いします。下から７行目は営業損失に資金調達等に関する損益を加えた経営利益になります。1,737万9,730円です。

また５．特別損失は令和４年度分消費税及び地方消費税471万200円。前年度賞与引当金繰入

額相当分141万7,000円。貸倒引当金相当分470万円及び前年度法定福利費引当金繰入額相当額27万9,000円を合計した687万6,200円でございます。これにより令和５年度の純利益は、1,050万530円となりました。令和５年度から企業会計へ移行したため前年度繰越し利益剰余金はございませんので、1,050万530円が当年度未処分利益剰余金になります。

10ページをお願いします。令和５年度波佐見町下水道事業剰余金計算書と、下段に令和５年度波佐見町下水道事業剰余金処分計算書（案）を記載しています。地方公営企業法第32条第２項の規定により議会の議決を得て、令和５年度波佐見町下水道事業会計未処分利益剰余金の金額1,050万3,530円を減債基金に積立て、下水道事業の安定を図るものです。処分後の残高については０円になります。

以上で、議案第74号　令和５年度波佐見町下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についての説明を終わります。

次に、議案第75号　令和５年度波佐見町工業用水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について説明します。

決算書の13ページをお願いします。工業用水道事業報告書概要の総括事項になります。令和５年度における波佐見町工業用水道の給水状況は、長崎キヤノン株式会社様１社で安定した供給を行いました。供給水量は１万4,017立方メートルで、前年度に比べ2,816立方メートルの減となりました。

次に経営の状況について御説明します。３ページにお戻りください。収益的収入及び支出についての金額になります。収入の第１款，工業用水道事業収益の決算額は1,307万9,280円です。４ページをお願いします。支出の第１款，工業用水道事業費用の決算額は1,235万7,310円です。５ページをお願いします。資本的収入及び支出について。収入の第１款，資本的主収入の決算額は900万円です。６ページをお願いします。支出の第１款，資本的支出は891万8,672円です。７ページをお願いします。損益計算書になります。営業収益は物価高騰対策として、基本料金を３か月分減額したことなどにより、給水収益が減収し627万円となりました。前年度比で288万4,200円の減です。営業費用は899万2,536円です。通常の業務活動の収益の結果を表示する営業利益はマイナス。いわゆる赤字になるため最下行を営業損失としております。営業損失は272万2,536円です。

８ページをお願いします。３，営業外収益の他会計補助金618万2,280円には一般会計からの物価高騰対策繰入分、228万2,280円が含まれます。下から５行目は営業損失に資金調達等に関する損益を加えた経営利益になります。72万1,970円です。同額が令和５年度の純利益になります。前年度繰越し利益剰余金1,589万3,493円に純利益を加えた1,661万5,463円が当年度、未処分利益剰余金になります。

10ページをお願いします。令和５年度波佐見町工業用水道事業剰余金計算書と、下段に令和５年度波佐見町工業用水道事業剰余金処分計算書案を記載していますが、未処分利益剰余金

1,661万5,463円の処分は行いません。

以上で、議案第75号　令和５年度波佐見町工業用水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についての説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いします。

○議長（百武辰美君）

お諮りします。ただいま議題となっています議案第69号　令和５年度波佐見町一般会計歳入歳出決算認定についてから、議案第75号　令和５年度波佐見町工業用水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についてまでの７件については、議長及び議会選出の監査委員を除く11名の委員で構成する決算特別委員会を設置し、これに付託し審査したいと思います。御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

異議なしと認めます。

したがって、議案第69号から議案第75号までの７件については、11名の委員で構成する決算特別委員会を設置し、これに付託することに決定しました。事務局より名簿を送信します。

お諮りします。ただいま設置されました決算特別委員会の委員の選任については、委員会条例第７条第４項の規定により、御手元に配付した名簿のとおり指名したいと思います。御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

異議なしと認めます。したがって決算特別委員会の委員は御手元に配付しました名簿のとおり選任することに決定しました。

しばらく休憩します。ただいま設置しました決算特別委員会を14時10分から委員会室で開催します。委員の皆様はお集まりください。

本会議の再開時刻は追ってお知らせをいたします。

午後２時２分　休憩

午後２時40分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。先ほどの決算の説明について、訂正の申出がありましたのでこれを許可します。

松添長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

申し訳ございません。議案第72号介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定の中で、説明の誤りがありましたので訂正をさせていただきます。

歳入の欄で対前年度比0.4％の減と申し上げましたが、対前年度比1.8％の減。歳出総額の欄

では対前年比2.1％の減と御説明いたしましたが、対前年度比0.4％の減でございます。申し訳ございませんでした。

○議長（百武辰美君）

お知らせします。決算特別委員会の委員長に、尾上和孝委員が、副委員長に脇坂正孝委員が決定した旨通知を受けましたので、お知らせします。

また、分科会を設置し第一分科会の委員長に脇坂正孝委員が、副委員長に田添有喜議員が、第二分科会の委員長に北村清美議員が、副委員長に岡村達馬議員が決定した旨通知を受けましたので、あわせてお知らせをいたします。

以上で本日の日程は全部終了しました。本日はこれで散会をします。

御起立ください。お疲れさまでした。

なお引き続き決算特別委員会がありますので、よろしくお願いをいたします。

午後２時42分　散　会

第 22 日目（９月 20 日）（金曜日）

議事日程

第１　発委第　４号　波佐見町議会委員会条例の一部を改正する条例
第２　議案第 63 号　波佐見町古民家宿泊施設の設置及び管理に関する条例
（以上１件 産業厚生委員会委員長報告）
第３　議案第 64 号　波佐見町使用料及び手数料条例の一部を改正する条例
第４　議案第 65 号　波佐見町福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例
第５　議案第 66 号　波佐見町奨学条例の一部を改正する条例
第６　議案第 67 号　波佐見町国民健康保険条例の一部を改正する条例
第７　議案第 68 号　波佐見町介護保険法に基づき地域包括支援センターの設置者が遵守すべき基準に関する条例の一部を改正する条例
第８　議案第 69 号　令和５年度波佐見町一般会計歳入歳出決算認定について
第９　議案第 70 号　令和５年度波佐見町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
第 10 議案第 71 号　令和５年度波佐見町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
第 11 議案第 72 号　令和５年度波佐見町介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
第 12 議案第 73 号　令和５年度波佐見町上水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について
第 13 議案第 74 号　令和５年度波佐見町下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について
第 14 議案第 75 号　令和５年度波佐見町工業用水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について
（以上７件 決算特別委員会委員長報告）
第 15 議案第 78 号　教育委員会委員の任命について
第 16 議案第 79 号　教育委員会委員の任命について
第 17 議案第 80 号　監査委員の選任について
第 18 報告第　３号　専決処分の報告について
第 19 報告第　４号　令和５年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率の報告について
第 20 閉会中の継続調査申出について
（総務文教委員会、産業厚生委員会、議会運営委員会）

第22日目（9月20日）（金曜日）

１．出席議員

1　番	前田	博司	2　番	濵本	秋人
3　番	澤田	昭則	4　番	岡村	真由美
5　番	田添	有喜	6　番	岡村	達馬
7　番	福田	勝也	8　番	城後	光
9　番	横山	聖代	10　番	欠	員
11　番	北村	清美	12　番	脇坂	正孝
13　番	尾上	和孝	14　番	百武	辰美

２．欠席議員

な　し

３．議会事務局職員出席者

議会事務局長	林田	孝行	書記	一瀬	若菜

４．説明のために出席した者

町長	前川	芳徳	副町長	村山	弘司
総務課長	福田	博治	企画情報課長	澤田	健一
商工観光課長	太田	誠也	庁舎建設推進室長	大橋	秀一
税務財政課長	古賀	真悟	住民福祉課長	井関	昌男
農林課長兼農業委員会事務局長	伊藤	幸治	農林課長参事	太田	克宏
建設課長	本山	征一郎	水道課長	中村	和彦
長寿支援課長	松添	博	子ども・健康保険課長	石橋	万里子
会計管理者兼会計課長	串島	佳織	教育長	森田	法幸
教育次長兼給食センター所長	朝長	哲也	総務課課長補佐	坂本	昌俊
税務財政課課長補佐	鶴田	秀幸			

午前１０時　開　会

○議長（百武辰美君）

皆さん御起立をお願いいたします。おはようございます。

ただいまから令和６年第３回波佐見町議会定例会第22日の会議を開きます。本日の議事日程はあらかじめ御手元に配付のとおりです。

日程第１　発委第４号

○議長（百武辰美君）

日程第１．発議第４号　波佐見町議会委員会条例の一部を改正する条例を議題とします。議会運営委員会から委員会提出議案として提出されましたので、委員長に説明を求めます。

○議会運営委員長（福田勝也君）

発議第４号　波佐見町議会議長百武辰美様。

議会運営委員会委員長福田勝也。

波佐見町議会委員会条例の一部を改正する条例。

表記について、波佐見町議会会議規則第13条第３項の規定により提出いたします。

提案理由でございますが、波佐見町議会議員の定数を定める条例の一部改正に伴い、各常任委員会の委員の定数を７人から６人に改め、また社会情勢の変化や重要な行政課題に対応できる常任委員会の構成とするために、名称の変更及び所管の見直しが必要となることから、本条例について所要の改正をするものでございます。

別紙を御覧ください。波佐見町議会委員会条例の一部を改正する条例。波佐見町議会委員会条例の一部を次のように改正する。

第２条第１号中　「総務文教委員会」を「文教厚生委員会」に「７人」を「６人」に改め、同号を次のように改める。総務課、会計課、住民福祉課、子ども・健康保険課、長寿支援課、選挙管理委員会、監査委員、教育委員会の所管に関する事項及びほかの委員会に属しない事項。

第２条第２号中　「産業厚生委員会」を「産業建設委員会」に「７人」を「６人」に改め同号を次のように改める。企画情報課、税務財政課、農林課、商工観光課、建設課、水道課、庁舎建設推進室、農業委員会の所管に関する事項。

附則　この条例は令和６年11月１日から施行するものでございます。

なお、波佐見町議会委員会条例の新旧対照表を添付しておりますので御参照ください。以上でございます。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

○議長（百武辰美君）

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから発議第４号　波佐見町議会委員会条例の一部を改正する条例を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって、発委第４号は原案のとおり可決されました。

日程第２　議案第 63 号

○議長（百武辰美君）

日程第２．議案第63号　波佐見町古民家宿泊施設の設置及び管理に関する条例を議題とします。本案は産業厚生委員会に付託しておりましたので、委員長からの審査結果の報告を求めます。

○産業厚生委員長（北村清美君）

それでは委員会審査報告をいたします。

本委員会に付託された事件は審査の結果、次のとおり決定したので会議規則第86条の規定により報告します。

事件の番号議案第63号　令和６年８月30日。件名波佐見町古民家宿泊施設の設置及び管理に関する条例。原案可決すべきものと決定。全会一致でした。

付託事件審査報告書。議案第63号　波佐見町古民家宿泊施設の設置及び管理に関する条例について。産業厚生委員会における審査の経過と結果を報告します。

１．審査の事項。波佐見町宿泊施設の設置及び管理に関する条例。2．第１回審査会

（１）審査の経過。

①審査日時　令和６年８月30日（金）午後２時30分より。

②審査場所　役場委員会室・災害対策室

③出席者　委員長北村清美。

副委員長　岡村達馬。

委員　尾上和孝、横山聖代、城後光、澤田昭則、前田博司。

議長　百武辰美。

④説明員　商工観光課長　太田誠也、商工観光班係長　石川智彦。

（２）審査の概要

施設の設置及び運営概要の説明

【施設概要】

施設名　波佐見町小民家宿泊施設。

通称　キヨトテラス。

住所　波佐見町鬼木郷590番地２、591番地１及び593番地１です。

施設概要　宿泊棟（定員７名）

宿泊形態　一棟貸し（素泊まり）

運用開始令和６年11月を予定しております。

コンセプト　田舎暮らし宿泊体験施設

ターゲット　家族連れ、学生などの団体。

【施設運営】

施設管理　観光協会・地域おこし協力隊による運営（委託）

内容：予約受付、施設清掃。

休場日　季節ごとの事情、施設の利用形態等により設定。

（３）質疑応答のまとめ。主なものを報告します。

質問としまして、令和２年度より古民家の改修工事をされているが、工事額の総額はいくらでしょうか。答弁。令和２年度、３年度、５年度で整備を進め、設計と工事価格合わせて4,926万9,900円です。

次にＷｉ－Ｆｉ環境は整っているでしょうか。答弁。導入されています。しかし工事総額にはＷｉ－Ｆｉ導入費用は含まれていません。

次に、周知はどのようにされる予定でしょうか。答弁。町内向けは広報紙。町外の方には、インスタグラムや他の広報媒体も含め対応を考えています。宿泊施設については、じゃらんへの掲載も考えています。

次に、福田清人先生の名前を呼び捨てにした形になっている。「キヨトテラス」という通称だが、地元の方は御存じなのでしょうか。十分注意されたらよいと思いますが。という質問に、地元の方には状況を説明のうえ、確認をいたします。

次に、宿泊に来られるお客様のルートはどうなるのか。まず一旦は観光協会に寄っていただき、鍵の受渡し及び注意事項の説明を行い、現地に向かいます。運用開始前にモニター宿泊を予定するため、その際に手続の不便さがあれば、運営開始までに改善したい。

次に、福田清人先生の生家であるため、宿泊客に対して先生の足跡が分かるようなものはあるのでしょうか。現在は、正面玄関のところにポールがあるのみです。今後、民具資料館より福田清人先生の資料を借用できれば、施設の一角に展示コーナーを検討します。または、公民館への誘導ができればと考えています。

次に古民家、鴻ノ巣キャンプ場、ＲＶパーク、伝習館など宿泊施設が多岐にわたります。観光も含め、それらを網羅し案内する媒体の制作をしていく考えはありますか。という問いに対し、観光と宿泊施設を網羅したパンフレットやＳＮＳへの発信の作り込みをやっていきたい。

最後に、車を使わない方の鬼木郷、中尾郷への誘導をどう考えていますか。Ａ：それが課題としてあります。現在、観光業の乗り合いタクシーがありますが、今後ニーズに対応できるような足を考えていきたいと思います。

一応主な質疑応答の件です。

次に、最後の所見でございますが、この古民家宿泊施設で、宿泊関係は全て揃ったことになります。担当課は、事業の分析含めしっかり管理をしていただき、委員会としては３年を目途に総括をしていきたいと思います。

（５）採決

全員賛成でありました。

以上のことから、採決の結果、議案第63号「波佐見町古民家宿泊施設の設置及び管理に関する条例」については、全会一致で可決すべきものと決定いたしました。以上です。

○議長（百武辰美君）

これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。　　［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第63号　波佐見町富加宿泊施設の設置及び管理に関する条例を採決します。本案に対する委員会の報告は可決であります。本案は委員会報告のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって第63号は委員会報告のとおり可決されました。

日程第３　議案第 64 号

○議長（百武辰美君）

日程第３．議案第64号　波佐見町使用料及び手数料条例の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

議案第64号について御説明いたします。波佐見町使用料及び手数料条例の一部を改正する条例。波佐見町使用料及び手数料条例の一部を別紙のとおり改正いたします。

提案理由でございます。陶芸の里伝習館の工房及び宿泊施設の使用料に関して、見直しを図るため所要の改正をいたします。

２ページ目。別紙を御覧ください。波佐見町使用料及び手数料条例の一部を改正する条例。波佐見町使用料及び手数料条例の一部を次のように改正する。

別表第７工房の項中「材料費」の次に「等」を加え、「（ただし、基本材料費は、使用料に含む。）」を削り、同表宿泊施設の中「ベッド一段使用　一泊」及び「一部屋　一泊」を、「１人１泊」に改め、「全室貸切　一泊」、「３万2,000円」、二部屋貸切、１泊」、「10,000万円」、「全棟」、「貸切　一泊」及び「42,000円」を削り、「繁忙期」の次に、「閑散期」を、「増額」の次に「又は減額」を加える。

附則。この条例は、公布の日から施行する。

３ページ。新旧対照表をお開きください。改正の理由について御説明いたします。

工房使用料について、右端の欄でございますが、材料費の記載について現行では（ただし、基本材料費は、使用料に含む。）となっておりますが、基本材料費として生地代や釉薬は使用料と区別して徴収することとするため、改正案では、この括弧書きを削り、新たに材料費の後に等を記載しております。ここで想定している経費としましては、指導料、焼成代、作品の送料などとしております。

続きまして宿泊施設でございます。現在、伝習館の宿泊施設では定員８名のドミトリールームと、１人部屋の洋室、２人部屋の洋室があり、宿泊施設全体で11名の宿泊定員となっております。

ドミトリールーム、洋室ともに現行では全室貸切、二部屋貸切について金額を規定しておりますが改正案ではそれぞれを削除しております。全室貸切や二部屋貸切については、改正案の１人一泊の料金規定に基づき、宿泊人数に合わせ算定をすることといたします。

現行の全棟貸切一泊についても同様といたします。あわせて宿泊料金の増額について。改正案では繁忙期、閑散期について２割を超えない範囲内で増額または減額できるとしております。これは宿泊需要に応じ、柔軟に対応できるようにするものです。

以上で議案第64号　波佐見町使用料及び手数料条例の一部を改正する条例の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

８番　城後議員。

○８番（城後光君）

今回の使用料及び手数料の条例の改正なのですけども、陶芸の里伝習館の公募及び宿泊施設に関するものと思いますので、その点についてちょっと質問をいたします。

今回、料金の改定を行われるのですけども、実際にこれに基づいて運用が開始される予定というのはいつぐらいをめどにされているのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

この提出議案について可決を頂きました後、この条例が公布された後に、この内容で運用を開始したいというように考えております。

○議長（百武辰美君）　８番　城後議員。

○８番（城後光君）

当然可決後ということは承知しているのですけども、目途としてどれぐらいの期間を考えられているのかちょっとお伺いします。

○議長（百武辰美君）　太田商工観光課長。

○商工観光課長（太田誠也君）

基本的に例えば今月中にもし、今日可決を頂きまして今月中にその交付の手続を取られたというようなことでございましたら、来月の上旬ぐらいをめどとして運用開始できればというふうに考えております。

○議長（百武辰美君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第64号　波佐見町使用料及び手数料条例の一部を改正する条例を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって議案第64号は原案のとおり可決されました。

日程第４　議案第 65 号

○議長（百武辰美君）

日程第４．議案第65号　波佐見町福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

議案第65号　波佐見町福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例。波佐見町福祉医療費の支給に関する条例の一部を別紙のとおり改正する。

提案理由ですが、児童扶養手当施行令の改正に伴い、所要の改正を行うものです。

２ページをお願いします。波佐見町福祉医療費の支給に関する条例の一部を次のように改正します。第５条第４号中７項を６項に改め、同条第５号８項を７項に改めるものです。

これは児童扶養手当法施行令第２条の４第５項が削除されたことにより、項の繰り上がりが生じたため引用条文を見直すものです。３ページは新旧対照表ですので御確認ください。法令の施行日に合わせ、附則においてこの条例は令和６年11月１日に施行するものです。以上で説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第65号　波佐見町福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第65号は原案のとおり可決されました。

日程第５　議案第 66 号

○議長（百武辰美君）

日程第５．議案第66号　波佐見町奨学条例の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

それでは議案の御説明申し上げます。

議案第66号　波佐見町奨学条例の一部を改正する条例。

波佐見町奨学条例の一部を別紙のとおり改正する。

提案理由としましては、奨学金の貸与対象者の基準を改め、また貸与限度額の引上げ及び貸与に関わる就学先の学校区分を明確にするためのものでございます。

２ページを御覧ください。別紙として波佐見町奨学条例の一部を改正する条例ということで文言申し上げておりますけれども、３ページの新旧対照表のほうで御説明申し上げます。

まず第２条でございます。右側が現行でございます。次の各号のいずれかに該当し、というところを全てに該当しということで文言の修正をしたいと思っております。

こちらにつきましてはいずれかということでございますので、第１号に波佐見町に住所要するという文言がございますけども、それ以外の第２号、第３号でもいずれかに該当しておけば波佐見町の奨学金が借りられるということになっておりましたので、これを全てに該当しということで修正を行うものでございます。

そして第１号でございますけども、波佐見町町内に居住する町民の主であること、（外国人を除く）という文言を削除いたしたいと思っております。

こちらにつきましても外国人登録制度が平成24年度に廃止をされましたので、それに伴いまして他の近隣市町でもこの外国人を除くという条文が削除されておりますので合わせて波佐見町でも削除をしたいというふうに考えております。

続きまして第３条でございます。奨学金の対応限度額でございますけども、こちらにつきましても現行が高校またはこれと同程度の学校、それと第２号が短大またはこれと同程度以上の学校ということになっているところを、もうはっきり分かるように第１号として高等学校、高等専修学校または高等専門学校というように明文化をいたしたいと思っております。それと第２号につきましても大学、短期大学、大学院または専門学校ということでこちらのほうも明文化したいと思っております。

あわせまして貸与額の限度を第１号ですね、現在の１万円から１万5,000円。２号につきましては２万円から２万5,000円に引き上げるものでございます。

最後に貸与の期間でございますけども、こちらにつきましても現行が高等学校または大学の正規修学期間となっておりますところを、先ほど申したとおり大学等ほかにも専修学校とかいろいろございますので、そこをはっきりさせるために奨学金の貸与を受ける者が在学する学校の正規の就業期間とするということで改めたいというように思っております。附則としまして、この条例は公布の日から施行するということでございます。

以上、議案第66号　波佐見町奨学条例の一部を改正する条例の説明を終わります。御審議の

ほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

６番　岡村達馬議員。

○６番（岡村達馬君）

さっきの説明の３条の件なのですけども、高等学校等については、１万円から１万5,000円。約50％アップですね。それから大学等については約20％のアップになっておりますけども、現在経済の不安定あるいは一部の高騰を踏まえれば、私はこれは同率にすべきではなかったかというように思いますけども、その上昇率の差について御質問いたします。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

金額の差異があるということでございますけども、こちらにつきましては昨今のそういった経済情勢で、物価が高騰しているということで、この金額の修正を行っているところでございますけども一応月5,000円のアップということでそれぞれ計画をいたしております。

その25％、20％、50％というところの考え方ではなく、金額的にその月の生活費等々に5,000円というところでですね、金額のアップをさせていただきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　12番　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

今回の金額ですね。限度額が改正されたということは、ちょっと調べてみますと県内の他の町、他の７町とほぼ上位のほうで肩を並べるというふうなところになりましたので、安堵をしているわけでございますけども。現在というか、最近の対応性と申しますか、利用されている方はどのくらいでしょうか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

現在の貸与者につきましては３名の方が利用されております。４年制大学がお２人で今年度から大学院に進学された方がいらっしゃいまして、大学院生がお１人、３名貸与を受けられております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　12番　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

今度の改正で、これ今回は現在高校生がないというような状況でありますけども、今回の改正で高校生徒。そのあたりの見込みはいかがですか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

波佐見町の奨学金につきましては年１回広報で奨学金の御紹介をいたしております。この波佐見町の奨学条例とあと１つ、ものづくり奨学金ということでしておりますので、そちらに置いても町民の方には周知ができているのかなというように思っております。

現在のところそういった中学校のほうから奨学金をと考えていらっしゃるお子様がおられるという情報は参っておりませんけども、今後そういった情報が参りましたら速やかに対応してまいりたいと思っております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　12番　脇坂議員。

○12番（脇坂正孝君）

あと１件お伺いします。対応額が１万5,000円以内、２万5,000円以内ということで以内というのが入っているわけですね。この理由はどういうことでしょうか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

以前も以内ということで入っておりますけども、基本的にやはり奨学金はお借りしたらその場合は返さなければいけないということでございますので、御本人さんの意思で、１万5,000円となっていますけども、将来的なことを考えて１万円と御本人さんの意思もあるのかもしれません。

そういったところもございまして以前と同じように以内ということでその文言につきましては残しているところでございます。

○議長（百武辰美君）　７番　福田議員。

○７番（福田勝也君）

同じ３条のところなのですが、この中に高等専門学校（高専）の学生があるかと思うのですが、高専が今５年生までですよね。３学年まではこちらのほうの１号でよろしいかと思うのですけど４年生、５年生の取扱いについてはどうされるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○総務課総務班係長（坂本昌俊君）

高専のそういう在学期間ということでございますので、その高専の在学期間においては１万5,000円というように考えております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　７番　福田議員。

○７番（福田勝也君）

高専の学生もやはりこう下にありますように専門学校でもあるわけですよね。２号にも専門学校とあるのですが、そういった観点から４年生、５年生については、こちらのほうに引上げてもよろしいかと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○総務課総務班係長（坂本昌俊君）

今回のそういった議論の中にはそういった話は出てまいりませんでしたので、どうするかということでございますけども、今回はそういった高専の枠ということで５年間は１万5,000円というように御理解頂ければというふうに思いますけども。

今後また、そういったところを検討するところもございますし、先ほども申したとおり、借りてあと返すというところもございますので、そういったところも含めたところでどうして行ったほうがいいのか、検討させていただければというように思っております。

○議長（百武辰美君）　８番　城後議員。

○８番（城後光君）

同じく奨学金の金額に関してのお問合せなのですけど、大学の奨学金なのですけど市によっては、例えば育英会と同じく奨学金を選択制で２万円、３万円、４万円とやっているところがありますし、他市では大学はもう３万円とか５万円とか金額がもっと高いところがありますけども、この基準というのは何かを目安にして参考にして選択されたのでしょうかそちらを教えてください。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

確かに県内ほかの他市町を見たらそういうところもあるかとは思いますけども、今回に関しては現行よりプラス5,000円ということで、検討させていただければというように御提案をさせていただいております。

やはりそこの議論をしていく中で借りるのは借りられるけども、後に返さなければいけないというのが委員さんの中にも多数御意見がありまして、そういったところの充実をということでお話も出てまいりましたので、そこを今後また検討していかなければいけないかなというように思っております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　９番　横山議員。

○９番（横山聖代君）

この奨学金を現在３名の方が使われているということで、あと周知が広報紙ということでしたけれども、何か周知がもうちょっと行き届いてないのかなとちょっと感じているのですけれども、直接ですよ中学校３年生を対象にしてとかですよ学校を通じて配布するなど、もう少し周知を徹底されたほうがいいと思うのですけど、そちらの考えはいかがでしょうか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

はい、現在も中学校を通じてそういった周知は行っております。行っておりますけども、また再度ですねそういったものの徹底ということで、今後させていただければというように思っております。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　８番　城後議員。

○８番（城後光君）

今回の奨学金の金額の変更にあたってですね、奨学金返還支援制度。こちらの条件というかそのあたりを今後、いろいろ影響してくるかと思うのですけど。こちらの返還支援制度が現在が年度中の返還額の２分の１以内。補助条件が18万円となっていますけども、このあたりも見直す考えはあるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　朝長教育次長。

○教育次長（朝長哲也君）

先ほども答弁させていただきましたけども、この議論をする中でそういったやはりその返還についての助成というのも多くの委員の方から御意見もございましたので、今後どういったかたちがいいのかというのを、もちろん波佐見町のそういった返還につきましては補助というか財源等も検討してまいります。

まいらないといけませんので、そこあたりも含めたところで検討させていただければというように思っております。

○議長（百武辰美君）　ほかにありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案66号　波佐見町奨学条例の一部を改正する条例を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって議案第66号は原案のとおり可決されました。

日程第６　議案第 67 号

○議長（百武辰美君）

日程第６．議案第67号　波佐見町国民健康保険条例の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

石橋子ども・健康保険課長。

○議長（百武辰美君）

議案第67号　波佐見町国民健康保険条例の一部を改正する条例。波佐見町国民健康保険条例

の一部を別紙のとおり改正する。提案理由ですが、令和５年に公布された番号法等一部改正法により、令和６年12月２日から被保険者証廃止が施行されること等に伴い所要の改正を行うものです。

別紙をお願いします。波佐見町国民健康保険条例の一部を次のように改正します。２ページのほうが改正条文で、３ページが新旧対照表となっておりますが、４ページの参考資料を用いてその内容を説明いたします。

一つ目は急患等の被保険者に係る一部負担金及び保険料の徴収猶予の取扱いに係る改正です。第20条で納付義務者が災害等を受けたり、事業を廃止したりした場合など保険料の徴収を６か月猶予できると規定しています。今回急患等として受診した場合には、最長１年間に猶予期間が定められました。

これは急患等で医療機関を受診した場合、職権で生活保護を開始し、その後、資力があることが判明し全額返還を請求する事例が発生したことから、必要に応じて徴収猶予を活用することができるよう条件の追加を行うものです。

２つ目は第23条の罰則の規定の見直しです。令和６年12月２日より被保険者証が廃止されることにより、被保険者証の返還に応じない場合の罰則に係る規定を削除するものです。附則において施行日を令和６年12月２日とし、経過措置として徴収猶予は令和６年12月以後の保険料に係るものに適用し、それ以前の期間については従前の例によります。

また12月１日以前に発行した被保険者証は、有効期限が令和７年７月31日までとなっており、この被保険者証の返還の求めに応じない場合は、従前の罰則規定が適用されます。

以上で説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

９番　横山議員。

○９番（横山聖代君）

徴収猶予の件で一つ確認なのですけれども、この猶予期間を設けられることになったのが、そういった生活保護者の方の資力があるということが判明してということみたいですが、本町でもそういった事例はあったことはあるのでしょうか。

○議長（百武辰美君）　石橋子ども・健康保険課長。

○子ども・健康保険課長（石橋万里子君）

本町ではそのような事例はございません。

○議長（百武辰美君）

ほかにありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。これから議案第67号　波佐見町国民健康保険条例の一部を改正する条例を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって、議案第67号は原案のとおり可決されました。

日程第７　議案第 68 号

○議長（百武辰美君）

日程第７．議案第68号　波佐見町介護保険法に基づき地域包括支援センターの設置者が遵守すべき基準に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。本案について内容説明を求めます。

松添長寿支援課長。

○長寿支援課長（松添博君）

議案第68号について御説明申し上げます。波佐見町介護保険法に基づき、地域包括支援センターの設置者が遵守すべき基準に関する条例の一部を改正する条例。波佐見町介護保険法に基づき、地域包括支援センターの設置者が遵守すべき基準に関する条例の一部を別紙のとおり改正する。

提案理由でございますが、介護保険法施行規則及び指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準省令の一部改正に伴い、所要の改正を行うものでございます。

２ページを御覧ください。別紙。波佐見町介護保険法に基づき、地域包括支援センターの設置者が遵守すべき基準に関する条例の一部を次のように改正するといたしまして、以下に改正の条文を上げております。

今回の改正は省令において地域包括支援センターに配置すべき３職種、保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員でございますが、この職員の確保が困難なことから、柔軟な配置基準、職員配置を可能とするため、２点の場合について地域包括支援センター運営協議会が認める場合は、配置基準を満たすものとして基準の改正が行われております。

まず１点目といたしまして、非常勤であっても複数人で各職種に必要な職員数の常勤換算による勤務時間数を満たす場合。

２点目といたしまして、複数の地域包括支援センターを一つとみなして、必要な職員数を基準として、各地域包括支援センターにおいて、３職種のうち２職種以上を配置した場合となります。

本町におきましては、常勤による３職種の配置ができていること。２点目にありますような複数の地域包括支援センターを有しておりませんので、現状今回の条例改正による影響はございません。

その他、引用条文等の修正を一部行っております。なお３ページ。附則第１項により施行期日については公布の日からとし、第２項により波佐見町介護保険法に基づく指定介護予防支援事業者の指定の要件並びに指定介護予防支援等の事業の人員、及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に係る基準に関する条例について、地域包括支援センター運営協議会の定義部分が定められている条項がございますので、第14条第１号中、第２条第２項を第２条第１項に改めることとしております。

５ページから８ページまでは新旧対照表となっております。以上で議案第68号の説明を終わります。御審議のほどよろしくお願いします。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第68号　波佐見町介護保険法に基づき、地域包括支援センターの設置者が遵守すべき基準に関する条例の一部を改正する条例を採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第68号は原案のとおり可決されました。

会議の途中ですがしばらく休憩をいたします。11時５分から再開をいたします。

午前10時52分　休憩

午前11時５分　再開

○議長（百武辰美君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第８～14　議案第 69 号～75 号

○議長（百武辰美君）

日程第８．議案第69号　令和５年度波佐見町一般会計歳入歳出決算認定についてから、日程第14．議案第75号　令和５年度波佐見町工業用水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についてまでの７件を一括議題とします。以上の７件について、付託しておりました決算特別委員会の審査報告書の提出がありましたので、委員長の報告を求めます。

○決算特別委員会委員長（尾上和孝君）

それでは決算特別委員会の審査報告をいたします。

令和６年９月20日。波佐見町議会議長百武辰美様。

決算特別委員会委員長尾上和孝。

決算特別委員会審査報告書。

本委員会に付託された事件は、審査の結果、次のとおり決定しましたので波佐見町議会会議規則第86条の規定により報告します。

記

議案第69号　令和５年度、波佐見町一般会計歳入歳出決算認定について。結果、認定すべきものと決定。

議案第70号　令和５年度波佐見町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について。結果、認定すべきものと決定。

議案第71号　令和５年度波佐見町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について。　結果、認定すべきものと決定。

議案第72号　令和５年度波佐見町介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について。結果、認定すべきものと決定。

議案第73号　令和５年度波佐見町上水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について。結果、原案可決及び認定すべきものと決定。

議案第74号　令和５年度波佐見町下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について。結果、原案可決及び認定すべきものと決定。

議案第75号　令和５年度波佐見町工業用水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について。結果、原案可決及び認定すべきものと決定。

決算特別委員会審査報告。

議案第69号　令和５年度波佐見町一般会計歳入歳出決算認定についてから、議案第75号　令和５年度波佐見町工業用水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についての決算特別委員会における審査の経過と結果を報告します。

１．審査の過程。

（１）審査の方法。二分科会方式で審査を行い、決算特別委員会に各分科会から審査内容等の報告と説明を求め、各分科会で質疑及び総体的な審査を実施した。

（２）審査期日。

第一分科会　令和６年９月５日（木）、９月９日（木）

現場確認　令和６年９月10日（火）

第二分科会　令和６年９月６日（金）、９月10日（火）

現場確認　令和６年９月10日（火）

委員会令和６年９月13日（金）こちらは委員のみとなります。

委員会　令和６年９月18日（水）

審査場所　議場、委員会室。町内各施設及び現場。

（４）出席者全委員。議長及び議会選出の監査委員を除く11名です。

各種担当課長、次長、室長、局長、参事、課長補佐、各担当係長となっております。

２．審査内容

（１）各分科会における報告については、別添資料のとおりである。

①第一分科会における現場確認の箇所については次のとおりである。

・教育委員会・学校給食センター所管　学校給食センター、総合文化会館、東小学校。

②第二分科会における現場確認の箇所については、次のとおりである。

・建設課所管　稗木場地区急傾斜地崩壊対策工事（稗木場郷）

町道第二狩立線道路改良工事（宿郷）

町道横枕線道路改良工事（折敷瀬郷）

西ノ原土地区画整理事業（２か所）

・商工観光課所管　波佐見町古民家宿泊施設（鬼木郷）

（２）決算特別委員会全体会（９月18日）での主な質疑と答弁は、次のとおりである。

質疑：住民福祉課において一括して作業員費用を負担するやり方は見直すべきでは。

答弁：各課において計上した場合、その事務量に応じた負担となれば、実績により対応することとなり、現状によっては補正予算による対応も発生するため、各課においての事務量の増加が懸念される。このようなことを総合的に考慮した結果、住民福祉課による一元管理が最も効率的であると判断した。今後も現在の方法により進めていきたい。

質疑：波佐見観光案内所管管理運営営業について。職員が常駐している日数の１日当たりの人数は何人になるか。

答弁：令和５年度で２名程度となっており、来所者の推移は開設された令和２年度が404人、令和３年度が321人、令和４年度が539人、令和５年度が633人とコロナ禍以降は増加傾向となっている。

質疑：金屋郷、皿山郷、志折郷を定住奨励金の町指定区域として追加してはどうか。

答弁:人口減少の推移、地区間でのバランスなどを考慮しながら、必要に応じて検討を進めるが、当面は現状の指定区域を維持する方針。

（３）第一分科会での主な質疑と答弁。

質疑：各種証明証の発行で、コンビニ交付が始まったがその効果は。

答弁：３月に約30％の窓口業務が減った。通常業務時間の改善が図られ、勤務時間の短縮に繋がっている。

質疑：マイナンバーカードの交付率は84.67％であるが、どこまで伸ばせるのか。また、県内ではどの位置にあるのか。

答弁：８月末で89.57％の交付率である。100％を目指して取り組みたい。県内20市町村では７位である。

質疑：交通安全施設については、どのようにして自治会の要望等を取りまとめているのか。

答弁：10月に要望調査を行い12月に取りまとめている。箇所数については、５年度29地区である。できるだけ地元の要望を予算計上し臨んでいきたい。

質疑：入学支援金があることが波佐見高校受験の理由となっているのかについて、実態調査を行う必要があるのではないか。

答弁：アンケート調査を実施する方向で調整したい。

（４）第二分科会での主な質疑と答弁。

質疑：鴻ノ巣公園整備で新たに設置された遊具の耐用年数は。

答弁：30年～35年と考えている。

質疑：町営住宅の入居率、高齢者の入居率は。

答弁：町内住宅の入居率は87％、高齢者のみの入居率は41％である。

質疑：にこにこ長寿入浴券交付事業の成果と課題は。

答弁：前年度比490人増で、使用率は増加しているが交通の移動手段が課題である。

質疑：母子手帳アプリ「はちゃぽ」の登録数と内容は。

答弁：年度末に249名の登録となり、予防接種やイベント等の情報を発信した。

４日間における分科会を経て、各分科会の報告書の作成を行った。

３．審査の結果

（１）議案第69号「令和５年度波佐見町一般会計歳入歳出決算認定について」は、討論なく、全会一致で認定すべきものと決定した。

（２）議案第70号「令和５年度波佐見町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について」は、討論なく全会一致で認定すべきものと決定した。

（３）議案第71号「令和５年度波佐見町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について」は、討論なく、全会一致で認定すべきものと決定した。

（４）議案第72号「令和５年度波佐見町介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について」は討論なく全会一致で認定すべきものと決定した。

（５）議案第73号「令和５年度波佐見町上水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について」は、討論なく全会一致で原案可決及び認定すべきものと決定した。

（６）議案第74号「令和５年度波佐見町下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について」は、討論なく全会一致で原案可決及び認定すべきものと決定した。

（７）議案第75号「令和５年度波佐見町工業用水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について」は、討論はなく全会一致で原案可決及び認定すべきものと決定した。

４．意見。

決算特別委員会では、「令和５年度の各予算が議決した趣旨と目的に従い、適正かつ効果的に執行されたか」、「どのように行政効果が発揮できたか」、「今後の財政運営において、どのような改善工夫がなされるべきか」に着目し審査を行いました。

（１）数字等の誤記が多い。誤記がないように慎重に取り組んでもらいたい。

（２）施策の成果の説明において、数字を多く使って説明する必要がある事項については、できるだけ表による記載とし、複数年度にわたるものは比較できるように記載してほしい。

（３）決算書及び成果説明書の記載内容は年々充実されている。今後とも、より一層の充実に努められたい。また口頭説明においては、単に文面を読み上げるだけでなく、特に注意を求めたい点にだけに留め、効率的な審議に努められたい。

（４）よい成果ばかりでなく、成果が低いところも盛り込むべきである。

（５）地区からの環境整備の要望については、今後も誠意を持って対応されたい。

（６）各分科会の審査報告書の事項及び感想、Ｑ＆Ａについては記載を統一されたい。

５．総括的な所見。

本町の実質公債比率が東彼地区福祉組合の負担の影響により、10年ぶりに悪化した。財政力指数は令和元年をピークに年々悪化傾向にあり、依然として依存財源の割合は大きく、財政基盤の安定に乏しい財政構造となっている。

公債費については、これまでも交付税措置がある有利な地方債の活用など、削減努力をされている。引き続き公債費の減少及び将来の負担額の軽減に努められたい。

また、歳出では社会保障関係費の増加など、厳しい状況が見込まれることから、引き続き財源確保に最大限傾注し、地方交付税等を含め、必要な財源の確保と充実を望むものである。以上です。

○議長（百武辰美君）

これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから、議案第69号　令和５年度波佐見町一般会計歳入歳出決算認定についての討論を行います。

討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから採決を行います。

これから、議案第69号　令和５年度波佐見町一般会計歳入歳出決算認定についてを採決します。本案に対する委員長報告は認定であります。本件は委員長報告のとおり認定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって、議案第69号は委員長報告のとおり認定することに決定します。

次に、議案第70号　令和５年度波佐見町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定についての討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第70号　令和５年度波佐見町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。

本件に対する委員長の報告は認定であります。本件は委員長報告のとおり認定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって70号は委員長報告のとおり認定することに決定しました。

○議長（百武辰美君）

暫時休憩をいたします。

午前11時24分　休憩

午前11時25分　再開

○議長（百武辰美君）

議案第71号　令和５年度波佐見町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についての討論

を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第71号　令和５年度波佐見町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定についてを採決します。本件に対する委員長報告は認定であります。

本件は委員長報告のとおり認定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって議案第71号は委員長報告のとおり認定することに決定しました。

次に、議案第72号　令和５年度波佐見町介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定についての討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第72号　令和５年度波佐見町介護保険事業特別会計歳入歳出決算に決算認定についてを採決します。本件に対する委員長報告は認定であります。本件は委員長報告のとおり認定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第72号は委員長報告のとおり認定することに決定しました。

次に、議案第73号　令和５年度波佐見町上水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についての討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。これから、議案第73号　令和５年度波佐見町上水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についてを採決します。本件に対する委員長報告は原案可決及び認定であります。

本件は委員長報告のとおり、原案可決及び認定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって、議案第73号は委員長報告のとおり、原案可決及び認定す

ることに決定しました。

次に、議案第74号　令和５年度波佐見町下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についての討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。

これから、議案第74号　令和５年度波佐見町下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についてを採決します。本件に対する委員長報告は原案可決及び認定であります。本件は委員長報告のとおり、原案可決及び認定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって、議案第74号は委員長報告のとおり原案可決及び認定することに決定しました。

次に議案第75号　令和５年度波佐見町工業用水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についての討論を行います。

討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。これから議案第75号、令和５年度波佐見町工業用水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についてを採決します。

本件に対する委員長報告は原案可決及び認定であります。本件は委員長報告のとおり、原案可決及び認定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第75号は委員長報告のとおり原案可決及び認定することに決定しました。

日程第 15　議案第 78 号

○議長（百武辰美君）

日程第15．議案第78号　教育委員会委員の任命についてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

村山副町長。

○副町長（村山弘司君）

それでは、議案第78号について御説明を申し上げます。議案第78号　教育委員会委員の任命について。

下記の者を教育委員会委員に任命したいから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第４条第２項の規定により議会の同意を求めるものでございます。

提案する方は、波佐見町中尾郷。馬場清治さん。年齢は69歳です。なお住所地番及び生年月日は記載のとおりでございます。

次のページをお願い申し上げます。馬場さんの略歴を記載しており、東小学校ＰＴＡ会長、波佐見中学校ＰＴＡ会長などを歴任され、平成20年から教育委員をお勤め頂いており現在４期目で任期が本年９月30日までとなっております。

馬場さんは温厚誠実で地域から慕われ、経験豊かで本町教育振興に御尽力されておりますので、５期目の再任をお願いするものでございます。

以上、御提案申し上げますので御審議のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

４番　岡村真由美議員。

○４番（岡村真由美君）

賛成反対を述べるべきなのでしょうけれども、賛成とか反対を言う前にこの期間というものについて、ちょっと疑問に思いましたのでまず聞きたいと思います。馬場さん御自身の人柄はよく存じ上げていますし、立派な方だと私も思います。しかし、この任期の長さというのは、どのように町は判断されているのかなと。

４年を今回で５期目20年になるのですかね。６期目、７期目もご健在の限りはずっとしていただくおつもりなのか。それともその再任は妨げないという文言あると思うのですけれども、どういったときに改選を考えられるのか。

よその町もこんなにこう１人の方が長く続けるというのはあるのかということを、馬場さんとは関係なくちょっと質問したいと思いますので。お答え頂けますか。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

まず根拠法令としましては、副町長が申したとおり地方教育行政の組織及び運営に関する法律でございます。任命として第４条第２項に、この規定がございまして岡村議員がおっしゃるとおり再任は妨げないということになっております。

私どもとすれば今の現在の教育委員さんの構成を見たときに、１期目の方が多いということがあります。今回御提案する委員さんについては大変経験豊かで、それなりの知見もございますので、委員会の構成を見たときに最適任ということで考えております。

そこで上限があるかということでございますが、一般のとすれば上限はございません。ここの法律に書いてあるとおり、教育、学術及び文化に関し識見を有する者のうち、町長が議会の同意を得て任命するということでございますので総合的に判断するということに尽きるかなと

思います。以上でございます。

○議長（百武辰美君）　４番　岡村真由美議員。

○４番（岡村真由美君）

上限があるかというのは法律にあるかとか言っているのではなくて、町の執行部として意識の中に上限を考えていらっしゃるかというのを私ちょっと聞きたかったのですね。

もう１件ですけれども、他町もこんな感じなのかなと。今回に関しては新しい人が多いので、経験豊富な馬場さんにお願いしたいと。もうこれに私、異論はございません。ただ今後の方向性として、どんなふうに考えてらっしゃるのかなというのをお聞きしたかったということですね、町がですね。法令とは関係なく。

あともう１点はですね、今履歴の中で社会教育委員も兼ねてらっしゃるって書いてあって、私これちょっと驚いたのですけれども、よその市町も社会教育委員と、いわゆる教育委員を兼ねるということが、これ普通に行われていることなのですか。私ちょっと知らなかったものですから質問したいと思います。２点お答えください。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

まず議会にお諮りするのは首長たる町長の意思でございますので、町長がまず教育委員としてふさわしいかどうかということを決められるということでございます。そこで上限があるかどうかということについては、法律に妨げがないということでございますので、町長がこの人が適任ということであれば、当然複数回のお願いをするということになろうかと思います。

次は後段の部分でございますが、社会教育委員の併については法律上妨げがございません。社会教育、学校教育、ということで、社会教育のほうは教育委員の制度としてはその中に入りますので、編入することも差し支えないというふうに思っております。

今回御提案する委員さんは、そういった意味でも社会教育にも大変明るいというように、存じ上げておりますので、そういった観点からも今回お諮りする上では何ら支障がないというように判断しております。

○議長（百武辰美君）　４番　岡村真由美議員。

○４番（岡村真由美君）

１点だけですね。妨げない、兼ねても構わないという答弁よく分かりました。識見も有してらっしゃるということもよく存じ上げます。ただ、他町でもこんなふうに行われてるのかというのが私知らなかったもので、ちょっと御存じなかったら知らないで結構ですけど、それだけです。

○議長（百武辰美君）　福田総務課長。

○総務課長（福田博治君）

他市町の状況についてはこちらのほうとしては把握しておりません。

○議長（百武辰美君）

ほかに質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから議案第78号　教育委員会委員の任命についてを採決します。原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。したがって、議案第78号は原案のとおり可決しました。

日程第16　議案第79号

○議長（百武辰美君）

日程第16．議案第79号　教育委員会委員の任命についてを議題とします。本案について内容説明を求めます。

村山副町長。

○副町長（村山弘司君）

それでは議案79号について御説明申し上げます。

議案第79号　教育委員会委員の任命について。下記の者を教育委員会委員に任命したいから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第４条第２項の規定により議会の同意を求めるものです。

提案する方は波佐見町岳辺田郷。山下祐子さん。年齢は56歳であります。なお住所地番、生年月日は記載のとおりでございます。

次のページをお願い申し上げます。山下さんの略歴を記載しており、南小学校ＰＴＡ副会長、波佐見町中学校ＰＴＡ副会長などを歴任され、令和２年から教育委員をお勤め頂いており、現在１期目で任期が本年９月30日までとなっております。山下さんは、温厚柔和で地域から慕われ、本町教育振興に御尽力されておりますので、２期目の再任をお願いするものでございます。

以上、御提案申し上げますので御審議のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第79号　教育委員会委員の任命についてを採決します。本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

［　賛成者起立　］

○議長（百武辰美君）

起立全員であります。

したがって、議案第79号は原案のとおり可決しました。

日程第 17　議案第 80 号

○議長（百武辰美君）

日程第17．議案第80号　監査委員の選任についてを議題とします。

本案について内容説明を求めます。

村山副町長。

○副町長（村山弘司君）

それでは議案第80号について御説明を申し上げます。

議案第80号　監査委員の選任について。下記の者を監査委員に選任したいから、地方自治法第196条第１項の規定により議会の同意を求めるものでございます。提案する方は波佐見町宿郷。山下博輝さん。年齢は74歳でございます。なお住所地番及び生年月日は記載のとおりです。

次のページをお願い申し上げます。山下さんの略歴を記載しており、長く商工会経営指導員として勤務をされ、平成28年から監査委員をお務め頂いており、現在２期目で任期が本年11月１日までとなっております。

山下さんは、これまで監査委員として契約及び会計事務の監査を通して、本町行政手続の様々な御指導、御提言も頂いておりますので、３期目の再任をお願いするものでございます。

以上、御提案申し上げますので、御審議のほどよろしくお願いを申し上げます。

○議長（百武辰美君）

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第80号　監査委員の選任についてを採決します。本案は原案のとおり同意することに賛成の方は起立願います。

起立全員であります。したがって議案第80号は原案のとおり同意することに決定しました。

日程第18　報告第３号

○議長（百武辰美君）

日程第18．報告第３号　専決処分の報告についての報告を求めます。

本山建設課長。

○建設課長（本山征一郎君）

報告第３号　専決処分の報告について。地方自治法第180条第１項の規定により、別紙のとおり専決処分したので、同条第２項の規定により報告をいたします。次ページをお願いいたします。

専決第７号　専決処分書。

地方自治法第180条第１項及び、町長の専決処分事項の指定に関する条例第２条第３号の規定により、次のとおり専決処分するものでございます。専決理由でございますが、令和５年９月28日付けで請負契約を締結した「西ノ原土地区画整理事業区画道路６－７号線道路築造工事」において、工事内容に変更が生じたため、変更契約を行うものでございます。

別紙を御覧頂きたいと思います。別紙、２．契約金額を御覧ください。変更前の契約金額6,000万5,000円。今回の増額218万4,600円。変更後の契約金額6,218万9,600円。なお、１．契約の目的及び３．契約の相手方については変更ございません。

次のページをお願いいたします。工事の主な変更内容でございます。主なものは３点。

１つ目。土工において、再利用予定の掘削土が軟弱土であったため処分が生じたこと。このことから、処分土が400立方メートル生じました。

２つ目。雨水渠工において、現場の状況から通常寸法のサイズから特殊寸法品に変更をしました。工事の取りかかりにおいて、事前測量の結果管の長さを調整する必要があったことから特殊寸法品といたしました。

３つ目。施工において、雨天時の施工となったことから水替工を追加いたしました。工事の進捗において、梅雨の期間と重なり雨天時の作業となったことから、水替工を30日間追加いたしたものです。

次のページは、変更が生じた位置を示した図になります。赤い線で囲っている部分がその該当箇所になっております。

以上で報告第３号　専決第７号の説明を終わります。

日程第19　報告第４号

○議長（百武辰美君）

次に、日程第19号　報告第４号　令和５年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率の報告についての報告を求めます。

古賀税務財政課長。

○税務財政課長（古賀真悟君）

報告第４号　令和５年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率の報告について申し上げます。地方公共団体の財政の健全化に関する法律第３条第１項に規定する健全化判断比率及び同法第22条第１項に規定する資金不足比率について、その算定の基礎となる事項を記載した書類並びに監査委員の意見を添えて、以下のとおり報告するものです。

まず健全化判断比率ですが、４項目の数値がございます。実質赤字比率につきましては、一般会計の赤字の程度を指標化したものですが、赤字ではないことから数字の記載はございません。

次に連結実質赤字比率については、特別会計の実質赤字も対象となりますが、全ての会計において赤字は出ておりませんので、数字の記載はございません。

それから実質公債費比率は、標準的な町の税収や普通交付税などの合計である、標準財政規模に対し、町の年間の実質的な地方債借入れの償還額に必要な額がどれだけかを示す割合ですが、令和５年度は8.4％となりました。

最後の将来負担比率は、町の財政規模に対し町の借入金などの現在抱えている負債がどれだけかを示す割合ですが、令和５年度は、令和４年度に続き０％となっております。

それらの要因について簡単に説明を申し上げます。６ページの総括表③を御覧ください。まず、実質公債費比率の算定です。令和５年度単年度では上の表にある分子となる項目①の一般会計の起債元利償還額が、５億857万9,000円で４年度の５億4,214万4,000円から3,356万5,000円減少しております。

また④の公営企業に要する経費については、下水道事業と工業用水道事業への元利償還金相当の繰出金が１億6,862万6,000円で、４年度の１億9,023万7,000円から2,161万1,000円減少しております。

次の⑤の一部事務組合等の起こした地方債に充てられたと認められる補助金または負担金の7,743万8,000円は、東彼地区保健福祉組合が起こした地方債の償還財源に充てられた額で、令和５年度から発生をしております。

これらを控除する項目をといたしましては、公営住宅使用料などの⑧特定財源の額。普通交

付税で措置された起債元利償還額である⑨から⑪となり、これらを控除した結果、町の年間の実質的な地方債借入れの償還額に必要な額は、前年と比較して合計で1,062万1,000円増加しております。

一方、分母の基礎となる⑫から⑭までの合計額、いわゆる標準財政規模から、普通交付税で措置された⑨から⑪を控除した結果、標準税収入及び普通交付税の増により5,212万8,000円増加しております。これらを計算した結果、令和５年度単年度での実質公債費比率は、8.98033％となりました。なお実質公債費比率は過去３年の平均で表すため、令和３年度から令和５年度の平均値である8.4％が令和５年度の指標となっております。

また将来負担比率について、７ページを御覧ください。町の借入金など現在抱えている負債については、地方債の償還などの将来の負担が見込まれる額から、基金など充当により負債の減少が可能な財源を差し引いたものでございます。将来負担額については、地方債の現在高も減少し、充当可能財源等についてや、ふるさと納税などの基金の積立て額が増加したことから、分子となるその差額がマイナスとなり、将来負負担比率はゼロとなっております。

これまで内訳を説明してまいりましたが、再度１ページに戻り、説明を続けます。健全化判断比率の下に括弧書きで示しております数値でございますが、いずれもこれらの基準を超えた場合、財政健全化団体に指定されるというものでございます。

次に、下の段の資金不足比率ですが、公営企業の資金不足を公営企業の事業規模である料金収入規模と比較して指標化し、経営状態の悪化の度合いを示すものでございます。

これは本町の上水道事業会計など３つの事業会計が対象となりますが、これらの会計では、いずれも資金不足はなく、赤字にもなっておりませんので数字は上がってきていないところです。

次に資料２ページ目と次のページには令和６年８月28日付けで監査委員から通知がありました令和５年度健全化判断比率及び資金不足比率審査結果の写しを添付しておりますので、参考として御覧頂きたいと思います。

なお監査委員の御意見にもありますように、今後とも各財政指数の動向を注視するとともに、財源の有効活用を図りながら健全財政の堅持を図っていきたいと思っております。

以上で令和５年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率の報告を終わります。

○議長（百武辰美君）

以上２件は報告事項でありますので、御了承願います。

日程第 20　閉会中の継続調査申出について

○議長（百武辰美君）

日程第20．閉会中の継続調査申出についてを議題とします。

総務文教委員会委員長、産業厚生委員会委員長、議会運営委員会委員長から会議規則第83条の規定により、御手元に配付のとおり、閉会中の継続調査の申出があっております。

お諮りします。各委員長からの申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

異議なしと認めます。

したがって各委員長からの申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに決定しました。

お諮りします。会議規則第44条の規定により、今定例会において議決されました案件について、字句、数字、その他整理に要するものがあった場合、その整理を議長に委任されたいと思います。これに御異議ありませんか。

［「なし」と呼ぶ者あり］

○議長（百武辰美君）

異議なしと認めます。

よってこれらの整理に要するものについては、議長に委任することに決定しました。

以上で本日の会議はこれで終了しました。会議を閉じます。

令和６年第３回波佐見町議会定例会を閉会いたします。

午前11時55分　閉　会

地方自治法第123条第２項の規定により、ここに署名する。

議　　長

署名議員

署名議員